

現代と社会 SA
現代社会 SA
社会学 SA

10350

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 國廣 敏文、深澤 敦、山口 歩

講義内容・テーマ

この科目は、身近な社会現象の分析を通じて、現代とはどのような時代なのか、社会構造・政策がどのようにして変わろうとしているのか、を考えるための基礎知識や「理論の手がかり」および「分析視点」を提供しようとするものである。現代社会学系で扱う主要な研究テーマの中から、今年度は以下の内容を取り上げる。

社会政策：労働問題・労働政策、社会保障政策、階層格差、ジェンダー、環境問題：環境政策：地球環境問題、科学技術と環境保全、環境保全と農業・農村政策、現代政治・市民自治論：グローバル化と国際政治、民族・国家、宗教・企業、市民自治と市民参加などについてテーマごとに実態を把握し、「現代社会」の構造と政策に関する基礎知識を学ぶとともに、各領域ごとの実態分析を通じて現代社会の問題点と課題を考察する。

「コア科目」として複数の講義担当者とゲスト・スピーカーにより、「現代社会」を広く考察するための様々な分析方法・分析視点を学ぶが、こうした異なる方法や視点を比較検討することを通じて「現代社会」を分析するための論理的思考方法と比較検討の手法を学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語および講義時間の途中での出入りは慎むこと。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験を成績評価の基本とする。

講義スケジュール

- 1回目 政治学の観点からみた「現代と社会」(国広)
現代政治学の方法と課題
- 2回目 「20世紀」という時代とグローバル化(国広)
グローバル化時代とはどういう時代か。民族と国家、そして宗教の時代か。
- 3回目 ゲストスピーカー：都市計画から参加のまちづくりへ
- 4回目 ゲストスピーカー：企業社会から新自由主義社会へ。福祉社会は？
- 5回目 まとめ：コミュニケーション・ペーパーによる感想と質疑応答
- 6回目 日本の「超」長時間労働と社会の「歪み」(深澤)
日本はILOの労働時間や有給休暇に関するすべての条約をいまだ一つも批准していない。こうした日本における「超」長労働時間やサービス残業の実態、拡大するパートタイム労働など「非正規雇用」の問題性を「国際労働基準」に照らして解明する。
- 7回目 福祉国家類型と女性労働(深澤)
福祉国家を大きく二つに類型化すると、北欧の社会民主主義的福祉国家と英米の自由主義的福祉国家に分類することができる。これらの類型の特徴を女性のM字型雇用からの脱却との関連で分析する。この分析を通じて日本の女性労働の問題性を解明する。
- 8回目 ゲストスピーカー：人間中心の経済社会をつくる。構造改革について考える。
- 9回目 ゲストスピーカー：教育および職業における格差と社会階層
現代社会の不平等について、その実態を教育や職業における格差など、いくつかの領域について検討する。
- 10回目 まとめ：コミュニケーション・ペーパーによる感想と質疑応答
- 11回目 環境問題の全体状況把握と転換期にある技術システムの問題認識(山口)
地球環境問題の概要を鳥瞰し、問題解決に向けての基幹概念を獲得することを目標とする。技術発展の社会的論理を把握すること。
- 12回目 持続可能な技術システム・社会システムを展望する(山口)
ドラスチックな変革に向けての概念整理
- 13回目 ゲストスピーカー：地球環境破壊と現代社会
地球環境問題、特に地球温暖化の実態と今後の予測を踏まえ、持続可能な社会への移行について論じる。
- 14回目 ゲストスピーカー：田中知事の「脱ダム論」を検討する
- 15回目 まとめ：コミュニケーション・ペーパーによる感想と質疑応答

テキスト

講義中に指定する。レジュメや参考資料を教室で配布する。

参考書

森岡孝二『企業中心社会の時間構造』青木書店、1995年

深澤和子『福祉国家とジェンダー・ポリティクス』東信堂、2003年
デヴィッド・ヘルド著/中谷義和監訳『グローバル化とは何か:文化、経済、政治』法律文化社、2002年(原著2000年)
乾亮『都市計画から参加のまちづくりへ』、飯田哲也・他編著『新・人間性の危機と再生』法律文化社、所収
その他の参考書は、教室で指定する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.ilo.org>

<http://www.socialeurope.com>

その他

「現代と社会」のテーマは果てしなく広いにしても、各受講者は、自らが生きている現代という時代を正確に認識するために必要な基礎知識と論理的方法を習得するための「コア科目」であるので、私語することなく真剣に学ぶことが要請される。

現代と社会 SB
現代社会 SB
社会学 SB

10351

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回数 1以上
担当教員 國廣 敏文、深澤 敦、山口 歩

講義内容・テーマ

この科目は、身近な社会現象の分析を通じて、現代とはどのような時代なのか、社会構造・政策がどのようにして変わろうとしているのか、を考えるための基礎知識や「理論の手がかり」、および「分析視点」を提供しようとするものである。現代社会学系で取扱う主要な研究テーマの中から、今年度は以下の内容を取り上げる。

社会政策：労働問題・労働政策、社会保障政策、階層格差、ジェンダー、環境問題・環境政策、地球環境問題、科学技術と環境保全、環境保全と農業・農村政策、現代政治・市民自治論：グローバル化と国際政治、民族・国家・宗教・企業、市民自治と市民参加などについてテーマごとに実態を把握し、「現代社会」の構造と政策に関する基礎知識を学ぶとともに、各領域ごとの実態分析を通じて現代社会の問題点と課題を考察する。

「コア科目」として複数の講義担当者とゲストスピーカーにより、「現代社会」を広く考察するための様々な分析方法・分析視点を学ぶが、こうした異なる方法や視点を比較検討することを通じて「現代社会」を分析するための論理的思考方法と比較検討の手法を学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語および講義時間の途中での出入りは慎むこと。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験を成績評価の基本とする。

講義スケジュール

- 1回目 環境問題の全体状況把握と転換期にある技術システムの問題認識(山口)
地球環境問題の概要を鳥瞰し、問題解決に向けての基幹概念を獲得することを目標とする。技術発展の社会的論理を把握すること。
- 2回目 持続可能な技術システム・社会システムを展望する(山口)
ドラチックな変革に向けての概念整理
- 3回目 ゲストスピーカー：地球環境破壊と現代社会
地球環境問題、特に地球温暖化の実態と今後の予測を踏まえ、持続可能な社会への移行について論じる。
- 4回目 ゲストスピーカー：田中知事の「脱ダム論」を検討する
- 5回目 まとめ：コミュニケーション・ペーパーによる感想と質疑応答
- 6回目 政治学の観点からみた「現代と社会」(国広)
現代政治学の方法と課題
- 7回目 「20世紀」という時代とグローバル化(国広)
グローバル化時代とはどういう時代か。民族と国家、そして宗教の時代か。
- 8回目 ゲストスピーカー：都市計画から参加のまちづくりへ
- 9回目 ゲストスピーカー：企業社会から新自由主義社会へ。福祉社会は？
- 10回目 まとめ：コミュニケーション・ペーパーによる感想と質疑応答
- 11回目 日本の「超」長時間労働と社会の「歪み」(深澤)
日本はILOの労働時間や有給休暇に関するすべての条約をいまだ一つも批准していない。こうした日本における「超」長労働時間やサービス残業の実態、拡大するパートタイム労働など「非正規雇用」の問題性を「国際労働基準」に照らして解明する。
- 12回目 福祉国家類型と女性労働(深澤)
福祉国家を大きく二つに類型化すると、北欧の社会民主主義的福祉国家と英米の自由主義的福祉国家に分類することができる。これらの類型の特徴を女性のM字型雇用からの脱却との関連で分析する。この分析を通じて日本の女性労働の問題性を解明する。
- 13回目 ゲストスピーカー：人間中心の経済社会をつくる。構造改革について考える。
- 14回目 ゲストスピーカー：教育および職業における格差と社会階層
現代社会の不平等について、その実態を教育や職業における格差など、いくつかの領域について検討する。
- 15回目 まとめ：コミュニケーション・ペーパーによる感想と質疑応答

テキスト

講義中に指定する。レジュメや参考資料を教室で配布する。

参考書

森岡孝二『企業中心社会の時間構造』青木書店、1995年
深澤和子『福祉国家とジェンダー・ポリティクス』東信堂、2003年

デヴィッド・ヘルド著/中谷義和監訳『グローバル化とは何か:文化、経済、政治』法律文化社、2002年(原著2000年)
乾亮『都市計画から参加のまちづくりへ』、飯田哲也・他編著『新・人間性の危機と再生』法律文化社、所収
その他の参考書は、教室で指定する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.ilo.org>

<http://www.socialeurope.com>

その他

「現代と社会」のテーマは果てしなく広いにしても、各受講者は、自らが生きている現代という時代を正確に認識するために必要な基礎知識と論理的方法を習得するための「コア科目」であるので、私語することなく真剣に学ぶことが要請される。

現代と社会 SC
現代社会 SC
社会学 SC

10354

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 國廣 敏文、深澤 敦、山口 歩

講義内容・テーマ

この科目は、身近な社会現象の分析を通じて、現代とはどのような時代なのか、社会構造・政策がどのようにして変わろうとしているのか、を考えるための基礎知識や「理論の手がかり」および「分析視点」を提供しようとするものである。現代社会学系で取扱う主要な研究テーマの中から、今年度は以下の内容を取り上げる。

社会政策：労働問題・労働政策、社会保障政策、階層格差、ジェンダー、環境問題：環境政策：地球環境問題、科学技術と環境保全、環境保全と農業・農村政策、現代政治：市民自治論：グローバル化と国際政治、民族・国家・宗教・企業、市民自治と市民参加などについてテーマごとに実態を把握し、「現代社会」の構造と政策に関する基礎知識を学ぶとともに、各領域ごとの実態分析を通じて現代社会の問題点と課題を考察する。

「コア科目」として複数の講義担当者とゲスト・スピーカーにより、「現代社会」を広く考察するための様々な分析方法・分析視点を学ぶが、こうした異なる方法や視点を比較検討することを通じて「現代社会」を分析するための論理的思考方法と比較検討の手法を学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語および講義時間の途中での出入りは慎むこと。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
- 定期試験を成績評価の基本とする。

講義スケジュール

本科目は、複数の担当教員とゲスト・スピーカーによるリレー講義となる。

基本的な授業の進め方は、5回ごとに授業のまとめを行い、コミュニケーション・ペーパーを用いて講義に関する感想と質問の応答を行う。

Aクラス

1回目 日本の「超」長時間労働と社会の「歪み」(深澤)

日本はILOの労働時間や有給休暇に関するすべての条約をいまだ一つも批准していない。こうした日本における「超」長時間労働やサービス残業の実態、拡大するパートタイム労働など「非正規雇用」の問題性を「国際労働基準」に照らしつけて解明する。

2回目 福祉国家類型と女性労働(深澤)

福祉国家を大きく二つに類型化すると、北欧の社会民主主義的福祉国家と英米の自由主義的福祉国家に分類することができる。これらの類型の特徴を女性のM字型雇用からの脱却との関連で分析する。この分析を通じて日本の女性労働の問題性を解明する。

3回目 ゲストスピーカー：人間中心の経済社会をつくる。構造改革について考える。

4回目 ゲストスピーカー：教育および職業における格差と社会階層

現代社会の不平等について、その実態を教育や職業における格差など、いくつかの領域について検討する。

5回目 まとめ：コミュニケーション・ペーパーによる感想と質疑応答

6回目 環境問題の全体状況把握と転換期にある技術システムの問題認識(山口)

地球環境問題の概要を鳥瞰し、問題解決に向けての基幹概念を獲得することを目標とする。技術発展の社会的論理を把握すること。

7回目 持続可能な技術システム・社会システムを展望する(山口)

ドラスチックな変革に向けての概念整理

8回目 ゲストスピーカー：地球環境破壊と現代社会

地球環境問題、特に地球温暖化の実態と今後の予測を踏まえ、持続可能な社会への移行について論じる。

9回目 ゲストスピーカー：田中知事の「脱ダム論」を検討する

10回目 まとめ：コミュニケーション・ペーパーによる感想と質疑応答

11回目 政治学の観点からみた「現代と社会」(国広)

現代政治学の方法と課題

12回目 「20世紀」という時代とグローバル化(国広)

グローバル化時代とはどういう時代か。民族と国家、そして宗教の時代か。

13回目 ゲストスピーカー：都市計画から参加のまちづくりへ

14回目 ゲストスピーカー：企業社会から新自由主義社会へ。福祉社会は？

15回目 まとめ：コミュニケーション・ペーパーによる感想と質疑応答

テキスト

講義中に指定する。レジュメや参考資料を教室で配布する。

参考書

森岡孝二『企業中心社会の時間構造』青木書店、1995年
深澤和子『福祉国家とジェンダー・ポリティクス』東信堂、2003年
デヴィッド・ヘルド著/中谷義和監訳『グローバル化とは何か：文化、経済、政治』法律文化社、2002年(原著2000年)
乾亮『都市計画から参加のまちづくりへ』、飯田哲也・他編著『新・人間性の危機と再生』法律文化社、所収
その他の参考書は、教室で指定する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.ilo.org>
<http://www.socialeurope.com>

その他

「現代と社会」のテーマは果てしなく広いにしても、各受講者は、自らが生きている現代という時代を正確に認識するために必要な基礎知識と論理的方法を習得するための「コア科目」であるので、私語することなく真剣に学ぶことが要請される。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
 担当教員 黄 盛彬, 増田 幸子, 坂田 謙司

講義内容・テーマ

本講義は三つのパートで構成される。
 「メディアの歴史的展開」では、印刷メディアから電波メディアに至るまでのメディアの生成・展開過程を検討する。
 「メディア産業・制度」では、新聞、放送、出版などの産業制度的な環境について解説する。
 「メディアの研究史」では、メディアの個人、集団、社会に及ぼす影響・効果に関する理論的アプローチおよび事例研究を取り上げる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

他の受講生の迷惑になるような遅刻早退・私語・携帯電話の使用を禁止する。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
 レポートおよび定期試験。
 各部分ごとに、日常点として必修文献の読書感想文などのレポートを課す。

講義スケジュール

第一回 「現代とメディア」講義ガイダンス

第1部「メディアの歴史的展開」

- 1 なぜ「グーテンベルク革命」なのか、印刷技術は人類社会をどう変えたのか
- 2 「表現の自由」という思想はどのようにして確立されたのか
- 3 なぜ「無線通信」というテクノロジーは「ラジオ」として想像されたのか。
- 4 メディア融合の時代の未来はどうなっていくのか

第2部「メディア産業・制度」

- 1 マスメディアが社会で果たしている基本的な機能とは何か
- 2 メディアはどのような制度的な仕組みの下で現代の情報環境を作っているのか
- 3 メディア産業界の仕組みはどうなっているのか
- 4 メディアにおける生産・制作のプロセスはどうなっているのか。

第3部「メディアの研究史」

- 1 メディアは大きな効果をもっているのか(1)
- 2 メディアは大きな効果をもっているのか(2)
- 3 「受け手」はどのように研究されてきたか(1)
- 4 「受け手」はどのように研究されてきたか(2)

最終回 講義総括および質疑応答

テキスト

『現代とメディア』(仮題)の教科書を使用する。
 必要に応じて資料を配付することもある。

参考書

授業中に随時紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

授業中に随時紹介していく。

その他

本講義は、各パートを3人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序は、クラスによって異なる。毎回出欠をとる。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
 担当教員 黄 盛彬、増田 幸子、坂田 謙司

講義内容・テーマ

本講義は三つのパートで構成される。「メディアの歴史的展開」では、印刷メディアから電波メディアに至るまでのメディアの生成・展開過程を検討する。「メディア産業・制度」では、新聞、放送、出版などの産業制度的な環境について解説する。「メディアの研究史」では、メディアの個人、集団、社会に及ぼす影響・効果に関する理論的アプローチおよび事例研究を取り上げる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

他の受講生の迷惑になるような遅刻早退・私語・携帯電話の使用を禁止する。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
 * 筆記試験：定期試験として実施
 レポートおよび定期試験。各部ごとに、日常点として必修文献の読書感想文などのレポートを課す。

講義スケジュール

第1回 「現代とメディア」講義ガイダンス

第1部「メディアの歴史的展開」

- 1 なぜ「グーテンベルク革命」なのか、印刷技術は人類社会をどう変えたのか
- 2 「表現の自由」という思想はどのようにして確立されたのか
- 3 なぜ「無線通信」というテクノロジーは「ラジオ」として想像されたのか。
- 4 メディア融合の時代の未来はどうなっていくのか

第2部「メディア産業・制度」

- 1 マスメディアが社会で果たしている基本的な機能とは何か
- 2 メディアはどのような制度的な仕組みの下で現代の情報環境を作っているのか
- 3 メディア産業界の仕組みはどうなっているのか
- 4 メディアにおける生産・制作のプロセスはどうなっているのか。

第3部「メディアの研究史」

- 1 メディアは大きな効果をもっているのか(1)
- 2 メディアは大きな効果をもっているのか(2)
- 3 「受け手」はどのように研究されてきたか(1)
- 4 「受け手」はどのように研究されてきたか(2)

最終回 講義総括および質疑応答

テキスト

「現代とメディア」(仮題)の教科書を使用する。必要に応じて資料を配付することもある。

参考書

授業中に随時紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

授業中に随時紹介していく。

その他

本講義は、各パートを3人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序は、クラスによって異なる。毎回出欠をとる。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回数 1以上
担当教員 黄 盛彬、増田 幸子、坂田 謙司

講義内容・テーマ

本講義は三つのパートで構成される。
「メディアの歴史的展開」では、印刷メディアから電波メディアに至るまでのメディアの生成・展開過程を検討する。「メディア産業・制度」では、新聞、放送、出版などの産業制度的な環境について解説する。「メディアの研究史」では、メディアの個人、集団、社会に及ぼす影響・効果に関する理論的アプローチおよび事例研究を取り上げる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

他の受講生の迷惑になるような遅刻早退・私語・携帯電話の使用を禁止する。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
レポートおよび定期試験。
各部分ごとに、日常点として必修文献の読書感想文などのレポートを課す。

講義スケジュール

第一回 「現代とメディア」講義ガイダンス

第1部「メディアの歴史的展開」

- 1 なぜ「グーテンベルク革命」なのか、印刷技術は人類社会をどう変えたのか
- 2 「表現の自由」という思想はどのようにして確立されたのか
- 3 なぜ「無線通信」というテクノロジーは「ラジオ」として想像されたのか。
- 4 メディア融合の時代の未来はどうなっていくのか

第2部「メディア産業・制度」

- 1 マスメディアが社会で果たしている基本的な機能とは何か
- 2 メディアはどのような制度的な仕組みの下で現代の情報環境を作っているのか
- 3 メディア産業界の仕組みはどうなっているのか
- 4 メディアにおける生産・制作のプロセスはどうなっているのか。

第3部「メディアの研究史」

- 1 メディアは大きな効果をもっているのか(1)
- 2 メディアは大きな効果をもっているのか(2)
- 3 「受け手」はどのように研究されてきたか(1)
- 4 「受け手」はどのように研究されてきたか(2)

最終回 講義総括および質疑応答

テキスト

『現代とメディア』(仮題)の教科書を使用する。
必要に応じて資料を配付することもある。

参考書

授業中に随時紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

授業中に随時紹介していく。

その他

本講義は、各パートを3人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序は、クラスによって異なる。毎回出欠をとる。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 小澤 亘、景井 充、出口 剛司

講義内容・テーマ

文化現象といってもその内実は多様である。本講義では、わたしと知 表現とスタイル かかわりと社会 という三つの次元から現代文化について多面的に考察する。わたしと知 では、『赤頭巾ちゃん』『ロビンソンクルーソー』などの物語・小説を素材に近現代社会における「個のアイデンティティ」の構造について取り上げる。さらに 表現とスタイル では絵画、パフォーマンス、ファッションなどの表現活動を通じて「個の自己表現」について考察する。また かかわりと社会 ではボランティアと若者文化を主な事例として「個人から社会への関係性」について検討を加える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「文化の学び」には多様なアプローチがありうる。受講生には、3つのセッションで展開されるさまざまな文化研究の方法や成果を吸収することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得することを期待したい。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
 - * 日常点評価
- レポートと試験による。各講義期間中に出席及びそれに代わるレポート等を課す。

講義スケジュール

テキスト

本講義のために編まれた『方法としての人間と文化』をテキストとして使用する。開講までに各自購入のこと。

参考書

授業中に、適時、担当者が紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この講義は、上記3つの分野を担当する3人の講義責任者が、それぞれのクラスをローテーションしながら、授業を進めていく。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 小澤 亘、景井 充、出口 剛司

講義内容・テーマ

文化現象といってもその内実は多様である。本講義では、わたしと知 表現とスタイル かかわりと社会 という三つの次元から現代文化について多面的に考察する。わたしと知 では、『赤頭巾ちゃん』『ロビンソンクルーソー』などの物語・小説を素材に近現代社会における「個のアイデンティティ」の構造について取り上げる。さらに 表現とスタイル では絵画、パフォーマンス、ファッションなどの表現活動を通じて「個の自己表現」について考察する。また かかわりと社会 ではボランティアと若者文化を主な事例として「個人から社会への関係性」について検討を加える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「文化の学び」には多様なアプローチがありうる。受講生には、3つのセッションで展開されるさまざまな文化研究の方法や成果を吸収することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得することを期待したい。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
 - * 日常点評価
- レポートと試験による。各講義期間中に出席及びそれに代わるレポート等を課す。

講義スケジュール

テキスト

本講義のために編まれた『方法としての人間と文化』をテキストとして使用する。開講までに各自購入のこと。

参考書

授業中に、適時、担当者が紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この講義は、上記3つの分野を担当する3人の講義責任者が、それぞれのクラスをローテーションしながら、授業を進めていく。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 小澤 亘、景井 充、出口 剛司

講義内容・テーマ

文化現象といってもその内実は多様である。本講義では、わたしと知 表現とスタイル かかわりと社会 という三つの次元から現代文化について多面的に考察する。わたしと知 では、『赤頭巾ちゃん』『ロビンソンクルーソー』などの物語・小説を素材に近現代社会における「個のアイデンティティ」の構造について取り上げる。さらに 表現とスタイル では絵画、パフォーマンス、ファッションなどの表現活動を通じて「個の自己表現」について考察する。また かかわりと社会 ではボランティアと若者文化を主な事例として「個人から社会への関係性」について検討を加える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「文化の学び」には多様なアプローチがありうる。受講生には、3つのセッションで展開されるさまざまな文化研究の方法や成果を吸収することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得することを期待したい。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
 - * 日常点評価
- レポートと試験による。各講義期間中に出席及びそれに代わるレポート等を課す。

講義スケジュール

テキスト

本講義のために編まれた『方法としての人間と文化』をテキストとして使用する。開講までに各自購入のこと。

参考書

授業中に、適時、担当者が紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

この講義は、上記3つの分野を担当する3人の講義責任者が、それぞれのクラスをローテーションしながら、授業を進めていく。

現代と福祉 SA
 社会福祉論 SA
 現代と福祉 SA

10294

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1以上
 担当教員 加藤 直樹、峰島 厚、山本 隆

講義内容・テーマ

現代社会における社会福祉の意義と課題について論ずる。社会福祉は、本来、人間の尊厳や人間らしい生活の社会的保障、発達の保障をめざすものである。それらを前提に、生活問題への社会的対応策の一つとして形成・発展してきた歴史、すべての人々の生活上の諸困難や障害を社会的な責任において緩和・解決することを目標とする 制度・政策の現状や課題、さらに国際的な動向をも外観しつつ、入門的に現代福祉の課題を考えたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- ・広い教室にめいばいの学生が入り込む、まことに聞きづらい授業環境になると想定している。まことに申し訳ないが、がまんもしつつ聞いてもらいたい。
- ・教員も、入門的科目でもあり、できるだけ理解しやすいように、そして初めての人でもわかるみじかな具体例を取り上げつつ、話しかける方向で努力をしたい。
- ・人数が多く授業中の双方向の会話はしがたい。毎回出席カードに感想や質問、要望などをぜひ記入してほしい。教員も理解度の状況がつかめるし、学生の関心や要望に 応える唯一の材料にもなる。授業のはじめには前回の質問等への回答をぜひほしい。
- ・板書も有効ではないので、講義のレジメ、資料は丁寧にした。
- ・授業形態は、1部「人間発達と福祉」、2部「社会福祉の定義、歴史的な性格、国際的動向」、3部「社会福祉をめぐる政策動向と国民生活」の3部で構成される。それぞれに加藤直樹、山本隆、峰島厚が1 / 3ずつ担当し、各教室を回る。各部はそれぞれに完結したものであり、講義順序はクラスによって違っても理解できるようにしている。
- ・入門的な基礎科目であり、毎回出席をとる。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
 - * 日常点評価
- 定期試験結果を中心に総合的に評価する。

講義スケジュール

- < 1部 人間発達と福祉 >
 1. 今、子どもを育てること、一人前に育つことは、なぜむずかしいのだろうか？
 2. 人間の個人差、能力差をどう見たらいいのだろうか？
 3. 「人間らしく生きる」とはどういうことだろうか？
 4. 21世紀における人間発達と福祉の課題
- < 2部 社会福祉の定義、歴史的な性格国際動向 >
 1. 社会福祉の定義
 2. 社会福祉と関連領域
 3. 福祉国家の系譜
 4. 社会福祉の国際比較
- < 3部 社会福祉をめぐる政策動向と課題 >
 1. 国民生活の現実と社会福祉 社会福祉の対象と分野
 2. 現代における社会福祉の転換
 3. 社会福祉制度の「転換期」
 4. 戦後日本の社会福祉制度と体系
 5. 地域福祉の時代へ

テキスト

とくに使用しない。

参考書

第2部 山本隆「福祉行財政論 国と地方からみた福祉の制度・政策」中央法規 その他に授業の進行に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

とくになし

その他

なし

現代と福祉 SB
 社会福祉論 SB
 現代と福祉 SB

10296

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1以上
 担当教員 加藤 直樹、峰島 厚、山本 隆

講義内容・テーマ

現代社会における社会福祉の意義と課題について論ずる。社会福祉は、本来、人間の尊厳や人間らしい生活の社会的保障、発達を保障をめざすものである。それらを前提に、生活問題への社会的対応策の一つとして形成・発展してきた歴史、すべての人々の生活上の諸困難や障害を社会的な責任において緩和・解決することを目標とする 制度・政策の現状や課題、さらに国際的な動向をも外観しつつ、入門的に現代福祉の課題を考えたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- ・広い教室にめいばいの学生が入り込む、まことに聞きづらい授業環境になると想定している。まことに申し訳ないが、がまんもしつつ聞いてもらいたい。
- ・教員も、入門的科目でもあり、できるだけ理解しやすいように、そして初めての人でもわかるみじかな具体例を取り上げつつ、話しかける方向で努力をしたい。
- ・人数が多く授業中の双方向の会話はしがたい。毎回出席カードに感想や質問、要望などをぜひ記入してほしい。教員も理解度の状況がつかめるし、学生の関心や要望に 応える唯一の材料にもなる。授業のはじめには前回の質問等への回答をぜひしたい。
- ・板書も有効ではないので、講義のレジュメ、資料は丁寧にした。
- ・授業形態は、1部「人間発達と福祉」、2部「社会福祉の定義、歴史的な性格、国際的動向」、3部「社会福祉をめぐる政策動向と国民生活」の3部で構成される。それぞれに加藤直樹、山本隆、峰島厚が1/3ずつ担当し、各教室を回る。各部分はそれぞれに完結したものであり、講義順序はクラスによって違って理解できるようにしている。
- ・入門的な基礎科目であり、毎回出席をとる。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
 - * 日常点評価
- 定期試験結果を中心にして総合的に評価する。

講義スケジュール

- < 1部 人間発達と福祉 >
 1. 今、子どもを育てること、一人前に育つことは、なぜむずかしいのだろうか？
 2. 人間の個人差、能力差をどう見たらいいのだろうか？
 3. 「人間らしく生きる」とはどういうことだろうか？
 4. 21世紀における人間発達と福祉の課題
- < 2部 社会福祉の定義、歴史的な性格国際動向 >
 1. 社会福祉の定義
 2. 社会福祉と関連領域
 3. 福祉国家の系譜
 4. 社会福祉の国際比較
- < 3部 社会福祉をめぐる政策動向と課題 >
 1. 国民生活の現実と社会福祉 社会福祉の対象と分野
 2. 現代における社会福祉の転換
 3. 社会福祉制度の「転換期」
 4. 戦後日本の社会福祉制度と体系
 5. 地域福祉の時代へ

テキスト

とくに使用しない。

参考書

第2部 山本隆「福祉行財政論 国と地方からみた福祉の制度・政策」中央法規 その他に授業の進行に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

とくになし

その他

なし

現代と福祉 SC
 社会福祉論 SC
 現代と福祉 SC

10298

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1以上
 担当教員 加藤 直樹、峰島 厚、山本 隆

講義内容・テーマ

現代社会における社会福祉の意義と課題について論ずる。社会福祉は、本来、人間の尊厳や人間らしい生活の社会的保障、発達の保障をめざすものである。それらを前提に、生活問題への社会的対応策の一つとして形成・発展してきた歴史、すべての人々の生活上の諸困難や障害を社会的な責任において緩和・解決することを目標とする 制度・政策の現状や課題、さらに国際的な動向をも外観しつつ、入門的に現代福祉の課題を考えたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- ・広い教室にめいばいの学生が入り込む、まことに聞きづらい授業環境になると想定している。まことに申し訳ないが、がまんもしつつ聞いてもらいたい。
- ・教員も、入門的科目でもあり、できるだけ理解しやすいように、そして初めての人でもわかるみじかな具体例を取り上げつつ、話しかける方向で努力をしたい。
- ・人数が多く授業中の双方向の会話はしがたい。毎回出席カードに感想や質問、要望などをぜひ記入してほしい。教員も理解度の状況がつかめると、学生の関心や要望に 応える唯一の材料にもなる。授業のはじめには前回の質問等への回答をぜひほしい。
- ・板書も有効ではないので、講義のレジュメ、資料は丁寧にしたい。
- ・授業形態は、1部「人間発達と福祉」、2部「社会福祉の定義、歴史的な性格、国際的動向」、3部「社会福祉をめぐる政策動向と国民生活」の3部で構成される。それぞれに加藤直樹、山本隆、峰島厚が1 / 3 ずつ担当し、各教室を回る。各部分はそれぞれに完結したものであり、講義順序はクラスによって違って理解できるようにしている。
- ・入門的な基礎科目であり、毎回出席をとる。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
 - * 日常点評価
- 定期試験結果を中心にして総合的に評価する。

講義スケジュール

- < 1部 人間発達と福祉 >
 1. 今、子どもを育てること、一人前に育つことは、なぜむずかしいのだろうか？
 2. 人間の個人差、能力差をどう見たらいいのだろうか？
 3. 「人間らしく生きる」とはどういうことだろうか？
 4. 21世紀における人間発達と福祉の課題
- < 2部 社会福祉の定義、歴史的な性格国際動向 >
 1. 社会福祉の定義
 2. 社会福祉と関連領域
 3. 福祉国家の系譜
 4. 社会福祉の国際比較
- < 3部 社会福祉をめぐる政策動向と課題 >
 1. 国民生活の現実と社会福祉 社会福祉の対象と分野
 2. 現代における社会福祉の転換
 3. 社会福祉制度の「転換期」
 4. 戦後日本の社会福祉制度と体系
 5. 地域福祉の時代へ

テキスト

とくに使用しない。

参考書

第2部 山本隆「福祉行財政論 国と地方からみた福祉の制度・政策」中央法規 その他に授業の進行に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

とくになし

その他

なし

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 木田 融男

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 辻 勝次

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 中井 美樹

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 山口 歩

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 竹濱 朝美

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 赤井 正二

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 長澤 克重

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 鈴木 みどり

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 坂田 謙司

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 奥川 櫻豊彦

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 須藤 泰秀

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 景井 充

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 出口 剛司

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 森田 真樹

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 佐々木 嬉代三

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 草深 直臣

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 小澤 亘

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 高橋 正人

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 森田 浩平

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 前田 信彦

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 深澤 敦

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 飯田 哲也

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

基礎演習 01

11492

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 木田 融男

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 乾 亨

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 辻 勝次

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 中井 美樹

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 山口 歩

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 國廣 敏文

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 黄 盛彬

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

基礎演習 10

11501

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 長澤 克重

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 増田 幸子

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 坂田 謙司

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 奥川 櫻豊彦

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 須藤 泰秀

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 景井 充

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 出口 剛司

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 森田 真樹

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 佐々木 嬉代三

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 山下 高行

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 小澤 亘

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 高橋 正人

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 森田 浩平

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター（上回生のボランティア学生）が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点（班学習、発表、討論参加等）やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 前田 信彦

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 深澤 敦

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

基礎演習 30

11522

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1

担当教員 飯田 哲也

講義内容・テーマ

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、上級生がボランティアとしてクラスに参加したり、大学院生がティーチング・アシスタントとしてクラスに参加します。アクティブ・ラーニングの一環として、学生自身の自主的な学習を重視していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期のクラスには、数名のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTAとして参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生支援に当たります。

評価方法・基準

* 日常点評価

開講回数 $\frac{2}{3}$ 以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1A 人間福祉演習 1A	14656
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 木田 融男

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1B 人間福祉演習 1B	14836
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 國廣 敏文

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1C 人間福祉演習 1C	14867
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1D 人間福祉演習 1D	14845
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 辻 勝次

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1E 人間福祉演習 1E	14847
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 深澤 敦

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1F 人間福祉演習 1F	14918
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 石本 幸良

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2A 人間福祉演習 2A	14894
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 鈴木 みどり

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2B 人間福祉演習 2B	14849
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2C 人間福祉演習 2C	14869
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 長澤 克重

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2D 人間福祉演習 2D	14686
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 黄 盛彬

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2E 人間福祉演習 2E	14904
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 増田 幸子

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2F 人間福祉演習 2F	14763
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 坂田 謙司

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3A 人間福祉演習 3A	14633
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 奥川 櫻豊彦

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3B 人間福祉演習 3B	14773
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 遠藤 保子

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3C 人間福祉演習 3C	14838
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 佐藤 嘉一

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3D 人間福祉演習 3D	14906
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 仲間 裕子

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3E 人間福祉演習 3E	14851
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 松田 博

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3F 人間福祉演習 3F	14871
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 森田 真樹

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 4A 人間福祉演習 4A	11979
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 山下 高行

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 4B 人間福祉演習 4B	11981
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 福地 潮人

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5A 人間福祉演習 5A	14853
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5B 人間福祉演習 5B	14908
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 櫻谷 真理子

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 5C 人間福祉演習 5C	14855
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 芝田 英昭

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5D 人間福祉演習 5D	14910
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 生田 正幸

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5E 人間福祉演習 5E	14897
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 山本 隆

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5F 人間福祉演習 5F	14886
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6A 人間福祉演習 6A	14857
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 乾 亨

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6B 人間福祉演習 6B	14912
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6C 人間福祉演習 6C	14821
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 和田 武

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6D 人間福祉演習 6D	14859
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 中井 美樹

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6E 人間福祉演習 6E	14942
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 山口 歩

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6F 人間福祉演習 6F	14873
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 赤井 正二

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6G 人間福祉演習 6G	14861
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6H 人間福祉演習 6H	14914
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6I 人間福祉演習 6I	14823
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 6J 人間福祉演習 6J	14964
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 佐々木 嬉代三

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6K 人間福祉演習 6K	14863
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 高木 正朗

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6L 人間福祉演習 6L	14875
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 門田 幸太郎

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6M 人間福祉演習 6M	14707
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 森西 真弓

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 60 人間福祉演習 60	14973
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 荒木 穂積

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6P 人間福祉演習 6P	14877
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 峰島 厚

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6Q 人間福祉演習 6Q	14901
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 小澤 亘

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6R 人間福祉演習 6R	14890
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 黒田 学

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6S 人間福祉演習 6S	14865
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 中村 正

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6T 人間福祉演習 6T	14882
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6U 人間福祉演習 6U	14880
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 大山 博史

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6V 人間福祉演習 6V	14920
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6W 人間福祉演習 6W	14888
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 高垣 忠一郎

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6X 人間福祉演習 6X	14658
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 坂本 利子

講義内容・テーマ

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1A 人間福祉演習 1A	13512
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 伊藤 正純

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 1B 人間福祉演習 1B	13500
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1C 人間福祉演習 1C	13607
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 山口 歩

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 1D 人間福祉演習 1D	13609
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 深澤 敦

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 1E 人間福祉演習 1E	13565
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 和田 武

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1F 人間福祉演習 1F	13550
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 中井 美樹

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 1G 人間福祉演習 1G	13622
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 石本 幸良

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2A 人間福祉演習 2A	13514
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 赤井 正二

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2B 人間福祉演習 2B	13595
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 鈴木 みどり

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 2C 人間福祉演習 2C	13516
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 2D 人間福祉演習 2D	13518
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 2E 人間福祉演習 2E	13556
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 増田 幸子、神谷 雅子

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2F 人間福祉演習 2F	13562
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 柳澤 伸司

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 2G 人間福祉演習 2G	13623
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 鈴木 隆

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3A 人間福祉演習 3A	13547
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 遠藤 保子

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 3B 人間福祉演習 3B	13567
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 奥川 櫻豊彦

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 3C 人間福祉演習 3C	13558
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 佐々木 嬉代三

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3D 人間福祉演習 3D	13520
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 出口 剛司

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3E 人間福祉演習 3E	13583
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 景井 充

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3F 人間福祉演習 3F	13569
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 有賀 郁敏

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 3G 人間福祉演習 3G	13625
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 松田 正隆

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 4A 人間福祉演習 4A	11958
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 野田 正人

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 4B 人間福祉演習 4B	11960
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 牧野 泰典

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5A 人間福祉演習 5A	13611
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 生田 正幸

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 5B 人間福祉演習 5B	13613
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 5C 人間福祉演習 5C	13585
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 津止 正敏

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 5D 人間福祉演習 5D	13615
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 峰島 厚

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 5F 人間福祉演習 5F	13639
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 岡田 まり

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6A 人間福祉演習 6A	13522
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6B 人間福祉演習 6B	13524
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 小澤 亘

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6C 人間福祉演習 6C	13571
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 松葉 正文

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6D 人間福祉演習 6D	13573
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 飯田 哲也

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6E 人間福祉演習 6E	13538
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 櫻井 純理

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6F 人間福祉演習 6F	13526
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6G 人間福祉演習 6G	13560
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6H 人間福祉演習 6H	13617
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 長澤 克重

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6I 人間福祉演習 6I	13540
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 金井 淳二

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6J 人間福祉演習 6J	13502
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 高木 正朗

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6K 人間福祉演習 6K	13542
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 森田 真樹

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6L 人間福祉演習 6L	13504
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 森田 浩平

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6M 人間福祉演習 6M	13506
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 岡林 洋

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6N 人間福祉演習 6N	13597
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 尾場瀬 一郎

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 60 人間福祉演習 60	13575
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 櫻谷 真理子

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 6P 人間福祉演習 6P	13619
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 高垣 忠一郎

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6Q 人間福祉演習 6Q	13599
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 高橋 正人

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6R 人間福祉演習 6R	13602
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 中川 勝雄

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6S

13577

人間福祉演習 6S

授業開講期間 通年単位数 4配当回生 3担当教員 芝田 英昭講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 6T 人間福祉演習 6T	13508
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 大山 博史

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演習 6U 人間福祉演習 6U	13627
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 6V 人間福祉演習 6V	13536
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

演習 6W 人間福祉演習 6W	13554
--------------------	-------

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3

担当教員 仲井 邦佳

講義内容・テーマ

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

卒業研究指導 1A

13582

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 中川 順子

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 1B

13564

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 1C

13629

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 深澤 敦

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 1D

13594

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 和田 武

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 1E

13530

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 2A

13544

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 長澤 克重

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 2B

13552

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 鈴木 みどり

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 2C

13587

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 4
担当教員 増田 幸子、神谷 雅子

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
 - * 日常点評価
- 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 2D

13605

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 柳澤 伸司

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 2E

13528

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 3A

13588

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 遠藤 保子

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 3B

13593

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 奥川 櫻豊彦

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 3C

13624

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 草深 直臣、山下 高行

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 3D

13534

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 出口 剛司

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 3E

13580

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 六人部 昭典、仲間 裕子

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 3F

13630

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 松田 博

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 4A

11957

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 芝田 英昭

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 4B

11956

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
 - * 日常点評価
- 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 5A

13533

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 生田 正幸

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 5B

13549

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 岡田 まり

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 5C

13546

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 小澤 亘

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 5D

13589

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 荒木 穂積

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 5E

13606

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 前田 信彦

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6A

13497

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 赤井 正二

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6B

13498

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 有賀 郁敏

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6C

13545

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6D

13499

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 大山 博史

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6E

13510

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6F
卒業研究 6F

13531

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 景井 充

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

卒業研究指導 6G

13532

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 金井 淳二

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6H

13511

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 櫻谷 真理子

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6I

13581

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 山本 隆

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6J

13621

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 4

担当教員 竹濱 朝美、野村 比加留

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
 - * 日常点評価
- 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6K

13551

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 津止 正敏

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6L

13535

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 中井 美樹

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6M

13590

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 野田 正人

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6N

13529

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 加藤 園子

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 60

13579

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 松葉 正文

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6P

13601

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 篠崎 次男

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6Q

13626

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 リム・ボン

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6R

13563

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 六人部 昭典

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6S

13496

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 飯田 哲也

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6T

13636

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 高木 正朗

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

卒業研究指導 6U

13637

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4

担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

NPO・NGO論 S
非営利組織論 S

12374

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて楽しく学んでいきたい。福祉、環境、人権等様々な分野の組織を中心に取りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが いわゆる「専門家ではない」地域の市民 既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。

上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを2-3回招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上 下記の行為をする受講生は「D」評価としている。他の受講生の受講権の侵害 授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)、レポートの記述の不適切な表現(タメ口など) なお、開始時間20分後に教室に鍵を掛けるので、遅刻者は入室できない。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

評価基準...熱心な受講者にはA、A+の評価をしている。A以上が全体の6割程度。

評価方法 出席および授業の理解力、表現力 30% 講義中の質問、議論における発言の積極性 20% 中間レポート(必須) 25% 期末試験 25%

教員はガイダンスで詳細な説明をする。受講者には納得してもらった上で受講登録してもらっている。そのため、ガイダンスには必ず出席すること。

講義スケジュール

(受講者とのコミュニケーションのなかで、講義内容の変更もありうるので留意して欲しい)また、数回ゲストスピーカーを招くことになる。

- 1、ガイダンス(授業の趣旨、達成目標、成績評価方法)
- 2、NPO・NGOとは何か 阪神大震災におけるボランティア活動を事例にして
- 3、NPO・NGOとは何か 阪神大震災における救援活動の変遷を事例にして
- 4、地域社会の変動とNPO 施設福祉から地域福祉へ
- 5、地域社会の変動とNPO 宅老所・グループホームの台頭
- 6、NPOの組織構造 NPOの人材とその課題
- 7、NPOの組織構造 NPOと組織ネットワーク
- 8、NPOと公共性 公共財の開発を事例として
- 9、NPOの先駆性 アメリカの事例から
- 10、NPOの先駆性 アメリカの事例から
- 11、NPOの制度化 NPO法案をめぐって
- 12、NPOの制度化 介護保険法案との関連で
- 13、NPOと他組織の関係 行政間のパートナーシップをめぐって
- 14、NPOと他組織の関係 企業間のパートナーシップをめぐって
- 15、テスト

テキスト

特に使用しない

参考書

山岡義典編(1997)『NPO基礎講座』ぎょうせい。講義時間中にも適時紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ担当教員のHP <http://www.ritsumeai.ac.jp/~akiba/>その他

NPOを理解することで、これから起こる社会の潮流を自分なりに予測できるようになるかもしれません。その点で、社会人になった時、大いに役立つスキルを習得できるかもしれません。

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回数 3以上
担当教員 小暮 宣雄

講義内容・テーマ

1) アーツ(=アート、芸術)を社会に伝えるにはどうすればいいのか。2) アーティストが「いま、ここ」にいる意味とは。3) 教育/福祉/医療現場にアーツはどう関われるのか。4) 演劇ダンス音楽映画美術文学などの各アーツジャンルはどのように鑑賞され創造されるべきか。
これらアーツマネージャーが行うアーツマネジメント課題を明らかにしつつ、アーツマネジメント手法を更に社会に広げる方策(冠婚葬祭など)を考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

小劇場演劇あるいはコンテンポラリーダンスを実際に鑑賞しておくこと。その際は劇場ホール、周辺などの環境観察を行っておくことも大切。そのためには、チラシやインターネット情報をよくチェックすること。なお中間テスト、最終試験とも持ち込み可。演劇ダンス公演、美術工芸展、音楽リサイタルなどを告知したい学生は冒頭にプレゼンテーションできるように配慮する。

評価方法・基準

* 日常点評価
最終日試験60%、中間テスト30%、あと時折感想カードを配布して出席状況などを得て平常点10%を加味する。中間テストがどうしても受けられない者はテスト実施日までにレポートを提出すること。
最終日試験は基礎知識とともに芸術体験の豊かさを測る内容とする予定。

講義スケジュール

- 1.はじめに～文化政策、まちづくりとの関係。市場芸術以外のアーツとは？
- 2.アーツマネジメントのabc～アーツマネージャーはどこにいる？
- 3.アーツマネジメントの分類(1)～芸術の種類と分類
- 4.アーツマネジメントの分類(2)～文化政策とまちづくりとの関係
- 5.アーツの「いれもの」論(1)～劇場ホール・ライブハウス
- 6.アーツの「いれもの」論(2)～美術館・ギャラリー・映画館、カフェ・歴史的建造物・野外・出版
- 7.アーツの組織論～提供者と鑑賞者、体験者との関係
- 8.中間テスト(教科書から出題)
- 9.アーツNPO法人の可能性～学校、福祉、医療とを結んで～
- 10.アウトリーチを巡って～ワークショップ、パブリックアートなど
- 11.芸術の可能性～アーツセラピーとアウトサイダーアーツ
- 12.限界芸術論とアーツの公共性～公的メセナの芸術投資の根拠とは
- 13.古典的限界芸術論と宮沢賢治の先駆性
- 14.人生の節目節目マネジメント～ユニバーサルデザインとの関係
- 15.最終日試験

テキスト

『アーツマネジメントみち』著者：小暮宣雄、出版社：晃洋書房、生協で販売

参考書

「自治体政策とユニバーサルデザイン」小暮宣雄他著、学陽書房
「社会とアートのえんむすび」小暮宣雄他著、トランスアート

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.arts-calendar.co.jp/Registration.html>(このメルマガ登録がのぞましい)
<http://www.arts-calendar.co.jp/Report.html>(このメルマガ登録がのぞましい)
こぐれ日録 <http://www.t3.rim.or.jp/~hs01-ckc/KOGURE/Diary.html>

その他

京橋の大阪ビジネスパーク(OBP)ではOBPアーツプロジェクトを実施していて各大学のアーツやアーツマネジメントに関心のある学生が参加している。またここではJAM West(日本アートマネジメント学会関西支部)例会も開催。アーツマネージャーの仕事に興味がある学生は是非参加すること。

アジア文化論 S
現代文明論 S

14833

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 文 楚雄

講義内容・テーマ

アジアには多くの国や地域があり、様々な文化や伝統がある。また豊かな人的資源があり、潜在的な大きな経済市場もある。日本はアジアの一員である。地理的にも歴史的にも文化的にもアジアと強い絆を持っている。故に日本は大いにアジアに目を向けるべきであると思う。

本授業は、東アジアの日本、中国、韓国を中心に、アジアの文化、伝統、価値観、生活スタイルなどを比較し、その同質性や異質性を考えることにしたい。そして、この授業を通じて、アジアの国々の文化に対する関心や理解を深めると同時に、日本文化に対する再認識をも深めたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義方式を取るが、ビデオも見ていく。また、留学生との討議も組み合わせたい。

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- 最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。

講義スケジュール

およそ次のような内容で授業を進めていきたい。(一部変更する場合がある)

- 第1回 9/30 文化とは何か。視点と方法
- 第2回 10/7 文化発生のプロセス、文化の衝突
- 第3回 10/14 大陸・島・半島 気質と性質
- 第4回 10/21 日本人、中国人、韓国人
- 第5回 10/28 日・中・韓文化の特徴 風土説
- 第6回 11/4 日・中・韓文化の特徴 船、馬、儒教
- 第7回 11/11 本学の留学生との交流
- 第8回 11/18 日・中・韓文化の特徴 仏教
- 第9回 11/25 家族と社会 婚姻法から
- 第10回 12/2 文学から見る文化 平家物語を中心に
- 第11回 12/9 言語と文化 日本語、中国語、英語の比較から
- 第12回 12/16 食文化とマナー
- 第13回 1/6 道教、神道、禅
- 第14回 1/13 金閣寺と銀閣寺
- 第15回 1/20 住まい

テキスト

授業時プリントを配布する。

参考書

- 『中国人と日本人』(邱英漢、中央公論者)
- 『韓国人と日本人』(金容雲、サイマル出版会)
- 『日本人と日本文化』(司馬遼太郎、中公新書)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

医学一般 S 医学一般 SG	14702
-------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 八田 文裕子

講義内容・テーマ

本講義は社会福祉士を目指すものの必修講義として、医学・医療の基礎知識の習得を目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉士としてのみならず、学生諸君の健康管理に必要な医学的知識を概説するため、基礎医学から臨床医学におよぶ広範な領域を短時間でカバーする。専門的知識の習得のためには積極的な勉強姿勢を要求する。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
 - * 試験に代わるレポートとして実施
 - * 筆記試験：定期試験として実施
 - * レポート：試験に代わるレポートとして実施
- 出欠の有無は問わない。レポートと定期試験の成績をもって評価する。

講義スケジュール

1. 臨床医学の概観 [1週] (医学の歩み、社会福祉士と医療・医学の関連)
2. 人体の構造と機能 [2～8週] (解剖と生理) 細胞、血液、呼吸、消化器・物質代謝、泌尿器・皮膚、循環器、支持運動器官、内分泌、神経科、感覚器、生殖器
3. 先天性疾患 [9週] (概念、遺伝子と遺伝、発生、先天性疾患)
4. 感染症 [10週] (従来感染症の動向、感染症新法、O157・結核・AIDSなど近年注目される感染症)
5. 神経系疾患 [11～12週] (パーキンソン氏病、神経痛、頸椎症、など)
6. 生活習慣病の病態・概念と、その予防 [13～14週]
7. 老化と身体的変化 [15週] (老化現象とは、高齢者の疾病の特徴と注意すべき点について)

テキスト

新版社会福祉士養成講座14「医学一般」、福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版

参考書

新訂「目でみるからだのメカニズム」、堺 章著、医学書院

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

その他

医療福祉論 S
 社会保障論 S

12364

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 安井 豊子

講義内容・テーマ

医療福祉とは保健・医療分野における社会福祉政策と実践(医療ソーシャルワーク)のことである。本講義では、まず疾病や障害を伴うことから起こる生活上の課題(福祉的課題)や、逆に人々に疾病や障害をもたらす福祉的課題を理解し、課題解決のための保健医療・福祉政策の現状認識と今後のあり方を探求する。その上で、疾病や障害を抱えつつ生活課題に直面している対象者や家族への健康権・生活権の保障を基本理念とした援助のあり方を地域を射程に置き、学習する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉原論・社会福祉概論を習得し、ソーシャルワークについての知識を習得していることが望ましい。自己の障害者観、死生観を築き上げていくことに挑んで欲しい。また、文学、や映画、演劇等の芸術にも多く触れ、生や死、病や障害が人生に投げかける意味を探って欲しい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
 出席状況、受講態度も配慮し、レポートおよび定期試験の成績による総合評価。

講義スケジュール

- 第1回 保健医療福祉の概念・倫理・価値
- 第2回 保健医療福祉の歴史の変遷(英・米における)
- 第3回 保健医療福祉の歴史の変遷(わが国における)
- 第4回 保険医療福祉政策の現状と課題
- 第5回 保健医療ソーシャルワークの概念
- 第6回 保健医療ソーシャルワーク業務と専門性・固有性
- 第7回 保健医療ソーシャルワークの展開過程
- 第8・9回 リハビリテーション医療における保健医療ソーシャルワークの現状と課題
- 第10・11回 精神障害者への保健医療ソーシャルワークの現状と課題
- 第12回 ターミナル医療について
- 第13回 ターミナル医療における医療ソーシャルワーク(その役割と課題)
- 第14回 脳死臓器移植と医療ソーシャルワーク
- 第15回 総括

テキスト

テキストは特に指定しない。必要に応じ、講義中に資料、レジュメの配布を行なう。参考文献を大いに活用して下さい。

参考書

- 「新 医療福祉論」大野勇夫著 ミネルヴァ書房
- 「医療福祉学概論」佐藤俊一・竹内一夫編著 川島書店
- 「医療におけるソーシャルワークの展開」杉本照子監修 相川書房
- 「現代医療社会福祉論」児島美都子・成瀬美治編著 学文社
- 「日本の医療ソーシャルワーク史」50周年記念誌編集委員会編集(社)日本医療社会事業協会発行
- 「保健医療ソーシャルワーク原論」(社)日本医療社会事業協会編著 相川書房
- 「医療ソーシャルワークの挑戦 イギリス保健関連ソーシャルワークの100年」児島美都子・中村永司監訳 中央法規

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 松島 京

講義内容・テーマ

Meyer, M.H.(ed), 2000,
Care Work: gender, class, and the welfare state: Routledge
を講読する。

テキストの翻訳を中心に進める。適宜解説をし議論も行う。
テキストの内容を理解するとともに、ケア労働がもつ課題について
考察をしていくことをめざす。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講生によるテキストの翻訳を中心に講義を進めるので
「テキストを読む」「翻訳をする」という自主学習が必要になる。

評価方法・基準

* 日常点評価
試験は行わない。
日常点(出席、翻訳内容、発言内容)で評価する。

講義スケジュール

講義の進め方については第一回目に受講生と協議をする。

テキスト

テキストについてはプリントし配布する。

参考書

適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 森重 拓三

講義内容・テーマ

「抽象的な社会学理論」は「具体的な社会現象」を考察するのにどのように役立つのか。
逆に「具体的な社会現象」は「抽象的な社会学理論」の構築に対してどのように有効であるのか。
「社会学理論と社会現象を相互に突き合わせて考察を進める」という、理論と現象の相互関係に注目した
R.K.マーソンの社会学研究の方法(中範囲の理論)を学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
 - * 日常点評価
- 平常点60%、レポート40%で評価

講義スケジュール

R.K.Merton, "Social Theory and Social Structure", Free Press, 1968のPart On Theoretical Sociologyの
The Bearing of Sociological Theory on Empirical Research (社会学理論の経験的調査に対する意義)を使用する予定。
第一回はオリエンテーション及びテキスト配布。
第二回以降、内容理解中心に輪読を進め、随時、解説をおこなう。

テキスト

R.K.Merton, "Social Theory and Social Structure", Free Press, 1968を使用する予定。
授業で配布。

参考書

授業で指示

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回数 3以上

担当教員 市井 吉興

講義内容・テーマ

グローバリゼーションをめぐる、様々な議論がなされている。本講義では、アーリ(John Urry)のConsuming Places(Routledge,1995)を用いて、グローバリゼーションを「消費」、「ツーリズム」、「労働」をキーワードにして検討することを試みる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義は、英文をきちんと日本語に翻訳することに力点を置くのではなく、内容理解を重視する。それゆえに、本講義の予習は、単語を調べ訳文を準備するより、関連領域の文献を読むことにある。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

Consuming Placesに収録された4つの論文を講読することとする。

Time and Space in the consumption of place.
Capitalist production, Scientific Management and The Service Class.
The Consumption of Tourism.
Tourism, Travel and The Modern Subject.

進度の目安:ひとつの論文を3回の講義で終了させる。

予習のポイント:全訳ではなく、論文の主旨(大まかな把握でかまわない)をおさえる。

時間に余裕があれば、各論文と関連している文献、テーマを調べてみる。

テーマによっては視聴覚教材(主にVTR)を使用することもある。

テキスト

使用テキスト John Urry, Consuming Places, Routledge, 1995

テキストは各自購入する必要なし。講義で使用する部分をプリントとして配布する。

参考書

ひとまず、以下のものを紹介するが、講義毎に改めて紹介する。

- ・デヴィッド・ハーヴェイ 吉原直樹監訳『ポストモダニティの条件』青木書店、1999年。
- ・ジョン・アーリ 加太宏邦訳『観光のまなざし』法政大学出版局、1995年。
- ・ジョージ・リッツァ 正岡寛司監訳『マクドナルド化する社会』早稲田大学出版部、1999年。
- ・デヴィッド・ヘルド編 中谷義和監訳『グローバル化とは何か:文化・経済・政治』法律文化社、2002年。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

政府・企業に加えて、1990年代以降、NPO / NGOの台頭が世界的にみられ、「非営利革命」(L. サラモン)という言葉まで生まれています。政府セクターの役割の強かった日本でもその兆候がみられますが、日本の今後を考える上でも海外の最新の動向を知ることが、興味深いことです。一部、日本語の文献やビデオを見て理解を深めつつ、英文読解に取り組んでみましょう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

こじんまりと楽しくやりましょう。ただし、予習は不可欠です。また講義中の私語、講義開始後20分以上の遅刻は厳禁。

評価方法・基準

* 日常点評価

講義中の翻訳結果や、発言、出席状況で判断します。熱心な学生はA以上です。また単位取得には、2/3以上の出席が条件。

講義スケジュール

最初にビデオ等をみながら、

・Marilyn Taylor and Diane Warburton, "Legitimacy and the Role of UK Third Sector Organizations in the Policy Press", *Voluntas*, Vol.14, No.3, September 2003.

に取り組みましょう。その後受講者の要望を鑑みながら、次の英語文献を読んでみましょう。

また、日本、世界の状況を知る上でパブリックリソース研究会編『パブリックリソースハンドブック 市民社会を拓く資源ガイド』ぎょうせい、3,333円はお勧めです。

テキスト

英語論文のコピーは教員側が用意します。ただし、受講者には交代でコピーの印刷を手伝ってもらう場合があります。

参考書

上記

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

教員のHP <http://www.ritsumeit.ac.jp/~akiba>

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 担当回生 3以上
担当教員 久津内 一雄

講義内容・テーマ

映画が持っているエンターテインメント性と芸術性とは原理的に二律背反的なものか？
映画史的に見ていくと、映画はエンターテインメントか芸術かという点を中心に議論されてきた。映画作家主義などは映画論のその中心的な論点である。では、何故、映画はエンターテインメントか芸術かという点を軸に議論されてきたのか？
世界の映画史において、黄金期と呼ばれている時代には、実に多くの観客が映画館に足を運んだ。例えば、日本映画の黄金期、五十年代にも、多くの日本人が、溝口健二、小津安二郎、成瀬巳喜男、五所平之助、木下恵介、黒澤明などの巨匠の映画を見て映画館に足を運んだ。観客は何を求めて映画館に足を運んだのか？
映画は、誕生からわずか60年でそのピークを迎え、その後一気に凋落することを余儀なくされるわけだが、映画に未来があるとすればどんな未来がありうるか？

以上のテーマを中心に、映像文化の有り様について理解を深める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義で取り扱う20作品程度の中から3作品を選んで上映し、鑑賞する。上映映画は受講生のリクエストによって決定する。
昨年度の人気作品は 小津安二郎「東京物語」、ジョゼッパ・トルナトーレ「ニュー・シネマ・パラダイス」、ウィム・ウンダース「ハリ、テキサス」の順である。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
上記のテーマで14回の講義を行い、その後試験を行う。試験を含めて計15回の講義となる。試験問題は論述問題1問。

講義スケジュール

- 映像文化論
- (1) 人類は映像の時代に足を踏み入れた。二十世紀は映画の時代、映画はエンターテインメントか芸術か？という映像文化論の永遠のテーマをめぐって、映画は隆盛し、そして凋落する。
 - (2) アメリカ映画の黄金期とジョン・フォード、アメリカ古典主義の極致を代表する、豊かで素朴で雄弁な映画話法のスタイル。映画がエンターテインメントでも芸術でもあることを実感し得た時期。
 - (3) 日本映画の黄金期。溝口健二と小津安二郎。日本映画がエンターテインメントの一線を越えて、芸術の領域に入り込んだ時期。
 - (4) フランス映画の黄金期とヌーヴェル・ヴァーグ。人類は、本格的に、映画がエンターテインメントか芸術か？という映像文化論の永遠のテーマに直面した。
 - (5) 映像文化論の永遠のテーマ、すなわち映画はエンターテインメントか芸術か？をめぐる、ポスト・ヌーヴェル・ヴァーグの取り組み。映画は凋落をくい止め得たか？
 - (6) 映像文化論(まとめ)

14回の授業を以上のような6部編成で構成する。

テキスト

参考書

参考文献一覧(総論部分のみ紹介)

映画論講座1～4	山田和夫監修	合同出版	1977年
映画芸術への招待	杉山平一	講談社	1987年
映像のポエジー	アンドレイ・タルコフスキー	キネマ旬報社	1988年
映画理論集成	岩本憲児編	フィルムアート社	1987年
映画の教科書	ジェイムズ・モナコ	フィルムアート社	1989年
エンターテインメント探究	谷川義雄	風濤社	1985年
映画の言語	ロッド・ホイカー	法政大学出版局	1983年
映画と現実	ロイ・アームス	法政大学出版局	1985年
映画の記号論	Yu.M. ロトマン	平凡社	1987年
映像学原論	植条則夫編	ミネルヴァ書房	1990年
映画	イドガール・モラン	法政大学出版局	1983年
映画における記号と意味	ビーター・ウォーレン	フィルムアート社	1986年
映画芸術の社会学	G.A.ヒリアコ	有斐閣	1987年
季刊リュミエール6(グラフィック特集)		筑摩書房	1986年

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

映像メディア分析 S

14767

メディア・リテラシー論 S

メディア・リテラシー論 G

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 鈴木 みどり

講義内容・テーマ

テレビを中心とする映像メディアの分析をとおしてメディア・リテラシーについて、また、その取り組みのグローバルな展開について、理論研究と実践的研究の両面から学ぶ。とくに本科目では、テレビのジャーナリズム機能に焦点をあて、時々のメディア報道をとりあげつつ、それらを市民の視座から社会・政治・経済・文化の文脈で分析する方法を学ぶ。さらに、市民が創るオルタナティブ・メディアの可能性を考え、人間がメディアの能動的な「読み手」へ、創造的に発言する市民へと、主体性を確立していくプロセスを自らの経験として理解する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

グループ学習活動としてのメディア分析と討論、個人によるメディア・ログ(メディア分析レポート)の提出、クラス全体での発表と対話、という運営方式を基本に、文献を使いながら行う講義を織り交ぜ、全体として参加型の授業を行う。したがって、授業への能動的参加が受講条件といえる。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価は授業への出席/参加の度合い(40%)と授業中に課すメディア・ログ(メディア分析レポート)の内容による(30%×2=60%)。筆記式の定期試験や最終授業試験は行わない。なお個人で提出するメディア・ログは、授業の進行に沿って随時だす課題のなかから少なくとも前半で1回、後半で1回、計2回を選んで執筆し、原則として翌週に提出する。

講義スケジュール

- 第1週 Introduction / メディア・リテラシーと映像ジャーナリズム
「スキャニング・テレビジョン日本版」(STJ)について / ショートエッセイ
- 第2週 メディア・リテラシー研究の理論的展開とグローバルな実践 / 日本におけるメディアの発達小史
パラダイムの移行 / メディア・リテラシーの定義・基本概念・学びのスタイル・メディア研究モデル
- 第3週 TVニュースが構成する「現実」 / 分析1
- 第4週 ジャーナリズムとしてのテレビとメディア言語 / 分析2:TVニュースの映像言語
- 第5週 ジャーナリズムとしてのテレビと価値観・イデオロギー / 分析2(続き)
- 第6週 戦争とメディア:9.11.をめぐって1 / ニュースバリュー /
分析3:危機的状況におけるメディアの役割
- 第7週 戦争とメディア:9.11.をめぐって2 / メディアの表現の自由と社会的責任
分析4:メディア・戦争・検閲
- 第8週 戦争とメディア:9.11.をめぐって3 / 分析4(続き) / アジェンダ・セッティング /
誰のためのニュースか
- 第9週 報道と人権・オーディアンス1 / 1995年以降の動き /
分析5:メディアはオーディアンスをどう捉えているか
- 第10週 報道と人権・オーディアンス2 / 分析5-2 / 各国にみる報道被害者の申し立て審議制度
- 第11週 ダブルスタンダードに挑戦する・マイケル・ムーア
- 第12週 メディア社会を生きる市民とメディア・リテラシー / 基本概念8 コミュニケーションを創りだす /
クリティカルな読み手の時代のメディア・コミュニケーション
- 第13週 情報の多元化へむけて1 / 分析6:アルジャジーラ・テレビとは何か
- 第14週 情報の多元化へむけて2:市民が創るオルタナティブ・メディア /
分析7:オルタナティブ・メディアを読み解く
- 第15週 まとめと展望

テキスト

- 『メディア・リテラシーの現在と未来』(鈴木みどり編、世界思想社、2001)
- 『メディア・リテラシーを学ぶ人のために』(鈴木みどり編、世界思想社、1997)

参考書

授業の初回に参考文献リストを配布し、授業の進行に沿って随時このリストから紹介する。受講生には書籍を多く読むことを期待する。なお、参考文献リストは以下のWWWページ「メディア・リテラシーの世界」から各自でプリントアウトできる。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

メディア・リテラシーの世界 (Media Literacy Project in Japan) <http://www.mlpj.org/>
Media Awareness Network (Mnet) <http://screen.com/mnet/eng/>

その他

メディア・リテラシー論 を受講していることが望ましい。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 池内 靖子

講義内容・テーマ

演劇というメディアは、劇場、舞台空間のデザイン、衣装、メイク、照明、演出、演技、台本といった多様な要素を含む、ライブの総合芸術である。講義では、演劇の魅力について、学際的な知の枠組み、演劇的なパラダイムから、近代演劇の誕生とともに広く現代のパフォーマンス・アートを含めて考察する。俳優やパフォーマーを招待し、演劇やパフォーマンス空間、身体というテキスト、観客のまなざしなどについてワークショップを行う。京都の劇場やパフォーマンス・スペースのフィールドワークも行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

演劇に関する広い興味、関心を持ち、それが私たちが生きる社会にとってどういう意味をもっているかについて考えること。劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。講義では、グループ・ディスカッションに積極的に参加すること。

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価

グループ・ディスカッションに積極的に参加する(日常点を加味する)。一つのレポート課題として、各グループで、劇場やパフォーマンス・スペースのフィールドワークを行う。そのフィールドワークについてグループ・プレゼンテーションを行い、レポートを提出する。もう一つのレポートは、個人の課題として、自由に設定したテーマについて書き提出する(試験に変わる最終的なレポート)。

講義スケジュール

- 第1回 都市・地域と劇場
鈴木忠志のシアター・オリビックスというコンセプト
- 第2回 近代国民国家の文化的象徴としての演劇
帝国劇場の建設 / 近代演劇と女優の誕生
- 第3回 パフォーマンス・アートの現在I
異性装 / 越境について / ジェンダーの脱構築
森村泰昌の女優シリーズ
- 第4回 パフォーマンス・アートの現在
アイデンティティ・ポリティクス / セクシュアリティ
イトー・タリーの『わたしを生きること』
- 第5回 パフォーマンス・アートの現在
都市 / 身体 / エスニシティ / コミュニティ
デニズ・ウエハラ『都市と身体の地図』 『ハロー・セックス・キティ』
イトー・タリーのトークとパフォーマンス『恐れはどこに』
- 第6回 パフォーマンス・アートの現在
パントマイム・アーティスト、ヨネヤマ・ママコ『主婦のタンゴ』
アジア女性演劇会議 / 女性のアート・ネットワーク
東京代官山ヒルサイド・フォーラムというアートスペース
ニューヨークのシアター / パフォーマンス・アートスペース
カレン・フィンレーの『欲望の恒常的状态』
- 第7回 パフォーマンス・アートの現在V
アート・アクティヴィズム / 言説と身体 / セクシュアリティ
ダムタイプ『S/N』
- 第8回 パフォーマンス・アートの現在
ダンスとシアターの間 / 異化効果について
ピナ・バウシュのコリオグラフィー(振り付け)
- 第9回 パフォーマンス・アートの現在VII
テレサ・ハッキオン・チャのテキスト『ディクテ』: 言語・映像・身体
- 第10回 60～70年代のアングラ小劇場運動のパラダイム
前近代・土着的なものへのまなざし
土方巽の『暗黒舞踏』 『肉体の反乱』
60～70年代のアングラ小劇場運動のパラダイム
寺山修司の『天井桟敷』の実験 / 現実と虚構の境界
- 第11回 80年代～90年代の演劇シーン
アングラ小劇場運動を越えて
岸田理生の『身毒丸』(蛭川幸夫演出、白石加代子、武田真治主演)
岸田理生の『忘れな草』(佐藤信演出、山口小夜子主演)
- 第12回 80年代～90年代の演劇シーン
消費文化・情報化社会の只中で
如月小春・渡辺えり子・木野花(『青い鳥』グループ)

- 第13回 80年代～90年代の演劇シーン
遊戯空間の拡大
野田秀樹演出・主演の『半神』(萩尾望都原作の少女マンガ)
- 第14回 グループ・プレゼンテーションI
- 第15回 グループ・プレゼンテーション

<授業の方法>

講義だけでなく、テーマを深めるためにグループ・ディスカッションを行う。適宜、ビデオ教材を補う。
いくつかの演劇スペースをフィールドワークする。

テキスト

指定しない。授業で参考文献を提示するので、それを読むこと。

参考書

さまざまな演劇論、演出論を参考文献として授業で紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

演出論 S
演劇・演出論 S

12408

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 鈴江 俊郎

講義内容・テーマ

講義内容・テーマ Course Description, Focus and Goal 演劇作品を創作する上では、演出家の作業は大変重要なものである。観客には俳優の演技、音響・照明のかもしれない演出、舞台美術による視覚的な刺激が印象深く残るものだが、その総合的な設計、調整を行う演出家は作品に対して全責任を負っている。演出する側にとって必要な素養は単なる演劇上の技巧ではなく、社会に対する批評眼、政治に対する問題意識、人に対する強烈な関心、追体験と実体験を含む人生における体験、なにより現場の創作。作者集団を率いていくリーダーシップ、人格など多岐にわたる。小劇場、アングラ演劇などの現代演劇作品を中心とする様々な演劇作品の演出を論じる中で、現代社会に生きる人間の思考、思想、感覚を問うていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施
* 日常点評価
前期の間に一つか二つ、実際に劇場に観劇に行き、それについてレポートを書いてもらいます。商業演劇、宝塚、ミュージカルは対象にしません。

講義スケジュール

授業の流れ(スケジュール・内容等の計画) Schedule

- 第1回 導入
- 第2回 劇場の違い。野外劇、テント、小劇場、四方客席、中劇場、大劇場の質的な違いについて。
- 第3回 芝居を見に行き、感じたことをグループごとにまとめ、語り合おう。(+ 5点) 30人以上なら1,000円になりませぬ。(学生の取りまとめ...鈴江、劇団との折衝...長沼)
- 第4回 精神分析との関連。(鈴江がやる)
- 第5回 演技論の違い(スタニスラフスキーシステム、ルコックシステムなど)
- 第6回 若者が小劇場演劇をやる、というメンタリティー。
- 第7回 プロデュース体制の違い。「劇団」徒党を組むことの意義。
- 第8回 裏方(舞台美術、照明、小道具、人形)のことごと
- 第9回 様々な演劇作法の違い(アングラ、新劇、つかこうへい、野田秀樹、平田オリザなど)
- 第10回 演出家によって技巧は百人百様。(音響、役者は前を向くべきか、声量、照明・音響・舞台美術への要求、アクション、俳優の内面をどこまで重視するか、台詞をどこまで重視するか)
- 第11回 リアリティーとはなにか。
- 第12回 自分のための表現。客のための表現。
- 第13回 芝居を見に行き、感じたことをグループごとにまとめ、語り合おう。
- 第14回 演劇は必要か？表現行為はなんのためにあるのか？
- 第15回 試験

テキスト

エドワード・D・イースティ「メソッド演技」劇書房.....生協で取り扱っています

参考書

演劇雑誌「LEAF」1 - 12号(LEAF編集部 発行。編集長 鈴江俊郎)「靴のかかとの月」鈴江俊郎戯曲集(而立書房発行)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

エンターテインメント産業論 S
現代産業論 S
現代産業論 NB

14797

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回数 3以上
担当教員 増田 幸子

講義内容・テーマ

本講義では、エンターテインメント産業の一つとして映画産業をとりあげ、ハリウッド映画を中心にしたアメリカ映画と日本映画について学ぶ。主に、映画産業の発展の歴史を踏まえながら、経済的社会的側面から見た映画産業の状況と課題を整理していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

映画が見られる講義ではないので、安易に登録しても単位取得が難しいだけである。登録の際、よく検討してほしい。30分以上の遅刻は、入室を認めない。私語など、受講態度のよくない者については学生番号と名前の提示を求め、評価に反映させる。悪質な場合は退室してもらい、今後の受講を認めない。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験(持込み不可)と授業中に課す数回の受講エッセイで総合的に評価する。

講義スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2～4回 アメリカ映画産業小史
- 第5～9回 アメリカの映画産業
 - 1)ハリウッドとスタジオ・システム
 - 2)映画製作の流れ
 - 3)企画 / 資金、製作、配給、利益の分配などのお金の流れ
 - 4)映画館ビジネス
 - 5)デジタルエコノミーの動き
- 第10回 日本映画産業小史
- 第11～14回 日本の映画産業
 - 1)統計で見る日本映画
 - 2)企画 / 資金、製作、配給、利益の分配などのお金の流れ
 - 3)文化商品としての日本のアニメ
- 第15回 まとめ

テキスト

特に指定しない。授業中にレジユメや資料を配付する。

参考書

ミドリ・モール(2001)『ハリウッド・ビジネス』文春新書。
赤木昭夫(2003)『ハリウッドはなぜ強いのか』ちくま新書。
村上世彰・小川典文(1999)『日本映画産業前線』角川書店。
他は授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

専門特殊講義 SA	12354
人間福祉特論 SC	
応用社会学特論 SC	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 黒田 学

講義内容・テーマ

「アジア太平洋地域の障害者問題～ベトナムの障害者問題を通じて障害者の権利、福祉・教育を考える」

本講義では、アジア太平洋地域の発展途上諸国における障害者問題について、ベトナムの障害者問題を通じて障害者の権利、福祉・教育を考え、検討する。発展途上国の障害者問題は福祉・教育施策の遅れ、戦争と貧困により様々な課題を抱えている。アジア太平洋障害者の新十年(2003-2012年)の意義と障害者施策の動向を踏まえ検討することとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日常から発展途上諸国の障害者問題に関心を持って頂きたい。単に出席するのではなく、積極的な受講を望む。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

レポート(70%)および平常点(小レポート、30%)による評価。

講義スケジュール

第1～3回

はじめに

第1章 発展途上国の人権保障と社会問題(戦争と貧困、福祉課題)
～ユニセフ、UNDP、世界銀行など国際機関の統計、資料を通じて

第4～7回

第2章 アジア太平洋障害者の新十年(2003-2012年)の意義と障害者施策の動向

1) アジア太平洋障害者の十年から新十年へ

2) びわこミレニアムフレームワーク

3) 中国、タイなど各国にみる障害者施策の現状

第8～14回

第3章 ベトナムの障害者問題

1) ベトナムの障害者福祉と教育法制度

2) 障害者の生活実態と福祉

3) ベトナム戦争(枯葉剤散布)と障害者

4) 専門家養成の課題

第15回

まとめ

テキスト

黒田学他編『胎動するベトナムの教育と福祉』文理閣(生協にて販売)

参考書

仲村優一他『世界の社会福祉 3アジア』旬報社、仲村優一他『世界の社会福祉年鑑2002』『同 2003』旬報社、広井良典他『アジアの社会保障』東京大学出版会

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

財団法人 日本障害者リハビリテーション協会 <http://www.jsrpd.jp/>

その他

介護概論 S
介護概論 SG

12443

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 2以上
担当教員 沖野 良枝

講義内容・テーマ

どのような状態になろうとも、人は最後まで誇りと自尊心、自律の精神を持ち続けたいと切望するものです。病気や障害を抱え、老年期に達し多くのものを喪失されてきたと考えられる介護を必要とする人々に対して、望みを絶つこと無く、喪失に耐えられる程の喜び、安らぎを提供できる介護のあり方を、探っていきたいと考えています。学生の皆さんには、講義を通して、人の痛みや悲しみ、寂しさが判ること以上に人の喜びや安らぎ、希望に共感できるような感性を養って戴きたいと思えます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

介護は、社会福祉の専門性としてはまだ歴史の浅い領域です。医療や看護、家政学とは境界不明瞭な部分も多く、現在、介護のアイデンティティは確立途上にあるといえます。講義では、専門知識や技術、経験の伝聞に留まることなく、幅広い視点、多様な思考でマクロに学習する立場にたっただけことを希望します。講義は、人を援助するための基本的な考え方や実践の方向性を焦点に進めていきます。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験の受験は、原則として6割以上の授業出席を条件とする。
筆記試験により介護問題の背景、関連する専門知識、対象の理解、援助の方法論などの基本的理解、習得状況を評価する。

講義スケジュール

- 第1回 1. 介護の理解
 - 1) 介護の概念と原則
 - 2) 介護の発生と歴史
- 第2回 3) 今日の介護問題とその背景
- 第3回 2. 介護対象者の理解
 - 1) 人・対象者にとっての生活
 - 2) 人・対象者にとっての健康
- 第4回 3) 人・対象者にとっての自律/自立
 - 4) 援助の目標としてのQOL(クオリティ・オブ・ライフ)
- 第5回 3. 介護のしくみ
 - 1) 介護に関する制度、政策
 - 2) 介護の場
- 第6回 3) 保健・医療・福祉の連携
 - 4) 介護を担う人と役割
- 4. 介護のスキル
- 第7回 1) 介護(問題解決)過程
- 第8回
- 第9回 2) 介護(援助)技術
 - 観察
 - コミュニケーション
- 第10回 ADL(日常生活)援助
 - 3) 主な領域と介護
- 第11回 寝たきり高齢者と介護
- 第12回 痴呆性高齢者と介護
- 第13回 終末期と死
- 第14回 4) 安全管理と対策
- 第15回 5. 介護における倫理
 - 1) 対象者の自律と人権
 - 2) 専門職者の義務と責任

テキスト

指定なし

参考書

適宜、紹介します

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

適宜、紹介します

その他

外国語文献研究 S	12337
中国語文献研究 S	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 張 文青

講義内容・テーマ

この講義は、四つの分野に分けて、経済発展が日進月歩の中国の昨日と今日を多方面にわたって紹介する授業にします。

中国のトピックス：大学生の恋愛、携帯電話とE-mail、姓名の根源を探ってみる。

中国の文化：十二支の含意、中国人の服装、結婚について、中国人の福、寿、喜観念

中国の伝統と歴史：食療法、薬膳、北京の古&今

中国の課題：中国人が皆ミルクを飲める日、「防沙」とある日本人のボランティア先駆者、中国の小中学生

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

中国語を勉強したことがあって、中国の文化や歴史、政治、経済、社会などに感心を持っている学生は、だれでも受講できます。

評価方法・基準

* 日常点評価
出席重視、平常点重視しています。

講義で積極的に発言する学生や平常点の成績が優秀な学生に関して、最終テストを受けなくてもよい。

講義スケジュール

上記13回の全体的授業のスケジュールに沿って、毎回一つのテーマを取り上げて授業を進めていきます。

授業の流れとしては、まず、発音表記している教材を少しずつ分析し、説明して行きます。テーマの内容やそのテーマに関する今日の中国の現状も紹介します。文法の説明が必要な場合は、随時皆さんの質問に答えていきます。

全員が教材の内容を理解した上、文書を読んで、内容の理解を確認し、消化して頂きたいと思います。

テキスト

資料をプリント配布します。

参考書

日中、中日辞書を持参してください。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

外国語文献研究 S	14682
中国語文献研究 S	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 張 文青

講義内容・テーマ

前期の講義に続き、後期のこの講義も四つの分野に分けて、中国の昨日と今日を多方面にわたって紹介する授業にします。

中国のトピックス： 食事を分けて食べるの？、中国の野菜生産地ー山東、中国版ソニーのハイアル米国進出

中国文化、地理： 中国を歩こう、動物観、中国の「飯・菜」、中国茶

中国の伝統と歴史： 春節、大晦日のテレビ放送、中国人の呼び名と挨拶

中国の課題： 若者の就職現状、青少年の飲食、ペット・ブーム

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

中国語を勉強したことがあって、中国の文化や歴史、政治、経済、社会などに感心を持っている学生は、だれでも受講できます。

評価方法・基準

* 日常点評価
出席重視、平常点を重視します。

講義で積極的に発言する学生や平常点の成績が優秀な学生は、最終テストを受けなくてもよい。

講義スケジュール

上記13回の全体的授業のスケジュールに沿って、毎回一つのテーマを取り上げて授業を進めていきます。

授業の流れとしては、まず、発音表記している教材を少しずつ分析し、説明して行きます。テーマの内容やそのテーマに関する今日の中国の現状も紹介します。文法の説明が必要な場合は、随時皆さんの質問に答えていきます。

全員が教材の内容を理解した上、文書を読んで、内容の理解を確認し、消化して頂きたいと思います。

テキスト

資料をプリント配布します。

参考書

日中、中日辞書を持参してください。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

カウンセリング論 S

12464

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 高垣 忠一郎

講義内容・テーマ

現代という時代や社会は人々の心にどのような問題をもたらしているのか？「癒し」「心の時代」「心の教育」「心の商品化」「心の専門家」「臨床心理士」「カウンセリング」などの言葉が氾濫しているなかで、「心の問題」をどのようにとらえればいいのか？カウンセリングは「心の問題」をどうとらえ、どのようにアプローチするのか？現代社会における心理臨床やカウンセリングの意義、役割、その功罪は何なのかを考えると共に、主要なカウンセリングの理論や方法についても紹介する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

たんに、心やカウンセリングについての知識を得るのではなく、自分自身をくぐり抜けて、今日の社会や心の問題を真剣に考えてみようと思う人に受講してもらいたい。とりわけ、「平和」が脅かされている情勢の中で、「平和」と「心」の問題に関心をもってほしいと、持ちたいひとの参加を歓迎する。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

- 1 カウンセリングとはどういうものか
- 2 カウンセラーの仕事はどんな仕事？
- 3 カウンセリングの歴史
- 4 今日の社会とカウンセリング(1)
- 5 今日の社会とカウンセリング(2)
- 6 「心の教育」をどう考えるか？
- 7 カウンセリングの基本問題(1)
- 8 カウンセリングの基本問題(2)
- 9 カウンセリングの基本的態度とプロセス(1)
- 10 カウンセリングの基本的態度とプロセス(2)
- 11 クライアント中心療法
- 12 認知療法
- 13 交流分析
- 14 精神分析
- 15 その他
- 15 その他の療法

テキスト

なし。

参考書

高垣忠一郎「揺れつ戻りつ思春期の峠」新日本出版
 横湯園子・高垣忠一郎「心の視点－カウンセリングトレーニング」青木書店
 高垣忠一郎「共に待つ心たち－登校拒否・ひきこもりを語る－」かもがわ出版
 高垣忠一郎「癌を抱えてガンガーヘー性と死の不安と向き合う－」三学出版

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

家族関係論 S
家族社会学 S

12530

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 櫻谷 真理子

講義内容・テーマ

今日、社会構造の急激な変化に伴い、さまざまな家族問題が出現している。育児不安、児童虐待、家庭内暴力、夫婦、親子の断絶の危機等、家族の崩壊へもつながりかねない不安定要素が増大し、あらためて家族のあり方が問われている。そこで、家族がお互いの人格を尊重しあい、独自の存在として生きることを妨げる要因及び家族福祉の課題を探りながら、これからの家族について考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テーマを設定して、レポートを書いてもらうことが多い。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

レポートと出席状況(40%)、定期試験(60%)によって評価する。

講義スケジュール

1. 変わりゆく家族
少子化と家族の変化
結婚観、夫婦関係の変化
2. 現代家族の子育てをめぐる問題
母親一人の子育てと育児不安
3歳児神話、母性愛神話の影響
父親の役割
児童虐待その1
児童虐待その2
子育て支援、家族支援の実態と課題
3. 家族の葛藤と子ども
女性の社会進出と子ども
思春期、青年期危機と親子関係その1
思春期、青年期危機と親子関係その2
機能不全家族とは
4. 家族福祉の課題
ドメスティック、バイオレンスとその対応
子どもの権利擁護と家族支援
21世紀家族への展望

テキスト

桜谷真理子他編『子育て支援の現在』ミネルヴァ書房

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 柳澤 伸司

講義内容・テーマ

活字メディアである新聞は最も古いメディア形式であり多様性に富んだ耐久性のあるメディアである。私たちは日常的に活字メディアの持つ権威(活字で表現されたもの)を疑うことなく接していることが多い。この科目ではメディアリテラシーのひとつとして新聞を分析対象として、その目的、方法、分析結果の読み方を学ぶ。主として新聞を中心に活字メディアのあり方について考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講者はグループに分かれて互いに協力しながら調査・分析作業ができることを前提に受講登録すること。毎回の授業時間だけ出席していれば済むという授業形態ではないので注意してほしい。受講者にとって互いに迷惑となる遅刻、無断欠席等は許されない。

評価方法・基準

* 日常点評価

参加型授業となるので、参加の度合いを平常点とし、最後にまとめを兼ねた批評レポート(各自が作成)とあわせて総合的に評価する。従って、出席と能動的参加は必須条件となる。無断欠席および遅刻は減点する。明確な理由が無く、3回連続して無断欠席した場合は最低点の評価とすることがある。初回およびグループ分けの第2回目の授業に出席しない人は受講意志なしとして判断するので注意してほしい。

講義スケジュール

授業はグループ活動と並行して考察に必要な講義を行う。受講者はグループに分かれてテーマに基づき実際に新聞等をベースに文献などを活用しながら調べた内容を整理考察していく。グループで分析した結果を発表し、それについて討論する。最終的に、グループで考察・分析した内容を「新聞」という形式で表現し、グループの作成した「新聞」についての批評レポートを各自で提出してもらう。

第1回 ガイダンス(受講希望者は必ず出席のこと)

分析の視点/グループ分け(登録)・作業の計画等授業の進め方について

第2回 グループ調整(受講意志の確認と調整)

グループ自身について考察。メンバー間で対象とするテーマについて利用可能なすべての知識・利点を話し合い、探究すること。自分たちの意見や自分の生活から得られた経験、メンバー各々の技能や資質がどのようにグループに貢献するのかを話し合う。

第3回 作業グループ/テーマ確定

テーマ(問題意識)に対する自分自身の個人的な関係の追求。自分がそのテーマにどのように取り組めるかテーマに対するメンバー全員の知識を検討する。さらに、より具体的なテーマの選択:扱対象が大袈裟すぎないか、曖昧でないかを確認する。何を明らかにしようとするか。なぜその問題を重視するのか。そのことによって私たちの視点や知見はどう変化するか。 皆が知っていることを再認識することも重要だが、できれば新たな視点やアプローチがほしい。

第4回 仮説設定

収集した知識や能力がどのようにテーマと関連しているか、グループが探究する問題(テーマ)に対して可能な解決法は何か。どのようにして調べるか。限られた時間、物理的条件で、できることとできないこと。仮説を立てようとする際にグループにとって現実味があるか グループと直接に関連しているか 自分たちで調査できるテーマであるか

第5回 調査の開始

仮説を進展させるよりテーマを複眼的に捉える、グループの考えを他の人の考えや意見と比較してみる、欠落した情報がないかどうか見極める、欠落した情報があれば収集する、グループが立てた仮説を検証し進展させる、必要があればテーマに関わる当事者へのインタビューをする、グループが立てた仮説を検証し進展させる

第6回 調査と分析

分析によって課題の整理と分析内容に矛盾がないかどうか検討する。不足したデータがあればさらに収集する。

第7回 調査と分析

分析によって課題の整理と分析内容に矛盾がないかどうか検討する。不足したデータがあればさらに収集する。

第8回 調査と分析

分析によって課題の整理と分析内容に矛盾がないかどうか検討する。不足したデータがあればさらに収集する。

第9回 論点整理

グループの主張としての提案を考察し、その考察が適切かどうかを検討する。

分析内容を整理し、論点をまとめる。

第10回 論点整理

考察されたレポートを互いに読みあい、矛盾がないか、表現におかしなところがないかを確認しあう。

第11回 新聞作成

新聞の形にレイアウトを組みかえる。A3用紙4ページを基本として作成する。可能な限り、その範囲にまとめられるよう工夫する。レイアウトなど読みやすさなど十分に配慮する。参加者は必ず、紙面に署名入りの記事(原稿)を載せる。

第12回 新聞作成

レイアウトの最終段階。手書きにするか、ワープロ印字したものを貼り付けるか、A3用紙に割り付け作成する。この週で完成させる。

第13回 完成披露

完成した新聞をもとに各グループで報告する。分析の特徴、成果について報告する。

第14回 批評会

完成した新聞を披露し、互いに批評しあう。

第15回 講評レポートの作成・提出

テキスト

新聞(一般紙:各自用意すること)、必要に応じて週刊誌など。
適宜資料等を用意する。

参考書

毎日新聞社編『開かれた新聞 新聞と読者のあいだで』明石書店(2002)
玉木明『ニュース報道の言語論』洋泉社(1996)
岸本重陳『新聞の読み方』岩波ジュニア新書(1992)
北村肇『新聞記事が「わかる」技術』講談社現代新書(2003)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/cg/ss/views/>

その他

活字メディア論 S
活字メディア論 G

20234

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 山口 正紀

講義内容・テーマ

多様化するメディアにあって、活字メディアのあり方が改めて問われている。メディアによる人権侵害 = 報道被害、記者クラブに象徴される権力チェック機能や批判精神の衰退。その中で、市民のメディア批判の高まりとともに、法・権力による報道規制の動きも強まっている。本講義では、30年間の記者生活、人権と報道・連絡会での活動体験をもとに、「人権とメディア」に焦点を当て、具体的な事例に基づいて、新聞を中心とした活字メディアの現状と未来を考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日ごろから問題意識をもって新聞を読むとともに、報道被害や報道の自由をめぐる文献にも目を通し、活字メディアに関する自分なりのテーマをもって受講してほしい。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

レポートは、単なる講義への感想・まとめではなく、「報道被害」「報道規制」「記者クラブ」その他、自分の関心のあるテーマでよいが、文献調査も含めた「自分の頭で考えた論文」であるかどうか、を基準に判断する。

講義スケジュール

授業は毎回レジュメを用意し、随時参考資料(関連記事コピーなど)も配布して行う。ひとコマごとに質疑・討論の時間を設け、受講者同士の意見交換を重視して進める。

- 第1回 活字メディアをめぐる諸問題(概論)
- 第2回 報道被害の実態 (松本サリン事件などの冤罪を中心に)
- 第3回 報道被害の実態 (ロス疑惑などメディア主導の報道冤罪を中心に)
- 第4回 報道被害の実態 (事件被害者の報道被害)
- 第5回 報道被害の実態 (集団的過熱取材による地域の被害)
- 第6回 少年事件、精神疾患患者の事件と報道
- 第7回 新聞に描かれる女性像(メディアによる性差別)
- 第8回 報道被害の原因と構造(事件取材の実態と記者クラブ問題)
- 第9回 実名報道原則・匿名報道原則をめぐる論争
- 第10回 報道の自由、法規制をめぐる動き(個人情報保護法、裁判員制度など)
- 第11回 戦争・外交と新聞報道 ('9・11」とアフガン・イラク戦争)
- 第12回 戦争・外交と新聞報道 ('9・17」と日朝交渉・拉致問題)
- 第13回 メディア責任制度の現状(報道被害をなくすシステム)
- 第14回 新聞記者のあり方(記者クラブ、権力チェックと批判精神)
- 第15回 メディアと市民(報道の受け手の役割と課題)

テキスト

山口正紀著『ニュースの虚構 メディアの真実 現場で考えた90～99報道検証』(現代人文社)及び、同書の続編(本年6月ごろをめぐり、同社から刊行予定)

参考書

河野義行・浅野健一著『松本サリン事件報道の罪と罰』(講談社文庫)
読売新聞社編『「人権」報道 書かれる立場・書く立場』(読売新聞社)
北村肇編著『新聞記者をやめたくなったときの本』(現代人文社)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

人権と報道・連絡会 <http://www.jca.ax.apc.org/~jimporen/welcom.html>
浅野健一ゼミ <http://www1.doshisha.ac.jp/~kasano/>

その他

環境技術論 S 環境計画論 S	12343
--------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 山口 歩

講義内容・テーマ

テーマ:再生可能社会に向けての技術の課題

各種技術の在り方は、今後の地球環境の変化の方向を定める最も重要な要素である。そして、その問題解決にむけては、工学的な知識や理論枠組みとともに、流通・経済構造から、生活スタイルにいたる社会システム全般を視野に入れた幅広い思考枠組みが求められる。本講義では、まず、地球環境に大きく影響する技術課題をわかりやすく整理し、その解決方策について社会科学的に考察していく視座を提供するものである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

同時に産業技術sを受講するとより理解が深まる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

セメスター末に試験を実施する。

講義スケジュール

- 1 オリエンテーション
- 2 地球環境問題概説
- 3 大量生産システムと環境1
- 4 大量生産システムと環境2
- 5 大量生産システムと環境3
- 6 現代のエネルギー生産システムの問題
- 7 再生可能エネルギーシステム1
- 8 再生可能エネルギーシステム2
- 9 再生可能エネルギーシステム3
- 10 原子力の問題1
- 11 原子力の問題2
- 12 交通システムの問題1
- 13 交通システムの問題2
- 14 再生可能社会システム考
- 15 まとめ

テキスト

テキストは使わない。適宜資料とレジュメを配布する。

参考書

『新・地球環境論』和田武 創元社

『環境問題を学ぶ人のために』和田他 世界思想社

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

環境保全論 S
リサイクル論 S

12511

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 和田 武

講義内容・テーマ

環境保全論/リサイクル論「持続可能な環境保全型社会の構築」

20世紀後半以降、展開されてきた物とエネルギーの使い捨て型大量生産・消費を軸とする社会は、地球環境破壊や資源枯渇を引き起こす持

続不可能な社会であることが判明してきた。本講では、「物」と「エネルギー」の生産体系の現状と問題点を国際的、国内的事例に基づいて、21世紀に持続可能な環境保全型社会への転換を実現するための条件とプロセスについて論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高度な予備知識はとくに必要ないが、講義ははじめに出席、受講すること。ときどき、授業中に小レポート(感想、意見、質問など)を書き、提出を求める。また、環境保全に関して自主的に調査、実践、学習した成果を「自主レポート」として提出することを歓迎する(テーマや作成方法は自由。提出期限は6月の最後講義)。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

期末試験に日常点(小レポート)を加味して評価。評価の比重は、試験80%、日常点(小レポート)20%。

なお、優れた「自主レポート」については、成績評価にプラスする。「自主レポート」は内容により+5~+20%。

講義スケジュール

1. 自然の物質、エネルギー、生態系の循環平衡と人間活動
2. 大量生産消費システムがもたらす問題・資源枯渇、廃棄物問題と有害物質汚染
3. 大量生産消費システムがもたらす問題・地球環境破壊
4. 持続可能な環境保全型生産消費システムのあり方
5. 日本の資源循環利用の現状と問題点(1)資源循環利用の方法
6. 日本の資源循環利用の現状と問題点(2)廃棄物・リサイクルに関する制度
7. 諸外国の資源循環利用対策(1)ドイツの包装廃棄物リサイクル
8. 諸外国の資源循環利用対策(2)EU諸国の包装廃棄物リサイクル
9. 諸外国の資源循環利用対策(3)製品リサイクル
10. エネルギー資源利用のあり方(1)日本のエネルギー利用
11. エネルギー資源利用のあり方(2)デンマークとドイツのエネルギー対策
12. エネルギー資源利用のあり方(3)持続可能なエネルギーシナリオと市民参加による再生可能エネルギー普及
13. 環境保全と技術、産業、経済発展
14. 環境保全型生産消費システムの構築
15. まとめ

テキスト

テキストは使用しない。配布資料を中心に講義を行う。理解を深めるためにビデオ教材等も活用する。

参考書

和田武『新・地球環境論』創元社、『環境問題を学ぶひとのために』世界思想社、日本科学者会議『環境展望1999-2000』『環境

日本科学者会議公害環境問題研究委員会『環境展望 Vol.2』『環境展望 Vol.3』実教出版、循環型社会法制研究会『循環型社会形成推進基本法の解説』ぎょうせい、ジェトロ・ワールド

ナウ『21世紀世界のリサイクル』JETRO、林智ら『地球温暖化を防止するエネルギー戦略』実教出版、日本科学者会議『地球温暖化防止とエネルギーの課題』水曜社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ環境省; <http://www.env.go.jp/>、厚生労働省; <http://www.mhlw.go.jp/>、日本容器リサイクル協会;<http://www.jcpra.or.jp/>、環境goo;<http://eco.goo.ne.jp/>、資源エネルギー庁; <http://www.enecho.meti.go.jp/>、NEDO(新エネルギー産業技術開発機構); <http://www.nedo.go.jp/>、気候ネットワーク; <http://www.jca.apc.org/kiconet/>、など。その他

自主的、積極的に学んでほしい。質問は大いに歓迎する。
なお、「環境社会論」との重複受講は不可のため、注意すること。

環境問題論 S 都市・農村計画論 S	14740
-----------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

環境問題を講義する切り口は様々にありうるが、本講では誰にも身近な水環境に焦点を当てて、山林・農地・海岸を結ぶ河川と湖沼・ダムを通じての砂防・洪水防止・水質保全の現状とあり方を、具体的な事例に即して検討してみたい。旧来の伝統的な仕組みからも祖先の英知を学びたい。ダムに関しては廃止を含む再検討の気運が、田中長野県知事などにより高まっているが、その意義と問題点を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教員と受講生との自由で対等な関係をめざしたい。開講当初に期末レポートの出題と成績評価の基準案の提案をする。また下記の「授業の流れ」に示すように、ビデオや特別講義に関する感想・批判のアンケートの提出を求めるので、出席を心がけてほしい。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

講義概要に関連したテーマの中から自由に選択する期末レポートを主要対象、5回ほどの各種アンケートを副次的な対象とし、その基準は上記のように開講当初に提案し、受講生の合議で決めたい。閉講近くなつての合議による決定は以前から実施していたが、受講生の希望を入れて今年度は開講当初に行うことにする。

講義スケジュール

開講に当って - 教員と学生の対等な関係、学生の自由な批判と討論をいかに実現するか

第2講 ビデオ上映『マザー・トゥリー ブナ原生林の四季・白神山地』、アンケート

第3講 ビデオ・アンケートへの回答

原生林の動植物、特にクマガラとブナについて

第4講 序論・環境問題論の基礎

第5講 日本の風土が育んできた河川との関わり

第6講 遊水地と霞堤 - 祖先の「治水」の英知に学ぶ

第7講 水害防止型集落・家屋 - 祖先の「治水」の英知(続)

第8講 琵琶湖・淀川水系の伝統的な治水・水質保全機構

第9講 ビデオ上映『濁流が都市を襲う』その他、感想・質問アンケート実施

第10講 ビデオ・アンケートへの回答

ダム問題を考える・序論

第11講 ビデオ上映『水のない川 - 大井川紀行 - 』、感想・質問アンケート実施

第12講 ビデオ・アンケートへの回答

第13講 全国のダムの堆砂現象の概観と原因分析

第14講 河川・水問題に関する特別講義(予定)

第15講 講義内容・講義方法に関する感想・批判アンケート

成績評価基準案の協議・決定

テキスト

特になし。必要な資料はその都度コピーを配布する。

参考書

参考文献の検索法をガイドする。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業に出ることも有意義だろうが、自分のオリジナルな問題意識を磨く旅を重ねてほしい。それこそが自由選択テーマでの優れたレポートを書くことを可能にするはずだ。

企画研究(自主企画学習) SA

13632

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 辻 勝次

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自身が「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。キーワードは<問題を探す> <科学する> <探求する> <参加する> <自ら学ぶ>です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

企画研究(自主企画学習) SB

13633

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 坂田 謙司

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。キーワードは<問題を探す><科学する><探求する><参加する><自ら学ぶ>です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

企画研究(自主企画学習) SC

13634

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 景井 充

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。キーワードは<問題を探す> <科学する> <探求する> <参加する> <自ら学ぶ>です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

企画研究(自主企画学習) SD

13635

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自身が「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。キーワードは<問題を探す><科学する><探求する><参加する><自ら学ぶ>です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生

担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。キーワードは<問題を探す><科学する><探求する><参加する><自ら学ぶ>です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生

担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。キーワードは<問題を探す><科学する><探求する><参加する><自ら学ぶ>です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生

担当教員 小澤 亘

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。キーワードは<問題を探す><科学する><探求する><参加する><自ら学ぶ>です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生

担当教員 森田 真樹

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。キーワードは<問題を探す><科学する><探求する><参加する><自ら学ぶ>です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュールテキスト

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生

担当教員 津止 正敏

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。キーワードは<問題を探す> <科学する> <探求する> <参加する> <自ら学ぶ>です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生

担当教員 荒木 穂積

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。キーワードは<問題を探す><科学する><探求する><参加する><自ら学ぶ>です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

企画研究(自主企画学習) SK

15942

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生

担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。キーワードは<問題を探す> <科学する> <探求する> <参加する> <自ら学ぶ>です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生

担当教員 福岡 政行

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。キーワードは<問題を探す> <科学する> <探求する> <参加する> <自ら学ぶ>です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

企画研究(自主企画学習) SM

15944

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生

担当教員 福岡 政行

講義内容・テーマ

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することが主たる目的です。キーワードは<問題を探す> <科学する> <探求する> <参加する> <自ら学ぶ>です。自ら学ぶことで必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくこともこの科目の目標です。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開していくことが特徴であり最も重要なポイントです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

TYPE 1『自主企画研究型』・TYPE 2『教員とのコラボレート型研究』ともに学習の開始から終了まで学習に関わったあらゆる文章や資料などを添えた「学びのプロセス」がわかるような報告記録と最終の成果物(レポートや論文や作品など)を「試験に代わるレポート」として提出してもらい、それによって評価を行います。なお評価は「P」もしくは「F」となります。

講義スケジュール

グループもしくは個人により研究・学習をすすめていく。

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

基礎社会学 SA 社会学概論 SA	11731
----------------------	-------

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 飯田 哲也、辻 勝次、景井 充

講義内容・テーマ

この学部にはさまざまな専門領域があるが、社会学はそれらの専門をより深いレベルで基礎付けている土台の一つであることはまちがいない。産業社会学部の学生は社会学の素養を身につけた上で専門科目やゼミを受講するのが望ましい。

社会学は一言で言うと「個人現象の後ろに隠れている社会的な要因を見つけ出す」ことだと言える。そのために必要な社会学に固有の考え方や問題の立て方を学ぶのがこの基礎社会学である。

領域としては大きくいうと、理論として「社会学理論」と「現代社会論」がある。また主要な領域として「家族」、「地域」、「労働」、「文化」がある。これらを学ぶことで社会学の全体像を講義していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1回生後期の受講になる。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価

基礎社会学では出席を義務づけていて、毎回出席を取る。15回の授業の2/3以上の出席を求める。講義の7回目から8回目あたりで簡単なレポートを課す。レポート点は成績に反映される。また定期試験を行う。つまり、出席点、レポート点、定期試験の3項目を総合評価して成績をつける。

講義スケジュール

- 1回目 序章 社会学を学ぶにあたって
- 2回目 同上
- 3回目 第1章 行為と集団
- 4回目 同上
- 5回目 第2章 家族と两性関係
- 6回目 同上
- 7回目 第3章 地域と住民関係
- 8回目 同上
- 9回目 第4章 仕事と職場関係
- 10回目 同上
- 11回目 第5章 現代と若者文化
- 12回目 同上
- 13回目 第6章 現代社会(論)
- 14回目 同上
- 15回目 全体のまとめ

テキスト

飯田哲也編著『基礎社会学講義』学文社、2002

この本は飯田先生が中心になって基礎社会学を担当する教員が協力して編集したものであり、授業はこの本をベースに進めていく。

参考書

参考書はその都度紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

基礎社会学は飯田、辻、景井の3教員が担当する。3人は一つのクラスを第1回目講義から最終回の講義まで一貫して担当する。言い換えると途中で担当者が交代するリレー式ではない。3人は常々連絡を取りながら3クラスに対して同質の講義ができるように心がける。また担当者を受講生との双方向のコミュニケーションを取るよう工夫する。

基礎社会学 SB 社会学概論 SB	11733
----------------------	-------

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 飯田 哲也、辻 勝次、景井 充

講義内容・テーマ

この学部にはさまざまな専門領域があるが、社会学はそれらの専門をより深いレベルで基礎付けている土台の一つであることはまちがいない。産業社会学部の学生は社会学の素養を身につけた上で専門科目やゼミを受講するのが望ましい。

社会学は一言で言うと「個人現象の後ろに隠れている社会的な要因を見つけ出す」ことだと言える。そのために必要な社会学に固有の考え方や問題の立て方を学ぶのがこの基礎社会学である。

領域としては大きくいうと、理論として「社会学理論」と「現代社会論」がある。また主要な領域として「家族」、「地域」、「労働」、「文化」がある。これらを学ぶことで社会学の全体像を講義していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1回生後期の受講になる。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価

基礎社会学では出席を義務づけていて、毎回出席を取る。15回の授業の2/3以上の出席を求める。講義の7回目から8回目あたりで簡単なレポートを課す。レポート点は成績に反映される。また定期試験を行う。つまり、出席点、レポート点、定期試験の3項目を総合評価して成績をつける。

講義スケジュール

- 1回目 序章 社会学を学ぶにあたって
- 2回目 同上
- 3回目 第1章 行為と集団
- 4回目 同上
- 5回目 第2章 家族と两性関係
- 6回目 同上
- 7回目 第3章 地域と住民関係
- 8回目 同上
- 9回目 第4章 仕事と職場関係
- 10回目 同上
- 11回目 第5章 現代と若者文化
- 12回目 同上
- 13回目 第6章 現代社会(論)
- 14回目 同上
- 15回目 全体のまとめ

テキスト

飯田哲也編著『基礎社会学講義』学文社、2002

この本は飯田先生が中心になって基礎社会学を担当する教員が協力して編集したものであり、授業はこの本をベースに進めていく。

参考書

参考書はその都度紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

基礎社会学は飯田、辻、景井の3教員が担当する。3人は一つのクラスを第1回目講義から最終回の講義まで一貫して担当する。言い換えると途中で担当者が交代するリレー式ではない。3人は常々連絡を取りながら3クラスに対して同質の講義ができるように心がける。また担当者と受講生との双方向のコミュニケーションを取るよう工夫する。

基礎社会学 SC
社会学概論 SC

11735

授業開講期間 後期 **単位数** 2 **配当回生** 1以上
担当教員 飯田 哲也、辻 勝次、景井 充

講義内容・テーマ

この学部にはさまざまな専門領域があるが、社会学はそれらの専門をより深いレベルで基礎付けている土台の一つであることはまちがいない。産業社会学部の学生は社会学の素養を身につけた上で専門科目やゼミを受講するのが望ましい。

社会学は一言で言うと「個人現象の後ろに隠れている社会的な要因を見つけ出す」ことだと言える。そのために必要な社会学に固有の考え方や問題の立て方を学ぶのがこの基礎社会学である。

領域としては大きくいうと、理論として「社会学理論」と「現代社会論」がある。また主要な領域として「家族」、「地域」、「労働」、「文化」がある。これらを学ぶことで社会学の全体像を講義していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1回生後期の受講になる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

基礎社会学では出席を義務づけていて、毎回出席を取る。15回の授業の2/3以上の出席を求める。講義の7回目から8回目あたりで簡単なレポートを課す。レポート点は成績に反映される。また定期試験を行う。つまり、出席点、レポート点、定期試験の3項目を総合評価して成績をつける。

講義スケジュール

- 1回目 序章 社会学を学ぶにあたって
- 2回目 同上
- 3回目 第1章 行為と集団
- 4回目 同上
- 5回目 第2章 家族と两性関係
- 6回目 同上
- 7回目 第3章 地域と住民関係
- 8回目 同上
- 9回目 第4章 仕事と職場関係
- 10回目 同上
- 11回目 第5章 現代と若者文化
- 12回目 同上
- 13回目 第6章 現代社会(論)
- 14回目 同上
- 15回目 全体のまとめ

テキスト

飯田哲也編著『基礎社会学講義』学文社、2002

この本は飯田先生が中心になって基礎社会学を担当する教員が協力して編集したものであり、授業はこの本をベースに進めていく。

参考書

参考書はその都度紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)**参考になるWWWページ****その他**

基礎社会学は飯田、辻、景井の3教員が担当する。3人は一つのクラスを第1回目講義から最終回の講義まで一貫して担当する。言い換えると途中で担当者が交代するリレー式ではない。3人は常々連絡を取りながら3クラスに対して同質の講義ができるように心がける。また担当者と受講生との双方向のコミュニケーションを取るように工夫する。

居住環境デザイン論 S
都市構造論 G
都市構造論 S

14750

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 乾 亨

講義内容・テーマ

本講義では、一人ひとりにとって居心地のいい居住環境とはどのようなものなのかを明らかにするとともに、そのような環境を創出するための考え方や知恵や技を伝授する。

多くの具体的な事例を通して、「空間・場(都市・まち)」の質が「ひと」の在り方(社会関係や文化等)を規定し「できごと(生活のドラマ)」を誘発すると同時に、「ひと」の「思い」や「できごと」が「場」に意味を与えるという、「場」と「人」の「創り・創られる」相互浸透的で重層的な関係として「居住環境」を読み解く視点を学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

スライド映像等を活用しつつ、事例をもとに「見える都市」から「見えない都市」をよみといていく。

知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、きちんと出席して継続して受講することを望みます。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

「試験にかわるレポート」を中心に評価しますが、評価には講義中出席がわりにたまたま書いてもらうミニレポートの回数を加味します。

講義スケジュール

- ・「居住環境」ってなに？ (第1週)
本授業の視点が「ひと」と「場所 = 都市(まち・地域)」の関係論であることを明確にする。
- ・「都市」ってなに？ (第2週)
- ・だから「都市」は面白い (第3～5週)
主に京都を題材にしなが、「都市」の魅力がその多層性・多義性にあることを示す。
あわせて、都市を「無数の中心(結び目)のある」「自然成長的で非方向的な」小単位の「網目」(コミュニティ)の重なり合いとして捉えようとする視点を紹介し、「ひと」の眼差しのなかに「都市」を位置づける「まちづくり」の視座を準備する。
- ・「都市を創る企て」としての近代都市計画 (第6～8週)
はたして「住みよい都市」は「創れる」のか、近代都市計画の光と影を通して考える
- ・「都市」の構造を継承するところみ (第9～11週)
具体的な事例をみながら、「ひと」と「まち」の関係を継承し発展させていく「まちづくり」の必要性を考える。
(事例:一寺言問のまちづくり・北九州市北方みずき団地・神奈川県真鶴町等、適宜選択する)
- ・「都市」に住み続けるために (第12～14週)
京都を中心にいくつかの「まちづくり」事例をみながら、人々が「都心 = インナーシティ」に住み続けていける方策を考える。
(事例は適宜選択する)
- ・まとめ (第15週)
住み手の思いの積み上げによる「まちづくり」にむけて = 「市民参加」の必要性とその可能性。

テキスト

教科書は使わず、資料はプリントを配布します。

参考書

適宜講義のなかで指示する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 蔵田 力

講義内容・テーマ

テーマ「高齢者・障害者が住まいで地域で安心して住み続けられるために」
 我国の急速に進む高齢社会において、障害を持つ高齢者も増え続けている。高齢者・障害者が住まいで、地域で人間らしく安心して住み続けられる環境はどうあるべきか。日本の住宅政策、福祉政策を先進の北欧等の国々と歴史的に比較しながら考察していく。また、国連においての「居住の権利」宣言等の最近の動きも学びながら、「住まうことは基本的人権」であることを確認する。
 なお現在、世界および日本の各地で取り組まれている住民と各分野の専門家及び行政の連携による「住まいの環境改善」や「福祉のまちづくり」の実践例を学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高齢者・障害者の福祉および「住まい」「まちづくり」に対して興味を持っていること。又、将来それらに関わることを目指している。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
 前期試験・レポートの提出による～講義内容の理解及び自主的な学習の度合い等考慮して評価する。

講義スケジュール

第1講	住居総論	「住まい」とは、住まいの歴史
第2講	住居総論	日本、世界の住宅政策、福祉政策
第3講	住居総論	「居住の権利」論
第4講	住宅各論	バリアフリーデザインの歴史
第5～6講	住宅各論	「住まいの環境改善」制度
第7～8講	住宅各論	多分野の専門家のネットワーク
第9～10講	住宅各論	実践研究
第11～14講	地域論	地域社会と高齢者・障害者
第15講	まとめ	

テキスト

「住居福祉」(早川和男著)岩波新書
 入手方法:大学生協等にて各自購入

参考書

「社会福祉方法原論」(植田、蔵田他著)法律文化社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

グローバルメディア論 S マス・コミュニケーション論 S	14678
---------------------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 黄 盛彬

講義内容・テーマ

メディアの資本、活動、そして表象の諸側面におけるグローバル化動向を検討・考察する。まずは、グローバル・メディアの起源および展開状況を歴史的に考察し、その上で主要なグローバル・メディアの現状について解説する。そして東アジア地域における国際コミュニケーション動向を、地域固有の状況や最近における社会変動との関連で、分析・考察を行なう。その上で、国際コミュニケーション状況をめぐる理論パラダイムや諸言説を紹介し、国際コミュニケーション論における主要な理論上の対立点について、メディアの国際化・グローバル化がさらに進んだ今日の視点で再評価する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

1. イントロダクション
2. グローバル・メディアの起源と展開
3. 主要なグローバル・メディア
4. CNNは何を伝えているのか - 湾岸戦争からイラク戦争まで
5. 情報は国境を越えられるか
6. メディア・イベントとしてのワールドカップ
7. 中間総括
8. グローバル・メディアと東アジア
9. 日本のメディアは、国境を越えられるか
10. 東アジア地域におけるトランスナショナルなメディアの動向 - 「中華」、「韓流」
11. 「文化が侵略される」ということは、どういうことか
12. 「日本」はどう報じられているか
13. 国際コミュニケーション論とグローバル・メディア
14. 新しい方向性
15. 講義総括および評価

テキスト

指定しない。

参考書

McLuhan, Marshall & Bruce R. Powers, The Global Village: Transformations in World Life and Media in the 21st Century, Oxford Press, 1992.

岩淵 功一著『トランスナショナル・ジャパン アジアをつなぐポピュラー文化』岩波書店、2001年

黒田勇・牛木素吉郎編著『ワールドカップのメディア学』大修館書店、2003年

石澤靖治編著『日本はどう報じられているか』新潮社、2004年

Herman, Edward S. & Robert W. McChesney, Global Media: The Missionaries of Global Capitalism, Cassell Academic, 1998.

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その都度、案内する。

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

欧米では、新自由主義政策下での社会福祉費用の圧縮、コミュニティケアの独自の歴史、多様な問題をかかえるクライアントに対するソーシャルワークの生成などを背景にして、ケアマネジメントの手法が形成された。日本では社会福祉基礎構造改革の政策動向のもとで浮上し、2000年4月以降、介護保険制度の運営として採用されている。本講では高齢者ケアマネジメントを中心に、具体的なアセスメントやプラン作成も行い、その方法・特徴・問題点を学ぶ。またケアマネジャーがおかれている困難な状態、介護保険下での要介護高齢者の潜在化にも言及する。支援費制度の動向をみて必要に応じ、身体障害者、知的障害者、精神障害者分野でのケアマネジメントについても解説する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高齢者のケアに関心を持つ学生であること、事前に社会保障論、老人福祉論、介護概論を学習しておくこと。社会福祉援助技術論を受講していることが望ましい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

定期試験または最終講義日試験とする。開講中に随時社会保障論制度、老人福祉制度、介護保険制度等についての小テスト、レポートなどを行なう。

講義スケジュール

1. ケアマネジメントの概要

ケアマネジメントの歴史 ケアマネジメントの考え方

2. 高齢者の生活問題と介護課題を把握する。

2. ケアマネジメント方法と対象

インテーク、ニーズ、アセスメント、プランなど主要な概念の及びプログラムの解説を行う。ケアマネジメントの対象とされる人と問題を整理して把握する。その上で、高齢者の社会福祉課題とケアマネジメントの枠組みを考える。生活課題の切り分けにともなう社会福祉の方法(社会福祉援助技術)の変容を考察する。

3. 介護保険におけるケアマネジメント

ケアマネジメント導入の経過、介護保険制度で採用されているアセスメント方式の実際、介護保険制度運用の実際(要介護認定、サービス計画作成、給付管理)など介護保険下での実際を理解する。介護保険制度の問題をケアマネジメントの角度から検証する。

4. 障害者のケアマネジメント

身体障害者、知的障害者、精神障害者分野でのケアマネジメントの動向を解説する。

6. ケアマネジメントの実際

受講者の希望に応じ、高齢者分野で課題分析、サービス計画作成をモデル的に行う。

7. ケアマネジメントの発展方向

ケアマネジメントの政策的意図を検討し、またケアマネジメント有効性と問題点の評価を行う。その介護保険下でのケアマネジメントとの問題点、ケアマネジャーの困難性、サービスを拒む高齢者の潜在化など。

テキスト

大野勇夫『利用者のためのケアマネージメント』あけび書房、2000年

参考書

参考図書として石川満他『自治体は高齢者介護にどう責任を持つか』萌文社、2002年を読んでおくこと。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

経済学理論 S
経済学理論 S
経済理論 NB

14842

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 奥村 宏

講義内容・テーマ

テーマ:現代日本の大企業と株式会社

日本経済を支えている大企業 = 株式会社の構造と問題点を明らかにするとともに、大企業 = 株式会社の改革の方向を示していく。
それによって、現代日本の資本主義 = 法人資本主義の構造を解明していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科2回生以上 / 人間福祉学科3回生以上

評価方法・基準

* 定期試験として実施

論文形式の問題を出すので、講義の内容と教科書をよく理解しておくことが必要。

講義スケジュール

- 1 会社とは何か
- 2 大企業論
- 3 大企業論
- 4 株式会社の歴史
- 5 株式会社の歴史
- 6 株式会社の歴史
- 7 大企業改革論
- 8 大企業改革論
- 9 株式会社改革論
- 10 株式会社改革論
- 11 株式会社改革論
- 12 コーポレートガバナンス論
- 13 協同組合論
- 14 NPO論
- 15 大企業信仰・株式会社信仰

テキスト

奥村宏 『会社をどう変えるか』(筑摩書房)

参考書

奥村宏 『会社とはなにか』(岩波書店 ジュニア新書)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

芸術社会論 S	12400
芸術社会論 S	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 須藤 泰秀

講義内容・テーマ

イタリア・ルネサンスの絵画を鑑賞しながら、その絵が当時の社会をどのように把握していたかについて学習したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この科目は美術論ではない。絵画に込められた思想を理解したい。歴史に関する知識を身に着けていることが望ましい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
評価は定期試験による。

講義スケジュール

ルネサンスの発生・形成・発展・消滅に沿って講義をすすめる。

テキスト

なし。

参考書

その都度、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

芸術表現論 S
 芸術表現論 S

12424

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 篠 雅廣

講義内容・テーマ

芸術はアーティストが創造するものである、というだけでは不十分で、鑑賞者がいることによって、初めて存在意義を持つものです。わたしは美術館に勤務していますが、この講義では、とりわけ造形芸術の分野において、わたしたちが「芸術と出会う機会」や「鑑賞の場」とはどのようなものか、さらに鑑賞行為にともなう「感動すること」や「芸術を評価すること」、「芸術を消費すること」などを、具体的事例に沿って考えてみたいと思います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日々の生活のなかで、アートや芸術と呼ばれていることがらに興味のある学生の受講を希望します。講義中は私語、飲食、無断離席、携帯電話・メールなどの使用は禁止します。

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
 - * 日常点評価
 - 1. 講義期間中に課題として与える小レポート(800字程度・翌週提出)を2回
 - 2. 出席状況の確認(不定期)
 - 3. 試験に代わるレポートの提出(2000字程度)
- 成績評価の比重は1を2割、2を1割、3を6割とする。

講義スケジュール

- 第1回: ガイダンス、受講生へのアンケート
- 第2回: 「芸術に触れる」ということ
- 第3回: 果てしなく続く、「芸術」に触れるわたしの一週間、一年間
- 第4回: そんなにむづかしいことではない 「絵を見る」ということ
- 第5回: 「第1回リクエスト講義」
- 第6回: 街なかにあふれるヌード パブリックアート
- 第7回: 本当のパブリックアートとは
- 第8回: ミュージアム 記憶を留める装置
- 第9回: 目の付けどころ 身近なことから「芸術的意味」を感じ取る
- 第10回: 嫌いなものは嫌い 理解できても、共感できない芸術
- 第11回: 具体的に芸術はどのように表現されているのか 場所論
- 第12回: だれが芸術を評価するのか 市場論
- 第13回: 第2回リクエスト講義
- 第14回: 芸術はどのように保護されるのか 法的なこと
- 第15回: 芸術の周辺 排除されているもの

テキスト

ありません。適宜指示します。

参考書

授業への理解を深めるための入手可能な文献は、その都度指示します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

計量社会学 S
計量統計学 S
計量社会学 S

14662

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回数 2以上

担当教員 奥川 櫻豊彦

講義内容・テーマ

本科目では、社会学方法論のなかでも特に、量的調査データ、官庁統計やマクロデータ分析を中心に展開される。ツールとしてSPSSの統計解析ソフトウェアを用いる。社会学方法論の視点 - つまり、"一本の木ではなく、全体の森のかたちを描くように" - から、変数の度数分布、クロス集計表、比例尺度の変数を用いた相関係数、分散分析等の統計解析技法が使えるように実習形式で取り組む。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1回生時に、「情報処理」(SPSS)を履修しておくことが望ましい。
開講期間中のオフィスアワー: 金曜日13:30~14:30 研究室: 修学館338号
連絡先: okugawa@hotmail.com 研究室直通電話: 466-3062

評価方法・基準

* 日常点評価
中間テスト30%、提出物30%、分析報告書40%。

講義スケジュール

1. 科目ガイダンス: 受講生の受講データ用紙記入
2. 社会学方法論 - 質的方法と量的方法、質的データと量的データ
3. 社会学方法論 - 因果関係と相関関係、疑似相関と媒介変数
4. データファイルサーチ 実際に用いられた社会調査のデータ例
5. データファイルサーチ 官庁統計のデータファイル
6. データ解析の手法 - 度数分布
7. データ解析の手法 - クロス表
8. データ解析の手法 - 多重回答のクロス表
9. データ解析の手法 - 3重クロス表
10. データ解析の手法 - 散布図、相関係数、相関表
11. データ解析の手法 - 分散分析
12. 分析報告書の書き方 図・表の作成
13. 報告書の書き方 分析結果の書き方
14. 受講生による分析報告のプレゼンテーション
15. 受講生による分析報告のプレゼンテーション

テキスト

西田晴彦・新睦人『社会調査の理論と技法()』(川島書店、1976年)

参考書

必要に応じて紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

言語コミュニケーション論 S
言語コミュニケーション論 S

14777

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回数 3以上

担当教員 坂本 利子

講義内容・テーマ

テーマ: 社会、文化とコミュニケーション

講義内容

コミュニケーション能力(コンピテンス)を高めるために、ことばと社会と文化の様々な関係や、社会を背景に言語はどのように変化するかなど、多様な言語の様相を知ることが重要である。言語が社会においてどのように使われているか、その変化を引き起こす社会的要因は何かを探求する社会言語学の方法を用いて、人間の言語能力とコミュニケーションの問題を、社会と文化を軸に考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義に関する情報はすべてWebCTに掲載するので、WebCTの坂本担当「言語コミュニケーション論S」のページを参照のこと。教材は各自必要に応じてダウンロードすること。また、テーマごとに学生によるプレゼンテーションとディスカッションを行い、理解を深めるとともに、コミュニケーション能力の向上を図る。プレゼンテーションとディスカッションの方法については、後日詳しく講義の中で指示する。学生はプレゼンテーションのための十分な準備と、講義及びディスカッションへの積極的な貢献が求められ、講義の終わりに質問表に答えてフィードバックを提出する。これをもって出席と見なす。

評価方法・基準

* 日常点評価

出席及び授業(講義、ディスカッション)への積極的貢献(20%)

プレゼンテーション(20%)

応用問題(20%)

定期試験(中間10+期末30=40%)

講義スケジュール

第1週	なぜコミュニケーションを学ぶのか?	
第2週	コミュニケーションとは何か?(基本概念)	
第3週	言語コミュニケーション(コミュニケーションの技術)	
第4週	言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション	
第5週	インターパーソナル・コミュニケーション(1)	プレゼンテーション1
第6週	インターパーソナル・コミュニケーション(2)	プレゼンテーション2
第7週	コミュニケーションとジェンダー	プレゼンテーション3
第8週	コミュニケーションと階級	プレゼンテーション4
第9週	中間テスト	
第10週	日本人のコミュニケーション	プレゼンテーション5
第11週	異文化コミュニケーション(1)	プレゼンテーション6
第12週	異文化コミュニケーション(2)	プレゼンテーション7
第13週	現代社会とコミュニケーション	プレゼンテーション8
第14週	グローバル・コミュニケーション	プレゼンテーション9
第15週	期末テスト	

テキスト

田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待 社会・文化・コミュニケーション』(ミネルヴァ書房、1996年)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

言語表現論 S	12462
言語表現論 S	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 瀧本 和成

講義内容・テーマ

<20世紀前夜の文学> 日清戦争(明治27~28年)は、日本が国際帝国主義の一環に参入した第一歩であり、(日米戦争の敗北に至る)近代日本経営の方向を決定づけたと言える。戦時下の産業革命の展開は、軍国主義・国権主義と自由主義・個人主義の両様を生み出した。双方は雁行し、交叉して、社会上にも個人の内面上にも複雑で多様な諸相を生ぜしめたのである。徳富蘇峰の半民主義は国権主義へ転回し、高山樗牛の日本主義がニイチェの個人主義、日蓮主義へと慌しく転回したのは周知の通りである。

文芸のうえでも、美術その他芸術のうえでも、20世紀を目前にしての諸現象の豊饒には、今日顧みられるべきものがあり、本講義では樋口一葉等の作品を取り上げそれらの諸問題をとくに言語表象の面から考察したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テキストを中心に講義を進めていくが、必要資料はその都度配布する。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

定期試験の成績を主とし、これに出席等の平常点を加味して総合評価する。

講義スケジュール

テキスト

上田 博・瀧本和成編『明治文芸館』(嵯峨野書院 2004・4)

参考書

上田 博・瀧本和成編『明治文学史』(晃洋書房 1998・11)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回数 3以上

担当教員 中川 順子

講義内容・テーマ

テーマー「日本における現代家族の諸問題」ー

家族は、身近かであるために、すでにすべてをわかっていると思いがちである。家族は研究するに値する領域として、認知されたのは最近のことである。いまや家族は、少子高齢社会の今後を検討するとき、はずすことの出来ない重要な領域となっている。現代の家族は、どのような役割を期待されているのか。家族というユニットがその役割を担おうとすると、それを構成するユニットである個人の生き方にどのような問題を投げかけるのだろうか。正解を決めがたいこうした問題に、自らの「解」を与えるための基礎を、この講義を通じて学んでほしい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ジェンダー論を受講しているか、平行して受講することを希望する。

評価方法・基準

* 日常点評価

最終講義日に試験を行う。

同時に、講義の節目で、小レポートを課し、評価に組み込む。比重は、2割程度とする。

講義スケジュール

3部構成で講義を構成する。

家族の現状

統計データから家族変化をどう読むか？

家族とその変容に関する主な議論の検討

エンゲルス・パーソンズ・フロイト

フェミニズムと「家族」

日本型近代家族の生成と変容

少子高齢化社会と家族機能の「社会化」

家族の個人化・選択化

テキスト

テキストは使用しない。

配布レジюмеに、関連参考文献・資料を記載する。

参考書

参考文献は、レジюмеに掲載。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ<http://www.gender.go.jp>その他

現代企業論 S
 企業社会論 NA
 企業社会論 S

14960

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 3以上
 担当教員 櫻井 純理

講義内容・テーマ

テーマ「日本の企業労働の変容」
 経済のグローバル化の影響を強く受け、日本企業における労働のありようは大きな転換期を迎えている。若年層の就職難とフリーターの増加、正社員のリストラと非正規雇用の増大、過労死・過労自殺問題、「成果主義」の強化などが進行している。この講義では、主に企業と労働者の関係に焦点を当てながら、企業と社会の関係に今起こりつつある変化について、現状と課題点を考えていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

必要な知識・スキルは特にない。授業に出席し、この問題への関心をもっと深めてください。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
 ベースは定期試験の成績(100点満点)。出席はとらないが、感想文程度の提出を授業中に求めることが1、2回あり、それについては各回5点程度を加点する。授業テーマに関連した自主レポートを提出してもかまわない(A4ワープロ打ち・3枚程度、参考文献リスト付き)。内容に応じて5～20点の範囲で加点する。

講義スケジュール

主な授業内容は下記(進行状況に応じて若干変更する)。
 前半は主にレジュメを使用し、後半はテキストの内容に基づいて講義する。

- (1)イントロダクション(講義の概要と授業の進め方)
- (2)さまざまな賃金制度
- (3)能力主義と成果主義、エンプロイアビリティの重視
- (4)人員リストラの増加、企業再編と解雇、解雇ルールの法制化
- (5)非正規雇用の増大(パートタイム問題を中心に)
- (6)フリーターの増大、若年層の就業と失業
- (7)派遣労働と業務請負、個人事業主という働き方
- (8)ペイ・エクイティと間接差別
- (9)過労死と過労自殺
- (10)サービス残業問題とその背景
- (11)何がサラリーマンを駆りたてるのか

テキスト

櫻井純理『何がサラリーマンを駆りたてるのか』(学文社)。
 大学生協で購入できるように手配する。

参考書

熊沢誠『能力主義と企業社会』(岩波新書)、島本慈子『ルボ解雇』(岩波新書)、
 ジル・フレイザー(森岡孝二訳)『窒息するオフィス』(筑摩書房)、その他近刊書を適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

株主オンブズマン、大阪過労死問題連絡会、労働基準オンブズマン、派遣労働ネットワークなど。
 詳細は授業中に適宜紹介する。

その他

就職活動を控えた学生のみなさんには身近なテーマのはずなので、関心を持って授業に臨んでください。
 ビデオ教材等も使用し、なるべく時事的な話題を取り上げていこうと考えています。

現代産業論 S
現代産業論 S
現代産業論 NA

12435

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 小野 秀生

講義内容・テーマ

現代の社会は、国際化、情報化、サービス化などの歴史的な構造転換に直面している。本講義では、このように変化する現代の産業活動をミクロ的、マクロ的に総合的に分析する理論と方法が身につくよう行い、現代産業の構造と発展方向が理解できるよう試みる。

国際比較など国際的動向にも目をむけるが、現代日本の産業活動の内実を中心にできるかぎり平易に概説する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

適宜資料を配布して講義を行うので欠席のないよう受講を求めたい。
また、今日的な課題を扱うので、新聞の切り抜きなど産業をめぐる独自の情報の収集を薦めたい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
基本的に試験によって評価するが、方法は未定ながら平常の受講状態を加味して採点、評価するつもりである。

講義スケジュール

- (第1セッション) 資本主義と産業
1講 現代産業の課題と構成
2講 資本主義の発展と生産概念の展開
3講 技術・資源と労働、労働編成
4講 資本 = 企業の蓄積と競争
5講 社会的分業と産業構造
- (第2セッション) 現代の産業 その構造と展開
6講 社会的分業の深化と産業連関(競争と独占)
7講 技術革新とプロダクト・サイクル
8講 産業活動とポリシー・ミックス
9講 日本産業発展と蓄積モデル
10講 現代産業の情報化とサービス化
11講 産業発展と資源・環境問題
- (第3セッション) 現代産業の国際的展開
12講 WTO体制と現代の多国籍企業
13講 日本産業の国際化と東アジア
14講 21世紀の産業展望 その理論と政策課題
15講 (予備的補充的考察)

テキスト

とくに指定せず。

参考書

須藤 晃 『イノベーションと日本経済』 (岩波新書)
基礎経済科学研究所 『国際化のなかの日本』 (青木書店)
小野 秀生 『現代福祉と公共政策』 (文理閣)
その他適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

現代史 S
産業発達史 S

12300

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 2以上
担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

テーマ:世界史における現在。現代はグローバル化の進展により多面的な異文化交流が繰り広げられる一方、人種・民族・宗教問題、あるいは地域間経済格差などの拡大を背景とした戦争が絶えない。

この講義では、世界の近現代の流れを確認しつつ、世界史の視点から日本の近代化、教育・福祉・地方自治、階層間格差などの問題の今日的な位置と課題を検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科2回生以上 / 人間福祉学科3回生以上
1回生時に「現代と社会」、「現代とメディア」を受講していることを希望する。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
授業の進行過程で、小レポート・質問紙の提出を求める。
評価は、定期試験(70%)、小レポート・質問紙の提出(30%)

講義スケジュール

はじめに - 1492年頃、そして今 -
第1部 国民国家の誕生と産業革命(3回ほど)
・資本主義世界システムの形成
・国民国家の誕生とブルジョアジー
第2部 第一次世界大戦(3回ほど)
・第一次世界大戦前夜・終戦と新しい世界秩序
・日本の国際舞台への登場
第3部 戦間期と第二次世界大戦(3回ほど)
・ドイツの2度目の挑戦とヨーロッパ・アメリカの覇権拡大とラテン・アメリカ
・欧米列強とインド・中国・日本・第二次世界大戦
第4部 東西冷戦体制とその後(4回ほど)
・日本の戦後
・植民地主義の崩壊と発展途上国の困難
・先進工業諸国の家族・地域・教育
まとめ - グローバリゼーションの文脈のなかで -

テキスト

テキストは指定しない。各講義ごとにレジュメを配布する。

参考書

平田雅博『イギリス帝国主義と世界システム』、晃洋書房、2000年
中村隆英『昭和史』全2巻、東洋経済新報社、1993年
そのほか、講義のなかで適宜、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

・講義のなかで適宜、紹介する。

その他

現代市民社会論 S 住民自治論 S	14643
----------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

市民社会についての議論が近年大きくクローズアップされています。それは、これまで国家がもっぱら公共性の名のもとに経済的にも社会的にも大きな影響力を社会に与えてきたことに対して疑問が出始めているからです。といて、国家がやってきたことを民間企業に任せるのでは利潤主義に走りかねないので社会にとっては困ります。福祉事業などをみればこの点明らかです。したがって、国家や企業だけでなく、市民社会を育てながら新たな公共性を作り上げ、協治のシステムを作り上げていくことが可能なかどうか議論されはじめています。しかし、こうした議論はすでにこれまで社会形成論として議論されてきました。社会科学は、これまで一貫して市民社会とは何かを問うてきたのです。こうした議論を振り返りながら、本講義では、あらためて何故いま市民社会の議論が必要なのかを考えていきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義の内容が理解されているかを定期試験にて考査する。

また、出席を2 - 3度とり、評価に加味する。

講義スケジュール

1回 講義の目的・課題

なぜいま市民社会なのか。ヨーロッパで、日本で、開発途上国で何が問題とされているのか。

市民社会の成立

2回：フランス革命を辿る - 近代の夜明け

3回：フランス人権宣言を読む - なにが問題とされたのか？

市民社会の思想家達

4回：ルソーの描いた社会 - 文明社会批判と社会契約論

5回：スミスの描いた社会 - 経済社会と社会のエートス

6回：マルクスの描いた社会 - 批判されたブルジョア社会

現代の市民社会

7回：復興する市民社会論 - なぜ、いま市民社会なのか？

8回：ハーバマスの市民社会論 - 社会学者ハーバマスは何を考えたのか？

9回：市民社会と公共性 - 公共性を考える

10回：ラディカル・デモクラシーと市民社会 - 現代のデモクラシーとは？

新しい社会形成と市民社会

11回：「第三の道」と市民社会 - 現代ヨーロッパ社会はどこに行くのか？

12回：発展途上国と市民社会 - 発展途上国が抱える問題

13回：グローバル化と市民社会 - グローバル市民社会は可能なのか？

なお、各講義が1回で終わることを想定していないので注意。

テキスト

テキストは特に指定しない

参考書

『復権する市民社会論』（千賀等編、日本評論社、1999）

『相対化の時代』（坂本義和、岩波新書、1997）

『公共性』（斎藤純一、岩波書店、2000）

『第三の道』（A・ギデンス、日本経済新聞社、2000）

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その他

現代生活論 S
生活経済論 S

12493

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 飯田 哲也

講義内容・テーマ

テーマ 現代日本の生活と理論

講義内容 戦後50余年の国民生活をトータルに概観し、現在どんな課題が提起されているかを具体的に考え、現実に対する社会学的見方を養う。生活の変化に対するこれまでの見方を検討し、社会的現実と理論を結びつけて考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施

期末試験による。講義の受け止め方による評価。

講義スケジュール

1. 生活論への誘い

現代日本の生活研究についてトータルなイメージを鮮明にし、どんな課題があるかについて具体的に紹介し、学生の関心を喚起する。

2. 予備的な歴史的確認

近世末期および近代日本社会と国民生活

3. 戦後日本社会の変化と生活

戦後復興期、高度経済成長期、「転換期」それぞれにおける日本社会の性格と国民生活を、民主主義を基準として展開する。

4. 生活研究の課題と方法

生活研究の必要条件と課題、生活研究の基本視覚と方法について

5. 生活研究の史的展開

貧困研究として生活研究が研究史としてスタート

戦後生活研究の展開、生活研究の理論的焦点

6. 生活研究の視角について

人間、生活、活動、活動の条件とそれらの相互関係

7. 「全体としての生活」把握の理論について

生活過程論、生活様式論、生活構造論の検討と課題提起

8. 生活理論の構築に向けて

生活構造論試論、「構造化」と「全体化」が発想の機軸

9. 生活理論から社会学理論へ

社会学理論構築の課題と方向

テキスト

飯田哲也著『現代日本生活論』(学文社)

参考書

飯田哲也他編『新・人間性の危機と再生』(法律文化社)

飯田哲也『現代日本家族論』(学文社)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

講義には継続して出席することが望ましい

現代政治論 S
現代政治論 S

14783

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 國廣 敏文

講義内容・テーマ

20世紀の科学 = 技術や医学の飛躍的進歩によって、人類は宇宙旅行を現実のものとしクローンを作り出すまでになった。だが同時に20世紀は「紛争と革命の世紀」でもあり、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など未解決の問題が山積しており、その意味で、人類は自然と社会を統治しえていない。

政治学の観点から見ると、20世紀は「国民国家」の時代であるが、その国家が世紀末に至って「ゆらぎ」始めている。本講義では、分裂と統合との間を揺れ動く現代国家および世界政治の諸相と諸問題を把握するとともに、現代世界の構造と動態についての政治学的分析に必要な基礎概念や視点・方法を探る。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞やニュースに普段から接するように心がけることと、分からない言葉や問題があったときに、それを調べる癖を身につけること。
。そうした探求心や好奇心から、勉強することへの興味が湧いてきます。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
成績評価 = 単位認定は、セメスター終了時の論述試験を中心としますが、毎回出席を取ります。100点満点のうち、10点として総合点に参入します。

講義スケジュール

以下の概要で講義を行なう予定である。

- ・ 歴史認識と政治学の視点
 - 第1回： 現代という時代 20世紀から21世紀へ
科学技術・医学発展の世紀、戦争と革命の世紀
 - 第2回： 政治学の方法と課題
グローバル・プロブレマティクとは何か
- ・ 現代政治の諸相 国家、民族、紛争
 - 第3回： 「国民国家」の拡大と「ゆらぎ」 「相対化の時代」か
 - 第4回： 国家とは何か
 - 第5回： 国家形成と国民形成
 - 第6回： 民族とは何か
 - 第7回： 現代民族問題の概観(1) いくつかの事例を中心に
 - 第8回： 現代民族問題の概観(2)
 - 第9回： 「国民国家」と民族問題の将来
- ・ 分析枠組
 - 第10回： 「世界システム論」の方法
 - 第11回： 「世界システム論」の意義と問題点
 - 第12回： 「国際社会学」の方法 超国家・国家・地域ないし民族
 - 第13回： 「国際社会学」の意義と問題点
- ・ まとめと展望
 - 第14回： グローバルデモクラシーの可能性
「2001.9.11」以前と以後で何が変わったか？
グローバル化とリージョナリゼーション、ナショナリズムの相克
現代社会のゆくえと主体形成、日本の課題

テキスト

テキストはとくに指定しないが、授業に際して参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。

参考書

現代の世界的状況を理解するための参考書として、D.ヘルド編(中谷義和監訳)『グローバル化とはなにか』法律文化

社、200
2年10月刊を挙げておきます。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

授業の中で紹介します。

その他

「私語」は、自らの学習権の放棄であると同時に、他者のそれへの侵害でもあるので、厳禁する。

現代デモクラシー論 S
応用社会学特論 S

12465

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 IAN T. HOSACK

講義内容・テーマ

Democracy has become a key concept for understanding the modern world, but it is a concept that means different things to different people. What exactly is democracy and how can it be achieved? What is the relationship between democracy and individual rights? What is the future for democracy in an era of globalisation ? These are just some of the questions students will consider on this course.

In addition to introducing students to some of the key issues concerning democracy, the course will also develop students' academic English skills in areas such as reading, listening to lectures, note-taking and discussion.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

All classes will be conducted in English. Students will need to prepare for classes by reading selected articles written in English, completing short answer worksheets and by learning key vocabulary.

評価方法・基準

* 日常点評価

Assessment will be based on:

- (i) attendance and participation
- (ii) weekly homework assignments
- (iii) regular short tests
- (iv) a final examination

講義スケジュール

The following is a tentative schedule, subject to amendment. In particular, the readings may be subject to change.

Week 1: Orientation: key concepts and questions
Reading from R. Dahl, 'On Democracy'

Week 2: Athenian democracy
Reading from R. Dahl, 'Democracy & Its Critics'

Week 3: Citizenship in Athenian democracy
Reading from I. Budge, 'The Challenge of Direct Democracy'

Week 4: The Republican tradition
Reading from R. Dahl, 'Democracy & Its Critics.'

Week 5: (Short Test#1); Liberalism
Reading from G. Sorenson, 'Democracy & Democratization'

Week 6: Representative government
Reading from D. Beetham & K.Boyle, 'Introducing Democracy'

Week 7: Electoral systems
Reading from D. Beetham & K.Boyle, 'Introducing Democracy'

Week 8: A right or a duty? Should voting be compulsory?
Readings C. Puplick, 'The case for compulsory voting'
P. McGuiness, 'The case against compulsory voting'
M. Ishikawa, 'New heights, louder message: abstentions in Japan's national elections'

Week 9: (Short Test#2) ; Measuring democracy #1
Reading from R. Dahl, 'On Democracy'

Week 10: Measuring democracy #2
Reading from Freedom House survey, 'Freedom in the World'

Week 11: The Third Wave of Democracy
Reading R. Doorenspleet, 'Reassessing the Three Waves of Democratization'

Week 12: Globalization: some implications for democracy
Student research for presentations in Wk 13

Week 13: Global democracy and the UN: Student presentations & discussion
Reading from J. Fishkin, 'The Voice of the People'

Week 14: The Deliberative Poll initiative

Week 15: Review: final examination

テキスト

No textbook.
All readings relating to this course will be provided
by the instructor.

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

公共政策論 S
社会政策論 S
社会政策 NB

14756

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 重森 臣広

講義内容・テーマ

この講義では、イギリスにおける社会政策領域の発展を促した救貧法(Poor Law)の歴史的動向をとりあげる。およそ350年におよぶ歴史をもつこの制度は、困窮者の社会的救助の理念を基本にすえながらも、時代の変化とともに様々な要素が付加され、改訂され、また社会的な論争の焦点となってきた。家族手当をはじめとする所得補給、社会的に周辺部分に位置する人々の隔離収容、独立生活への復帰をめざしたフィランソロピ運動、公的な予防医療などのアイデアはどれも、この制度の改訂や批判の中から生まれてきたものである。ここでは、救貧法という制度をめぐってどのような政策理念が交錯してきたのかについて思想的な考察を行なう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義は担当者が用意した配布物にそって行なわれる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験によって評価する。

講義スケジュール

講義は概ね以下の内容にそって行なわれる。

1. 独立労働生活の危機
2. 改訂救貧法と政治経済学
3. 統計運動
4. フィランソロピの科学
6. 貧困の科学的定義
7. パブリックサイエンスと優生学

テキスト

講義は担当者が用意した配布物にそって行なわれる。

参考書

講義のさいに適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.ps.ritsumei.ac.jp/shige2/biblio2/search.htm>

<http://www.ps.ritsumei.ac.jp/shige/sgb/chronology.html>

その他

広告論 S
情報産業論 S

12577

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 西村 秀樹

講義内容・テーマ

昨年2003年はテレビ開始50年。第二のテレビ開局と言われる地上波デジタルもスタートしました。マスメディア抜きに民主主義は語れません。では、なぜ民間放送はNHKと違って無料なのでしょう？なぜ日本テレビの社員は、視聴率を「買収」する不正操作をしたのでしょうか？

広告は、現代資本主義の特徴である大量生産・大量消費を実現するのに不可欠な要素です。日本の広告費はGDPの1%、民主主義を支えるマスメディアの下部構造を形成しています。現代広告の現状を通して、日本のメディアの現状や日本社会の特質を市民の立場から考えます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特にありませんが、いろいろなアプローチを試みるため、毎回出席が望ましい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

基本は、最終講義日に実施する試験で評価します。出席も加味します。

講義スケジュール

授業の大きな流れを紹介します。

-) 概論・広告と消費
大量消費者社会における広告の役割・現状
-) 広告とメディア
メディアの現状、テレビ・新聞と広告、インターネット・BS・CSと広告
-) 広告と企業
サラ金CMやタバコ広告を通して、広告の弊害と防止策を考える
-) 広告と社会
広告とどうつきあうか。性差別、ゲイの扱いなど差別と広告表現

できる限り、ビデオなど実際に流通している広告表現を紹介しながら、講義を進める方針です。また、企業のCM制作者などゲストスピーカーも招き、複眼的で幅広い視点から取り挙げる予定です。

テキスト

特になし

参考書

藤竹 暁編『図説 日本のマスメディア』NHK出版
天野天祐著『広告論講義』岩波書店

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

特になし

その他

特になし

公的扶助論 S
公的扶助論 SG

10067

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 山本 隆

講義内容・テーマ

Course description

国民の最低生活を保障する最終的な救済手段が公的扶助であるが、その中心である生活保護制度は社会保障の土台をなしている。講義では、現代貧困論から始まり、公的扶助の歴史、現代社会における公的扶助の理念と意義、生活保護制度の仕組みと近年の動向、関連分野の組織、その連携のあり方、諸外国の公的扶助について述べる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Introduction

近年のグローバル化に伴い、経済発展の地域間格差、貧富の格差の拡大等が深刻化している。グローバル化はまた、福祉国家の再編を進めてきた。その結果、競争原理を働かせて、効率化や質の向上を図ろうとする行政管理が行われている。権利と義務を直接的に結びつけるワークフェアがその一例である。真のセイフティネットとは何か。公的扶助と相談業務を技術論として学ぶだけでなく、上記のマクロ的視点から受講して欲しい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

現代社会と貧困、
貧困の概念、
ヨーロッパの社会的排除とその対策、
わが国のホームレス問題とその対策、
福祉国家と公的扶助、
わが国の公的扶助の史的展開 - 戦前期 -、
わが国の公的扶助の史的展開 - 戦後期 -、
生活保護の仕組み、
生活保護および関連分野の組織・専門職・連携のあり方、
公的扶助の相談援助活動、
諸外国の公的扶助 - アメリカおよびイギリスを中心として -、
ケース検討 - 外部講師を招いて -

テキスト

社会福祉士受験対策として、『社会福祉士要請講座6 公的扶助論』中央法規

参考書

木下秀雄編著『生活保護法の挑戦』高菅出版

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

国際教育援助論 S 社会教育論 S	14637
----------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 東 自由里

講義内容・テーマ

国際援助の中でも教育事業を取り上げる。特定の文化的、社会的背景から生まれた教育思想の実践例を検証する。「学校教育」をめ

ぐる問題群を社会、文化的コンテキストの中で学際的な視野でとらえなおす。大きくわけて四つのテーマをとりあげる:

1) 国家形成

と教育施策 (例: 海外の日本人学校), 2) 芸術/音楽と教育施策 (例: ハーレムの音楽活動、シュタイナーの芸術教育), 3)

コミュニ

ティと教育施策 (例: アメリカのチャータースクール), 4) 変わる学校

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

アカデミック・ペーパーは、ワープロで打ったもののみ受け付ける。電子メールで提出物は受け付けしない。テキストの購入は、初

回の授業に出席して、担当者からの授業の展開方法に関する説明を聞き、どのテーマに絞るかを各自が決めてからにすること。

評価方法・基準

* 日常点評価

期末試験なし。平常点評価。アカデミック・ペーパーを開講中にB評価以上のペーパーを最低二つ。希望者は二つ以上だしてもよい。(50%)。授業中に書いてもらう6回の課題コミュニケーション・エッセイ(50%)。提出締切日の講義開始時間20分以内に提出なきものは、いかなる事情でも受け付けない。メールでの提出は認めない。

講義スケジュール

教育の位置づけ

- 1) 9月 29日 平和教育 ユネスコ憲章
- 2) 10月 06日 休講 (担当教員学会発表海外出張中) パウロ・フレイレ(予習)
- 3) 10月 13日 被抑圧者の教育学 パウロ・フレイレ
- 4) 10月 20日 NGOと教育援助 ブラジル
- 5) 10月 27日 脱学校 イヴァン・イリイチ

芸術/音楽/病院と教育施策

- 6) 11月 03日 カリキュラム シュタイナー教育 No.1ペーパー締め切り
- 7) 11月 10日 芸術教育 ドイツのシュタイナー教育
- 8) 11月 17日 福祉とコミュニティ シュタイナー教育

コミュニティと教育施策

- 9) 11月 24日 「学校が変わる」 東京 No.2ペーパー締め切り
- 10) 12月01日 「市民が創る学校」 米国チャータースクール
- 11) 12月08日 ハーレムの音楽教育
- 12) 12月15日 民主主義と学校教育 ジョン・デューイ
「生きる力」カリフォルニア州のカリキュラム

OECD 調査と国家戦略

- 13) 12月22日 フィンランド No.3ペーパー締め切り
- 14) 1月 12日 ドイツ
- 15) 1月19日 韓国

テキスト

- ・「脱学校の社会学」イヴァン・イリイチ
- ・「子供が"個立"できる学校」日米チャータースクール挑戦」天野一哉 角川書店
- ・「被抑圧者の教育学」パウロ・フレイレ
- ・「私のミュンヘン日記 シュタイナー学校を卒業して」中公新書
- ・「学校と社会」ジョン・デューイ
生協で購入

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

ペーパーの内容は授業で詳しく説明するのでその指示に従うこと。自分なりのテーゼを序文で明確にする。段落は序文、本文、結部で分ける。A4で3-4枚。直接引用した箇所は必ず「」をつけ文末脚注を最後につける。3行以上の直接引用は避ける。他人の業績、インターネットからの写しは不合格。参考文献リストは原稿の文字数に入らない

国際社会政策論 S
 社会政策論 S
 社会政策 NA

12294

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 深澤 敦

講義内容・テーマ

21世紀に入って経済のグローバリゼーションが今後ますます進行すると思われるが、それと共に、これまで基本的には各国家を政策主体として遂行されてきた社会政策も大きな変容を余儀なくされ、その一層のグローバリゼーションが求められることになる。とはいえ、第一次世界大戦の終結と共にILOが創設されて以来、20世紀においても社会政策は一国の枠を超えて明確に国際化の方向性を示してきた。本講義は、こうした「国際社会政策」の歴史と現状の検討を通じて、とりわけ日本の社会政策の特異性、すなわちグローバル・レイバー・スタンダードからのその大きな乖離の実態を解明することを課題としている。そして、これによって、日本社会の特異性、とりわけ多方面に現われているジェンダー・バイアスや経済・社会のその他の格差構造などの問題性を浮き彫りにすることを意図している。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日常的に新聞などを通じて労働問題や社会政策の動向に注目すること。そして、毎年6月にスイスのジュネーブで開催されるILO総会で何が議題になっているかに関心を持つこと。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

出席を重視し、適宜コミュニケーション・ペーパーやレポートの提出を求める。評価は、期末試験以外にもこれらの項目を加味して行う。

講義スケジュール

I 社会政策の基礎理論

- 1) 社会政策とは何か、時代と共にその定義はどのように推移してきたか。
- 2) 社会政策の道義論・政治論・経済理論などの発展
- 3) 今日の社会政策の領域

II 国際社会政策の登場

- 1) ILOの前史--国際労働者保護立法協会の設立(1900年)
- 2) 第一次世界大戦とILOの創設
- 3) ILOと日本
- 4) 第二次世界大戦後の国際社会政策--OECD、EU、WTOなど

III ILOの構造的特色と機能

- 1) 三者構成システムと専門委員会制度
- 2) ILO年次総会による国際社会政策の採択
- 3) 国際社会政策遵守のメカニズム

IV 現代の国際社会政策と日本

- 1) 国際社会政策における基本的人権--結社の自由、強制労働からの自由、差別禁止など
- 2) ジェンダーと国際社会政策
- 3) 雇用のフレキシビリティと国際社会政策--パート、労働者派遣・職業紹介、有期限雇用規制など
- 4) 生活の質と国際社会政策--年次有給休暇、有給教育休暇など
- 5) 社会保障の国際基準

V 国際社会政策とその推進力--労働組合、NGO・NPOなど

- 1) 国際社会政策と労働組合運動の課題
- 2) 福祉国家と国際社会政策

テキスト

テキストは用いない。講義の初めにレジュメや資料をその都度配布する。

参考書

深澤和子著『福祉国家とジェンダー・ポリティクス』東信堂、2003年
 サンドラ・ウィットワース著/武者小路公秀(代表)監訳『国際ジェンダー関係論』藤原書店、2000年
 石畑良太郎・牧野富夫編著『社会政策－国際化・高齢化・雇用の弾力化』ミネルヴァ書房、1999年

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.ilo.org>

<http://www.socialeurope.com>

その他

現代世界における労働と福祉とジェンダーの諸問題に関心を持ち、しかもそれらを歴史的かつ国際的視点から考察することに興味のある学生の積極的参加を期待する。

国際社会論 S
国際社会論 I

14899

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

文化や経済あるいは政治面でのグローバル化がますます進んでいます。世界の各国は其中に不可避に巻き込まれています。このことによって、国家の役割が大きく変わりつつあります。それは、経済や社会のガバナンス(統治)のあり方を変えつつあります。こうしたグローバル化は、いままを市場の競争原理でもって解決していこうとする、いわゆる新自由主義のグローバル化として進んでいます。このことが、また、様々な問題を引き起こしています。たとえば、先進諸国と開発途上国との間の経済格差はこれまで以上に開き、貧困が深刻な問題となってきました。本講義では、グローバル化がどのように進み、またそれがどのような課題をわれわれに与えているのかを、具体例をあげながら経済的、社会的に見ていきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

レジュメや資料を配布して講義を行う。参考文献を参照。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

基本的に試験によって評価するが、授業中に小レポートを課すことがある。また講義内容に関わって受講者が自発的にレポートなどを提出する場合は独自に評価する。

講義スケジュール

1: 講義の目的と課題

グローバル化とは何か?

2: 資本とグローバル化 - 資本の文明化作用

3: 経済と文化のグローバル化 - カネ、モノ、ヒト、文化のグローバル化

4: グローバル化をめぐる議論 - 懐疑論、超グローバル化論、変容論

国際社会で起きていること

5: 多国籍企業と国際社会 - 弊害と企業の社会的責任

6: 新自由主義と国家 - 国家の役割の変化とエスニシティ

7: 国際社会と貧困 - 貧困の拡大

8: イミгранトと労働市場 - 多文化共生

国際社会の課題

9: グローバル・ガバナンスについて - EUの試み、アジア共同体は?

10: 発展途上国と開発 - 社会・人間開発

11: 国際機関と国際市民諸組織 - グローバル市民社会の可能性

12: まとめにかえて

なお、各章が1回分とは限らない

テキスト

特に、テキストは指定しない。参考文献を参照。

参考書

デヴィッド・ヘルド『グローバル化とは何か』(中谷監訳、法律文化社、2003年)

篠田武司「ラテンアメリカの開発と福祉」(宇佐見編『ラテンアメリカ福祉国家論序説』アジア経済所、2001年)

UNDP『貧困と人間開発』(UNDO『人間開発報告1997年度版』)など

また、授業中に適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.europa.eu.int>

<http://www.worldbank.org>

その他

国際福祉論 S
比較福祉論 S
国際福祉論 I

14800

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 前田 信彦

講義内容・テーマ

「国際福祉」という学問分野は未開拓の分野であるため、「比較福祉」という視点から講義する。
この講義では、国際比較の視点から、特に「労働」と「福祉」について考え、これからの日本の福祉社会のあり方を探る。
講義は主に次の手順で行われる。
まず第一に、国際福祉の方法について講義する。特に福祉社会を国際比較の視点から捉えるための枠組みを提示する。
第二に、主にオランダ、日本を対象として比較福祉論を講義する。
具体的には、失業問題、女性の労働、家庭生活と仕事、高齢者の就業といった個別の領域について国際比較の視点から講義する。
第三に、国際比較から各国の福祉の実態を相対化し、日本のこれからの福祉について考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会学の基礎的な知識があること。

評価方法・基準

* 日常点評価
出席点・小課題(レポート)・定期試験による総合評価。
講義期間に何度か小課題レポートを実施する。
レポート等を提出しなかったものは定期試験は受験不可とする。
遅刻・早退は厳禁。
出席等は厳しく評価するので、出席しないで単位だけを取る学生にはすすめない。

講義スケジュール

- 1回 講義の進め方について
- 2 - 3回 福祉国家の形成と危機
- 4 - 5回 中高年の失業と福祉
- 6 - 10回 女性の就業と社会的支援
- 11 - 13回 高齢者の就業と社会参加
- 14 - 15回 まとめ・試験

テキスト

テキストは特に指定しない。
講義中に参考文献を随時紹介する。

参考書

富永健一 2001 『社会変動の中の福祉国家 - 家族の失敗と国家の新しい機能』中公新書
前田信彦 2000 『仕事と家庭生活の調和 - 日本・オランダ・アメリカの国際比較』日本労働研究機構
アラン・ウォーカー1997 『ヨーロッパの高齢化と福祉改革 - その現状とゆくえ』ミネルヴァ書房
(ほか、講義中に紹介する)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

発展途上国において国際協力活動を行うNGOを中心に、楽しく学んでいきたい。途上国の貧困や民族紛争、テロ、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。

講義は毎回ビデオを使用し、また2-3回ゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデートな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

下記の行為をする受講生は「D」評価となる。他の受講生の受講権の侵害 授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)、レポートの記述の不適切な表現(タメ口など)

開始時間20分後に教室に鍵を掛けるので、遅刻者は入室できない。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

評価基準...熱心な受講者にはA、A+の評価をしている。A以上が全体の6割程度。

評価方法 出席および授業の理解力、表現力 30% 講義中の質問、議論における発言の積極性 20% 中間レポート(必須) 25% 期末試験 25%

教員はガイダンスで詳細な説明をする。受講者には納得してもらった上で受講登録してもらっている。そのため、ガイダンスには必ず出席すること。

講義スケジュール

(講義内容の一定の変更もありうるので留意して欲しい) また2-3回ゲストスピーカーを招く

- 1、ガイダンス(授業の趣旨、達成目標、成績評価方法)
- 2、NGOの台頭とその社会的背景
- 3、「政府の限界」とNGOの「機動性」 「国境なき医師団」を事例として
- 4、NGOの活動分野と協力形態 国際協力NGOにみる
- 5、6、NGOの活動分野と協力形態 環境NGOにみる
- 7、NGOの組織構造 スタッフ、ボランティアと組織との関係性
- 8、NGOの組織構造 会員、寄付者と組織
- 9、NGOとネットワーク NGO間の連携にみる活動
- 10、NGOとネットワーク 国際機関との連携
- 11、NGOを取り巻く課題 政府とのパートナーシップをめぐって
- 12、NGOを取り巻く課題 社会への影響力行使をめぐって
- 13、NPOの社会制度 海外を事例として
- 14、まとめ 日本におけるNGOの役割と今後
- 15、試験

テキスト

馬橋憲男、斎藤千宏編著(1998)『ハンドブックNGO 市民の地球的規模の問題への取り組み』明石書店、税込2,060円。生協で販売。

参考書

講義中に指示する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

この授業を通じて、一般メディアから流れる国際社会の情報とは違った角度から社会を見ていくことができるかもしれません。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 黄 盛彬

講義内容・テーマ

メディアの産業化動向、さまざまなニューメディアの登場、そして近年におけるデジタル技術の発展などによって、既存のコミュニケーション制度の根幹を揺るがす変動が起こっており、社会的コミュニケーション全般について、包括的に考慮するコミュニケーション政策への要請は年々高まっている。本講義では、コミュニケーション政策論の成立に関わる歴史的経緯、政策論の展開および今日の状況、理論的枠組みおよび対立点について検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「現代とメディア」を履修していること。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

- 1 イントロダクション
- 2 「NHK予算審議」から考えるコミュニケーション政策の諸問題
- 3 放送ネットワークの制度の成立と放送政策の展開
- 4 放送のデジタル化で何か起きているのか
- 5 デジタル化時代における放送・通信政策の課題
- 6 メディア政策と公共性
- 7 ケース・スタディー：世界の公共放送の比較
- 8 中間総括
- 9 メディアのグローバル化とコミュニケーション政策 - 現在の課題の整理
- 11 国境を越えるテレビをめぐる諸問題 その1
- 12 国境を越えるテレビをめぐる諸問題 その2
- 13 グローバルなメディア、ナショナルな政策の弁証法
- 14 グローバルなコミュニケーション政策は可能か
- 15 講義総括および評価

テキスト

指定しない。

参考書

須藤春夫編『デジタル放送で何か起こるか』大月書店、2001年
メディア総合研究所編『デジタル放送用語事典2004』花伝社
黄盛彬「メディア政策と公共性 - 古くて新しい課題とは」佐藤春吉・山口定編『新しい公共性 - そのフロンティア』有斐閣、2003年3月、pp.310-330

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その都度、案内する。

その他

コミュニケーション理論 S
コミュニケーション論 S

12289

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 赤井 正二

講義内容・テーマ

「コミュニケーション」は、さまざまな思いをこめることのできるキーワードになっている。ますますビジネス化する生活に潤いをもたらすものとして、金銭づくの人間関係から癒された精神へと救済する途として、さらには、国際社会のなかで生き残る手だてとして、「コミュニケーション」がひきあいにだされる。「コミュニケーション」は希望のシンボルであるとともに批判すべき虚偽でもあり、矛盾に満ちたプロセスです。あふれる情報や過剰なコミュニケーションは、かえって紋切り型の理解や慣習的な行動を拓けてしまう。いわゆる「情報化」は同時に情報無視や省略化をも引き起こす。このようなパラドクスのなかで、個人の「コミュニケーション・リテラシー」といったものが必要となるが、社会生活の根幹にかかわる問題としても理解する必要がある。

この講義では、「コミュニケーション」をキーワードにした現代の4つの社会観を順に検討して、4種の「コミュニケーション」イメージについて理解を深める。

学習目標

4種の「コミュニケーション」観のそれぞれの意義と差異についての理解をとおして、自分たちの日常的コミュニケーションをめぐる問題と「社会」イメージをめぐる問題とを関連づける発想力をつけてもらいたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語は厳禁。

基礎的専門用語などについては、各自で社会学事典などを参考にして学習すること。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール講義予定

- (1) 「コミュニケーション」と社会理論
- 1 同調圧力としてのコミュニケーション
 - (2) 状況の力
 - (3) 同意への圧力
 - (4) 沈黙への圧力
- 2 戦略としてのコミュニケーション
 - (5) 非協力ゲーム
 - (6) 協力ゲーム
 - (7) 中間まとめ、大都市とコミュニケーション
- 3 抵抗としてのコミュニケーション
 - (8) 「ノー」と言えるか言えないか
 - (9) 反事実の力
- 4 不確実性の縮減としてのコミュニケーション
 - (10) 不確実性と情報
 - (11) コミュニケーションの通信路モデル
 - (12) 「ネットワーク空間」?
- (13) 「場所」とコミュニケーション
- (14) 全体まとめ
- (15) 定期試験期間内試験

テキスト

レジュメ(資料)を使用する。レジュメは講義時教室でのみ配布する。

参考書

- ・ロバート・B・チャルディーニ『影響力の武器 なぜ、人は動かされるのか』(社会行動研究会訳)誠信書房、1991年。
 - ・W. リップマン『世論 上・下』(掛川訳)岩波文庫。
 - ・N. ノイマン『沈黙の螺旋理論 世論形成過程の社会心理学』(池田・安野訳)ブレーン出版、1997年。
 - ・W. パウンドストーン『囚人のジレンマ』(松浦他訳)青土社、1995年。
 - ・J. ハーバース『コミュニケーション行為の理論』(河上他訳)未来社、1985年。
- など。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

参加のデザイン論 S 市民参加論 S	14803
-----------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

担当回生 3以上

担当教員 乾 亨

講義内容・テーマ

世間では「参加」が大流行。もはや「参加」を思索・啓蒙する時代ではない。参加の意味と必要性(あるいは必然性)を踏まえながら、実践のなかで「参加」の状況をデザインする態度と力が求められている。本講義では、環境創造(まちづくり)活動における住民参加・住民主体の事例を紹介しつつ、「参加」の意味や成立要件、行政や住民の役割などについて考えていく。あわせて、「参加型まちづくり」を展開するための手法についても学習する。時間及び講義規模が許せば、ワークショップによる参加型学習も行いたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

理論的アプローチではなく、スライドを活用しつつ事例をもとに考える。「参加」の「制度」論ではない。事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、継続的出席を望む。
とりわけ第1週・第2週・第3週は問題提起編なので必ず出席のこと

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
 - * 日常点評価
- 「試験にかわるレポート」を中心に評価しますが、
評価には講義中出席がわりにたまたま書いてもらうミニレポートの回数を加味します。

講義スケジュール

- ・はじめに (第1週)
参加のデザインってなに? この講義の目的と位置づけ
- ・まず「参加」の事例を見てから考えよう...パート1 (第2週)
住み手参加(主体)の住まい・まちづくりであるコーポラティブ・ハウジングの優れた事例であるユーコート(京都)を通して「参加」の持つ可能性と現実性を実感し、そこから参加の意味を考える
- ・まず「参加」の事例を見てから考えよう...パート2 (第3週)
30年にわたって住民主体のまちづくりを進めてきた神戸市真野地区のこれまでの歩みと被災後の住民の自律的な活動、そして復興まちづくりへ向けての活動を通して、「参加」の意味や必要性について考える。
- ・なぜ「参加」なのか...パート1 (第4~6週)
ユーコートのプロセスと其中での主体の変容を追うことで、市民が自らの環境を主体的に創造する行為としての「参加」の意味や可能性、および状況のデザインのポイントを論じる(適宜他のコープ住宅事例も紹介しつつ論じる)
- ・なぜ「参加」なのか...パート2 (第7~9週)
真野地区のまちづくりのプロセスとその特質を明らかにしながら、「まちづくり」のように、多様な人々が関わる場合の「参加」のありかたについて考える。(適宜他のまちづくり事例も紹介しつつ論じる)
- ・「参加」における行政・専門家の役割 (第10~11週)
これまでの行政システムと「参加」における行政・専門家の役割の違いを明らかにした上で、事例を通して行政と住民のパートナーシップ型によるまちづくりの可能性を考える(最近の京都の事例等。適宜選択)
- ・ワークショップのすすめ (第12~14週)
参加を促す手法として近年盛んになりつつある「ワーク・ショップ」について、具体事例に基づいて、考え方や意義、方法を紹介する。(時間及び講義規模が許せば、ワークショップによる参加型学習を行う)
- ・ふたたび、「参加」とはなにか (第15週)

テキスト

教科書は使わず、資料はプリントを配布する。

参考書

(下記以外は適宜講義のなかで指示する)
「これからの集合住宅づくり」延藤安弘+熊本大学延藤研究室 晶文社
「新・人間性の危機と再生」法律文化社編集部

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

第1週・第2週・第3週はいわば問題提起なので必ず出席のこと

(この注意はちょっとへんやね...常に出席するのが当然です、勘違いしないように。念のため)

産業技術論 S
産業技術論 S

14720

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 山口 歩

講義内容・テーマ

現代における大量生産システムの問題

一国の生産技術のありかたは、その経済状況のみならず、生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与える。またそれ以上に、技術は今後の地球環境の変化の方向に決定的な影響を与える因子でもある。本講義では、生産技術が社会の諸事象にいかに関与しているのかを具体的に解きほぐし、またその発展過程を歴史的に解明していくことで、現代技術を批判的に捉える視点を示し、問題解決に向けての指針を与えるものである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

科学・技術の基本事項についてもその都度丁寧に説明するので、理系的知識を前提としてません。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

セメスター末に試験を実施する

講義スケジュール

- 1 オリエンテーション
- 2 序論1 発明と普及のタイムラグ
- 3 序論2 技術発展の論理
- 4 序論3 発明の袋小路
- 5 社会における生産の網の目1
- 6 社会における生産の網の目2
- 7 機械と道具 繊維
- 8 機械と道具 機械
- 9 機械と道具 鉄鋼
- 10 大量生産システムの生成過程1
- 11 大量生産システムの生成過程2
- 12 大量生産システムの生成過程3
- 13 現代生産システム論1
- 14 現代生産システム論2
- 15 まとめ

テキスト

テキストは使わない。適宜資料とレジュメを配布する

参考書

『技術と労働』大沼正則 岩波書店

『アメリカンシステムから大量生産へ』D.ハクシエル 名古屋大学出版会

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

産業社会学 S
産業社会学 S

12307

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 木田 融男

講義内容・テーマ

産業社会学を「産業社会としてとらえられる現代社会の学」としつつ、主としてそこに生きる人々の生活スタイル(労働や生活をめぐる生き方)に焦点をしばり、生活スタイルの今まで、今日、そしてこれから、を見ていく。主として日本社会をあつかうが、大きく企業社会から新自由主義社会への変容を軸としつつ、雇用(不況)、女性、若もの/子ども、国際化などをめぐる環境変化のなかで、日本人の生活スタイルおよび日本社会の今後の像を考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

レジュメ・資料にもとづいて講義する。時々コメント(コミュニケーション・ペーパー)を出してもらい、講義へのあなたたちの思索を把握したり、講義の往復に使ったりする。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義の基本的な内容の理解を問う試験をする。講義へのコメントは、評価に加味する場合もある。

講義スケジュール

(1週) はじめに	本講義の産業社会学について
(2週) 現代社会と生活スタイル1	現代社会論と日本社会の位置
(3週) 現代社会と生活スタイル2	社会学理論と生活スタイル
(4週) 日本社会と生活スタイル1	日本社会の変容:企業社会から新自由主義社会へ
(5週) 日本社会と生活スタイル2	今までの生活スタイル:私生活志向と企業社会志向
(6週) 日本社会と生活スタイル3	両方志向(狭い私生活志向と企業社会志向)をめぐって
(7週) 日本社会と生活スタイル4	日本人論、日本の集団主義論をめぐって
(8週) 日本社会と生活スタイル5	企業社会の病理とその変容
(9週) 日本社会と日本人の諸層1	働く人々の環境変容
(10週) 日本社会と日本人の諸層2	女性の社会的進出
(11週) 日本社会と日本人の諸層3	若者/子供の意識変容
(12週) 日本社会の変容と生活スタイル1	国際化のなかの日本社会
(13週) 日本社会の変容と生活スタイル2	日本社会の新しい状況
(14週) 日本社会の変容と生活スタイル3	日本人の新しい生活スタイル
(15週) まとめ	

テキスト

決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献は、講義のなかでで紹介する。

参考書

浪江巖・木田融男・守屋貴司編『変容する企業と社会-現代日本の再編-』八千代出版。
渡辺治『企業社会・日本はどこへ行くのか』教育史料出版会
佐々木嬉代三・中川勝雄編『転換期の人間と社会』法律文化社。
木田融男・佐々木嬉代三編『変貌する社会と文化』法律文化社。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 要 真理子

講義内容・テーマ

デザインは近代の社会構造や産業の発展と密接なつながりをもっている。この講義では、産業革命以後の、とくにイギリスのデザインに注目する。工業および商業システムを意識しながら、作り手たちは何を考え、何を目指していたのか。19世紀から現代までのデザイン事情を通覧する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回スライドを使用する。教室が暗くなるので、ノートを取りやすくするためにペンライトを持参するなど各自工夫されたい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
* 日常点評価
最終試験と小テスト(授業内・数回)によって評価をする。

講義スケジュール

- 第一回 はじめに 職人、芸術家、デザイナー
- 第二回 ロンドン万国博覧会(1851年)
- 第三回 モリス・マーシャル・フォークナー商会
- 第四回 アッシュビーのギルド・オブ・ハンディクラフト
- 第五回 パリ万国博覧会(1900年)
- 第六回 ユーゲント・シュティールとウィーン工房
- 第七回 ドイツ工作連盟
- 第八回 近代装飾美術・産業美術国際展(1925年)
- 第九回 ポール・ポワレとゼコール・マルティエヌ
- 第十回 ロジャー・フライとオメガ工房
- 第十一回 講演原稿「芸術と産業」(1932年)
- 第十二回 大量生産と多品種少量生産
- 第十三回 プロダクト・デザインと「広告」
- 第十四回 まとめ

テキスト

とくに指定しない。
授業毎にプリント資料を配付する。

参考書

藤田治彦『ウィリアム・モリス』鹿島出版会(SD選書226)
藤田治彦『現代デザイン論』昭和堂、他、授業の際に推薦

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

自我論 S
社会行動論 S

12523

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 景井 充

講義内容・テーマ

日本社会に浸透しつつある心理主義を批判的に問題とする。私たちの日常に浸透しつつある心理主義は、管理社会化の徹底による私的生活空間の極小化の逢着点とも言えるものである。経済的・政治的要因をも背景にして急速な広がりを見せつつあり、それならではの意義とともに、いくつもの問題点や検討課題が次第に明らかになってきている。本講義では、「私」の実質として主観的に体験される自我心理が心理主義に回収されていくことの問題を、社会学的視点から批判的に問題化してみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

大規模講義ではあるが、学生と教員との協働を通じて問題を考えることを望んでいる。杓子定規的な知識のパッケージではなく、想像力を働かせることによって私たち自身の日常生活を捉え返す視点を探るつもりで臨んで欲しい。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

出席はとらない。評価は Semester 末レポート(4000字以上)のみで行う。なお、評価基準等については、種々の説明とともに最初の時間に述べるので、必ず出席のこと。

講義スケジュール

講義の主題は次の3点を予定している。(1)心理主義とは何か。学問的心理主義と日常的心理主義傾向。その性格、特徴、歴史、帰結、等(2)心理主義の問題点。心理主義はなぜ問題なのか。心理主義を超えるための方途は何か等。(3)心理主義の社会的背景。日常生活の管理化の浸透(管理社会化)とその影響等。

なお、講義の実際はこちらからおこなう考察素材の提供、学生のレポート、それへのレスポンスの循環で進んでいく。参加した者だけに意義がある場となる。

テキスト

なし。レジュメ・資料などは必要に応じて配布する。

参考書

講義の中で適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

児童青年の心理 S
児童福祉論 S
児童青年の心理 SG

10562

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回数 2以上

担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

本講義では、児童心理学、青年心理学の基本を講義する。なおこれに加えて、児童福祉について母子保健、障害児福祉を中心に解説する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

随時小テストを行う

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

試験を行うと共に小テスト結果を加味する

講義スケジュール

- § 1 乳幼児の発達
 - § 1.1 乳児期の発達(1)
 - § 1.2 乳児期の発達(2)
 - § 1.3 1歳児の発達
 - § 1.4 2歳児の発達
 - § 1.5 3歳児の発達
 - § 1.6 4歳児の発達
 - § 1.7 5歳児の発達
- § 2 児童・青年の発達
 - § 2.1 学童期の発達
 - § 2.2 思春期の発達
 - § 2.3 青年期の発達
- § 3 子育てと児童福祉
 - § 3.1 生まれる前から始まる母子保健
 - § 3.2 乳幼児健診・相談
 - § 3.3 障害児の早期発見・対応
 - § 3.4 子育て支援と保育
 - § 3.5 子ども - 家庭 - 学校 - 地域

テキスト

特に設けない

参考書

講義の中で紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

児童福祉論 S
 児童福祉論 S
 児童福祉論 SG

10509

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 野田 正人

講義内容・テーマ

児童福祉は、最近では「子ども家庭福祉」とも呼ばれ、社会福祉分野の重要な一領域である。特に子どもの権利を視野に入れ、子どもの福祉に関するさまざまな制度や施策を理解すると同時に、その実現のためのソーシャルワークをも理解することが必要である。

特に児童虐待や非行など、困難な援助領域の基本を学ぶばとしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉士の基本分野のひとつであり、児童に関する専門職としての基礎を学ぶものであるため、教養レベルではないのでこころして受講されたい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

中間のレポート提出を求め、それと定期試験で評価し、日常点を加味する。

欠席を理由に不合格とはしないが、原則として毎回コミュニケーションカードによるコメントを求め、日常点として扱う。

講義スケジュール

- 第1回 子ども家庭福祉の原理
- 第2回 子どもの権利の系譜
- 第3回 子どもの権利条約
- 第4回 日本の子どもの課題
- 第5回 子ども家庭福祉の施策
- 第6回 子ども家庭福祉の実施体制
- 第7回 児童福祉法
- 第8回 分野別の課題(子育て支援)
- 第9回 分野別の課題(健全育成)
- 第10回 分野別の課題(自立支援)
- 第11回 分野別の課題(児童虐待)
- 第12回 分野別の課題(非行)
- 第13回 分野別の課題(ひとり親)
- 第14回 子ども家庭福祉の専門職
- 第15回 子ども家庭ソーシャルワーク

テキスト

高橋重宏・才村純編著 野田正人他著『子ども家庭福祉論』建帛社 / 生協扱い

参考書

許斐・望月・野田・桐野『子どもの権利と社会的子育て』信山社 2002
 峯本耕治『子どもを虐待から守る制度と介入手法』明石書店 2001 他
 厚生統計協会『国民の福祉の動向』2002

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

厚生労働省 ホームページ
 外務省 条約・人権のホームページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 野田 正人

講義内容・テーマ

司法福祉は、司法を通じて福祉課題を解決しようという営みであり、政策から臨床技術を含む。従来は少年非行問題を中心に研究が進んできたが、今日では福祉全般における法的手続きの課題が大きくなり、家族介入や権利擁護などの分野でも必要とされるようになってきている。本講ではその流れを受けて、非行にとどまらない分野での取り組みに言及する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
小課題と最終レポートによる。
原則毎回のコメントを求める。

講義スケジュール

- 第1回 司法福祉の概念と定義
- 第2回 司法手続の概要
- 第3回 司法福祉の対象
- 第4回 司法に関わる福祉課題(親族)
- 第5回 司法に関わる福祉課題(夫婦と子ども)
- 第6回 司法に関わる福祉課題(児童虐待)
- 第7回 司法に関わる福祉課題(地域福祉権利擁護事業と成年後見)
- 第8回 少年保護制度と少年法
- 第9回 少年法と児童福祉法
- 第10回 非行へのまなざし
- 第11回 非行を見分けること
- 第12回 非行を施設で克服すること
- 第13回 非行を在宅で克服すること
- 第14回 被害者を支えること
- 第15回 まとめ

テキスト

『わかりやすい司法福祉』ミネルヴァ書房 2004年/生協扱い

参考書

司法統計年報(家事・少年)、犯罪白書、警察白書、厚生労働白書など。
加藤・野田・赤羽『司法福祉の焦点』ミネルヴァ書房、
山口幸男『司法福祉論』ミネルヴァ書房

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

法務省、最高裁、警察庁、日本弁護士連合会などのホームページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 柳澤 伸司

講義内容・テーマ

現代の市民社会に不可欠なメディア。環境や権力の監視とそれを伝える機能はジャーナリズムの本質である。何を伝え、何を言わなければならないか。現代社会におけるジャーナリズムの役割はますます重要になってきている。本講義では主として日本におけるジャーナリズムの機能・役割と責任、言論・表現の自由とそれをめぐる歴史・現状などについて多面的に考察する。時事的・実際的な問題を取り上げながらジャーナリズムについて考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

一方的な講義ではなくテーマに関わって受講者の発言や意見を求めながら授業を進めたい。時事的な問題を扱うことが多いので、テーマによっては内容の変更もあることを了解の上、受講してほしい。レジュメ・資料等の配布物は授業時(教室)以外では配布しない。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
 評価は試験に相当するレポート(4000字以上)。ジャーナリズム論の評価に関わるレポートの課題・評価基準等、詳細な執筆要領とレポート評価点票を最初の授業時に配布し説明する(この評価点票がないとレポートの評価点が下がる)ので必ず出席して受け取ること。なお、この評価点票の配布は第3回目までの授業時までとし、それ以降の配布は原則として行わない。なお、基本的にオンライン(メール)によるレポート提出を行ってもらう。

講義スケジュール

基本的に以下の流れに沿って授業を進めるが、ゲストスピーカーの都合により内容の変更などもありうるので、その点は了解の上受講してほしい。

- 第1回 はじめに 授業の進め方と評価について(重要な説明事項があるので受講者は必ず出席すること)
- 第2回 ジャーナリズムとジャーナリストを考える
- 第3回 報道メディアの特色 / 歴史的視点(1)
- 第4回 報道メディアの特色 / 歴史的視点(2)
- 第5回 ジャーナリズムのアキレス腱?
- 第6回 報道システムの構造的問題
- 第7回 報道倫理はどうなっているか
- 第8回 放送ジャーナリズムの課題と可能性(放送記者によるゲストスピーカーを予定)
- 第9回 取材のプロセスをめぐって
- 第10回 メディアが作り出す報道被害 / 報道と人権の狭間で
- 第11回 権力とジャーナリズム(1)
- 第12回 権力とジャーナリズム(2)
- 第13回 新聞ジャーナリズムの課題と可能性(新聞記者によるゲストスピーカーを予定)
- 第14回 ジャーナリズムをどうするか?
- 第15回 まとめ

テキスト

特に使用しない。必要に応じてレジュメ・資料等を用意する。

参考書

門奈直樹『民衆ジャーナリズムの歴史』講談社学術文庫(2001)
 その他、適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)**参考になるWWWページ**

<http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/~syt01970/>
<http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/~sojurnls/>

その他

社会意識論 S
社会意識論 S

14744

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 須藤 泰秀

講義内容・テーマ

社会 (Gseellschaft) を科学的に把握する手順を学習する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「知られていることは、知られているからといって認識されているわけではない」というヘーゲルの文言を常に念頭におくこと。科学することはなかなか困難。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
評価は定期試験による。

講義スケジュール

脳髓の形態と認識論とが対応していることを学び、この成果のうえに立って社会を捉えた知識、これを人類史レベルの記憶によって社会の総体から整理してみたい。

テキスト

なし。

参考書

その都度、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会階層論 S
労働問題 S

12513

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 中川 輝彦

講義内容・テーマ

本講では、現代社会における階層変動や社会移動をめぐる問題について、理論的・方法論的にアプローチし検討することを目的とする。具体的には、社会調査に基づく研究を用いながら、社会階層と職業、価値パーソナリティやライフスタイルなどのテーマに関して計量モデルを構築し、実証的に明らかにすることを試みる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

適宜、簡単なレポートを提出してもらおう予定。最終講義日試験とレポートによって評価する。

講義スケジュール

1. イントロダクション
2. 社会階層とは何か
3. 現代社会と階層分化、階層変動(1)
4. 現代社会と階層分化、階層変動(2)
5. 階層と市場、職業(1)
6. 階層と市場、職業(2)
7. 社会階層と価値意識(1)
8. 社会階層と価値意識(2)
9. 社会階層とジェンダー(1)
10. 社会階層とジェンダー(2)
11. 階層とライフスタイル・文化(1)
12. 階層とライフスタイル・文化(2)
13. 社会階層と再生産
14. まとめ
15. 試験

テキスト

特に使用しない。

参考書

原純輔・盛山和夫、1999、『社会階層 - 豊かさの中の不平等』東京大学出版会
盛山・原・海野・近藤・今田・高坂編、2000、『日本の階層システム』(全6巻)

東京大学出版会

富永健一、1979、『日本の階層構造』東京大学出版会

その他、講義中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 須藤 泰秀

講義内容・テーマ

F・エンゲルス著『空想から科学へ』第一章を読む。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

各自、何度もこの著書の本文を通読する必要がある。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価は日常点評価(最終講義日試験を含む)による。

講義スケジュール

科学的方法への関心を高めるとともに、古典の読み方をマスターしてもらいたい。

1. 次の点に留意すること。人に付いて習うというような意味の学問(Lehre)、史料などを漁るような好事家的作業ないしリサーチ(Entdeckung)、素材を詳細に我がものとし、素材のさまざまな発展形式を分析し、それらの発展諸形式の内的紐帯を探り出すような研究(Forschung)、そして何等かの対象に関するそれら諸領域で得られた諸々の知識を、これらが示している思考上の意義と限界をつぶさに吟味し、最も単純な観念から最も複雑な観念へ体系化し、精神的に具体的かつ総括的なものへ上向するような人間の「思考の最高形式」である科学(Wissenschaft)。以上の異同。
2. 受講者には初めのうちは流読を薦めておきたい。そのうえで何ゆえかくかくの構成部分が取り上げられ、それらが決められた手順で組み立てられざるを得なかったのか、構成諸部分それぞれの中がどう大別されて諸々のパラグラフが組み入れられ、これらがそこでの順序に従って配列されざるを得なかったのか(だから小見出しが必要)、パラグラフ内のいろいろな文章がそのような文脈で述べられざるを得なかったのか、文章各々の中にしかじかの用語が何ゆえに取り入れられ、それぞれの順番で並べられざるを得なかったのか、必要な事柄を漏らしていないのか、不必要な事項を盛り込んでいないのか等々、論文の中へ中へ「下向的に」検討してゆかなければならない。講義では、この訓練を展開したい。

テキスト

大内兵衛訳『空想から科学へ』岩波文庫。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会学講読 SA

14896

授業開講期間 後期単位数 2配当回生 2以上担当教員 須藤 泰秀講義内容・テーマ

F・エンゲルス著『空想から科学へ』第三章を読む。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期の「社会学講読」を履修しておくことが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価は日常点評価(最終講義日試験を含む)による。

講義スケジュール

「社会学講読」と同じ修行を継続し、その上で第一章と第三章の対応関係を発見する。

テキスト

大内兵衛訳『空想から科学へ』岩波文庫。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会学史 S
社会学概論 S

12297

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 2以上
担当教員 佐藤 春吉

講義内容・テーマ

社会学を基礎づけてきた古典的な社会学者の社会学説を理解し、その重要概念や研究方法、社会学研究に立ち向かう考え方について学び、社会的思考のための基礎的な素養を身につけることを目標にする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会学を学ぶ学生にとっては必須の知識ともいえる事柄なので、軽視しないでプリントや参考書をもとに自主的に学習して欲しい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
この講義は、基本的な知識の習得が肝心なので、重要事項が理解できているかを試験する。講義に出席し、プリントを読み、講義内容をしっかり理解していないと応えられないので、そのつもりで学習して欲しい。

講義スケジュール

本講義では、社会学の基本的な常識となる古典的な社会学の諸理論を歴史的な発展過程にそくして、その社会的背景、それぞれの学説を支える方法的な問題意識などにも留意しつつ概説する。
特に、重要なK.マルクス、G.ジンメル、E.デュルケム、M.ヴェーバーについてはやや詳しく検討する。
講義の流れは以下になる。
・社会学成立の背景; 19世紀ヨーロッパの市民社会の危機と変容と社会思想ならびに社会科学の課題
・社会学の前史としての社会思想; 近代市民社会の成立と啓蒙主義的市民社会論・社会学の生誕とその意味; 資本主義の矛盾と啓蒙主義思想の破綻という時代状況に立ち向かう社会科学としての社会学、マルクス、スペンサー、コント(特にマルクスについてはやや立ち入って論ずる)
・社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会の構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ、ジンメル、デュルケム、ヴェーバー(なかでもヴェーバーを重視する)
・その後の展開と現代社会学; 古典期以後の社会学の発展は極めて多彩、多様である。
時間的制約からきちんと論じることはできないが、トマス、シカゴ学派、マンハイム、ミード、パーソンズ、その後のさまざまな現代社会学の諸学派については、簡略な見取り図を提供し簡単な解説を行う。

授業の方法; 配布するプリントをもとに講義形式で行う。

テキスト

テキストは特に指定しない。授業中にプリントを配付する。プリントは出席者にのみ配布する。ボックスは利用しないので前回欠席者も次回の授業に出席して受領して欲しい。

参考書

講義(プリント)で詳しい参考文献は提示するが、以下の参考書はあらかじめ購入し、参考にすると理解に役立つと思う。
新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書
同『社会学の歩み、パート2』有斐閣新書
那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書
浜島朗他『社会学小事典』有斐閣

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会学理論 S	14635
社会学理論 S	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 景井 充

講義内容・テーマ

社会学は、近代社会に生じるさまざまな諸現象に対する歴史的・合理的認識を獲得するとともに、翻って社会に対する実践的態度決定および関与の可能性を追求するというモチベーションを持って始まり、現在もその営みは活発に続けられている。実証的諸研究と並んで社会学の一方の柱である社会学理論は、そのような合理的認識の獲得と実践的関与の可能性の追求の成果として蓄積されてきたものである。

本講義では、社会学がどのような歴史的状況の中で、どのような思想的系譜を持って生まれたかを振り返ることによって、現代の歴史的状況と現代社会学の可能性について検討することとしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義は、注釈を加えながらテキスト読み進める形態をとる。専門書の読み方を経験してもらうことも狙っての手法である。オムニバスではなく積み上げ方式で進んでいくので、継続して出席しないと全体像が把握できなくなる恐れが強い。十分に注意のこと。本格的な社会学的想像力を鍛錬する場となると思うので、そのつもりで臨むこと。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

出席はとらない。セメスター末試験によって評価を行う。

講義スケジュール

講義の主題とスケジュールの大枠は次の通り。講義の主題は、以下の3点である。

- (1) 産業革命、宗教改革等以降西欧に始まった近代化の経過と社会学の誕生は不可分であったことはどういうことか。
- (2) その際、近代社会の問題的特質を社会学はどのように捉えたか。
- (3) それはどのような思想史的系譜に基づいてであったか。

なお、テキストとして予定している資料は2件ある。これに資料を追加しつつ講義を進める。

テキスト

なし。テキスト・資料・レジュメなどは必要に応じてプリントし配布する。

参考書

講義の中で必要に応じて紹介・指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 福地 潮人

講義内容・テーマ

ガバナンス(協治)とは、ごく簡単にいえば、社会や経済、あるいは組織をコントロールしたり、動かしたりするしくみや方法のことです。この言葉は近年、社会科学の多くの分野で、また実際の国際政治や国際経済の場で、盛んに用いられています。本講義では、このようなガバナンス論の基本的な考え方を学びつつ、さらに「社会」=「市民社会」と捉えた上で、市民が自分たちの住む市民社会をどのようにコントロールしたり、運営したりしていくのか、そのしくみや方法、課題などについて検討していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ガバナンス論を理解するうえでは、政治学、行政学の基礎的知識が必要になります。基礎知識の習得を疎かにしない、意欲的な諸君の受講を望みます。また、積極的な発言、質問をこころがけてください。具体的な講義の進め方については第1回目のオリエンテーションで受講生の皆さんと協議して決めたいと思います。受講を希望される方は必ず第1回目に出席してください。なお、受講生数、受講生の希望によってはゼミ形式をとる場合がありますので、予めご了承ください。質問・討論以外の私語や、講義中の飲食は厳禁です。目に余る行為があった場合、以降の受講を認めない場合もありますのでご注意ください。

評価方法・基準

* 日常点評価
小テスト×2(40%) + 最終講義日試験結果(40%) + 平常点(出席、受講態度など:20%)。
ゼミ形式の場合:出席(3分の2以上:50%) + グループないしは個人発表(1回以上:50%)
なお、それぞれの比重(%)は仮のものです。

講義スケジュール

以下の内容については、今後変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

- 1.オリエンテーション
- 2.「国家の空洞化」と「市民社会の再生」
- 3.ガバナンス論の諸相
- 4.市民社会とガバナンス
- 5.小テスト
- 6.社会福祉のガバナンス:NPM論を中心に
- 7.社会福祉のガバナンス:福祉ミックス論
- 8.地域経済とガバナンス:地域通貨の可能性
- 9.地域経済とガバナンス:コミュニティ・ビジネスと社会的企業
10. グローバリゼーションとガバナンス
11. 小テスト
12. デモクラティック・ガバナンス論1:アソシエーションリズムの伝統
13. デモクラティック・ガバナンス論2:ハーストのアソシエーティブ・デモクラシー論
14. デモクラティック・ガバナンス論3:コーエン=ロジャースのアソシエーティブ・デモクラシー論
15. 最終講義日試験

テキスト

とくに使用しません。

参考書

講義中に指定します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その他

社会経済学 S
経済学 S

12335

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 篠田 武司

講義内容・テーマ

構造改革、規制緩和あるいは年金改革などにみられるように、現在、日本の経済社会は大きく変化しつつあります。こうした変化は、日本ばかりではありません。80年代以降、世界的に進む新自由主義的な改革の流れの一環をなしています。それは、大量生産・大量消費といった経済システムと、また福祉の充実を特徴としてきた戦後世界の終焉を意味してもいます。グローバリゼーションが、またそうした変化を促してもきました。本講義では、こうした変化の特徴がなんであるのかを、経済の基本的な概念(言葉)、あるいは経済の基本的な仕組みから説明しつつ、歴史的に明らかにしていきます。その上で、どのような経済社会を構想すべきなのかについて考えたいと思います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

質問があれば、講義後、あるいは研究室に来られたい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義の内容が理解できているかを定期試験で考査する。

なお、2 - 3回、出席をとり評価に加味する。

講義スケジュール

1回 講義の目的

経済と社会

2回: 社会と経済 - そもそも社会とはなにか?

3回: 資本と市場 - 市場とは?

4回: 資本と産業 - 産業構造の変化

経済・社会の戦後の歴史

5回: 経済の基礎概念 - 国民総生産、国内総生産など

6回: 戦後高度成長と福祉国家の成立 - 経済・社会はどのように大きく変わったのか?

7回: 理論的総括 - フォーディズム論、あるいはケインズ主義とは?

コラム: 金融の仕組みと財政赤字

新自由主義と福祉国家

8回: 新自由主義の経済学 - 戦後福祉国家への批判

9回: 新自由主義の価値観 - 自由とは? 平等とは?

10回: 新自由主義とグローバリゼーション - グローバル化とはなにか?

コラム: 中流の崩壊

これからの経済社会を考える

11回: 「第三の道」 - 福祉国家と新自由主義に代わる道

12回: 人間中心の経済学を求めて - スウェーデンを例として

13回: まとめにかえて

各講義で1回分とは限らない。

テキスト

テキストは使用しない。下の参考書を参照。

参考書

『21世紀の経済社会』(浅野、篠田編、八千代出版、2000年)

『現代市民社会とネオリベリズム』(篠田『さんしゃ』28号、1995)

『漂流する資本主義』(佐和隆光、ダイヤモンド社、1999)

『グローバル化とはなにか』(中谷他訳、法律文化者、2002年)

なお、その他適時提示する事とする。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その他

レジュメ、資料は講義時のみに配布するものとする(必要なら直接に適時請求されたし)。

社会史 S 社会史 S	14840
----------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 鈴木 栄樹

講義内容・テーマ

テーマ:日本の近代化と社会の変容 明治維新によってスタートした日本の近代化の歩みは、一方で急速な社会構造や生活習慣、人々の意識の変容をひきおこしてきたが、それは同時に、さまざまな社会的軋轢、思想的相克を生み出していく過程でもあった。さまざまな問題をかかえ、新たに意識や価値観の転換を迫られている現在にあって、過去の歴史から学ぶものは何かを考えていきたい。歴史的な思考のなかで、「今」という時代、「私」という存在を再認識できるような講義にしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講にあたっては、日本近代史についての概説的な知識をもっていることが望ましいが、テーマに対する興味や関心があれば、理解が可能なように配慮する。知識が不十分なばあいには、必要に応じて参考文献などを指示するので、自分でも独自に学習してほしい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

随時、講義に対する理解度・疑問点などを書いてもらうことにより講義に対する積極性を評価するが、これは出席点という意味ではない。定期試験の評価を主としつつ、講義に対する積極性如何を加味して評価する。

講義スケジュール

第1回:開講にあたって(講義の概観、進め方、受講にあたっての注意など、履修登録のために参考になる情報)
第2回:ビデオ上映(「映像の世紀 第11集 JAPAN」を使用して、近代日本の歩みを映像を通して理解)
第3回・第4回:文明開化と国民国家
第5回・第6回:近代移行期の地域社会と家族
第7回・第8回:産業化と社会
第9回・第10回:帝国化と社会
第11回・第12回:大正デモクラシーと社会
第13回・第14回:戦争と社会

テキスト

大門正克・安田常雄・天野正子編『近代社会を生きる』吉川弘文館、2003年刊行、2800円(税別)
ほかに、プリントなどで補足する。

参考書

下記のURLに随時掲載するとともに、講義時に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

下記のサイト上に掲載している。
<http://www.kyoto-phu.ac.jp/labo/kyouyou/eijuszk/index.html>

その他

社会思想 S
社会思想 S

14660

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 松田 博

講義内容・テーマ

国際化時代の現代社会思想の諸課題と動向を検討する。具体的なテーマやトピックは講義計画を参照してください。全体として21世紀の社会・文化・人間が直面するであろう多文化・多民族共生社会への接近にかんする構想力・想像力形成が、本講義の目標です。したがって断片的な知識の習得ではなく、総合的な思考力の養成を重視します。文献読解力や文章表現力の向上はそのための必要条件です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

文献等の事前学習、小論文やレポート作成能力(アカデミック・ライティング)の向上に自覚的に取り組んでほしい。講義内容に関する質問や講義方法についての意見を歓迎します。

評価方法・基準

* 日常点評価

最終講義日に小論文試験を実施する予定。ただし受講生多数の場合はレポート試験に変更する場合もある。いずれの場合も日常点(感想文ほか)を加算します。

講義スケジュール

1. ガイダンス
2. ステレオタイプ(概念)
3. 同(事例)
4. エスノセントリズム(自民族中心主義)(概念)
5. 同(事例)
6. 権威主義
7. 全体主義
8. 中間まとめ、質疑応答、小レポート(感想文など)
9. 講評と討論、講義計画後半についての概説
10. オリエンタリズム
11. オリエンタリズムとポストコロニアル
12. ポストコロニアルとサバルタン
13. 多文化主義と「寛容」の文化
14. 総括、質疑応答、レポート作成の注意事項
15. 最終講義試験(レポート作成)

テキスト

テキストは使用しない。テーマにおうじて参考文献を紹介する。重要なものは資料レジュメとして配布する。

参考書

リップマン「世論」岩波文庫、サムナー「フォークウエイ」青木書店、アドルノ「権威主義的パーソナリティ」青木書店、エーコ「永遠のファシズム」岩波書店、サイド「オリエンタリズム」平凡社ライブラリー、姜尚中編「ポストコロニアリズム」作品社、ルーンバ「ポストコロニアル理論入門」松柏社、スピヴァク「サバルタンは語りうるか」みすず書房、グハ他「サバルタンの歴史」岩波書店、いずれも図書館で閲覧可能。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

多数あるので関心あるキーワードで検索してください。とくに海外のサイトにアクセスすること薦めます。

その他

研究発表その他自主的講義参加を歓迎します。希望者は担当者まで申し出てください。

社会心理学 S
社会心理学 S

12358

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 森田 浩平

講義内容・テーマ

人びとの社会的行動や社会的現象を科目の対象として扱う。その際に多様な科学的な「ものの見方」のなかで、社会心理学的なそれを用いて上記の対象を検討する。ここでは知見の習得だけでなく、方法の理解をうることが講義の目標とする。このような目標のもとで、講義では対人行動、集団行動、集合現象に注目し、その中の個別的、具体的な論点をとりあげ、そこにみられる人びとの間の相互作用の過程とその所産に関する理論と知見の検討をおこない、そのことを通して上記の目標に近づきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初歩的な、しかし科学的な心理学の知識をもっていることが望ましいが、それを受講条件とはしない。その他の受講上の注意事項はとくにない。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

定期試験を実施する。評価は、試験の成績によってのみおこなう。試験は、上記の目標の到達度をみるためのものであり、できるだけ客観的な基準によってそれを見ることにしたい。

講義スケジュール

授業は、テキストに沿って進める。以下は授業の流れである。

- 第1回 社会心理学への案内(テキスト第1章)
- 第2回 ~ 第3回 社会的欲求と社会的態度(テキスト第2章)
- 第4回 対人行動と対人関係形成(テキスト第3章)
- 第5回 集団の形成(テキスト第4章)
- 第6回 ~ 第7回 集団移行と集団の発達(テキスト第5章)
- 第8回 集団における社会的影響(テキスト第6章)
- 第9回 ~ 第10回 集団のリーダーシップ(テキスト第7章)
- 第11回 集団の意志決定(テキスト第8章)
- 第12回 集団間関係(テキスト第9章)
- 第13回 ~ 第14回 集合行動・集合現象と社会的相互作用(テキスト第10章)
- 第15回 閉講

テキスト

森田浩平著「社会心理学」晃洋書房。図書館に所在。生協にて入手可能。

参考書

授業の途次、必要に応じて提示することにした。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会調査論 S 社会調査論 S	12490
--------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 人1回生/産2回生

担当教員 中川 輝彦

講義内容・テーマ

社会調査は、複雑で常に変化している社会や経済の諸現象をとらえるための重要な手段である。社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法の修得が不可欠である。本講では、社会調査全般に対する理解を深めることを目標にして、社会調査の種類と特徴を整理し、社会調査の準備・計画と実査についての注意点を検討する。また、もっとも一般的な社会調査の方法となっている調査票調査について、標本調査法、測定方法、調査票の作成法などを修得していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科2回生以上 / 人間福祉学科1回生以上

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

適宜、簡単なレポートを提出してもらう予定。最終講義日試験とレポートによって評価する。

講義スケジュール

1. イントロダクション
2. 社会調査の種類と特徴
3. 社会学と社会調査
4. 社会調査と理論
5. 社会調査の手順
6. 標本調査の考え方
7. サンプリングの方法(1)
8. サンプリングの方法(2)
9. 測定の基礎:変数の測定
10. 調査票の作成
11. コーディング
12. 調査票の集計 データの記述(1)
13. データの記述(2)
14. まとめ
15. 試験

テキスト

特に使用しない。

参考書

参考文献は講義中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 藤島 寛

講義内容・テーマ

テーマ 動機づけ (motivation) の基礎と他者・集団・文化から生じる認知的動機の理解
動機づけの基礎について概括した後、本講義では特に社会的動機に関わる認知、意思決定、態度変容、臨床をとりあげ、動機づけにおける社会的、文化的側面を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

心理学に関わる基本的な知識については、各自自主的に勉強することを望む。
講義にできる限り出席して、講義時の話題と参考資料からテーマについて深く考えることを期待する。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

- 第1回 動機づけの基礎
- 第2回 人間的動機づけ
- 第3回 達成動機
- 第4回 集団や社会の動機づけにはたす役割(1)内発的動機づけと外発的動機づけ
- 第5回 (2)認知的不協和理論
- 第6回 (3)グループシンク
- 第7回 私的自己意識と公的自己意識
- 第8回 自尊心
- 第9回 社会的ジレンマ
- 第10回 社会臨床心理学(1)概念
- 第11回 社会臨床心理学(2)帰属
- 第12回 社会臨床心理学(3)うつ認知
- 第13回 成人期の発達課題に反映される社会からの要求
- 第14回 自己と社会との関係の表現としての物語り
- 第15回 まとめ

テキスト

特に使用しない。

参考書

講義内容に応じて、参考文献は適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

WWWページに掲載されている情報、及び内容は表層的であることが多く、そこから考察することにはなかなか結びつかないと考えます。

その他

社会統計学 S
社会統計学 S

14675

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 長澤 克重

講義内容・テーマ

この講義では、社会調査データを集計・分析する上で必要となる統計的分析方法の基礎を学ぶ。調査データを集計し要約的に記述する方法、母集団の特性値を推定する方法、母集団についての仮説を検定する方法について、理論的な基礎を講義するとともに練習問題を通じて実際にデータ分析を行ってみる。練習用のデータとして、受講生の友人・知人を対象に実施する簡単なアンケート調査の結果などを利用する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科2回生以上 / 人間福祉学科1回生以上

評価方法・基準

* 定期試験として実施
課題提出 (30%) と筆記試験 (70%) で評価する。

講義スケジュール

- 第1回 授業計画説明、統計的データ分析の考え方
- 第2回 標本と母集団、標本抽出法
- 第3回 標本データの記述(1) 統計変量、度数分布表とヒストグラム
- 第4回 標本データの記述(2) 代表値と散布度
- 第5回 データの分布 様々な分布、正規分布の性質
- 第6回 標本分布(1) 母数と統計量、標本分布、大数の法則と中心極限定理
- 第7回 標本分布(2) 標本平均の標本分布、標本比率の標本分布、小標本法
- 第8回 母数の推定(1) 点推定と区間推定、母平均の区間推定
- 第9回 母数の推定(2) 母比率の区間推定
- 第10回 統計的仮説検定(1) 仮説検定の考え方
- 第11回 統計的仮説検定(2) 母平均の差の検定、母比率の差の検定
- 第12回 統計的仮説検定(3) 独立性の検定、適合度検定
- 第13回 2変量間の関係(1) 相関関係
- 第14回 2変量間の関係(2) 回帰分析

テキスト

特定のテキストは使用せず、授業中に配布するプリントに沿って授業を進める。

参考書

佐和隆光『初等統計解析』新曜社
東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』東京大学出版会
P.G.ホーエル『初等統計学』培風館

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業には電卓(の計算のできるもの)を持参のこと。
遅刻・欠席をすると以降の講義が理解困難になるので、各人注意すること。

社会発展論 S
産業発達史 S

20203

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 青木 圭介

講義内容・テーマ

近代以降の社会発展について、生活様式と人間発達に焦点をあてて総合的に講義する。
特に、市民革命、産業革命と社会改良、重化学工業化とアメリカの生活様式、戦後改革と福祉国家、サービス経済化と福祉国家の危機について論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
種々のレポートによる

講義スケジュール

テキスト

使用しない。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会病理学 S
社会病理学 S

12528

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 山元 公平

講義内容・テーマ

社会病理学は、犯罪、少年非行、自殺、貧困、家族解体、スラム、薬物・アルコール依存などの逸脱行動や社会生活上の障害にかかわる社会現象を扱う社会学の一分野である。しかも、これらの現象を単に表面的に記述するだけではなく、その現象の社会的・文化的な原因・背景や、それが社会にもたらす意味について説明を行おうとする学問である。講義では、いくつかの領域(自殺と少年非行)の実態の把握と、それらの背景の考察をおこない、合わせて、逸脱行動についての社会学的理論を概説する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義ノートは、板書された単語を断片的にとるだけではなく、後で文章化できるように工夫すること(つまりポイントをおさえること)。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

前期末の定期試験(小論文形式)

講義の内容に則して、論理的かつ具体的に書くこと。小論文形式であるので、一読明快が望ましい。

講義スケジュール

第1回: 若干の予備的考察: 社会病理学とは

I: 自殺研究の社会学的研究: デュルケームの業績をふまえて

第2回: 自殺研究の対象・課題・方法: 集団の自殺傾向と社会的原因による説明

第3回: 自己本位的自殺: 社会的統合力の弛緩と生の無意味感

第4回: 集団本位的自殺: 社会的統合力の過剰と自殺への誘導

第5回: アノミー的自殺: 規範の崩壊と欲望の肥大化(近代社会の診断としてのアノミー)

第6回: 日本の自殺: 全体傾向、戦前・戦中・戦後の自殺の推移

第7回: 日本の自殺: 年齢別、配偶関係別、職業別、地域別等

II: 少年非行

第8回: 少年非行とは: 非行、犯罪、問題行動等の用語解説

第9回: 統計からみた非行: 非行の増加、凶悪化、質的に変化についての検証

第10回: 非行の社会学的理論: 社会解体論

第11回: 非行の社会学的理論: 社会的学習論と緊張論

第12回: 非行の社会学的理論: 下位文化論

第13回: 非行の社会学的理論: 構造的非決定の視点と統制論

第14回: 非行の社会学的理論: 社会統制のプラスとマイナスの効果

第15回: 閉講

テキスト

特になし

参考書

E.デュルケーム『自殺論: 社会学的研究』中公文庫

R.K.マートン『社会理論と社会構造』(IV章とV章)みすず書房

T. ハーシ『非行の原因』文化書房博文社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会福祉援助技術現場実習 SA
社会福祉援助技術現場実習 SG

20244

授業開講期間 夏集中

単位数 4

配当回生 3以上

担当教員 芝田 英昭

講義内容・テーマ

社会福祉の方法は、援助活動によって実践されることから、学生全員が希望に従って社会福祉施設・機関において社会福祉実習を行う。社会福祉実習中は、教員が実習先を訪れ現場の職員とともに社会福祉実習指導を行う。また、そこでの学生の姿を後の実習後指導に引き継ぐものとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと。

評価方法・基準

* 日常点評価
実習記録によって評価する。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術現場実習 SB

20245

授業開講期間 夏集中

単位数 4

配当回生 3以上

担当教員 野田 正人

講義内容・テーマ

社会福祉の方法は、援助活動によって実践されることから、学生全員が希望に従って社会福祉施設・機関において社会福祉実習を行う。社会福祉実習中は、教員が実習先を訪れ現場の職員とともに社会福祉実習指導を行う。また、そこでの学生の姿を後の実習後指導に引き継ぐものとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

実習記録によって評価する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会福祉援助技術現場実習 SC

20246

授業開講期間 夏集中単位数 4配当回生 3以上担当教員 津止 正敏講義内容・テーマ

社会福祉の方法は、援助活動によって実践されることから、学生全員が希望に従って社会福祉施設・機関において社会福祉実習を行う。社会福祉実習中は、教員が実習先を訪れ現場の職員とともに社会福祉実習指導を行う。また、そこでの学生の姿を後の実習後指導に引き継ぐものとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

実習記録によって評価する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会福祉援助技術現場実習 SD

20247

授業開講期間 夏集中単位数 4配当回生 3以上担当教員 岡田 まり講義内容・テーマ

社会福祉の方法は、援助活動によって実践されることから、学生全員が希望に従って社会福祉施設・機関において社会福祉実習を行う。社会福祉実習中は、教員が実習先を訪れ現場の職員とともに社会福祉実習指導を行う。また、そこでの学生の姿を後の実習後指導に引き継ぐものとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと。

評価方法・基準

* 日常点評価

実習記録によって評価する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会福祉援助技術現場実習 SE

20248

授業開講期間 夏集中単位数 4配当回生 3以上担当教員 加藤 直樹講義内容・テーマ

社会福祉の方法は、援助活動によって実践されることから、学生全員が希望に従って社会福祉施設・機関において社会福祉実習を行う。社会福祉実習中は、教員が実習先を訪れ現場の職員とともに社会福祉実習指導を行う。また、そこでの学生の姿を後の実習後指導に引き継ぐものとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと。

評価方法・基準

* 日常点評価
実習記録によって評価する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会福祉援助技術現場実習 SF

20237

授業開講期間 夏集中単位数 4配当回生 3以上担当教員 峰島 厚講義内容・テーマ

社会福祉の方法は、援助活動によって実践されることから、学生全員が希望に従って社会福祉施設・機関において社会福祉実習を行う。社会福祉実習中は、教員が実習先を訪れ現場の職員とともに社会福祉実習指導を行う。また、そこでの学生の姿を後の実習後指導に引き継ぐものとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと。

評価方法・基準

* 日常点評価
実習記録によって評価する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会福祉援助技術現場実習 SG

20238

授業開講期間 夏集中

単位数 4

配当回生 3以上

担当教員 櫻谷 真理子

講義内容・テーマ

社会福祉の方法は、援助活動によって実践されることから、学生全員が希望に従って社会福祉施設・機関において社会福祉実習を行う。社会福祉実習中は、教員が実習先を訪れ現場の職員とともに社会福祉実習指導を行う。また、そこでの学生の姿を後の実習後指導に引き継ぐものとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと。

評価方法・基準

* 日常点評価
実習記録によって評価する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会福祉援助技術現場実習 SH

20239

授業開講期間 夏集中

単位数 4

配当回生 3以上

担当教員 山本 隆

講義内容・テーマ

社会福祉の方法は、援助活動によって実践されることから、学生全員が希望に従って社会福祉施設・機関において社会福祉実習を行う。社会福祉実習中は、教員が実習先を訪れ現場の職員とともに社会福祉実習指導を行う。また、そこでの学生の姿を後の実習後指導に引き継ぐものとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと。

評価方法・基準

* 日常点評価
実習記録によって評価する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会福祉援助技術現場実習 SI

20240

授業開講期間 夏集中

単位数 4

配当回生 3以上

担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

社会福祉の方法は、援助活動によって実践されることから、学生全員が希望に従って社会福祉施設・機関において社会福祉実習を行う。社会福祉実習中は、教員が実習先を訪れ現場の職員とともに社会福祉実習指導を行う。また、そこでの学生の姿を後の実習後指導に引き継ぐものとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと。

評価方法・基準

* 日常点評価
実習記録によって評価する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会福祉援助技術現場実習 SJ

20241

授業開講期間 夏集中単位数 4配当回生 3以上担当教員 前田 信彦講義内容・テーマ

社会福祉の方法は、援助活動によって実践されることから、学生全員が希望に従って社会福祉施設・機関において社会福祉実習を行う。社会福祉実習中は、教員が実習先を訪れ現場の職員とともに社会福祉実習指導を行う。また、そこでの学生の姿を後の実習後指導に引き継ぐものとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術実習指導 を履修済みのこと。

評価方法・基準

* 日常点評価
実習記録によって評価する。

講義スケジュールテキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会福祉援助技術実習指導 SA	11739
社会福祉援助技術実習指導 SA	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 峰島 厚

講義内容・テーマ

この科目は、3年次の「人間福祉演習」及び「社会福祉援助技術実習指導」を履修するための基礎学習を目的としたものである。また、3年次の「社会福祉援助技術現場実習」では、福祉の現場に入って自ら援助実践の経験を積む配属実習を行う。そのため、この授業では実習に向かう基本姿勢と問題意識の確立、福祉現場の現状に関する基礎知識の確立を目指す。また、現場への理解を深めるため、数回の見学実習を行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉士課程の必修科目。履修しない場合は、3年次に「社会福祉援助技術現場実習」を履修できない。また、実習先分野を決めるための個別ヒアリングや見学実習を行うので、必ず出席すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

見学実習のレポートやその他課題レポート、出席状況による総合評価とする。科目の性格上出席は特に重視する。

講義スケジュール

1. オリエンテーション
2. 見学実習(児童福祉施設)
3. 見学実習(高齢者福祉施設)
4. 見学実習(障害者福祉施設)
5. 見学実習のフィードバック
6. 分野別講義(児童福祉施設)
7. 分野別講義(障害児・者福祉施設)
8. 分野別講義(高齢者福祉施設)
9. 分野別講義(地域指定、社会福祉協議会)
10. 分野別講義(相談機関)
11. 実習先選定について
12. 実習先選定について
13. 擬似体験
14. 擬似体験
15. 介護実技

テキスト

テキストは使用しない。随時、プリントを配布する。

参考書

必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SA	11905
社会福祉援助技術実習指導 SA	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 芝田 英昭

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け
- ・社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術
- ・実習施設・機関についての基礎的理解
- ・社会福祉現場実習の理解
- ・社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告
- ・実習計画の作成(実習課題と計画)
- ・実習計画のプレゼンテーション
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導	SB
社会福祉援助技術実習指導	SB

11906

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 野田 正人

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け
- ・社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術
- ・実習施設・機関についての基礎的理解
- ・社会福祉現場実習の理解
- ・社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告
- ・実習計画の作成(実習課題と計画)
- ・実習計画のプレゼンテーション
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導	SC	11907
社会福祉援助技術実習指導	SC	

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 津止 正敏、井上 公子

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価
毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け
- ・社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術
- ・実習施設・機関についての基礎的理解
- ・社会福祉現場実習の理解
- ・社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告
- ・実習計画の作成(実習課題と計画)
- ・実習計画のプレゼンテーション
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導	SD
社会福祉援助技術実習指導	SD

11908

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 土屋 健弘

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け
- ・社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術
- ・実習施設・機関についての基礎的理解
- ・社会福祉現場実習の理解
- ・社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告
- ・実習計画の作成(実習課題と計画)
- ・実習計画のプレゼンテーション
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導	SE
社会福祉援助技術実習指導	SE

11909

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 廣末 利弥

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け
- ・社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術
- ・実習施設・機関についての基礎的理解
- ・社会福祉現場実習の理解
- ・社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告
- ・実習計画の作成(実習課題と計画)
- ・実習計画のプレゼンテーション
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SF	11915
社会福祉援助技術実習指導 SF	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 池添 素

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け
- ・社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術
- ・実習施設・機関についての基礎的理解
- ・社会福祉現場実習の理解
- ・社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告
- ・実習計画の作成(実習課題と計画)
- ・実習計画のプレゼンテーション
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SG	11917
社会福祉援助技術実習指導 SG	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 山田 尋志

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け
- ・社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術
- ・実習施設・機関についての基礎的理解
- ・社会福祉現場実習の理解
- ・社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告
- ・実習計画の作成(実習課題と計画)
- ・実習計画のプレゼンテーション
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SH	11919
社会福祉援助技術実習指導 SH	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回数 3以上

担当教員 西村 清忠

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け
- ・社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術
- ・実習施設・機関についての基礎的理解
- ・社会福祉現場実習の理解
- ・社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告
- ・実習計画の作成(実習課題と計画)
- ・実習計画のプレゼンテーション
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SI	11921
社会福祉援助技術実習指導 SI	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 十河 美子

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け
- ・社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術
- ・実習施設・機関についての基礎的理解
- ・社会福祉現場実習の理解
- ・社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告
- ・実習計画の作成(実習課題と計画)
- ・実習計画のプレゼンテーション
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SJ	11923
社会福祉援助技術実習指導 SJ	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 松井 信也

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営され、実習に向けた事前準備のための学習を行なう。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージをより明確にしていく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け
- ・社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術
- ・実習施設・機関についての基礎的理解
- ・社会福祉現場実習の理解
- ・社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告
- ・実習計画の作成(実習課題と計画)
- ・実習計画のプレゼンテーション
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SA	11929
社会福祉援助技術実習指導 SA	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 谷 勇男

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション
- ・実習振り返り(実習体験の共有)
- ・実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成)
- ・実習報告プレゼンテーション
- ・今後の課題(研究課題・進路)
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導	SB
社会福祉援助技術実習指導	SB

11930

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 野田 正人

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション
- ・実習振り返り(実習体験の共有)
- ・実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成)
- ・実習報告プレゼンテーション
- ・今後の課題(研究課題・進路)
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導	SC
社会福祉援助技術実習指導	SC

11931

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 津止 正敏、井上 公子

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価
毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション
- ・実習振り返り(実習体験の共有)
- ・実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成)
- ・実習報告プレゼンテーション
- ・今後の課題(研究課題・進路)
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導	SD
社会福祉援助技術実習指導	SD

11932

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 土屋 健弘

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション
- ・実習振り返り(実習体験の共有)
- ・実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成)
- ・実習報告プレゼンテーション
- ・今後の課題(研究課題・進路)
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導	SE
社会福祉援助技術実習指導	SE

11933

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 廣末 利弥

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション
- ・実習振り返り(実習体験の共有)
- ・実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成)
- ・実習報告プレゼンテーション
- ・今後の課題(研究課題・進路)
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SF	11939
社会福祉援助技術実習指導 SF	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 池添 素

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション
- ・実習振り返り(実習体験の共有)
- ・実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成)
- ・実習報告プレゼンテーション
- ・今後の課題(研究課題・進路)
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SG	11941
社会福祉援助技術実習指導 SG	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 山田 尋志

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション
- ・実習振り返り(実習体験の共有)
- ・実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成)
- ・実習報告プレゼンテーション
- ・今後の課題(研究課題・進路)
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SH	11943
社会福祉援助技術実習指導 SH	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 西村 清忠

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション
- ・実習振り返り(実習体験の共有)
- ・実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成)
- ・実習報告プレゼンテーション
- ・今後の課題(研究課題・進路)
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SI	11945
社会福祉援助技術実習指導 SI	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 十河 美子

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション
- ・実習振り返り(実習体験の共有)
- ・実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成)
- ・実習報告プレゼンテーション
- ・今後の課題(研究課題・進路)
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術実習指導 SJ	11947
社会福祉援助技術実習指導 SJ	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 松井 信也

講義内容・テーマ

この授業は「社会福祉援助技術実習」「人間福祉演習」と連動して運営される。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題が如何に達成されたか、これからの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また自己の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この授業は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の振り返りであるため、毎回の出席を心掛けること。また実習報告会の開催や実習レポート集の作成等についても提起するので、毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート等をもとに総合的に評価するが、詳細は授業初日に説明する。

講義スケジュール

- ・オリエンテーション
- ・実習振り返り(実習体験の共有)
- ・実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成)
- ・実習報告プレゼンテーション
- ・今後の課題(研究課題・進路)
- ・スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術論 S
社会福祉援助技術論 SG

10154

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 2以上
担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

社会福祉活動(ソーシャルワーク)の総括原理を以下の内容で講義する。今日的貧困、今日的生活問題の事実と、それに対応する社会福祉活動の具体的姿と課題を学ぶ。社会福祉活動(ソーシャルワーク)の対象である生活問題の出現経路を学び、公的社会福祉制度と社会福祉活動(ソーシャルワーク)との必要性を学ぶ。社会福祉活動(ソーシャルワーク)の概要・体系と社会福祉制度と社会福祉活動(ソーシャルワーク)の関係を学ぶ。社会福祉活動(ソーシャルワーク)が必要となる問題状況の類型と活動の展開、関連する方法・技法の基本的な知識と社会福祉援助活動の共通課題を学ぶ。ここでは、社会福祉制度と社会福祉活動が必要となる状況とそのための活動の姿を出来る限りリアルに理解することである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
 - * 日常点評価
- 定期試験または最終講義日試験とする。日常的に提出物を求めることがある。

講義スケジュール

1. 社会福祉活動(ソーシャルワーク)をとらえる視点
 - ・事例を通じた社会福祉活動(ソーシャルワーク)を必要とする生活問題の具体的理解
 - ・生活問題と「ニーズ」、社会的支援を要する人々
 - ・生活問題を緩和する制度(社会資源)、援助する組織、人材、地域
 - ・社会福祉活動の主体とソーシャルワーカー
2. 社会福祉活動における専門的方法の概要と体系
 - ・「社会福祉援助技術」の概念と体系
 - ・「直接援助技術」の概要
 - ・「間接援助技術」の概要
 - ・「関連援助技術」の概要
 - ・社会保障制度、社会福祉制度と社会福祉活動(ソーシャルワーク)との関係
3. 社会福祉活動(ソーシャルワーク)の基礎
 - ・対人活動とコミュニケーション、かかわりかたの概要
 - ・社会福祉活動(ソーシャルワーク)の方法における共通事項および展開過程の概要
 - ・社会福祉活動(ソーシャルワーク)の「目的」「原則」「原理」と「価値」、「倫理」
 - ・社会福祉活動(ソーシャルワーク)における統合化とチームアプローチ
4. 社会福祉活動(ソーシャルワーク)が必要となる問題状況と活動の場および援助方法、
 - ・相談機関、社会福祉施設、その他社会資源などの社会福祉活動が行なわれる場
 - ・社会福祉活動(ソーシャルワーク)が必要となる問題状況の類型と援助課題

テキスト

北島英治他『社会福祉援助技術論争(上)』ミネルヴァ書房、2002年

参考書

参考書 中央法規『社会福祉援助技術論』 植田章『社会福祉方法原論』法規文化社1998年 岡崎裕司他『社会福祉原論』高学出版2002年 その他授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術論 S
社会福祉援助技術論 SG

11378

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 2以上
担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

社会福祉活動(ソーシャルワーク)とその方法・技法について以下の内容で深める。社会福祉活動(ソーシャルワーク)の生成の過程と背景を歴史的に学ぶ。ソーシャルワーク論の理論動向代表的な理論の概要を理解する。国民の生活問題と要援護課題、社会福祉政策の動向、国民の運動、福祉従事者の主体的活動などの理解を通じて、専門性を規定する諸要因を検討し、専門性のとらえ返しを行う。社会福祉活動(ソーシャルワーク)の担い手としての社会福祉労働者・従事者の専門性と倫理のあり方、社会福祉労働者・従事者が主体になった援助方法の研究のありかたを考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
- * 日常点評価
- ・定期試験または最終講義日試験とする。日常的に提出物を求めることがある。

講義スケジュール

1. 社会福祉援助活動の歴史的展開
 - ・社会福祉活動(ソーシャルワーク)の生成、専門化の始まり、専門的枠組みの形成のそれぞれの概要
 - ・生成・専門化から専門的枠組みの形成に至る歴史的・社会的背景
 - ・ゼネラルソーシャルワークの系譜
2. 近年のソーシャルワーク論の理論動向と理論モデル
 - ・理論の枠組み・理論モデルの概要
 - ・ソーシャルワークの統合化と生活モデル
3. 日本における社会福祉活動とソーシャルワーク論の動向
 - ・日本における社会事業、社会福祉活動、社会福祉従事者
 - ・技術論・政策論論争、公的扶助サービス論争
 - ・日本の専門職制度をめぐる歴史と動向
 - ・基礎構造改革・生活保護制度改革と社会福祉活動(ソーシャルワーク)を巡る動向
4. 社会福祉労働・活動における専門性の意義と役割
 - ・「社会福祉援助技術」「実践」「技能」「活動」概念の再検討
 - ・社会福祉労働・活動の専門性を左右する諸要因
 - ・現場労働者・福祉従事者が主体となった「ソーシャルワーク」研究の必要性
5. 社会福祉労働者の自己・倫理・専門性
 - ・社会福祉労働者・従事者が獲得すべき倫理と専門性・「技能」とその関係
 - ・「技術」の担い手としての社会福祉労働者・従事者の自己と発達
 - ・倫理綱領の具体的内容

テキスト

植田章他『社会福祉方法原論』法規文化社1998年

参考書

中央法規『社会福祉援助技術論』植田章『社会福祉方法原論』法規文化社1998年 岡崎裕司他『社会福祉原論』高菅出版2002年 伊藤淑子『社会福祉職発達史』ドメス出版1996年 植田章他編『社会福祉労働の専門性と現実』かもがわ出版2002年 その他授業で紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術論 S	11017
社会福祉援助技術論 S	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 岡田 まり

講義内容・テーマ

本講義では、社会福祉実践(ソーシャルワーク)の基礎を習得することを目的とする。講義内容は、ソーシャルワークの基本的な考え方(価値・倫理)や視点(モデル)、実践に必要な専門知識(理論)、専門技術についてである。ソーシャルワークは、個人、家族、小集団、地域、計画、調査、組織、運営管理とさまざまなレベルで展開されている。本講義では、ソーシャルワークの全体像を視野に入れつつ、個人、家族、小集団への支援、すなわちマイクロレベルでの実践に焦点をあてる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義対象は、社会福祉士課程に登録した学生である。講義の合間に演習活動を行うほか、随時、学習課題を課す。したがって受講生は、講義を聴くだけでなく、積極的に授業時間内外の課題に取り組むことが求められる。毎回の講義は、テキストの指定ページや配布文献を読んだことを前提として進めるため予習が必要である。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

評価の比重は、定期試験 50%、日常点 50%

日常点は、課題ミニレポートおよびミニクイズに基づいて評価する。

講義スケジュール

- 第1回 ソーシャルワークの概要
- 第2回 ソーシャルワークの視点と目標
- 第3回 ソーシャルワーカーがもつ価値と倫理
- 第4回 ソーシャルワークの構成
- 第5回 ソーシャルワークの分野
- 第6回 ソーシャルワーカーの役割
- 第7回 ソーシャルワークの実践過程 :問題発見、アセスメント
- 第8回 ソーシャルワークの実践過程 :契約、計画、実行
- 第9回 ソーシャルワークの実践過程 :モニタリング、評価
- 第10回 ソーシャルワークの理論とモデル
- 第11回 面接技法
- 第12回 グループダイナミクス
- 第13回 記録、スーパービジョン
- 第14回 自己覚知
- 第15回 閉講もしくは補講

テキスト

北島英治・副田あけみ・高橋重宏・渡部律子編『ソーシャルワーク実践の基礎理論』有斐閣 2002年

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉援助技術論 S	11090
社会福祉援助技術論 SG	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回数 2以上

担当教員 岡田 まり

講義内容・テーマ

本講義は、社会福祉援助技術論Ⅲの続編で、社会福祉実践(ソーシャルワーク)の基礎を習得することを目的とする。本講義ではマイクロレベルでの実践(個人、家族、小集団への支援)のあり方とその重要性を踏まえ、調査、地域、計画、組織、運営管理に関わるメゾおよびマクロレベルでのソーシャルワーク実践を取り上げる。問題の解決・発生予防のためには、さまざまなレベルでの取り組みが必要であることを認識し、状況に応じて適切な援助技術を選び、活用する力をつけたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術論Ⅲの講義内容を習得していることが必要である。Ⅲの授業と同様に、受講生には講義を聴くだけでなく、積極的な態度で授業時間内外の課題に取り組むことを期待する。また、毎回の講義は、テキストの指定ページや配布文献を読んだことを前提として進めるため予習が必要である。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

評価の比重は、定期試験 50%、日常点 50%

日常点は、課題レポートおよびミニクイズに基づいて評価する。

講義スケジュール

- 第1回 ミクロレベルでのソーシャルワーク(社会福祉援助技術論Ⅲ)の振り返り
- 第2回 ソーシャルワークにおける調査の必要性
- 第3回 福祉情報の収集と活用
- 第4回 福祉情報の収集と活用
- 第5回 地域援助
- 第6回 地域援助
- 第7回 ソーシャルワークにおける計画の意義
- 第8回 計画策定の方法とプロセス
- 第9回 組織とソーシャルワーク
- 第10回 さまざまな組織におけるソーシャルワーク
- 第11回 社会福祉運営管理
- 第12回 社会福祉運営管理
- 第13回 利用者保護とアドボカシー
- 第14回 情報交換タイム
- 第15回 閉講もしくは補講

テキスト

黒木保博・小林良二・坂田周一・森本佳樹編『ソーシャルワーク実践とシステム』有斐閣 2002年

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会福祉法制 S

14734

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 山田 耕造

講義内容・テーマ

テーマ:戦後社会福祉法制の歴史と現行社会福祉法制

戦後の社会福祉法制の歴史を概観した後、現行の各社会福祉関係法の概説を行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

1. 社会福祉の法と体系
2. 戦後社会福祉法制の展開
3. 社会福祉法
4. 児童福祉法
5. 母子及び寡婦福祉法
6. 身体障害者福祉法
7. 知的障害者福祉法
8. 精神保健福祉法
9. 老人福祉法
10. 介護保険法
11. 老人保健法
12. 生活保護法
13. その他の主要福祉関係法

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会福祉論 S
 社会福祉原論 SG
 社会福祉論 S

14727

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 加藤 園子

講義内容・テーマ

「社会福祉の理論と現実」

社会福祉は、現代社会が作り出す多様な生活困難・生活問題に対する社会的対応策の一つであるが、それは各国の歴史的・社会的状況を反映しつつ成立・発展してきたものである。とりわけ21世紀の高齢社会では人権・生存権保障としての社会福祉への期待が高まっている。生活問題解決のための政策と実践の体系である社会福祉の「理論と現実」の乖離の本質を明らかにし、現代社会福祉の当面とする課題と展望について論ずる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

人間としての尊厳、あるいは人間らしい生活・生存を脅かされている人々の生活困難・生活問題の現実を直視し、問題の背景を科学に分析し洞察する力を養うこと。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価は「定期試験」を基本とするが、適宜小テスト・レポート提出の実施や出席状況の日常点も加味する。

講義スケジュール

はじめに - 社会福祉の「目的概念規定」と「実態概念規定」 -

- 1、社会福祉をめぐる国際的動向と日本の特徴
 - (1)「福祉国家」から「福祉社会」への国際的潮流
 - (2)戦後日本の社会福祉展開と「社会福祉基礎構造改革」
- 2、社会福祉とは何か - 改めて「社会福祉の理念」を問う意味 -
 - (1)戦後社会福祉理論論争の系譜と理論的検討
 - (2)社会福祉の社会的性格と二面性
- 3、国民生活の現実と社会福祉の体系
 - (1)社会福祉の対象として生活問題と現実的特徴
 - (2)社会福祉の制度体系とその現実
- 4、社会福祉の実施体制
 - (1)供給主体の多様化と社会福祉の実施体制
- 5、社会福祉の専門性と専門職制度確立の課題
 - (1)社会福祉・福祉労働の専門性
 - (2)専門職制度と専門職養成の課題
- 6、これからの社会福祉の課題と展望

テキスト

テキストは使用しない。レジュメ、講義資料については授業中に適宜配布する。

参考書

『図説日本の社会福祉』 真田提・宮田和明・加藤園子・河合克義編 法律文化社
 『社会福祉辞典』 社会福祉辞典編集委員会編 大月書店

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会文化論 S
社会行動論 S

14736

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 出口 剛司

講義内容・テーマ

批判理論における「理性による自然支配」テーゼを文化社会的な視点から多面的に検討していく。われわれは、日常生活のなかであまりにも自明なものとして「食べる」「におう」「見る」「読む」「聞く」「感じる」などの身体的行動を繰りかえしている。また同時にこのような身体的経験を、個人の感覚・感情・好みに左右される最も私的なものと考えている。それに対して社会学は、日常生活にあふれる、一見主観的で個人的な感性的経験を社会や歴史のなかで抑圧的あるいは拘束的に形成されてきたものとして捉える。本講義では、このような「個人」の身体的経験とそれを「社会」にまとめあげるメディアの効果を考察することによって、近代社会のしくみやその変容過程について明らかにしていく。またそれらの考察をふまえ、ポスト近代社会にふさわしい倫理のあり方について、受講生とともに考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 定期試験として実施
講義終了後に簡単なコミュニケーションペーパーを作成してもらう。

講義スケジュール

視覚的近代の成立(身体社会学のために)
嗅覚の社会史(嗅覚とアローマ)
嗅覚の社会史(公衆衛生と視覚・嗅覚の交差)
食の歴史社会学(食・このおぞましくも魅惑的なもの)
食の歴史社会学(テーブルマナーとガストロノミー)
食の歴史社会学(見えないコルセット=体重計)
食の歴史社会学(見えない体重計と魂のコルセット)
ファッションの文化社会学(ファッションと記号を求めまなざし)
ファッションの文化社会学(ドレスとスーツの誕生)
文字と声の知識社会学(声の文化と文字の文化)
文字と声の知識社会学(書物の出現と文字の想像力)
読書の社会史(宗教改革とナショナリズム)
読書の社会史(スキヤングルのまなざしと聖性剥奪)
講義のまとめ
講義のまとめ

テキスト

拙著『エーリッヒ・フロム:希望なき時代の希望』(新曜社)
徳永侑『フランクフルト学派の展開:20世紀思想の断層』(新曜社)

参考書

講義のなかで適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会保障論 S
社会保障論 S
社会保障論 SG

10908

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 芝田 英昭

講義内容・テーマ

「社会保障の生成と発展」

現在、私たちの生活にとって社会保障は、必要不可欠な生活条件となっているが、その生成・発展の歴史を辿ることによって、社会保障の本質・機能・理念について学びたい。また、21世紀における福祉国家再生のための「社会保障のあり方」を考察したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回「質問・感想アンケート」をとり、次週の講義冒頭15間で質問に答える。講義への「参加」を重視するので、教科書等は事前に読んでおき、積極的に議論に参加すること。

評価方法・基準

* 日常点評価
出席を45点(3点×15回)、最終試験55点の配点とする。

講義スケジュール

1. オリエンテーション
2. 社会保障の理念の変遷とその意義
3. 社会保障の理念の変遷とその意義
4. 社会保障のあゆみとダイナミクス・イギリスにおける社会保障の歴史
5. 社会保障のあゆみとダイナミクス・ドイツにおける社会保障の歴史的特質
6. 社会保障の基本原則と限界・社会保障の対象・財源
7. 社会保障の基本原則と限界・社会保障の資本主義的限界
8. 公的年金制度の成立の歴史
9. 年金制度改革の新提案
10. 保健・医療の社会的責任と課題・医療制度改革の流れ
11. 保健・医療の社会的責任と課題・地域共同体の力で健康を維持する
12. 社会福祉制度体系の成立と現段階
13. 社会福祉サービスの将来像
14. 社会保障の一元化と将来像・「国民保険」構想の中身
15. 社会保障の一元化と将来像・新しい社会保障の提案

テキスト

芝田英昭編著『社会保障の基本原則と将来像』法律文化社

参考書

坂寄俊雄『社会保障第二版』岩波新書
芝田英昭『これからの社会保障』かがわ出版
芝田英昭『福祉国家崩壊から再生への道』あけび書房

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.mhlw.go.jp> (厚生労働省)

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回数 3以上
担当教員 佐藤 春吉

講義内容・テーマ

私たちの人間社会には、多くの倫理的な問題が埋め込まれている。マクロなレベルでは近代社会の基本骨格を構成する自由、平等、友愛、所有といった社会的な倫理基準がある。これらの諸基準は、近代社会そのものの矛盾や現代社会のあらたな展開のなかでさまざまな問い直しを受けている。また、ミクロな日常的な行為のなかにも意図と結果の相違や自由と公正をめぐる問題が待ちかまえている。本講義では、出来るだけ社会学的な行為論や近代以降の社会の構造的な理解と重ね合わせながら、私たちの生活と社会における基本的な倫理問題を考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
できるだけ、簡単な授業の感想やレポートなどを提出してもらい、往復的な授業進行をこころがけたい。試験に代わる最終レポートを課す。評価は、出席、授業時レポートを参考にしつつ、最終レポートによって総合的に判断する。

講義スケジュール

まず、社会倫理とはなにか、どのように倫理問題と社会科学(社会学)がかかわっているのかを考える。そのために、はじめに社会的行為と倫理問題発生構造の構造を検討する。つぎに近代社会の基本倫理にかかわって現在盛んに議論をよんでいる自由論、正義論、公共性論といったテーマを中心に主要な見解を紹介しつつ、学生諸君と共に現代社会の倫理問題を考えていきたい。また、グローバリゼーションの進展のなかで現代社会の新しい倫理的な問題が注目されるようになってきている。そのなかから、いくつかの問題を取り上げて検討するつもりである。現在の時点で一応以下のような内容と流れを考えている。

1. 社会的行為と倫理問題(社会学的行為論の背後にある倫理問題)
2. 歴史と倫理(歴史教科書をめぐる責任と倫理問題をてがかりに)
3. 日常的行為のなかの倫理問題(嘘と信約の倫理、嘘はなぜどんなときに許されるか?)
4. 近代社会の基本倫理の諸相
自由、平等、友愛、所有の倫理基準と近代社会
自由論 / 自由主義的諸価値のジレンマリバタリアニズムとロールズの正義論とその検討
5. 公共性(圏)論
公共性とはなにか、ハンナ・アーレントとハーバーマスの公共性論を中心に
6. 応用問題としての社会倫理
現代社会とアイデンティティ(消費社会、情報社会、サービス社会)
不平等と差別
家族と個人化
<授業の方法> 毎回レジュメを用意し、それをもとに講義する。なるべく報復的な授業をこころがけ、一緒に問題を考えるようにしたい。進行速度などは、受講者からの意見への応答などによって若干変動することをあらかじめ含んでおいてほしい。

テキスト

テキストは特に指定しない。授業中にレジュメプリントを配布する。プリントは出席者にのみ配布する。参考書は講義で取り上げる。

参考書

詳しくは、授業時に指示する。
歴史と倫理については、高橋哲也『歴史 / 修正主義』岩波書店、
嘘をめぐる日常倫理については、亀山純生『うその倫理学』大月書店、
行為と倫理については、黒田亘『行為と規範』勁草書房
自由については、パーリン『自由論』みすず書房、吉崎祥司『リベラリズム』青木書店
正義論については、井上達夫『共生の作法』創文社、ロールズ『公正としての正義』木鐸社、同『正義論』紀伊国屋書店、
公共性論については、ハンナ・アーレント『人間の条件』みすず書房、ハーバーマス『公共性の構造転換』未来社、
斎藤純一『公共性』岩波書店は基本文献。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

障害者とコミュニケーション S
 障害者福祉論 S
 障害者とコミュニケーション SG

14752

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 坂井田 美代子

講義内容・テーマ

私たちは日々コミュニケーションを重ねることで、人間関係を深め、広げ豊かに創りだしている。また、コミュニケーションを通して、様々な刺激を受け人間として発達をしてゆく。そのことは情報を共有することなくしては成り立たない。

聴覚に障害を持つ人たちは、この情報を共有することから遮断されることが多い、さらに聴覚障害に対する理解の不十分さやコミュニケーション手段方法等の相違からコミュニケーションの壁を作られやすく、人と人の係わり合いや社会参加に大きな制約を受けてしまう。

情報保障の課題は聴覚障害者の社会生活全般に関わる、このことの解決なしには聴覚障害者の暮らしは発展しない

よって本講義では、聴覚障害についての理解を通して、聴覚障害者のコミュニケーション環境の歴史・現状・課題等について学ぶこととする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義は、聴覚障害者のコミュニケーション環境を中心に展開する。
 ビデオ教材・ゲスト講師による当事者の体験、自分の生活圏における聴覚障害者のコミュニケーション環境調査等を取り入れた講義を展開する。また「自分にとってコミュニケーションとはなにか」具体的な課題として実感的に学ぶ姿勢を大切にすることを望む。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

最終試験レポート60%・ミニレポート20%・出席状況20%を考慮し評価をする。

講義スケジュール

- 第1回 本講義のねらいと概要
- 第2回 コミュニケーションの意味と役割
- 第3回 聴覚生理と聴覚障害
- 第4回 ゲスト講師(障害の受容と手話)
- 第5回 言語習得と発達過程
- 第6回 手話の成立と発展
- 第7回 手話の概要
- 第8・9回 聴覚障害者をとりまく社会環境
 とうろう運動の歴史から
- 第10回 ビデオ学習
- 第11・12回 聴覚障害者とコミュニケーション環境1
- 第13回 聴覚障害者のコミュニケーション保障の歴史と課題(制度)
- 第14回 調査・「自分の生活領域のコミュニケーション環境」
- 第15回 ビデオ学習

テキスト

最初の講義において提示する。

参考書

講義の進行にあわせて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.jfd.or.jp>
 他、講義時に紹介する。

その他

障害者とスポーツ S

14684

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 水谷 裕

講義内容・テーマ

障害のある人とスポーツについて、講師の今までの体験と実践を中心にした講義および障害者スポーツ等のビデオ画像を通して、障害のある人の真の姿を理解し、障害のある人のスポーツ活動における、より良いパートナーとして、「障害のある人に何が出来るかではなく、どうしたら出来るか」を考える力を育てて欲しいと考えます。

テーマ「すべての障害のある人にスポーツを」

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

障害のある人のスポーツに興味を持ち、スポーツ活動を通して障害のある人の社会参加活動の理解ある良いパートナーを目指す学生なら誰でも歓迎します。

評価方法・基準

- * 日常点評価
- * 評価は、期末試験においての獲得点にて行います。
- * 他にレポートを提出してもらうことがありますが、評価対象にはしません。

講義スケジュール

- 第1回 小レポート「障害のある人とスポーツ」について、ビデオ
- 第2回 講義「わが国における障害のある人の実態(人数・傾向等)と福祉の概要(戦後の歴史等)」、ビデオ
- 第3回 講義「障害について(原因・病状等)」、ビデオ
- 第4回 講義「障害を考える(意味・とらえ方等)」、ビデオ
- 第5回 講義「障害の受傷時期による相違(葛藤・受容・心理)」、ビデオ
- 第6回 講義「障害のある人との関わるための留意点(言葉づかい・態度・考え方等)」、ビデオ
- 第7回 講義「障害のある人とスポーツ(スポーツ観・残存能力・訓練との相違等)」、ビデオ
- 第8回 講義「障害のある人に何故スポーツ?(運動は動物存在の基礎条件等)」、ビデオ
- 第9回 講義「障害者スポーツの歴史(時代的背景等)」、ビデオ
- 第10回 講義「障害者スポーツの組織(施設・団体等)」、ビデオ
- 第11回 講義「障害のある人のスポーツ権(背景にある みんなのスポーツ運動等)」、ビデオ
- 第12回 講義「障害のある人がスポーツをする意義(身体的・精神的等)」、ビデオ
- 第13回 講義「障害のある人のスポーツを行うにあたって(阻害要因・視点等)」、ビデオ
- 第14回 講義「障害のある人や家族の願い(人間的平等・発達保障等)と今後の課題(指導者・環境・現状把握等)」、ビデオ
- 第15回 講義 最終講義試験

テキスト参考書

- * 「障害者スポーツ」日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編集、医学書院発行
- * 「障害者とスポーツ」芝田徳造著、文理閣発行
- * 「身体障害者のスポーツ指導の手引き」(財)日本障害者スポーツ協会編集、株式会社ぎょうせい発行

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

- * (財)日本障害者スポーツ協会WWWページ
- * 京都障害者スポーツ振興会WWWページ
- * 全国車いす駅伝競走大会WWWページ
- * その他、障害者スポーツ関係WWWページ多数あり

その他

京都障害者スポーツ振興会発足時(1971年11月)より活動に参加し、以後、障害のある人のスポーツ活動の普及・振興にかかわっています。

障害者福祉論 S

11558

障害者福祉論 S

障害者福祉論 SG

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 峰島 厚

講義内容・テーマ

障害者福祉の現代的課題は「同一年齢の他の国民と同等な生活、権利の保障」というノーマライゼーション理念を具体的に実現していくことにある。この点から、授業では、歴史的な到達点としての現代の障害者問題と課題を主に展開する。

具体的には、歴史的な到達点を踏まえて、現代の制度や福祉の理念を学習し、現代の主要な問題となっている脱施設化、地域生活支援のあり方も言及していきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

障害者福祉の入門や基礎的な知識については授業のはじめに展開するが、テキストや障害者問題の入門書の事前学習を期待したい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験

講義スケジュール

- 1回 はじめに 現代の障害観の変革課題
- 2 - 4回 障害者福祉の基礎
 - 1. 障害とは 2. 法制度の体系 3. 施設・サービスの体系
- 5 - 9回 障害者問題と障害者観の変遷
 - 1. 障害者差別の開始、同情・保護・憐れみの時代
 - 2. 劣等処遇・隔離収容・分類処遇
 - 3. 社会防衛的保護と大規模収容施設
 - 4. 「能力」主義と障害者差別
 - 5. 障害者権利保障運動の展開
- 10 - 12回 現代における障害者福祉理念
 - 1. ノーマライゼーションと障害者の権利宣言
 - 2. 自立観の変革、障害概念の変革
 - 3. 個の選択、利用契約と支援費制度
- 13 - 14回 現代の問題を考える
 - 1. 脱施設化
 - 2. 地域生活支援とケアマネジメント
- 15回 (予備)

テキスト

峰島「転換期の障害者福祉」全障研出版部、峰島・白沢・多田・塩見「支援費制度 活用のすべて」かもがわ出版、峰島「希望のもてる脱施設化とは」かもがわ出版

参考書

秦・鈴木・峰島「障害者福祉学」全障研出版部 塩見・伊東「ノーマライゼーションと日本の脱施設化」かもがわ出版

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

とくになし

その他

なし

消費者環境論 S
現代消費論 S

12376

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 竹濱 朝美

講義内容・テーマ

テーマ:消費者教育としてのマーケティング知識、および消費生活論。

主な内容:

- 1)消費者保護政策の基礎知識を獲得する。
- 2)マーケティングの基礎知識、消費生活との関わりを理解する。
- 3)消費生活問題の事例分析
食品の安全性とトレーサビリティ、健康食品の表示制度、遺伝子組み換え食品と表示制度、環境保全とグリーン・コンシューマー

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業中に配布する資料は、理解を助けるための補助資料である。
統計および事例について、補助資料を配付するので、毎回持参すること。

評価方法・基準

*日常点評価

最終講義日試験による評価する。授業中の配布資料を復習し、自分の考えがまとめられるようにしておくこと。

講義スケジュール

- 1)授業の目的、方法。
- 2)消費者法1:消費者契約法、消費者取引の適正化。
- 3)消費者法2:製造物責任法、製品安全の確保と被害救済。
- 4)マーケティングと消費者1:製品戦略、製品差別化、市場細分化、
- 5)マーケティングと消費者2:製品ライフサイクル、ポジショニング。
- 6)マーケティングと消費者3:ブランド戦略、ブランド・イメージの活用、認知度。
- 7)まとめ

- 8)環境保全と消費者:消費生活における環境負荷の実態。地球温暖化と消費生活。グリーン・コンシューマー。
- 9)環境配慮製品のマーケティング:環境配慮製品の事例分析。環境広告と表示規制、環境ラベルの意義。
- 10)まとめ

- 11)食品の安全性と表示:健康食品の表示制度、特定保健用食品、薬事法。
- 12)バイオテクノロジーと食生活:遺伝子組み換え食品、クローン牛、表示制度。
- 13)食品トレーサビリティとリスク・コミュニケーション:
食の安全性確保におけるトレーサビリティの意義。農産物プライベートブランド戦略。
- 14)まとめ

- 15)最終講義日試験

テキスト

及川・森島監修・国民生活センター編「消費社会の暮らしとルール:変貌する社会と消費者」中央法規、2000年。
消費生活の諸問題と消費者保護 政策を簡潔に論じた文献。

参考書

- 1)松村晴路「消費者主権と消費者法」嵯峨野書院、2001年。消費者法の参考書。
- 2)日本生活協同組合連合会「はやわかり食品の安全ブック」コープ出版、2000年。
食品の安全性について。
- 3)竹濱朝美「環境配慮製品の広告表示とISO14021」立命館産業社会論集」37巻2号。2001年。
環境広告に関する資料。
- 4)柏尾昌哉編「現代社会と消費者問題」大月書店、1995年。
- 5)山本譲治「実践・農産物トレーサビリティ。流通システムの安心の作り方」誠文堂新光社、2003年。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

授業中に指示する

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 長澤 克重

講義内容・テーマ

インターネットを始めとする情報インフラの整備が進展し、社会的コミュニケーションのあり方、経済活動、社会活動に大きな変革が生じている。経済活動においては電子商取引の普及が進み、ビジネスの方法、企業組織、流通構造、産業構造も変わりつつある。

この講義では経済活動面の変化の実態を理解しつつ、電子商取引を支える技術的基盤の仕組み、社会制度面で必要となる環境整備の課題等について考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

通信ネットワークやセキュリティについて、入門レベルでの技術的内容も取り扱う。講義では参考となるWebページを随時紹介するが、自分からも進んでネット上の資料を検索してみよう。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
課題提出(20%)と筆記試験(80%)によって評価する。

講義スケジュール

- 第1回 イントロダクション 社会の諸分野で進む情報化、情報経済とは？
- 第2回 電子商取引(EC、Electronic Commerce)とは何か、ECの様々なフェーズ、市場規模
- 第3回 企業・消費者間(BtoC)のEC(1): BtoCの実例、ユーザー像と事業者像
- 第4回 企業・消費者間(BtoC)のEC(2): メリット・デメリット、様々なビジネスモデル、発展に向けた課題
- 第5回 企業間(BtoB)のEC(1): 企業活動の情報化、インターネット上でのBtoBの実例
- 第6回 企業間(BtoB)のEC(2): EDIとCALIS
- 第7回 ECの技術的基盤(1): 情報処理システムの変化
- 第8回 ECの技術的基盤(2): 通信ネットワークの構成とネットワーク技術
- 第9回 ECの技術的基盤(3): インターネットの仕組み
- 第10回 ECの技術的基盤(4): セキュリティ技術、暗号化と認証
- 第11回 電子決済システム 電子マネーの諸形態
- 第12回 デジタルエコノミーと経済法則の変化
- 第13回 ECと消費者保護、個人情報保護
- 第14回 ECの発展に伴う取引形態の変化
- 第15回 IT経済がもたらすもの

テキスト

特定のテキストは使用せず、授業中に配布するプリント・資料を用いて講義する。

参考書

井上英也『エレクトロニック・コマース入門』日本経済新聞社
篠崎彰彦『IT経済入門』日本経済新聞社、日経文庫ベーシック
尾家・後藤・小西・西尾『インターネット入門』岩波書店、岩波講座・インターネット第1巻

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

電子商取引推進協議会 <http://www.ecom.or.jp/>
日本通信販売協会 <http://www.jadma.org/>

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 上出 浩

講義内容・テーマ

「ユビキタス・ネットワーク」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる受動的な情報源としてとらえるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、この中で必要な情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報を発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。本講座では、AdobeのGoLiveを必要に応じ用いる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報リテラシーを受講し、Windowsの基本的知識、操作(特にファイル操作)を習得していることが前提となる。必要最小限の解説は行うが、テーマに合わせ各自がページを作成する形態であるため、自らペース配分を考え、制作を進めていく必要がある。

評価方法・基準

* 日常点評価

作成し公開されたWebページ及びそのプレゼンテーションに加え、出席、平常点、Webページ計画書による総合評価とする。

講義スケジュール

以下に示すのは、予定である。受講生のスキル・レベル、到達度により必要に応じ調整を行う。

- 第1回 : オリエンテーション、Windowsおさらい。
- 第2回 : ネットワークの基礎知識、情報収集のテクニック。
- 第3回 : 情報収集と整理。計画書提出。
- 第4回 : 計画書修正と情報収集。
- 第5回 : HTMLの基本とWeb Page作成方法。
- 第6回 : 作成。
- 第7回 : 作成。
- 第8回 : 中間チェックと修正。
- 第9回 : 作成
- 第10回 : 作成。
- 第11回 : アップ・ロードと公開。
- 第12回 : 修正。
- 第13回 : プレゼンテーション。
- 第14回 : プレゼンテーション。
- 第15回 : まとめ。運営方法。

テキスト

指定しない。必要に応じ講義中指示する。

参考書

見やすく使いやすいと思われるGoLiveについての解説書やHTMLタグなどについての参考書があると良い。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義中紹介する。

その他

全て実習形式で行うため、欠席や遅刻は厳禁である。スケジュールより遅れた部分については、講義外で補わなければならない。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 上出 浩

講義内容・テーマ

「ユビキタス・ネットワーク」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる受動的な情報源としてとらえるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、この中で必要な情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報を発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。本講座では、AdobeのGoLiveを必要に応じ用いる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報リテラシーを受講し、Windowsの基本的知識、操作(特にファイル操作)を習得していることが前提となる。必要最小限の解説は行うが、テーマに合わせ各自がページを作成する形態であるため、自らペース配分を考え、制作を進めていく必要がある。

評価方法・基準

* 日常点評価

作成し公開されたWebページ及びそのプレゼンテーションに加え、出席、平常点、Webページ計画書による総合評価とする。

講義スケジュール

以下に示すのは、予定である。受講生のスキル・レベル、到達度により必要に応じ調整を行う。

- 第1回 : オリエンテーション、Windowsおさらい。
- 第2回 : ネットワークの基礎知識、情報収集のテクニック。
- 第3回 : 情報収集と整理。計画書提出。
- 第4回 : 計画書修正と情報収集。
- 第5回 : HTMLの基本とWeb Page作成方法。
- 第6回 : 作成。
- 第7回 : 作成。
- 第8回 : 中間チェックと修正。
- 第9回 : 作成
- 第10回 : 作成。
- 第11回 : アップ・ロードと公開。
- 第12回 : 修正。
- 第13回 : プレゼンテーション。
- 第14回 : プレゼンテーション。
- 第15回 : まとめ。運営方法。

テキスト

指定しない。必要に応じ講義中指示する。

参考書

見やすく使いやすいと思われるGoLiveについての解説書やHTMLタグなどについての参考書があると良い。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義中紹介する。

その他

全て実習形式で行うため、欠席や遅刻は厳禁である。スケジュールより遅れた部分については、講義外で補わなければならない。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 上出 浩

講義内容・テーマ

「ユビキタス・ネットワーク」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる受動的な情報源としてとらえるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、この中で必要な情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報を発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。本講座では、AdobeのGoLiveを必要に応じ用いる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報リテラシーを受講し、Windowsの基本的知識、操作(特にファイル操作)を習得していることが前提となる。必要最小限の解説は行うが、テーマに合わせ各自がページを作成する形態であるため、自らペース配分を考え、制作を進めていく必要がある。

評価方法・基準

* 日常点評価

作成し公開されたWebページ及びそのプレゼンテーションに加え、出席、平常点、Webページ計画書による総合評価とする。

講義スケジュール

以下に示すのは、予定である。受講生のスキル・レベル、到達度により必要に応じ調整を行う。

- 第1回 : オリエンテーション、Windowsおさらい。
- 第2回 : ネットワークの基礎知識、情報収集のテクニック。
- 第3回 : 情報収集と整理。計画書提出。
- 第4回 : 計画書修正と情報収集。
- 第5回 : HTMLの基本とWeb Page作成方法。
- 第6回 : 作成。
- 第7回 : 作成。
- 第8回 : 中間チェックと修正。
- 第9回 : 作成
- 第10回 : 作成。
- 第11回 : アップ・ロードと公開。
- 第12回 : 修正。
- 第13回 : プレゼンテーション。
- 第14回 : プレゼンテーション。
- 第15回 : まとめ。運営方法。

テキスト

指定しない。必要に応じ講義中指示する。

参考書

見やすく使いやすいと思われるGoLiveについての解説書やHTMLタグなどについての参考書があると良い。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義中紹介する。

その他

全て実習形式で行うため、欠席や遅刻は厳禁である。スケジュールより遅れた部分については、講義外で補わなければならない。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 上出 浩

講義内容・テーマ

「ユビキタス・ネットワーク」へと変遷していく中で、ネットワークを単なる受動的な情報源としてとらえるのではなく、情報の発信やそのやりとりを含めたコミュニケーション・ツールとして活用していくことが求められている。本講義では、この中で必要な情報処理の実践として、情報倫理等も学習しながら、情報を発信及びコミュニケーションの場としてのWebページを作成し、公表する。本講座では、AdobeのGoLiveを必要に応じ用いる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報リテラシーを受講し、Windowsの基本的知識、操作(特にファイル操作)を習得していることが前提となる。必要最小限の解説は行うが、テーマに合わせ各自がページを作成する形態であるため、自らペース配分を考え、制作を進めていく必要がある。

評価方法・基準

* 日常点評価

作成し公開されたWebページ及びそのプレゼンテーションに加え、出席、平常点、Webページ計画書による総合評価とする。

講義スケジュール

以下に示すのは、予定である。受講生のスキル・レベル、到達度により必要に応じ調整を行う。

- 第1回 : オリエンテーション、Windowsおさらい。
- 第2回 : ネットワークの基礎知識、情報収集のテクニック。
- 第3回 : 情報収集と整理。計画書提出。
- 第4回 : 計画書修正と情報収集。
- 第5回 : HTMLの基本とWeb Page作成方法。
- 第6回 : 作成。
- 第7回 : 作成。
- 第8回 : 中間チェックと修正。
- 第9回 : 作成
- 第10回 : 作成。
- 第11回 : アップ・ロードと公開。
- 第12回 : 修正。
- 第13回 : プレゼンテーション。
- 第14回 : プレゼンテーション。
- 第15回 : まとめ。運営方法。

テキスト

指定しない。必要に応じ講義中指示する。

参考書

見やすく使いやすいと思われるGoLiveについての解説書やHTMLタグなどについての参考書があると良い。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義中紹介する。

その他

全て実習形式で行うため、欠席や遅刻は厳禁である。スケジュールより遅れた部分については、講義外で補わなければならない。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 寺尾 洋子

講義内容・テーマ

この講義ではC言語によるプログラミングの基礎を実習を通して学ぶ。C言語はオペレーティングシステムUNIX、さまざまなソフトウェアを記述している言語である。また、通産省が行っている情報処理技術者試験で採用されているプログラム言語でもある。C言語を学ぶことにより、コンピュータのしくみや活用法をより深く理解することを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

最低限必要なスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

評価方法・基準

* 日常点評価

平常点(出席10%、中間テスト15%、最終テスト15%、課題提出60%)で評価する。課題提出による評価に重きを置くので、毎週の予習復習など、自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

講義スケジュール

- 第1回 講義計画説明、コンピュータスキルテスト
- 第2回 プログラミングの基礎1
コンピュータのしくみ、ハードウェアとソフトウェア
- 第3回 プログラミングの基礎2
問題解決のための3つの方法
プログラム開発の流れ
- 第4～8回 C言語の基礎知識
初めてのCプログラム
変数とデータ型、演算子
制御構造(条件分岐、繰り返し)
ポインタと配列
- 第9回 中間テスト
- 第10～13回 C言語によるさまざまなプログラム
成績並べ替え、うるう年判定、カレンダー、数当てゲームなど
- 第14回 プログラム発表会
- 第15回 最終テスト

テキスト

結城浩 C言語プログラミングレッスン入門編改訂第2版 1998年 ソフトバンク 2000円

参考書

Cの絵本 (株)アंक 翔泳社
パソコンプログラミング入門以前 伊藤華子 毎日コミュニケーションズ
プログラミング言語C 第2版 B.W.カーニハン/D.M.リッチー著 石田晴久訳 共立出版

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義用のWebサイト <http://www.ritsumeit.ac.jp/kic/-ytt06067/index-j.html>

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 上出 浩

講義内容・テーマ

アプリケーション・ソフトの受動的な使用にとどまらず、簡単なアプリケーション・ソフトの作成、すなわちプログラミングを通し、その基本的な仕組み、思想を学び、ITの積極的活用を探る。言語には、分かりやすく、広く使われている、Visual Basicを用いる。本講座Visual Basic .NETを用いる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

情報リテラシーを受講し、Windowsの基本的知識、操作(特にファイル操作)を習得していることが前提となる。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

講義中に作成したプログラム及び、最終レポート、平常点、出席点の総合評価とする。

講義スケジュール

以下に示すのは、予定である。受講生のスキル・レベル、到達度により必要に応じ調整を行う。

- 第1回 : オリエンテーション、Windowsおさらい。
- 第2回 : Visual Basicの基礎知識。
- 第3回 : プログラミング方法と、プロパティ、イベント。
- 第4回 : 画像の扱い方。
- 第5回 : おさらいと発展演習。
- 第6回 : 移動アニメーション、メソッド、タイマー。
- 第7回 : 入れ替えアニメーション、タイマーとタイミング。
- 第8回 : おさらいと発展演習。
- 第9回 : 四則演算、「+」。
- 第10回 : アルゴリズムの重要性、素数発生。
- 第11回 : 高速化と発想、配列。
- 第12回 : おさらい。
- 第13回 : スコープ、コントロール配列など。
- 第14回 : レポート作成。
- 第15回 : レポート作成。

テキスト

上出浩『Visual Basic.NET まなぶ・おしえるプログラミング(まなぶ編)』(西日本法規出版:3,100円:3月末発行予定)

参考書

必要に応じ講義中紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

必要に応じ講義中紹介する。

その他

全て実習形式で行い、全てが積み重ねであるため、欠席や遅刻は厳禁である。遅れた部分については、講義外で必ず補わなければならない。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 鈴木 未来

講義内容・テーマ

テーマ:SPSSの利用による統計解析の基礎を身につける

今日の社会調査では大量のデータを収集する。社会調査で得られるデータはどれ一つとっても人間生活における社会的現実であり、ひとつひとつのデータがどのような社会的な意味をもつのかを検証することが、今日の社会問題の特徴を明らかにする上で重要な作業となる。この実習では、統計解析ソフトSPSSの利用方法を学ぶことで、大量のデータを集計する技術だけでなく、得られたデータひとつひとつの散らばりや関連性などの社会的な意味を探究する力を身につけることを目的としている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ウィンドウズの基本操作を身につけていることが、受講のための条件となる。

評価方法・基準

* 日常点評価

講義スケジュール

- 第1回 インTRODクシヨン:社会調査と統計解析
- 第2回 SPSSの入力方法
- 第3回 度数分布図の作成
- 第4回 グラフと図の作成
- 第5回 基礎統計量を求める(記述統計)
- 第6回 基本操作の復習編
- 第7回 探索的分析とは
- 第8回 2群の平均値の差を検定する(t検定)
- 第9回 質的な変数の関連を調べる1(クロス集計表)
- 第10回 質的な変数の関連を調べる2(2乗検定)
- 第11回 全体的な「差」を検定する(分散分析)
- 第12回 量的な変数の関連を調べる1(散布図を描く)
- 第13回 量的な変数の関連を調べる2(相関係数)
- 第14回 多変量解析(1)重回帰分析1
- 第15回 多変量解析(2)重回帰分析2

テキスト

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書

室淳子・石村貞夫『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』東京図書、1999
岩淵千明編『あなたにもできるデータの処理と解析』福村出版、1997
谷岡一郎『「社会調査」のウソリサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書110、2000

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

SPSSを使った作業が続くので毎回出席のこと。やむをえない事情で欠席する場合は、各自自習したうえで次回の授業に臨むこと。また受講生の操作進度をあわせるためにも遅刻は厳禁。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 寺尾 洋子

講義内容・テーマ

この講義ではSPSSを学ぶことにより、社会調査等で得たデータを自分で解析する力を身につけることを目指す。SPSSは統計処理に特化したソフトウェアである。統計処理を行うソフトとしては表計算ソフトがよく使われるが、様々な統計的検定を行うにはSPSSを用いるほうが適している。その点で、卒論等で社会調査を実施することを計画している学生には身につけるべきスキルだと言えよう。

履修にあたって、社会統計学の履修を前提とするが、意欲のある者ならば参加して欲しい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講するにあたって最低限必要なコンピュータスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

評価方法・基準

* 日常点評価

平常点(出席10%、中間期末テスト30%、課題提出60%)で評価する。筆記試験は行わない。なお、毎回実習を行い、課題提出を求めるので、遅刻・欠席は可能な限り避けること。それによる学習の遅れは自分で取り戻すことを原則とする。また、課題をこなすためには自習が必要になるので自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

講義スケジュール

以下のような予定で実習を進める。

- 第1回 : 講義計画説明、コンピュータスキルテスト
- 第2回 : 記述統計量を求める
- 第3回 : データをグラフ化する
- 第4回 : 2群の差の検定を行う(T検定)
- 第5回 : クロス集計を行う
- 第6回 : 2群の関係を求める(相関と回帰)
- 第7回 : 群間の偏りを調べる(χ²検定)
- 第8回 : 群間の差を調べる(分散分析)
- 第9～15回 : 社会調査データをもとに、自分で分析方法を決めて分析を行い、レポートを作成する。

テキスト

SPSSでやさしく学ぶ統計解析 室淳子、石村貞夫 東京図書 2200円
必要に応じて、授業中にプリントも配布する。

参考書

データ分析はじめての一步 清水誠 1996 ブルーバックス
忘れてしまった高校の確率統計を復習する本 湯浅弘一 2003 中経出版

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義用のWebサイト <http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/-ytt06067/index-j.html>

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 寺尾 洋子

講義内容・テーマ

この講義ではSPSSを学ぶことにより、社会調査等で得たデータを自分で解析する力を身につけることを目指す。SPSSは統計処理に特化したソフトウェアである。統計処理を行うソフトとしては表計算ソフトがよく使われるが、様々な統計的検定を行うにはSPSSを用いるほうが適している。その点で、卒論等で社会調査を実施することを計画している学生には身につけるべきスキルだと言えよう。

履修にあたって、社会統計学の履修を前提とするが、意欲のある者ならば参加して欲しい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講するにあたって最低限必要なコンピュータスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

評価方法・基準

* 日常点評価

平常点(出席10%、中間期末テスト30%、課題提出60%)で評価する。筆記試験は行わない。なお、毎回実習を行い、課題提出を求めるので、遅刻・欠席は可能な限り避けること。それによる学習の遅れは自分で取り戻すことを原則とする。また、課題をこなすためには自習が必要になるので自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

講義スケジュール

以下のような予定で実習を進める。

- 第1回 : 講義計画説明、コンピュータスキルテスト
- 第2回 : 記述統計量を求める
- 第3回 : データをグラフ化する
- 第4回 : 2群の差の検定を行う(T検定)
- 第5回 : クロス集計を行う
- 第6回 : 2群の関係を求める(相関と回帰)
- 第7回 : 群間の偏りを調べる(χ²検定)
- 第8回 : 群間の差を調べる(分散分析)
- 第9～15回 : 社会調査データをもとに、自分で分析方法を決めて分析を行い、レポートを作成する。

テキスト

SPSSでやさしく学ぶ統計解析 室淳子、石村貞夫 東京図書 2200円
必要に応じて、授業中にプリントも配布する。

参考書

データ分析はじめての一步 清水誠 1996 ブルーバックス
忘れてしまった高校の確率統計を復習する本 湯浅弘一 2003 中経出版

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義用のWebサイト <http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/-ytt06067/index-j.html>

その他

情報処理 SJ	12313
情報処理 S	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回数 1以上

担当教員 寺尾 洋子

講義内容・テーマ

電子メールやWorld Wide Web(WWW)などで自分の意見を発信する機会が増え、簡潔で明瞭な文章を書く技術は現代人に必須の能力となっている。この講義ではそのような情報発信を行うために必要な文章技術とコンピュータ技術を養う。

なお、Webサイト作成には特定のソフトは使わない。Webページを記述する言語HTML(Hyper Text Markup Language)の習得から始め、HTMLタグを直接使用してサイトを記述できるようになることを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

最低限必要なスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

評価方法・基準

* 日常点評価

平常点(出席10%、課題提出90%)で評価する。課題提出による評価に重きを置くので、自分のWebサイトを作成できなかった者は出席していても単位取得は難しい。なお、筆記試験は行わない。

講義スケジュール

第1回 Windows NT基本操作、ワープロ、電子メール等の復習

第2回 Webサイトを評価する

第3回 Webサイトを評価する(各自発表)

第4回 Webページ制作のプロセスについて

第5回 HTML入門1

HTMLの構造と基本ルールの説明

第6回 HTML入門2

基本的なHTMLタグを使ってのサンプルページ作成

第7回～ 第14回 個人Webサイト制作

最終回 相互批評会

テキスト

学校で教わっていない人のためのインターネット講座 有賀妙子・吉田智子 北大路書房 1800円

参考書

ノンデザイナーズ・ウェブブック John Tollett著 吉川典秀訳 毎日コミュニケーションズ 2900円

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/~ytt06067/index-j.html>

その他

情報処理 SK	14649
情報処理 S	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回数 1以上

担当教員 寺尾 洋子

講義内容・テーマ

電子メールやWorld Wide Web(WWW)などで自分の意見を発信する機会が増え、簡潔で明瞭な文章を書く技術は現代人に必須の能力となっている。この講義ではそのような情報発信を行うために必要な文章技術とコンピュータ技術を養う。

なお、Webサイト作成には特定のソフトは使わない。Webページを記述する言語HTML(Hyper Text Markup Language)の習得から始め、HTMLタグを直接使用してサイトを記述できるようになることを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

最低限必要なスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

評価方法・基準

* 日常点評価

平常点(出席10%、課題提出90%)で評価する。課題提出による評価に重きを置くので、自分のWebサイトを作成できなかった者は出席していても単位取得は難しい。なお、筆記試験は行わない。

講義スケジュール

第1回 Windows NT基本操作、ワープロ、電子メール等の復習

第2回 Webサイトを評価する

第3回 Webサイトを評価する(各自発表)

第4回 Webページ制作のプロセスについて

第5回 HTML入門1

HTMLの構造と基本ルールの説明

第6回 HTML入門2

基本的なHTMLタグを使ってのサンプルページ作成

第7回～ 第14回 個人Webサイト制作

最終回 相互批評会

テキスト

学校で教わっていない人のためのインターネット講座 有賀妙子・吉田智子 北大路書房 1800円

参考書

ノンデザイナーズ・ウェブブック John Tollett著 吉川典秀訳 毎日コミュニケーションズ 2900円

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.ritsumeai.ac.jp/kic/~ytt06067/index-j.html>

その他

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生

担当教員 稲葉 一将

講義内容・テーマ

外国法制も参照しながら「情報法」の体系的な理解を目指す。どのような公権力主体が情報をどのように処理すべきであるかの具体的方法は時代毎の社会経済的基礎により、また規範的要請の内容により異なる。それらの規範内容に基づき展開している、主として行政による情報処理の仕組みと活動を概観する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教員が一方的に説明するのではなく受講者との質疑応答により理解を深めたいので、積極的な受講を希望する。

評価方法・基準

* 日常点評価

最終講義日にどのような試験(レポートか筆記試験)を実施するのかは受講者数をみて決定する。

日常点とは主として出席の多寡と発言の積極性である。

日常点の比重は20%である。

講義スケジュール

- 1 序論
- 2 行政による情報収集(1) - 目的・仕組み・活動
- 3 同(2) - 法的コントロール
- 4 自己情報コントロールの方法(1) - 個人情報保護法制の経緯
- 5 同(2) - 個人情報保護法の仕組み その1
- 6 同(3) - 個人情報保護法の仕組み その2
- 7 同(4) - 住民基本台帳ネットワーク
- 8 情報の共有とアクセス(1) - アクセス法制の諸形態
- 9 同(2) - 情報公開法の仕組み
- 10 同(3) - 開示不開示の判断例 その1
- 11 同(4) - 開示不開示の判断例 その2
- 12 同(5) - 補論 放送法制
- 13 電子政府(1) - 電子政府の特徴
- 14 同(2) - 行政手続のオンライン化
- 15 試験

テキスト

特に指定しない。

参考書

石村善治・堀部政男編『情報法入門』(法律文化社、1999年)

浜田純一『情報法』(有斐閣、1993年)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.e-gov.go.jp/>

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回数 3以上

担当教員 加藤 直樹

講義内容・テーマ

人格の発達についての基礎的な解説と21世紀の担い手に求められるものは何かという観点から人格発達のための課題を論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

定期試験に小テストを出席点として加味して評価する

講義スケジュール

- § 1. 現代社会における人格発達の課題
 - § 1.1 「人格」とそれを決定づけるもの
 - § 1.2 人格をめぐる今日的課題
 - § 1.3 人格発達の「危機」の背景
 - § 1.3.1 高度成長期がもたらしたもの(1)
 - § 1.3.2 高度成長期がもたらしたもの(2)
- § 2. 現代社会における自立を考える
 - § 2.1 「自立の時代」と自立をめぐる二つの潮流
 - § 2.1.1 「自立の時代」
 - § 2.1.2 「義務としての自立」と「権利としての自立」
 - § 2.2 新しい自立論の主張
 - § 2.2.1 「依存的自立」
 - § 2.2.2 「全人格的自立」= 経済的自立、生活技術的自立、精神的自立
 - § 2.2.3 目標概念としての自立
 - § 2.3 「自律」を考える = 自己コントロール
- § 3. 21世紀の担い手のために
 - § 3.1 自己教育力とその形成(その1)
 - § 3.1.1 自己意識・自己認識・自覚
 - § 3.1.2 もうひとりの自分との葛藤
 - § 3.1.3 自己肯定の意義
 - § 3.2 自己教育力とその形成(その2)
 - § 3.2.1 目標・希望・展望
 - § 3.2.2 信頼・共感・連帯
 - § 3.3 人格と集団
 - § 3.3.1 人格形成における集団の意味
 - § 3.3.2 集団の発展と人格発達

テキスト

特に設けない

参考書

加藤直樹「障害者の自立と発達保障」全国障害者問題研究会出版部1997

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

随時小テストを実施する。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 榊原 達哉

講義内容・テーマ

本講義は、マルク・リシールの『身体』をテキストとして、身体が西欧の思想の中でいかに考察されてきたかを歴史的に考察することを目的とする。理性中心主義としての西欧哲学史のなかでは身体はつねに貶められていたが、哲学における身体の考察の歴史的な変遷を追うことで、理性の哲学史の裏面史として、身体の哲学史が存在したということを考察したい。これはいわば身体の考古学の試みである。講義では、歴史的に - 身体の問題を扱うが、その分析の方法論は現象学的手法を用いることにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

哲学に対する受講生の予備知識を前提とせず、講義を進めていく。受講生の哲学の知識は一切問題にならない。哲学に興味のある受講者の出席を願う。基本的には、指定テキストの論述の順序に沿って、講義を進めていく。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

学期末に定期試験を行う。定期試験(8割)、平常点(2割)とによって成績を評価する。

講義スケジュール

- 第一回 序論 身体とは何か、身体とは何をなしうるか。 感覚(アイステーシス)の定義
- 第二回 哲学的伝統における、身体の象徴的歴史のための基本的概要
身体の歴史(1)古代ギリシア プラトン
- 第三回 身体の歴史(2)古代ギリシア アリストテレス
- 第四回 身体の歴史(3)ヘレニズム ストア派
- 第五回 身体の歴史(4)ヘレニズム エピクロス派
- 第六回 身体の歴史(5)キリスト教
- 第七回 身体の歴史(6)近代哲学 デカルト
- 第八回 身体の歴史(7)近代哲学 メーヌ・ド・ピラン
- 第九回 身体の歴史(8)近代哲学 ニーチェ
- 第十回 身体の歴史(9)現象学 身体の現象学I フッサール
- 第十一回 身体の歴史(10)現象学 身体の現象学II メルロ＝ポンティ(1)
- 第十二回 身体の歴史(11)現象学 身体の現象学III メルロ＝ポンティ(2)
- 第十三回 身体の歴史(12)身体の現象学IV デリダ、ナンシー - 「触れること」
- 第十四回 まとめ
- 第十五回 試験

講義の進度により、変更の可能性がある。

テキスト

マルク・リシール『身体』和田渡・加国尚志・川瀬雅也訳、ナカニシヤ出版、2001年。

参考書

レジュメ、プリントを配布する。テキスト以外の参考書にかんしては、それぞれ講義の際に述べる。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

身体表現論 S
身体表現論 S

12328

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 遠藤 保子

講義内容・テーマ

我々の身体は、しぐさや身振りなどによって言語以上に雄弁にものを伝えることが可能である。こうした身体表現は、ことばならざることばであるところの非言語コミュニケーションと考えられ、コミュニケーションの主要な部分をなし、独自の様式を形成している。この講義では、1,日本のみならず世界のさまざまな国々にみられる非言語コミュニケーションの諸相を鳥瞰しつつ、民族的・文化的特性を明らかにし、2,それが一定の表現様式を有した舞踊について、日本始め世界の舞踊と社会文化とのかかわりを検討したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義は、テキストを使用して行い、適宜視聴覚教材も用意する。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

評価は、期末テスト(70パーセント)、中間レポート(20パーセント)、出席状況(10パーセント)などを考慮して総合的に行う。

講義スケジュール

- 第1回 オリエンテーションおよび自己紹介
- 第2回 身体表現(非言語コミュニケーション)の概念
- 第3回 身体表現の分類・研究史
- 第4回 日本と世界の身体表現(1)
- 第5回 日本と世界の身体表現(2)
- 第6回 討論と中間レポート提出
- 第7回 様式化された身体表現(舞踊)
- 第8回 日本の舞踊(1)
- 第9回 日本の舞踊(2)
- 第10回 日本の舞踊(3)
- 第11回 世界の舞踊(1)
- 第12回 世界の舞踊(2)
- 第13回 世界の舞踊(3)
- 第14回 復習とまとめ
- 第15回 閉講

テキスト

舞踊教育研究会編『舞踊学講義』大修館書店、東京 1991年 ISBN4-469-26197-1

参考書

マジョリー・F.ヴァーガス著 石丸正訳 1987『非言語コミュニケーション』新潮社
野村雅一著 昭和58年『しぐさの世界ー身体表現の民族学』日本放送出版協会 など

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 目黒 朋

講義内容・テーマ

本講義では、初歩的な入門書を用いて心理検査の基礎を学ぶ。心理検査の歴史と発展、心理検査の意義、心理検査における数量的データのとらえかた、処理の仕方を具体的に学習する。また、心理検査の実際について、知能検査法、発達検査法、人格検査法の代表的なものを取り上げ、それぞれの意味と具体的な手法を学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

心理学についての基本的な知識を得ていることが望ましい(自学でも可)。できるだけ具体的な例を用いて参加型の講義を予定しているため、出席を重視する。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
 * 日常点評価
 レポート+平常点(コメントカードの提出・講義への参加)
 講義内容を理解した上で自分自身の考え方を考察してもらいたい

講義スケジュール

第1回 心理検査の歴史
 第2回 心理検査におけるデータ
 第3回 心理検査におけるデータ
 第4回 心理検査の信頼性
 第5回 心理検査の妥当性
 第6回 因子分析の考え方
 第7回 心理検査の実際 知能検査
 第8回 " 知能検査
 第9回 心理検査の実際 発達検査
 第10回 " 発達検査
 第11回 " 発達検査
 第12回 心理検査の実際 性格検査(質問紙法)
 第13回 心理検査の実際 性格検査(投影法)

テキスト

渡部 洋 編著『心理検査法入門 正確な診断と評価のために』福村出版 生協書籍部ほか一般書店にても入手可

参考書

水田善次郎 編『心理検査の実際』ナカニシヤ出版
 市川伸一 編著『心理測定法への招待 測定から見た心理学入門』サイエンス社 ほか

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

心理臨床論 S
心理臨床 S

14709

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 松木 繁

講義内容・テーマ

現代社会に生きる人間にとっての心理臨床の果たす役割とその意義とは一体どのようなものであろうか。個人臨床的視点による役割だけでなく、個人と社会との関係性の中でその役割を考える必要がある。本講義では今年度も幾つかの社会問題を提示し、その中で心理臨床の果たす役割について具体的に考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

心理臨床を個人臨床の世界から社会的な視点へと総合的に捉えていきたいが、そのためには臨床心理学の基礎知識は前もって十分に理解できていることが望ましい。同時に心理臨床から得られた臨床の知恵を社会に還元していく意気込みを持つことのできる意欲的な学生の受講を望む。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

評価は定期試験によるものが70%。残りは講義中に実施するレポート、ならびに平常点を加算して評価する。

講義スケジュール

- . 現代社会と心理臨床
- 1. 心理臨床の視点と社会的視点
- 2. 現代社会に生きる人間と心の問題
 - . 現代社会の病理現象と心理臨床
- 3～4. 今どきの若者像と心理臨床1 - 自傷行為, 自殺願望etc.
- 5～6. 今どきの若者像と心理臨床2 - 加害願望, 解離性障害etc.
 - . さまざまな社会問題と心理臨床
- 7～8. 被害者支援と心理臨床 - 災害・犯罪被害者への支援のあり方など
- 9～11. 虐待問題と心理臨床 - 虐待児とその親への支援のあり方など
- 12～13. 子育て支援と心理臨床
 - . 現代社会における心理臨床の果たす役割とその意義
- 14. 臨床社会的視点の形成と今後の課題
- 15. まとめ

テキスト

特に指定はしない。講義中に適宜、レジュメを配布する。

参考書

松木繁, 宮脇寛, 高田みぎわ編著 「教師とスクールカウンセラーでつくるストレスマネジメント教育」 あいり出版

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スポーツ規範論 S
 スポーツ文化論 S

12457

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 草深 直臣

講義内容・テーマ

スポーツの構造と規範

スポーツ文化論で解明した問題の所在をふまえて、文化様式としての内容・構成要素を分析する。

スポーツが単なる日常の身体活動と異なる最大の理由は、それが“ルール”によって設定された虚構空間としての特殊な活動であるからである。では、スポーツ・ルールはどのような意味を持つのか、それはどんな原則から成り立つのか、変化は何故起こるのかについて、解明する。

第二に、スポーツは一つのシンボルであり、メッセージである。それはどんな意味と理念をもつものなのか、を解明することを通じて、“ルール”に隠された規範のあり方を解明する。そして、そのことを通じてプロとアマ、エリートとマスに分裂した多元的スポーツ観を問い直す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施

定期試験による。スポーツルールは明示性と暗示性からなるが、前者については基本概念を理解すること、後者については現実との関わりで多面的にかつ深く洞察することが重要である。

講義スケジュール

- (はじめに) 1 “スポーツのルールの意味”
 格闘技と空間
 意味空間と「技」の構成
- (1 章) 1 “スポーツルールの発生”
 慣習からの明文化
 ルールの性質
 明示的ルールの原則
- 2 “明示的ルールの性格と役割”
 ルールの不変性と可変性
 ルールの役割
- 3 “ルールの構成”
 ゲームのルール
 組織のルール
- 4 “ルールの変化と原理”
 可変性の要因
 可変性の原則
- (2 章) 1 “ルールの暗示性”
 ルールを支えるモラル
 行動綱領
- 2 “モラルとフェアプレイ”
 フェアプレイの成立
 スポーツの目的とモラル
- 3 “フェアプレイ宣言”
 フェアプレイ宣言の背景
 フェアプレイ宣言の意義
- 4 “ドーピング問題”
 ドーピング問題の社会的基盤
 ドーピング禁止の根拠とスポーツ規範
- 5 “スポーツ規範の国際性と民族性”
 武道精神と礼節
 「型」の美学
 “JUDO”と柔道
- (3 章) 1 “スポーツの競争と交流”
 スポーツの高度化と競争主義
 競争的序列と結果主義・優勝劣敗主義
- 2 “スポーツの価値と鑑賞”
 能力的評価と人格
 結果から過程へ
 評定と鑑賞
 虚構の中の真実

授業の方法 出来るだけ、時事問題から分析するが、皮相的にならないように基本を理解することが重要である。

テキスト

テキストは使用せず、章毎にレジユメを教室で配布する。

参考書

参考書(必読のこと)

伊藤高弘・草深直臣他編「スポーツの自由と現代」上・下(青木書店)

中村敏雄「スポーツ・ルールの社会学」(有斐閣)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

スポーツ文化論の受講が望ましく、基本概念を的確に把握した上で、現実の問題を分析する必要がある。また、スポーツ関連の専門科目との関係をきちんと踏まえること。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 山下 高行

講義内容・テーマ

テーマ: グローバルスポーツの現状

今日のスポーツはグローバル化するさまざまな諸要素の関連の中で大きな変化を遂げるに至っている。その諸要素の中で重要なものは、グローバルメディアの編成過程やグローバルなスポーツ商品の展開、及びスポーツ労働力の移動である。本講義ではその様態についてさまざまな事例をもとに説明することにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

グローバルスポーツの展開は未だ過渡的な段階にある。従ってその動態も絶えず変化している。本講義ではグローバルメディアとスポーツ商品、スポーツ労働力の移動という点から説明するが、最新の状況に応じて講義内容の一部を変更することになるのでその旨了解されたい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

定期試験(60%) + 授業でのレポート提出(40%)により評価する。

講義スケジュール

グローバルスポーツの状況

1) グローバルスポーツの研究

・スポーツ=メディアコンプレックス

・商品連鎖の中のスポーツ

・移民

・女性スポーツ・ゲイスポートなどの新しい動き

2) グローバル化するスポーツとビジネス

・FAの経営

・マーチャンダイジング

・スポーツ労働力の移動

3) メディアとスポーツ

・グローバルメディア編成とスポーツ: 英国の事例

・スポーツの表象とメディア媒体: スポーツメディアの政治経済的分析

・女性スポーツ、アシアンゲームの事例として

・スポーツメディアのテキスト構成: 表象分析の方法

4) まとめ: グローバルスポーツの将来

(最新の展開に応じて講義内容の一部変更がある。)

テキスト

特に用いない。

参考書

適宜授業中に指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スポーツ産業論 S
 スポーツ産業論 S

12507

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

本講義は、「スポーツ・レジャー産業」や「プロスポーツ・ビジネス」をマクロな視点で捉え、政策・経営批判を行っていく。そもそもスポーツという文化は、時間、空間、財といった基本的要件の社会的な在り方によって枠づけられる。したがって、社会に歪みがあればスポーツもまた根本的な問題や矛盾を孕む関係にある。以上のようなことから、戦後日本の高度成長期からのスポーツ・レジャーを地域経済や国土開発との関わりで考えていくこと、また、プロフェッショナル・チーム(リーグ)スポーツ産業やスポーツイベント・ビジネスを資本の流れに焦点を当てて検討し、今日的なグローバル経済における文化変容の問題として考えていくことを主要な内容とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講を検討する際に、本講義が現状のスポーツ産業やスポーツ・ビジネスを「どうしたら繁栄させることができるか」といった内容のものでないことを十分理解してもらいたい。

他学部受講を考えている学生は、本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり、単にスポーツに関心があるという理由で選択すべき科目ではない。他学部受講生の合格率は低い。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

数度にわたって授業内レポートあるいは小テストを課す。それらの扱いについての詳細は初回の講義で説明するが、基本的に期末試験で評価を受ける上での「資格」判断の材料とする。つまり、最終的に「C」以上の評価を得るためにはまず、授業内レポートあるいは小テストの条件をクリアし、その上で期末試験の評価が「C」以上でなければならない。

講義スケジュール

通産省のスポーツ産業政策と国民スポーツ政策の不在
 高度成長経済における「消費革命」と「自由時間」の消費・娯楽・スポーツの組織化
 内需拡大政策とスポーツ産業の展開
 「企業社会」における自由時間の分断と消費的レジャー・スポーツ
 長時間・過密労働、過労死問題と余暇・スポーツ産業
 産業立地政策と国民の余暇・スポーツ
 地域経済とスポーツイベント：長野オリンピック
 地域経済とスポーツイベント：大阪五輪招致
 イベントビジネスと連盟・スポンサー
 グローバル資本とリーグ・スポーツ
 ドイツにおける消費経済の進行とスポーツ・クラブの変容
 カナダにおける公共スポーツの破壊とスポーツ産業
 地域生活の再生とスポーツ大会
 まとめ
 期末定期試験

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要により授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スポーツ社会学 S
 スポーツ社会学 S

14956

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 山下 高行

講義内容・テーマ

本講義では、これまで研究されてきたスポーツ社会学の代表的領域、課題について紹介し、あわせて今日のスポーツの問題をスポーツ社会学ではどのように捉えているのかを説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

しばしば誤解されるが、スポーツ社会学は、「社会学」であることを銘記して欲しい。従ってここでも、現代社会学の理論的成果をかなりの程度取り入れているので、この授業とともに文化研究を中心とした現代社会学の諸理論についても学んでもらいたい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
 通常のレポートと、定期試験により評価する。

講義スケジュール

- 1回目、スポーツ社会学とは、歴史と研究状況
- 2回目、スポーツの社会化
- 3回目、スポーツ・バーナウトの構造
- 4回目、組織と役割
 役割期待のアンヴィバレンス
- 5回目、組織構造とパフォーマンス
- 6回目、小集団の凝集性
- 7回目、「日本的」スポーツ組織の構造
- 8回目、スポーツ社会学の代表的理論(1)
 ブルデューとフランススポーツ社会学
- 9回目、スポーツ社会学の代表的理論(2)
 カルチュラル・スタディーズと英国スポーツ社会学
- 10回目、スポーツ社会学の代表的理論(3)
 「文明化の過程」とスポーツ
- 11回目、スポーツ社会学の代表的理論(4)
 グローバルスポーツの展開
- 12回目、日本社会の変化とスポーツの変容：地域の変化
- 13回目、スポーツの産業化とスポーツの様態の変化
- 14回目、ナショナリズムとスポーツ
- 15回目、15回目、まとめ：グローバルなものとローカルなもの

テキスト

特に使わない。

参考書

授業中適宜指示する。とりあえずここでは以下をあげておく。
 D.ジェリー、清野正義他編著『スポーツ・レジャー社会学』道と書院
 有賀郁敏他著『スポーツ』ミネルヴァ書房
 エリアス、ダニング著『スポーツと文明化』法政大学出版局

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

日本スポーツ社会学会ホームページ(<http://jsss.jp/>)

その他

スポーツ文化論 S
 スポーツ文化論 S

12330

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 草深 直臣

講義内容・テーマ

『スポーツの構造と概念』

スポーツは単なる身体運動として存在するのではなく、人間の創り上げた文化様式として、また国境を越える世界文化として益々注目をされている。そのために、学生諸君が持っているスポーツの固定観念をうち破り、スポーツの概念を歴史的にたどりながら、その社会的背景を捉えることを重視する。更に、その概念から構想されるスポーツ機構 (Institution) の意味と問題点に焦点を当て、スポーツ文化を構造的に把握し、その構成要素と基本的枠組みを明らかにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 定期試験として実施

評価は定期試験によって行う。基本的概念の的確な理解と理論展開過程の特徴の理解を重視する

講義スケジュール

- () 体験としてのスポーツと意識
 活動としてのスポーツ / 感覚言語とスポーツ用語
 グローバリゼーションとスポーツ
 イベントとシンボル / スポーツ規範とドーピング
- () スポーツ概念の変遷
 スポーツの語源 / 19世紀の概念 / ドイツ・フランス圏の概念 / イギリス圏の概念 / 日本の類似概念
 スポーツ概念の特徴 : 行為本性説と目的価値規定 / アマチュア規範と価値規定
 スポーツ文化の外延と内包
- () スポーツ機構説の土壌
 スポーツの起源論争 / プレイとしてのスポーツ / ホイジンガのプレイ論
 カイヨワのプレイ把握 = 2極4領域説
- () スポーツ機構説の展開
 ロイのカイヨワ批判 = スポーツ機構説の特徴
 機構としてのスポーツ / 状況としてのスポーツ
 佐伯のスポーツ体系説 その意義と問題点
 多々納のスポーツ・シンボル説 その意義と問題点
- () スポーツの構造化
 プレイ論の主観主義 / 多元化論の問題点
 「2層3領域」説の方向

授業の方法

レジュメをもとに講義する。現代的な問題を例示するが、現象にとらわれずに理論的枠組みを理解することが重要である。

テキスト

特別なテキストは使用しない。適宜教室でレジュメを配布する。

参考書

伊藤高広・草深直臣他編「スポーツの自由と現代」上・下 青木書店
 体育原理分科会編「スポーツの概念」不昧堂
 菅原禮編「スポーツ社会学の基礎理論」不昧堂

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

一般教育科目「スポーツの歴史と発展」「スポーツと現代社会」を受講していることが望ましい

スポーツメディア論 S
 スポーツ・メディア論 S

14938

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか、スポーツ番組がどのように構成されているのか、視聴者や読者がどのような状況に置かれているのかといった問題を、スポーツ文化それ自体の特性(メディア性)をふまえて考察していく。また、スポーツの意味や価値が自明のものではなく、様々な力関係もとで、一定の仕掛けを経て創り出されていること、「メディアスポーツ」が政治・経済や権力と深く結びついたものであることを主要なテーマとして追求する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講を考える際に、本講義が、メディアの制作現場のハウ・トゥーのものや単なる現状分析でないことに注意してもらいたい。

他学部受講を考えている学生は、本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり、単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。他学部受講生の合格率は低い。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

数度にわたって授業内レポートあるいは小テストを課す。それらの扱いについての詳細は初回の講義で説明するが、基本的に期末試験で評価を受ける上での「資格」判断の材料とする。つまり、最終的に「C」以上の評価を得るためにはまず、授業内レポートあるいは小テストの条件をクリアし、その上で期末試験の評価が「C」以上でなければならない。

講義スケジュール

オリエンテーション

スポーツとメディアに関する研究 領域と課題

「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」

スポーツ番組のプロデュースと構造原理

テレビにおける映像変形の原理

「プレビュー番組」の構造と役割

メディアがつくる物語 その提示と修正について

メディアイベント論とスポーツ

高校野球の発展と新聞の社会面の役割

武道の普及とメディアの役割

「文化装置」としての国民体育大会

スターとパーソナリティシステム:イデオロギーおよび「マスキング」について

「受け手」と「読み」:「エンコーディング・デコーディング」モデルとスポーツ視聴者

まとめ

期末定期試験

テキスト

特に指定しない。

参考書

必要により授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 西田 心平

講義内容・テーマ

目的:勤労者生活をとりまく諸条件を明らかにし、自分の将来は自分で切開くのだという姿勢をつちかう契機にさせていただくこと。勤労者の生活は労使関係を機軸として展開される。しかし今日、労使関係は激しく流動化しつつある。社会階層論をふくめ、人間らしく生きるための諸条件を「冷徹な目」で把握できる視角を身につける。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

予備知識は不要。人間らしく、自信をもって生きる。この一見簡単に見える営みが、実は厳しく困難にみちたものという実感をもてればよい。上手にノートをとると理解が深まる。毎回出席されることが前提。但し、講義進度には変更がありえるので了解してほしい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

筆記試験:定期試験として実施する。さらに進度に合わせて講義内で簡単なレポートや感想文の提出を求める。これが日常点として加味される。定期試験による客観評価(70~80%程度)、講義中の小レポートや感想文の提出による客観評価(20~30%)。なお評価の方法は、受講者数の大小により変更があり得る。

講義スケジュール

以下の5つのテーマを15回の講義で考察したいと考えている。但し、講義進度や順序、内容には若干の変更があり得るので了解してほしい。

1. 現代生活の枠組 - 貧困と生活問題への視点 -
2. 社会階層と生活変動 - 下層社会からの離脱 -
3. 近代における貧困の性格変化 - 貧困認識の関係構図 -
4. 世帯の形成と生活構造 - 世帯の形成と定着 -
5. 勤労者生活の全体的状況
- 今日における「住居喪失」(homeless)状態の生成と拡大 -

テキスト

使用しない。必要に応じて、資料とデータを配布する。

参考書

中川清『日本都市の生活変動』勁草書房、2000年(図書館)。
総務省『家計調査年報』各年次(図書館、白書年鑑コーナー)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

生活福祉論 S
都市生活特論 S

12479

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 前田 信彦

講義内容・テーマ

この講義では、戦後の社会科学で展開されてきた生活論を手がかりに、家族・地域・労働・社会階層等に関する生活福祉を講じる。特に、最近の福祉国家の再編の動向を把握しながら、家族・コミュニティ・都市生活の再編過程について考える。

福祉国家の再編 家族の変動 コミュニティの変容 といったテーマが講義の柱となるであろう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会学の基本的な知識が必要。

評価方法・基準

* 日常点評価

出席点・小課題(レポート)・定期試験による総合評価。

講義期間に何度か小課題レポートを実施する。

レポート等を提出しなかったものは定期試験は受験不可とする。

遅刻・早退は厳禁。

出席等は厳しく評価するので、出席しないで単位だけを取る学生にはすすめない。

講義スケジュール

- 1回 生活福祉の視点
- 2-4回 福祉国家とコミュニティ
- 5-6回 コミュニティの機能
- 7-8回 ボランティアと専門家
- 9-11回 福祉国家と家族の機能
- 12-13回 家族のつながりとは何か
- 14-15回 まとめ・試験

テキスト

テキストは特に指定しない。
講義中に参考文献を紹介する。

参考書

富永健一2001『社会変動の中の福祉国家 - 家族の失敗と国家の新しい機能』中公新書
宮島洋1992『高齢化時代の社会経済学 - 家族・企業・政府』岩波書店
アラン・ウォーカー1997『ヨーロッパの高齢化と福祉改革 - その現状とゆくえ』ミネルヴァ書房
(ほか、講義中に紹介する)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

生活文化論 S
生活文化論 S

14809

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 木津川 計

講義内容・テーマ

人はみな人間的、文化的に生きていきたいのです。そのためには何をどう考え、どう行動したらよいのか、本講は主として近代以降の人間の生き方と、それが生活文化に与えた影響を究明しながら、人びとの暮らしに豊かな生活文化を根づかせようとするものです。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語するために教室へ入る学生は受講しないでください。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
試験を行います。

講義スケジュール

- 1、なぜ生活文化論なのか - 概説
- 2、時代と人間と生活 - 明治の志と勤勉
- 3、時代と人間と生活 - 15年戦争と若者の運命
- 4、時代と人間と生活 - 高度成長と家族の変容
- 5、<文化人>とは誰をいうのか - 誰もが文化人となるために
- 6、<趣味人>とは誰をいうのか - 趣味の抹殺と生活の彩り
- 7、趣味力の発見 - 余暇と人生
- 8、<道楽>観の再検討 - 「道楽」をどう復権させるか
- 9、夫婦同伴文化と別文化 - 生み出すべき二つの文化への視座
- 10、<草の根文化と一輪文化> - 文化の力と人間の暮らし
- 11、産業構造の変化と芸術 - 芸術文化の役割とは何か
- 12、働き甲斐と生き甲斐 - 何のために生きるのか
- 13、自分づくり・自分おこし・自分いかし - 悔いのない人生のために
- 14、人間らしく生きるとは - 「生活文化論」のまとめ

テキスト

ありません。毎回プリントを配ります。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

精神医学 S

12422

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 大山 博史

講義内容・テーマ

精神医学は人間の精神現象とその障害、すなわち、精神障害を扱う学問として、医学の一分野をなす。福祉活動においては、こころの病を持つ人やその人と関わりのある人々と接することが主要な業務の一つであることから、精神的な病気を正しく理解し、その知識を身に付けることが重要である。

本講では、社会福祉の領域で業務を行う専門家に必要とされる精神医学の基礎的知識を身に付けることを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

臨床的知識の習得を目指す者は、精神医学 Sと併せて受講することが望ましい。

精神保健福祉士国家試験受験資格において必要とされる専門科目として履修する者は、精神医学 Sと併せて履修すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

筆記試験を主体とし、日常点評価を加味した総合的評価

講義スケジュール

- | | |
|-----------|--|
| 第1 - 5回 | 1. 精神医学の概念
1) 精神医学とは
2) 精神障害の成因と分類
3) 精神症状と状態像
4) 防衛機制 |
| 第6回 | 2. 精神医療の歴史 |
| 第7 - 8回 | 3. 脳および神経の生理・解剖
1) 神経系の発生と構成
2) 中枢神経系
3) 末梢神経系 |
| 第9 - 11回 | 4. 精神医学的診断法
1) 診断の手順と方法
2) 身体検査と心理検査
3) 構造化面接と操作的診断基準 |
| 第12 - 13回 | 5. 代表的な精神障害
1) 精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害 |
| 第14回 | まとめ・補足 |
| 第15回 | 試験日(予定) |

テキスト

改訂 精神保健福祉士養成セミナー / 第1巻 精神医学, 編集 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会, へるす出版.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 大山 博史

講義内容・テーマ

精神医学は人間の精神現象とその障害、すなわち、精神障害を扱う学問として、医学の一分野をなす。福祉活動においては、こころの病を持つ人やその人と関わりのある人々と接することが主要な業務の一つであることから、精神的な病気を正しく理解し、その知識を身に付けることが重要である。

本講では、社会福祉の領域で業務を行う専門家に必要とされる精神医学の臨床的知識を身に付けることを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

精神医学 Sの講義内容と同程度の基本的知識を前提として本講の授業を進めるため、精神医学 Sと併せて受講することが望ましい。

精神保健福祉士国家試験受験資格において必要とされる専門科目として履修する者は、精神医学 Sと併せて履修すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

筆記試験を主体とし、日常点評価を加味した総合的評価

講義スケジュール

- | | |
|-----------|---|
| 第1 - 10回 | 1. 代表的な精神障害
1) 症状性を含む器質性精神障害
2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害
3) 気分(感情)障害(躁うつ病)
4) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
5) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
6) 成人の人格および行動の障害
7) 精神遅滞
8) 心理的発達の障害
9) 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害
10) 神経系の疾患 |
| 第11 - 13回 | 2. 精神医学的治療法
1) 身体的療法
2) 精神療法
3) 環境・社会療法
4) 精神科リハビリテーション |
| 第14回 | 3. 病院精神医療および地域精神医療
1) 病院精神医療
2) 精神科救急医療
3) 地域精神医療 |
| 第15回 | 試験日(予定) |

テキスト

改訂 精神保健福祉士養成セミナー / 第1巻 精神医学. 編集 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会. へるす出版.

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

精神分析論 S
精神分析論 S

14652

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 村本 邦子

講義内容・テーマ

フロイトによる精神分析の基礎を学び、人間理解を深めるとともに、精神分析が、私たちの文化や社会に与えてきた影響を考察することを目的とする。講義では、フロイトの生きた時代的背景について学んだ後、フロイトの主な論文と概念を取り上げ、解説していく。途中、精神分析を扱った映画なども参照する予定。最後に、批判を含め、フロイト以降の精神分析の発展を概観する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業中、発表とミニレポートを課す。フロイトの原著に当たってもらうため(ただし日本語訳でよい)、難解であることを覚悟のこと。

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価
- 平常点とレポート

講義スケジュール

1. フロイト以前
2. フロイトの生涯
3. ヒステリー研究(外傷理論)
4. 夢判断上
5. 夢判断下
6. 日常生活の精神病理
7. トーテムとタブー
8. 精神分析入門
9. 精神分析入門
10. 快感原則の彼岸
11. 集団心理と自我の分析
12. 続精神分析入門
13. モーゼと一神教
14. フロイト以後
15. 予備日

テキスト

『援助者のためのフロイト入門』村本邦子著・三学出版(6月出版予定)

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

この科目を終了した学生は、次のことができることが期待されている。

- 1.精神保健の概念を説明するとともに、その概念を用いて現実の課題を分析・討論・報告することができる。
- 2.ライフステージごとにおける精神保健の特徴をふまえて、現実的課題を分析・討論・報告することができる。
- 3.精神障害、痴呆性疾患、アルコール関連問題、薬物乱用など、主要な精神保健上の課題を説明できるとともに、それらに対する対策について、討論・報告することができる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本科目は、精神保健福祉士受験資格取得のための指定科目である。将来、精神保健福祉領域で働くことを考えている人を主な受講対象と想定し、精神保健に関する専門的知識を築く基礎を学ぶ、精神疾患についての詳細な講義はできないので、受講者は事前に「精神医学」の内容を習得していること、あるいは講義にあわせて学習することが望まれる。

評価方法・基準

* 日常点評価

最終講義日試験で60%を評価し、残りの40%をレポートなどの授業中に示す課題の遂行により評価する。

講義スケジュール

以下の内容を中心に学ぶ。

<精神保健についての基本知識>

- 1) 精神保健の概要
- 2) 精神保健の意義と課題

<予防の戦略と実際>

<健康づくりの理論>

<主な精神保健課題と予防>

<ライフサイクルにおける精神保健>

- 1) 胎児期および乳幼児期における精神保健
- 2) 学童期における精神保健
- 3) 思春期における精神保健
- 4) 青年期における精神保健
- 5) 成人期における精神保健
- 6) 老年期における精神保健

<地域精神保健と地域保健>

- 1) 地域精神保健施策の概要
- 2) 地域保健施策の概要
- 3) 関係法規
- 4) 関連施策

テキスト

精神保健学を全体的に論じた教科書の内容を学ぶが、各講義に応じた文献を授業内で紹介する。

全体として参照する文献としては、

鹿島晴雄編著『精神保健入門』八千代出版

精神保健福祉士養成講座編集委員会編『精神保健福祉士養成講座 2 精神保健学』中央法規出版

精神保健福祉士養成セミナー編集会編『精神保健福祉士養成セミナー 第2巻 精神保健学』(第2版)へるす出版などがある。

参考書

多数あるので、授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

全国の精神保健福祉センター、例えばパレアモア広島(<http://ww1.enjoy.ne.jp/~mh-hiroshima/index.htm>)から各種のリンクをたどるとよい。

その他

新聞やTVなどにより、精神保健・医療・福祉で実際に議論になっていることに注意しておいてほしい。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

・精神保健学ISで学んだ内容をふまえ、この科目を終了した学生は、次のことができることが期待されている。

- 1.精神保健活動の場としての地域、学校、職場の特性をふまえて、それぞれの場面における精神保健活動のあり方を分析・
討論・報告することができる。
 - 2.精神保健活動に関連する諸理論を踏まえて、具体的な精神保健活動のあり方を分析・討論・報告することができる。
 - 3.日本の精神保健医療政策について、その概要を述べ、根拠をあげながら議論することができる。
 - 4.日本の精神保健医療について、国際的な動向や他の国の状況と比較しながら、課題を検討することができる。
- ・授業では議論のポイントを論じるが、しばしば学生は指定する文献を読んで出席することを求められる。グループワークや討論も必要に応じて行なう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義は、精神保健学S1の続編であり、本講義の受講にあたっては、精神保健学ISの履修を終えていることを前提とする。少なくとも、主な精神障害の特徴を理解するとともに、予防戦略、健康づくりの理論、精神疾患の要因モデルなどを理解していることが必要である。

評価方法・基準

* 日常点評価

レポート40%、試験(講義内実施)60%の配分で評価する。試験の60%中、中間試験(12月1日実施)に10%、期末試験(1月19日実施)に50%を割り当てる。

講義スケジュール

<精神保健活動総論>

<精神保健活動の実際>

- 1) 家庭における精神保健
- 2) 学校における精神保健
- 3) 職場における精神保健
- 4) 地域における精神保健

<精神保健の国際比較>

- 1) 国際比較の意義と概要
- 2) イギリスの経験
- 3) イタリアの経験
- 4) アメリカの経験

<地域精神保健の課題>

など。

テキスト

各講義に応じた文献を授業内で紹介する。精神保健学を全体的に論じた教科書としては、

鹿島晴雄編著『精神保健入門』八千代出版、

精神保健福祉士養成講座編集委員会編『精神保健福祉士養成講座 2 精神保健学』中央法規出版、

精神保健福祉士養成セミナー編集会編『精神保健福祉士養成セミナー 第2巻 精神保健学』(第2版)へるす出版、

などがある。これらのうちどれか一つを熟読すること。

参考書

授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

全国の精神保健福祉センター、例えばパレアモア広島(<http://ww1.enjoy.ne.jp/~mh-hiroshima/index.htm>)から各種のリンクをたどるとよい。授業中に紹介する。

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 知名 純子

講義内容・テーマ

精神障害者を中心とした社会福祉サービスと援助技法の基礎について学び、社会福祉援助活動の「目的」「価値」を具体的事例から理解する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

出席、授業やグループワークへの参加態度、授業後の小レポート、期末テストを総合的に評価します。

評価方法・基準

* 日常点評価

出席状況(15%)、授業態度(15%)、小レポート(30%)、期末試験(40%)により総合評価する。

講義スケジュール

- 1 オリエンテーション
- 2 精神障害者を対象としたケースワークとは
- 3 " の実際
- 4 " における面接技術
- 5 " におけるスーパービジョン
- 6 " における具体的事例検討
- 7 精神障害者を対象としたグループワークとは
- 8 " の実際
- 9 " におけるスーパービジョン
- 10 " の具体的事例検討
- 11 まとめ
- 12 テスト

テキスト

特に指定しない。

参考書

(社)全国精神障害者社会復帰施設協会編「精神障害者の生活支援の理念と方法」、中央法規
久保紘章編著「精神障害者地域リハビリテーション実践ガイド」、日本評論社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

精神保健福祉・精神障害者福祉に関するホームページ <http://www005.upp.so-net.ne.jp/smtm/>
日本精神保健福祉士協会 <http://www.mmjp.or.jp/psw/>

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 知名 純子

講義内容・テーマ

精神障害者の生活支援を行うにあたって基本となる「援助技術」を踏まえたうえで、専門技術に基づく実践の質をより深めるために必要なコミュニティワークやケアマネジメントやその他関連援助技術のあり方について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

出席、授業やグループワークへの参加態度、授業後の小レポート、期末テストを総合的に評価します。

評価方法・基準

* 日常点評価

出席状況(30%)、小レポート(30%)、期末レポート(40%)により総合評価する。

講義スケジュール

- 1 精神障害者を中心とした社会福祉サービスと援助活動
- 2 精神障害者を対象としたコミュニティワークとは
- 3 " における新しい援助技術
- 4 " の具体的展開
- 5 " の具体的事例検討
- 6 精神障害者のケアマネジメントとは
- 7 " のプロセス
- 8 " ケアチームとチームワーク
- 9 " における具体的事例検討
- 10 精神障害者への生活支援技術
- 11 まとめ
- 12 テスト

テキスト

特に指定しない。

参考書

(社)全国精神障害者社会復帰施設協会編「精神障害者の生活支援の理念と方法」、中央法規
久保紘章編著「精神障害者地域リハビリテーション実践ガイド」、日本評論社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

精神保健福祉・精神障害者福祉に関するホームページ <http://www005.upp.so-net.ne.jp/smtm/>
日本精神保健福祉士協会 <http://www.mmjp.or.jp/psw/>

その他

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 石神 文子

講義内容・テーマ

精神保健福祉援助技術は社会福祉援助技術を基礎として成立しているが、精神障害者の生活実態とその福祉的課題に対して、援助の理念や技術がまだまだ未熟でありいっそうの向上を意図しなければならない。本講座では社会福祉援助技術法を基礎に、精神障害者に対する社会福祉援助の目的や価値を歴史、法制度、活動の現状を通して理解し、その活動を具体的な事例(個別事例、事業、街づくりなど)に基づいて学習する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

マスコミ、地域の精神障害者社会復帰施設などの社会福祉資源、ボランティア活動などの情報に関心をむけること。

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価

講義スケジュール

精神障害者処遇の歴史 世界
精神障害者処遇の歴史 日本
精神障害者の生活の実態と福祉的課題
精神保健福祉援助活動の現状と課題
精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則ーその1
精神保健福祉援助活動の目的・価値・原則ーその2
精神保健福祉援助活動の体系ー直接援助技術の内容と機能
精神保健福祉援助技術の体系 間接援助技術の内容と機能
精神保健福祉援助活動の実際 ケースワーク
精神保健福祉援助活動の実際ーグループワーク
精神保健福祉援助活動の実際ーコミュニティワーク、ケアマネジメント
精神保健福祉援助活動の実際ー生活支援
精神障害者の権利擁護
精神保健福祉援助における関連専門援助技術ーSST、心理教育
精神保健福祉士の専門性と援助技術

テキスト

「精神保健福祉援助技術総論」 精神保健福祉士養成講座第5巻 精神保健福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規

参考書

「こころ病む人々の生活支援」 石神文子著 やどかり出版

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

eらば～る ソーシャルワーク基礎講座 ～事例検討を通して～
http://www.e-rapport.jp/sw_koza.htm

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 石神 文子

講義内容・テーマ

精神保健福祉援助技術は社会福祉援助技術を基礎として成立しているが、精神障害者の生活実態とその福祉的課題に対して、援助の理念や技術がまだ未熟でありいっそうの向上を意図しなければならない。本講座では社会福祉援助技術法を基礎に、精神障害者に対する社会福祉援助の目的や価値を歴史、法制度、活動の現状を通して理解し、その活動を具体的な事例(個別事例、事業、街づくりなど)に基づいて学習する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

マスコミ、地域の精神障害者社会復帰施設などの社会福祉資源、ボランティア活動などの情報に関心をむけること。

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価

講義スケジュールテキスト

「精神保健福祉援助技術総論」 精神保健福祉士養成講座第5巻 精神保健福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規

参考書

「こころ病む人々の生活支援」 石神文子著 やどかり出版

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

精神保健福祉援助実習 S

20236

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 4以上

担当教員 岡田 まり

講義内容・テーマ

精神医療・精神保健福祉の現場での実習をとおり、精神保健福祉士としての専門性(価値・倫理、知識、技術)を培うことを目的とする。現場での学びをより実り多いものにするため、前期は、現場実習にむけての準備として事前学習、実習計画作成、および自己覚知に取り組む。後期は、実習を振り返り、体験を共有しながら、さらに専門性向上を目指して事後学習を行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講条件は、精神保健福祉士課程に登録し、2003年度冬の実習先選定のための個人ヒアリングを受けていること。事前学習・現場実習・事後学習のいずれにおいても、受講生の主体的な取り組みが必要不可欠である。なお、本クラス内で話し合われた個人情報について受

講生は守秘義務があることを忘れてはならない。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価は、出席、演習活動への参加、課題、現場実習での取り組み、受講生の自己評価等を総合的に判断して行う。

講義スケジュール

前期

- 第1回 オリエンテーション(実習の目的・意義、事前準備について)
- 第2～4回 精神障害、精神障害者と社会、精神保健福祉士の働き(グループ活動)
- 第5～8回 事前学習結果についての個人発表
- 第9、10回 実習計画書
- 第11回 コミュニケーション技法
- 第12回 記録の書き方
- 第13回 様々な場面での対応
- 第14回 様々な場面での対応
- 第15回 実習直前ガイダンス

後期

- 第1、2回 ヒアリング(個別もしくはグループ)
- 第3、4回 実習の振り返り(グループワーク)
- 第4～12回 実習報告
- 第13、14回 今後の課題
- 第15回 まとめ

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回数 2以上

担当教員 山本 耕平

講義内容・テーマ

この講義では、精神保健福祉を理解する上で必要な精神保健福祉問題につき理解することに主な目標とする。精神障害(者)の生活の歴史と精神衛生から精神保健さらに精神保健福祉への政策・実践思想を学習するなかで、精神障害者の全般的な社会参加の為に医療・保健・福祉政策や実践がどう構築されていくべきかを学んで欲しい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- 1.講義時に配布した資料を欠席により受け取れなかった時は、自己の責任でコピーを行なうこと。
- 2.精神保健および精神障害者の福祉に関する法律(2000年施行)をなんらかの方法で入手すること。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験。出席に関しては、受講生の主体性に委ねる。

講義スケジュール

1. 障害者福祉の基本的理念の展開と精神病者および精神障害者
2. 戦後の精神病者の生活実態と医療・福祉の歴史
3. 精神障害者と地域社会 とりわけスティグマとの関わりで
4. いま、地域の主人公としていきている精神障害者
5. 精神障害者福祉の基本施策

テキスト

特に定めない。適宜講義資料を配布する。参考書にあげた著作を学習参照文献とする。

参考書

- 1: 秦安雄・鈴木勉・峰島厚編 「講座発達保障 障害者福祉学」 全障研出版部
- 2: 田中英樹著 「精神障害者の地域生活支援—統合的モデルとコミュニティソーシャルワーク」 中央法規
- 3: 岡村正幸著 「まちづくりの中の精神保健福祉」 高菅出版
- 4: 秋元波留夫 「精神障害者の医療と人権」 ぶどう社
- 5: 林宗義 「分裂病は治るか」 弘文堂
- 6: 「我が国の精神保健福祉」

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 山本 耕平

講義内容・テーマ

この講義では、精神病患者および精神障害者の人権を擁護する働き手となって行く際に必要な理論をとりあげる。なかでも、精神病発症時の医療への導入、入院時の人権保障さらに「生き、働き、集う」生活と地域の創造、本人と家族の関わりをどう考えるかにつき講義を進める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1. 最終講義日もしくは統一補講日に当事者参加の講義を実施するため、必ず参加すること。
2. 欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
 - * 日常点評価
- 集団議論への参加状況とレポートを総合的に判断する。

講義スケジュール

1. 権利擁護の担い手としてのPSW
2. 受療への導入およびアクセスについて
 - ・精神科救急、法23条の問題性、法34条と人権等
3. 入院と人権、入院加中のいくつかの事件と人権
4. 地域ケアとPSW
 - ・精神障害を持つ人、なんらかのトラウマを持つ人、
 - ・青年期精神保健上の課題を持つ人

テキスト

特に定めないが、適宜講義資料を配布する。適宜参照文献を紹介する。

参考書

1. 国立法律家委員会編 精神障害患者の人権 - 国際法律家委員会レポート - 明石書店
2. 季刊Review 精神障害者社会復帰促進センター
3. 倉本英彦編著 社会的ひきこもりへの援助 ほんの森出版
4. 山本耕平編著 助走、ひきこもりから クリエイトかもがわ

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 山本 耕平

講義内容・テーマ

精神保健福祉の分野で、精神病患者および精神障害者や精神保健福祉上の切実な要求を持つ人の人権を保障する働き手となる際に必要な障害者観や実践観を学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

1. 講義は、事例検討により進めるため積極的に論議に参加すること。
2. 最終講義日もしくは統一補講日に当事者参加の講義を行なうため、必ず参加すること。
3. 欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
 - * 日常点評価
- 集団議論への参加状況とレポートを総合的に判断する。

講義スケジュール

1. 精神障害者の人権侵害状況とその背景
2. 精神病発症時の支援と受療導入支援
 - とりわけ、危機介入、精神科救急について -
3. 入院治療と人権保障
4. 地域ケアと専門家
 - ・精神障害を持つ人、なんらかのトラウマを持つ人
 - ・青年期精神保健上の課題を持つ人 を対象に

テキスト参考書

1. 国立法律家委員会編 精神障害者の人権 - 国際法律家委員会レポート - 明石書店
2. 季刊 Review 精神障害者社会復帰促進センター
3. 倉本英彦編著 社会的ひきこもりへの援助 ほんの森出版
4. 山本耕平編著 助走、ひきこもりから クリエイトかもがわ

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

精神リハビリテーション学 S
リハビリテーション論 S

12419

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 2以上
担当教員 大山 博史

講義内容・テーマ

精神障害者のためのリハビリテーションについて、その基礎と臨床を学ぶ。
本講では、精神科リハビリテーションの概念と構成について説明する。関連する精神医学や障害学の基本的知識を整理しながら、精神障害者のリハビリテーションについて検討を進める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

精神保健福祉士国家試験受験資格において必要とされる専門科目として履修する者は、精神リハビリテーション学 Sと併せて履修することが必要である。

さらに実践的な基礎知識の習得を目指す者は、精神リハビリテーション学 Sと併せて受講することが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価
筆記試験を主体とし、日常点評価を加味した総合的評価

講義スケジュール

- | | |
|-----------|--|
| 第1 - 5回 | 1. 精神医学と障害学の基礎
1) 精神障害の成因と分類
2) 精神分裂病にみる症状と障害 |
| 第6 - 10回 | 2. 精神科リハビリテーションの概念
1) リハビリテーションの概念と歴史
2) リハビリテーションの理念、意義と基本原則
3) 精神科リハビリテーションの概念
4) 精神科リハビリテーションの理念と意義
5) 精神科リハビリテーションの基本原則
6) わが国および諸外国の精神科リハビリテーションの現状 |
| 第11 - 13回 | 3. 精神科リハビリテーションの構成(その1)
1) 精神科リハビリテーションの対象
2) 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割 |
| 第14回 | まとめ・補足 |
| 第15回 | 試験日(予定) |

テキスト

改訂 精神保健福祉士養成セミナー / 第3巻 精神科リハビリテーション学、編集 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会、へるす出版。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 大山 博史

講義内容・テーマ

精神障害者のためのリハビリテーションについて、その基礎と臨床を学ぶ。
本講では、精神科リハビリテーションのプロセスおよび臨床的技法、ならびに精神障害者のリハビリテーションにおける連携について説明する。関連する精神医学や障害学の基本的知識を整理しながら、精神障害者のリハビリテーションについて検討を進める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

精神リハビリテーション学 Sの講義内容と同程度の基本的知識を前提として本講の授業を進めるため、精神リハビリテーション学 Sと併せて受講することが望ましい。

精神保健福祉士国家試験受験資格における専門科目として履修する者は、精神リハビリテーション学 Sと併せて履修することが必要である。

評価方法・基準

* 日常点評価

筆記試験を主体とし、日常点評価を加味した総合的評価

講義スケジュール

- | | |
|-----------|--|
| 第1 - 4回 | 1. 精神科リハビリテーションの構成(その2)
1) 精神科リハビリテーションにかかわる専門職との連携
2) 精神科リハビリテーションの施設 |
| 第5 - 10回 | 2. 精神科リハビリテーションのプロセスと技術
1) リハビリテーション計画
2) アプローチの方法
3) リハビリテーション技法 |
| 第11 - 12回 | 3. 精神科リハビリテーションにおける連携と統合
1) 地域リハビリテーション
2) 職業リハビリテーション |
| 第13 - 14回 | 4. 精神科リハビリテーションの関連領域
1) 精神科救急医療、身体合併症医療などとの関連
2) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション
3) 精神保健福祉施策 |
| 第15回 | 試験日(予定) |

テキスト

改訂 精神保健福祉士養成セミナー / 第3巻 精神科リハビリテーション学 編集 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会、へるす出版。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 鶴田 尚美

講義内容・テーマ

畜産・動物実験など、動物の扱いに関する倫理的問題は、私たちの日常生活に広く関わっており、欧米では活発に議論されている。

この授業では、この問題についての哲学的な基礎知識と、批判的かつ論理的な思考方法を身につけることを目標とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

*試験に代わるレポートとして実施

基本的に期末レポートで評価するが、授業時に提出してもらった感想・意見アンケートを平常点に含める。

講義スケジュール

以下のような問題を扱うが、詳しい内容や授業の進め方は第一回目の授業で説明する。

1.動物の道徳的地位に関する哲学史上の諸議論

2.現代の主要な哲学的議論

- ・リーガンの権利論
- ・シンガーの動物解放論
- ・反動物解放論者の見解

3.「動物の心」についての諸議論

4.個別問題

- 医学実験
- 工場畜産
- 動物園における展示
- コンパニオンアニマル

テキスト

テキストは使用しないが、参考文献を読んでおくことが望ましい。
必要な資料等は授業時に配布する。

参考書

デヴィッド・ドゥグラツィア、『動物の権利』、戸田清(訳)、岩波書店、2003年。
ピーター・シンガー(編)、『動物の権利』、戸田清(訳)、技術と人間、1986年。
ピーター・シンガー、『動物の解放』、戸田清(訳)、技術と人間、1988年。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

専門特殊講義 SA	12469
人間福祉特論 SA	
応用社会学特論 SA ~ 医療生協協定科目 医療と社会 ~	

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 篠崎 次男

講義内容・テーマ

1. テーマ 医療生活協同組合論

2. 趣旨 医療従事者も患者・住民も納得する医療の実現をめざすところみを、生活協同組合の医療事業とそれを支える組合員の活動をとおして検討する。

3. 授業の方法と構成

方法 講義を軸に必要なに応じて医療生協の医療機関や組合員活動等の見学を実施。

構成

1) 現代日本の医療問題

まず、日本の厚生労働省が、日本の医療と医療制度をどのように把握しているかについての検討をとおして、医療のなにが問題かの整理をする。

その対策としての社会保障構造改革が日本の医療をどこに導こうとしているかについて検討する。

特に、医療制度の「改正」と規制緩和にもとづく営利事業化の現状とその弊害について検討する。

2) 医療とは

医療とはを医療労働の分析をとおして整理する。

あるべき医療とは、について国民の医療要求の社会的特徴の整理をとおして、それにこたえうる在り方、というかたちで整理する。

3) 医療生活協同組合

医療は医療従事者と患者・住民の協同によってなされねばならない。両者の民主的関係の形成、医療への患者・住民参加の保障があって、協同は成りたつ。この視点と実践をはくむ保障として生活協同組合をとりあげ、医療生活協同組合の組織と事業・活動の分析をとおしてあるべき医療を展望する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

テキスト

レジュメ配布

参考書

医療の基礎理論(日野秀逸・旬報社)

患者の権利と良い医療(篠崎編著・自治体研究社)

医療生協の歴史と特徴(篠崎・日生協医療部会)

介護保険と住民運動(篠崎共著・新日本出版社)

構造改革と健康増進法(篠崎・ほう文社・03年5月) その他

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 森西 真弓

講義内容・テーマ

歌舞伎は現在も産業(興行)として成り立っている伝統芸能です。江戸時代の初期に成立し、四百年間その人気を持続させてきました。時代ごとにさまざまな演目、俳優、演技、演出、舞台機構を生み出し、流行風俗を派生させてきたのです。また、近世年間には能楽や文楽から、近代以降は新派や新劇からも養分を吸収し、芸能としての発展を遂げていきました。本講義では、歌舞伎を多角的に取り上げ、エンターテインメントであると同時に演劇として尽きない魅力をもつ、日本の近世演劇の本質に迫ります。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

古典演劇はもちろん、現代演劇に関心のある学生にこそ、日本の伝統芸能に関する基本的な知識を身につけてもらいたいと思っています。広く芸能や演劇に興味のある学生の受講に期待します。

評価方法・基準

* 日常点評価

最終講義日に持ち込みなしの筆記試験(70点満点)を行います。あとの30点は受講態度(出席回数、遅刻・私語の有無など)で評価します。

講義スケジュール

- 第1回 ガイダンス 伝統芸能の概念と歌舞伎の位置
- 第2回 歌舞伎の誕生から野郎歌舞伎の成立まで
- 第3回 元禄歌舞伎の特色と女形芸
- 第4回 劇場の整備と舞台機構の進歩
- 第5回 名門の形成と役柄の分化
- 第6回 演目の分類と外題の趣向
- 第7回 文楽との交流と上方歌舞伎
- 第8回 能楽の摂取と歌舞伎舞踊
- 第9回 作品鑑賞(ビデオ視聴)
- 第10回 化政年間の歌舞伎と怪談物
- 第11回 幕末・明治の歌舞伎と演劇改良
- 第12回 新派との相克と明治後期の歌舞伎
- 第13回 新劇運動と大正の歌舞伎
- 第14回 現代の歌舞伎
- 第15回 筆記試験

テキスト

『芝居絵に見る江戸・明治の歌舞伎』小学館 早稲田大学演劇博物館編(1600円+税)

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

専門特殊講義 SA	14972
人間福祉特論 SB	
応用社会学特論 SB	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 両角 正子

講義内容・テーマ

「すべての子どもに豊かな育ちを」保障するために、今日様々な分野で子育て支援が行われている。乳幼児期の障害の早期発見に続く早期療育もその一分野である。育てにくい子を育てていかなければならない親への援助と子どもの発達を保障するための具体的な内容と方法についてビデオやスライドを使って理解を深める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

障害そのものについての基礎知識や障害を持つ子どもが抱える発達上の困難については「障害児保育」で学ぶようにしてください。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
- * 日常点評価
- 出席とテスト

講義スケジュール

- 第1回 障害の発見と対応 障害の告知
- 第2回 療育の「場」の保障－子育てを仲間の中で
- 第3回 障害乳幼児施設の果たす役割
- 第4回 障害児施設と保育所・幼稚園の連携
- 第6回 保育所・幼稚園での統合保育の実践
- 第7回 障害児通園施設の実践 保育内容と方法
- 第8回 生活と発達
- 第9回 遊びと発達
- 第10回 行事の意義
- 第11回 就学にむけて
- 第12回 障害児のきょうだいへのサポート
- 第13回 保育者集団の形成
- 第14回 「発達相談員」の仕事
- 第15回 テスト

テキスト

「すべての子どもに豊かな育ちを」両角正子 かもがわ出版 生協で販売

参考書

テキスト「障害児保育」全国障害者問題研究会

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 2以上

担当教員 川口 晋一、坂田 謙司

講義内容・テーマ

本講座は、NHKの番組制作取材や技術の最前線で活躍している方々やOBを講師に迎え、主にニュース・ドラマやドキュメンタリーなどの個々の番組を取り上げながら、日頃それぞれの現場で何を考え追いつめているのか、その理念と現実について語ってもらう。そして、こうしたメディアの最前線の多角的な紹介、多様なメディアから噴出するさまざまな情報を主体的に読み解き、また参加する能力を養うことを目的としている。

なお、この講座はNHK京都局の企画にもとづいて、キャンパスプラザ京都(大学コンソーシアム京都)において行われる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

2回生以上受講可

(産業社会学部生は専門特殊講義 SA、他学部生・他大学生は大学コンソーシアム京都科目として受講する)

評価方法・基準

* 日常点評価

講義時に提出するレポート等により評価を行う。

講義スケジュール

2004年度授業スケジュールは下記の通りとなっている

(変更・交替が生じる可能性がある)

4月10日(土) 長屋龍人/メディアプロデューサー

【テーマ】テレビ50年・メディアの読み方

4月17日(土) 中谷日出/NHK解説委員

【テーマ】デジタル時代の映像表現

4月24日(土) 岩崎真也/京都局ディレクター

【テーマ】「おーい、ニッポン」はこうして作られた

「番組企画書」の作成についてお知らせ

5月8日(土) 嘉悦登/大阪局文化部ディレクター

【テーマ】「その時歴史は動いた」制作ノート

5月15日(土) 今井義典/NHK解説委員長

【テーマ】国際ニュースの読み方

5月22日(土) 牟田俊大/情報番組チーフカメラマン

【テーマ】自然番組制作秘話

「番組企画書」提出締め切り(予定)

6月5日(土) 光井正人/京都放送局長

【テーマ】地域の中のNHK・その役割

「番組企画書」選考結果発表

6月12日(土) 岩崎真也・嘉悦登

【双方向授業】企画立案とプレゼンテーション(3・4限連続)

6月26日(土) 海老原史/京都局ニュースデスク

【テーマ】ニュース取材の最前線

7月3日(土) 国谷裕子/NHKキャスター

【テーマ】テレビキャスターの伝えること

7月10日(土) 鬼頭春樹/スペシャル番組エグゼクティブ・プロデューサー

【テーマ】大型企画・NHKスペシャル 新シルクロード

7月17日(土) 海老沢勝二/NHK会長

【テーマ】地上波デジタル時代のNHK

テキスト

指定しない。

参考書

指定しない。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

NHK <http://www.nhk.or.jp>

NHK京都局 <http://www.nhk.or.jp/kyoto/>

その他

キャンパスプラザ京都にて授業を行う。

1ないし2回は授業時間を延長して行う場合がある。

専門特殊講義 SB

11166

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 齋藤 喬

講義内容・テーマ

テーマ:21世紀の世界とジャーナリズム

講義内容:イラク戦争とその後の戦後復興をめぐって、米英とドイツ、フランス、ロシアが対立、その間を縫うように多発するテロ事件など世界は混迷を深めている。アジアに目を転じて中国の経済発展に伴う階層の分裂、北朝鮮の核問題、各国で猛威を振るう鳥インフルエンザなど多難な問題が山積みしている。日本でも自衛隊イラク復興支援部隊をめぐって国民の意見は分裂、マスコミの対応にも違いが大きくなりはじめた。この世界の現在と未来をどう読み解くのか、読売テレビと読売新聞のリーダーと第一線の記者らが講義する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講対象者:立命館全学部2年生以上の希望者。定員600人、オーバーした場合は抽選する。マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースに興味を持って見ている人が対象。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

成績の評価:授業が終了した段階で提出してもらったアンケート用紙への回答を日常点として評価、全講義終了時、レポートを出題、2000時程度で作成してもらい、講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行う。

講義スケジュール

テキスト

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その他

専門特殊講義 SC～日本音楽著作権協会寄附講座「コンテンツ産業論 - クリエイティブな現場からコンテンツのプロデュースを考える -」 15772

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 2回生

担当教員 功刀(くぬぎ) 良吉、木田 融男、宮下 晋吉

講義内容・テーマ

わが国の音楽文化は着実な広がりを見せている。レコード産業の長期低迷というハンディを抱えながら、コンテンツをパッケージとしてだけでなく、新しいメディアの登場に合わせて種々の使い回しが研究され具体化されている。本講座においては、日ごろこころの琴線に触れる音楽を創造しプロモートするために情熱を注ぐ現場のかたがたの貴重な話を聴講しつつ、クリエイティブの本質を学ぶ。産業社会学部での開講という趣旨に則り、音楽著作権だけにこだわらず、音楽文化全般についての知識を得たい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期は音楽コンテンツに特化して講師を依頼した。各講師は各回完結でお話しいただくので毎回の出席点を重視する。講師との対話の時間も十分に取るので、意見交換・質問等は講義時間内に回答を得ること。

評価方法・基準

* 日常点評価

講義スケジュール

- 4 / 10 開 講(総論)
- 4 / 17 テーマ:プロデューサーとは何か? - 音楽制作における役割の変容について -
講 師:カレント・ファクトリー代表 須藤 晃 氏
- 4 / 24 テーマ:メディアの変化とコンテンツ
講 師:247ミュージック代表取締役 丸山茂雄 氏
- 5 / 1 テーマ:2004 音楽産業(レコード・ビジネス)の現状と課題 流通の現場から
講 師:J E U G I A代表取締役会長 田中義雄 氏
- 5 / 8 テーマ:日本アニメーションの成功要因とその将来性
講 師:アニプレックス取締役会長 白川隆三 氏
- 5 / 15 テーマ:コンテンツの流通促進と著作権管理事業
講 師:(社)日本音楽著作権協会(JASRAC)企画部部長 北田 暢也 氏
- 5 / 22 中間レポート
- 6 / 5 テーマ:プロデュース感覚
講 師:酒井プロデュースオフィス代表 酒井政利 氏
- 6 / 12 テーマ:ハイテク犯罪の現状について
講 師:京都府警察本部生活安全部生活安全企画課
ハイテク犯罪対策室長 白石 喜一 氏
- 6 / 26 テーマ:音楽業界の未来構造
講 師:R & C ジャパン代表取締役社長 橋爪健康 氏
- 7 / 3 テーマ:東南アジア音楽産業の特性とJ-POP人気の現況
講 師:反畑誠一事務所 代表 反畑 誠一 氏
- 7 / 10 テーマ:人の心が人を動かす
講 師:株式会社 金子洋明事務所代表取締役 金子 洋明 氏
- 7 / 17 総括・最終レポート

* 講義のテーマ、順序等については適宜変更されることがあります。

テキスト

なし

参考書

なし

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

なし

その他

特になし

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 2回生

担当教員 功刀(くぬぎ) 良吉、増田 幸子

講義内容・テーマ

後期は、音楽を中心と捉えながらも、テレビ・ラジオ・映画・出版等のメディアと音楽との関係を中心に講義を進める。産業社会学部で開講する趣旨に則り、音楽著作権を法的に研究するだけでなく、各産業企業それぞれの世界でいま活躍されているかたがた、これまでに豊富な経験をお持ちのかたがたの up-to-date で trendyな 話の中から「創造」に関しての喜怒哀楽をも学ぶ講座としたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

音楽を含むメディア全般に関心のある人、好奇心旺盛な人、柔軟な思考方法を持っている人持ちたいと思っている人…の受講を望む。各回完結で外部講師の講義が中心となるので毎回の出席を受講条件の大きなポイントとする。

評価方法・基準

* 日常点評価

講義スケジュール

- | | |
|---------|--|
| 10 / 2 | 開 講オリエンテーション |
| 10 / 9 | テーマ:音楽業界における著作権の将来性について
講 師:青山学院 常務理事 半田 正夫 氏 |
| 10 / 23 | テーマ:自由と民主主義と著作権 「法制」「契約」に共通する日本人の問題
講 師:文部科学省スポーツ・青少年局 企画・体育課長 岡本 薫 氏 |
| 10 / 30 | テーマ:タレントマネジメントから何が生まれるか
講 師:吉本興業株式会社
取締役制作営業統括本部 本部長 大崎 洋 氏 |
| 11 / 6 | テーマ:我が国出版界の現況と課題
講 師:社団法人 日本書籍出版協会 相談役 五味 俊和 氏 |
| 11 / 13 | テーマ:産業としての大衆音楽を考える
講 師:株式会社 110番舎音楽出版 もず 唱平 氏(作詞家) |
| 11 / 20 | 中間レポート |
| 11 / 27 | テーマ:カラオケの功罪
講 師:株式会社 第一興商 執行役員 山本 裕治 氏 |
| 12 / 4 | テーマ:コンテンツビジネスと著作権
講 師:社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会
専務理事 事務局長 久保田 裕 氏 |
| 12 / 11 | テーマ:音楽の力～音楽ってなんだ？
講 師:オフィスレインボウ 代表 湯川 れい子 氏(作詞家・音楽評論家) |
| 12 / 18 | テーマ:「創刊男」の仕事術(しゃべり編) 「不のつく日本語」を求めて
講 師:株式会社あそぶとまなぶ 代表取締役 くらた まなぶ 氏 |
| 1 / 8 | テーマ:音楽感性の2分(中高年と若者)はなぜ起ってきたのか 歌とメロディーと地方文化
講 師:立命館大学産業社会学部教授 木津川 計 氏 |
| 1 / 15 | 総括・最終レポート |

テキスト

なし

参考書

なし

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

なし

その他

なし

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 種子田 穰

講義内容・テーマ

「21世紀のプロスポーツ・ビジネス」

いままでもなくプロスポーツ・ビジネスは、スポーツ・ビジネスの1つの大きな柱である。NFLは、最近のアメリカでの人気度調査によれば、アマチュアスポーツを含む多くのスポーツのうち、NFL、MLB、NBAが人気の2分の1を占め、そのうちの2分の1をNFLが占めるといふ、掛け値なしに世界一のスポーツ・ビジネスを展開するプロスポーツ組織である。本講は、NFLの優れたスポーツ・ビジネスをケースとして学ぶことを通じ、今後のプロスポーツ・ビジネスのあり方を考えることを課題とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

プロスポーツ・ビジネスに関心を持っていることが望ましい。テキストに加え、パワーポイントを用いて講義を行うので出席を心掛けること。また、社会的常識を備えた態度で講義に出席すること。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

中間テストと期末テスト(もしくは試験に代わるレポート)の成績による。

講義スケジュール

- 第1回 はじめに
- 第2回 アメリカのプロスポーツビジネス
- 第3回 NFLの歴史
- 第4回 映像で見るNFL
- 第5回 「NFLモデル」 フィロソフィー・組織・システム
- 第6回 チーム:NY Giants & NY Jets
- 第7回 ブランド構築 / 中間レポート
- 第8回 マーケティング戦略
- 第9回 メディア戦略
- 第10回 メディア戦略
- 第11回 国際戦略 / NFLヨーロッパ・NFLFL
- 第12回 日本でのNFL
- 第13回 日本でのNFL
- 第14回 おわりに
- 第15回 (予備日)

テキスト

種子田 穰 『史上最も成功したスポーツビジネス』 毎日新聞社

参考書

特に指定しない。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

参考になるWWWページ / Internet Website(s) related to the course

<http://www.nfl.com/><http://www.nfljapan.co.jp><http://allabout.co.jp/sports/sportsbusiness/>

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 嘉納 新

講義内容・テーマ

社会の大きな変化と多メディア化の進展ではっきりしてきた「苦闘する新聞業界」「スリムに変容する新聞企業」「多角化する新聞メディアグループ」を大テーマに、現状を立体的に解説していく中で、これからのジャーナリズム企業の行方を探る。「情報の質と多様性と深み」を生命線としている新聞ジャーナリズムが、厳しい変化の時代に耐え抜いて輝きを増すために今何が求められるか、を根本的な問題意識に講義をする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

数回おきに講義をやや早めに終えてミニレポートを課し、回収します。その中で出された疑問などはできるだけ次週に答えます。

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
 - * 日常点評価
- ミニレポートも4割ぐらいのウエートを置きます。

講義スケジュール

1. 日本と世界の新聞メディアグループ = 2回
 2. 新聞・電波メディアグループの大競争の行方 = 数回
 3. インターネットや携帯電話との相関関係 = 数回
 4. 電子新聞の可能性 = 数回
 5. 種々のミニコミ紙やフリーペーパーの挑戦
 6. 活字離れと閲読率向上の取り組み
 7. スリム化・ハイテク化する新聞社と「情報の質」 = 数回
 8. 今ジャーナリズムとしての新聞が守り育てるべきもの = 最終回
 9. その他
- (ゲスト講師も1~2人予定)

テキスト

必要があれば第1回講義の中で紹介

参考書

必要があれば第1回講義の中で紹介

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

第1回講義の中で紹介

その他

専門特殊講義 SA	12354
人間福祉特論 SC	
応用社会学特論 SC	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 黒田 学

講義内容・テーマ

「アジア太平洋地域の障害者問題～ベトナムの障害者問題を通じて障害者の権利、福祉・教育を考える」

本講義では、アジア太平洋地域の発展途上諸国における障害者問題について、ベトナムの障害者問題を通じて障害者の権利、福祉・教育を考え、検討する。発展途上国の障害者問題は福祉・教育施策の遅れ、戦争と貧困により様々な課題を抱えている。アジア太平洋障害者の新十年(2003-2012年)の意義と障害者施策の動向を踏まえ検討することとする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日常から発展途上諸国の障害者問題に関心を持って頂きたい。単に出席するのではなく、積極的な受講を望む。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

レポート(70%)および平常点(小レポート、30%)による評価。

講義スケジュール

第1～3回

はじめに

第1章 発展途上国の人権保障と社会問題(戦争と貧困、福祉課題)
～ユニセフ、UNDP、世界銀行など国際機関の統計、資料を通じて

第4～7回

第2章 アジア太平洋障害者の新十年(2003-2012年)の意義と障害者施策の動向

1) アジア太平洋障害者の十年から新十年へ

2) びわこミレニアムフレームワーク

3) 中国、タイなど各国にみる障害者施策の現状

第8～14回

第3章 ベトナムの障害者問題

1) ベトナムの障害者福祉と教育法制度

2) 障害者の生活実態と福祉

3) ベトナム戦争(枯葉剤散布)と障害者

4) 専門家養成の課題

第15回

まとめ

テキスト

黒田学他編『胎動するベトナムの教育と福祉』文理閣(生協にて販売)

参考書

仲村優一他『世界の社会福祉 3アジア』旬報社、仲村優一他『世界の社会福祉年鑑2002』『同 2003』旬報社、広井良典他『アジアの社会保障』東京大学出版会

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

財団法人 日本障害者リハビリテーション協会 <http://www.jsrpd.jp/>

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 山本 隆

講義内容・テーマ

この授業では、京都市における自治体行政実務の最前線を学生たちに紹介する。
現場で陣頭指揮をとっている各局課長たちが講師となり、リレー講義を行う。この授業は、京都市と大学がコラボレートしたモデル事業である。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

行政職員の仕事の中身を臨場感を伴って味わうことができます。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
* 日常点評価
出席点および試験に代わるレポート課題の合計で採点します。

講義スケジュール

- 4 / 15 テーマ:総論1「京都市の総合計画と政策評価について」
講 師:総合企画局政策推進室政策企画課 担当課長 村上 圭子 氏
内 容:京都市の総合計画である、21世紀の京都のまちづくりの方針を理念的に示す「京都市基本構想(グランドビジョン)」や、基本構想の具体化のために全市的観点から取り組む主要な政策を示す「京都市基本計画」とその評価について論じる。
- 4 / 22 テーマ:「京都市の財政について」
講 師:理財局財務部主計課長 高城 順一 氏
内 容:京都市の財政状況について、地方財政制度や、京都市の予算、決算に基づき論じる。
- 5 / 6 テーマ:「京都市の市政改革について」
講 師:総務局総務部行政改革課長 林 建志 氏
内 容:都市の市政改革(例えば行政評価システムの構築、外郭団体改革、予算編成システム改革、PFIや民間委託など)の取組をできる限り具体例を用いて論じる。
- 5 / 13 テーマ:「京都市における地球温暖化対策について」
講 師:環境局環境政策部地球環境政策課長 柴山 薫 氏
内 容:地球温暖化問題とそれに関する京都市の取組について論じる。
- 5 / 20 テーマ:「京都市の指定・登録文化財について」
講 師:文化市民局文化財保護課長 石 了 氏
内 容:京都市の歴史や文化、自然を理解するうえで重要となる文化財の保護と活用について、現状と課題を論じる。
- 5 / 27 テーマ:「京都市の産業観光振興について」
講 師:産業観光局商工部経済企画課長 糟谷 範子 氏
内 容:京都市における経済状況が依然として厳しい中、活力あふれるまちの実現を図るため、伝統産業から先端技術産業まで、農林業から観光産業までが相互にきめ細かく支えあう産業連関都市としての取組の現状と課題について論じる。
- 6 / 3 テーマ:「京都市における子育て支援施策について」
講 師:保健福祉局子育て支援部児童家庭課 担当課長 坪倉 きよ子 氏
内 容:京都市においては、「京都で子育てして良かった」と実感できる、子育て支援都市・京都の更なる充実に取り組んでいる。これから子育てをする大学生等に対し、次世代育成支援対策推進法に伴う自治体行動計画の策定過程、ひとり親家庭対策、さらには虐待児童対策などを中心に、京都市の子育て支援策について論じる。
- 6 / 10 テーマ:「京都市の交通政策について」
講 師:都市計画局都市企画部交通政策課長 岡田 憲和 氏
内 容:京都市では、誰もが安全で快適に歩き、移動できる「歩くまち・京都」の実現を目指して、交通需要管理施策(TDM施策)を積極的に推進している。その具体的取組を紹介し、本市交通政策の現状と課題について論じる。
- 6 / 17 テーマ:「道路の正しい使い方」
講 師:建設局道路部道路管理課長 片岡 稔 氏
内 容:道路のあるべき姿(本来の目的)や、道路を使う(占有する)ことについての基礎知識と、京都市の看板等路上物件適正化事業について、置看板などの不法占有の事例を説明しながら論じる。

6 / 24 テーマ:「これからのまちづくり～区役所の役割について～」

講 師:山科区区民部企画総務課長 黒川 賢司 氏

内 容:平成13年1月に区民参加の中で策定された区の個性を生かし魅力ある地域づくりのための指針“山科区フロンティア計画 - 山科区基本計画 - ”の取組を踏まえながら,区役所が果たすべき役割や業務,体制について考える。

7 / 1 テーマ:「京都市教育行政における課題と展望～政令指定都市としての特質を中心に～」

講 師:教育委員会総務部企画課長 藤田 裕之 氏

内 容:教育改革が国家的課題として論じられる下で,常に学校現場の第一線と接しつつ,条件整備に責任を負う政令指定都市としての京都市教育行政の現状と今日的課題,さらに今後,地方分権が進展する中での課題や展望について論じる。

7 / 8 テーマ:「京都市の交通事業について」

講 師:交通局企画総務部総務課 担当課長 真下 清 氏

内 容:公営事業として,京都市民の足「市バス・地下鉄」を運営する,京都市の交通事業について論じる。

7 / 15 テーマ:シンポジウム

講 師:京都市副市長 高木 寿一 氏

*講義の内容,順序等については適宜変更されることがあります。

テキスト

毎回、レジュメおよび参考資料を配布する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 嘉納 新

講義内容・テーマ

「優れた記事」「良い紙面」について新聞ジャーナリズムの日々の取り組みを同時進行的に解説・分析していくことを通じ、全国紙・地方紙の紙面を、バランスのとれた視点からより広く深く理解し、公正な批判のできる読解力まで養うことが最終的なねらい。とりわけ内外の大ニュースや、注目事件・トピック記事などを具体的に題材として取り上げ、新聞社内での取り組みや論議を含めて、できるだけタイムリーに紹介する。その中で、受け手(読者)の立場から見てどう評価すべきか、さらなる工夫・改善が必要かどうかなどについても提起していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

数回おきに講義をやや早めに終えてミニレポートを課し、回収します。その中で出された疑問などはできるだけ次週に答えます。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

レポートには6割、出席チェックを兼ねたミニレポートに4割ぐらいのウエートを置いて評価します。レポートでは理解度と内容の説得力も重視します。

講義スケジュール

1. 「評価される紙面、まずい紙面」「読ませる記事、欠陥のある記事」とは何か。事例紹介と新聞社内に置ける日々の論議の概略 = 初回
2. イラク派遣自衛隊を含め4月時点で焦点となっている新聞報道について = 3回程度
3. 事件報道(人権報道や、紙面上の匿名・実名問題も含む)様々な論議の現状と改革への取り組み = 数回
4. ヒューマン報道(暗い時代の「明るいニュース」発掘など) = 数回
5. 国益尊重と政権批判の相関関係(「提言報道」の読み方、「健全な批判記事」の存在意義など) = 数回
6. 記事・紙面をわかりやすくする取り組み(ビジュアル・インフォメーションも) = 数回
7. その他各紙の注目の取り組み(講師は朝日新聞社に所属しているが、全国紙・地方紙を問わず他紙の優れた取り組みも客観的に評価し取り上げていきたい) = 数回

テキスト

ありません

参考書

必要があれば初回の講義の中で紹介

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

初回の講義の中で紹介

その他

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 小笠 毅

講義内容・テーマ

心身に障害や困難のある子どもや若者は多い。日本と北欧諸国なかでもスウェーデンの障害児の就学・就労・就生活の在り方や権利環境を比較し、これからの日本の状況を考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

スウェーデン大使館の協力で英文の資料を用意するので辞書が必要。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

レポートと出席状況を中心に評価。なおレポートは4000字以上。

講義スケジュール

- 第1回 就学・就労・就生活とは
- 2回 就学時健診
- 3回 教科教育
- 4回 統合教育
- 5回 子どもの権利条約
- 6回 サラマンカ宣言
- 7回 地方分権化
- 8回 障害者雇用
- 9回 法定雇用率・雇用納付金
- 10回 スウェーデンの障害者雇用
- 11回 ノーマライゼーション
- 12回 家族問題
- 13回 親なきあと
- 14回 まとめ
- 15回 質問に答えて

テキスト

特になし。なお、私の著書が「岩波」や「日評」「新評論」で刊行。

参考書

拙著『ハンディをもつ若者の進路』『ハンドブック子どもの権利条約』他(岩波書店刊)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 藤腹 明子

講義内容・テーマ

私たちは一生の間に必ず人の死を看取り、そしていつの日にか、自身もまた誰かに看取られることになります。よりよい看取りを実践し、また自分らしい最期を迎えるためにもっとも大切なことは、一人ひとりが生死観を育てていくことだと考えます。

本講義では、生死観を育むことの意義がわかるとともに、看取り(ターミナルケア)を実践するうえで必要と思われる基本的知識、技術についての理解を深めることを目指しています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

夏期集中講義です。休まないで受講してくださることを希望いたします。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

授業への参加状況、最終レポート等で評価します。

講義スケジュール

集中講義期間中に、下記の項目について取り上げます。

1. ターミナルケアに関する基本的理念・用語
2. 看取りの心得と作法17か条
3. ターミナルケアと生死観
4. 死に向かう人のニーズと配慮の視点
5. 病名・病状・予後の説明
6. ターミナルケアのステージ
7. ターミナルケアにおけるスピリチュアルケア
8. 危篤・臨終・死後処置時の心得と作法
9. 取られるための心得と作法
10. 人が死んでから墓に入るまで
11. がん患者さんからのメッセージ(ゲストの講義、ゲストと受講者とのディスカッション)

テキスト

特に定めませんが、可能な方は参考書の1、『ターミナルケア』をご準備ください。

参考書

1. 柏木哲夫・藤腹明子編集、系統看護学講座別巻10 ターミナルケア、医学書院、2200円
2. 藤腹明子、仏教と看護、三輪書店、2700円
3. 藤腹明子他、看取りの心得と作法、医学書院、2000円

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

大衆表現論 S
大衆芸能論 S

12453

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 木津川 計

講義内容・テーマ

地上はあらゆる<表現>のつばです。私たちは何事かを表現し、受け手の反応を待っています。芸能もまた表現形式の一つです。時代により、ジャンルにより、その表現内容は異なります。この「大衆表現論」は、もっぱら大衆芸能を見据え、その表現の種々相を探ります。また、それ以外の文化の諸相をも探りながら広く大衆文化の特質と問題点を明らかにします。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語するために教室へ入る学生は受講しないでください。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
レポートです。(聴講していなければ書けません。)

講義スケジュール

- 1、大衆表現の位相 前期概要
- 2、都市の表現 猥雑都市か含羞都市か
- 3、笑い時代 笑いのうねりの起こるとき
- 4、漫才と松竹新喜劇の表現 何を笑ってきたのか
- 5、落語の表現 何を笑うのか
- 6、歌の表現 歌はどう変わってきたのか
- 7、歌の表現 しみる歌の条件
- 8、ことばの表現 化粧することば
- 9、ことばの表現 揺れる日本語
- 11、詩歌の表現 何を擁護するのか
- 10、語りの表現 美しい日本語のために
- 12、愛の表現 慕情とは何か
- 13、愛の表現 水上勉と「寅さん」
- 14、文科の表現・理科の表現 めざすべき人間像

テキスト

ありません。毎回プリントを配ります。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

多文化共生社会論 S 文化論 S	14760
---------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 小澤 亘

講義内容・テーマ

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。
本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、
いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、
「生き方の多様性 = 豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに
考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

レポート提出を重視する。

評価方法・基準

* 日常点評価
試験結果と授業中に何回か作成してもらったレポートを総合して評価する。

講義スケジュール

イントロダクション

1. 映画「12人の怒れる男達」の視聴
2. 文化的アイデンティティーの自己対象化: "Who am I ?" TESTの実施

文化摩擦問題のケーススタディ:

3. イスラムのヴェール事件: 事件の経過とその背景
4. イスラム・ヴェール事件: 社会学的分析
5. 差別にかんする社会学: その1
6. 差別にかんする社会学: その2
7. 「近代国民国家(ネーション・ステイト)」形成の論理とその本質

多文化共生社会に向けた胎動

8. 少数者文化尊重の運動の発祥
9. カナダにおける多文化主義の形成
10. 新屋英子「シンセタリオン」について
11. ゲスト招聘: 新屋英子さん(あるいは、エルファ関係者)
12. 日本におけるエスニック問題
13. 外国人政治参加の新たな模索: ビデオ「外国人市民会議誕生」
14. 多文化社会とボランティア: ビデオ「多文化社会の風」

まとめ

15. 日本における多文化共生社会の可能性: ゲスト招聘(多文化共生センター京都関係者)
およびクラスディスカッション

テキスト

使用しない。

参考書

参考文献は、授業中に提示していくが、とりあえず、以下の2冊を挙げておく。
石井・山内編「日本人と多文化主義」山川出版、1999年
田村太郎著「多民族共生社会ニッポンとボランティア活動」明石書店、2000年

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 奥川 櫻豊彦

講義内容・テーマ

人びとは自文化の枠組みに沿って物事の処理方法を自然に身につけ、無意識のうちに自文化のモードにしたがって時間、空間の概念を培っている。同時に、人びとは母語として身につけた特定言語において、その言語固有のコミュニケーションスタイルや非言語コミュニケーションスタイルが当然のモードであると暗黙のうちに認識し、さりとて疑問に思わない。

しかし、異文化と実際に接触する過程において、当然のモードとして身につけた内容がさまざまなかたちでアレルギー反応を起こすのを経験してはじめて『はてな?』と、自問自答を試みる。このような問題意識に立ち、映像文化やスポーツ文化などを通し、エドワード・T・ホールによる文化コンテクスト論を軸に韓国、中国、台湾、ドイツ、アメリカとの比較文化分析を試みる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

第1回目の授業で、「受講生データ」に記入し、提出すること。「文化比較のペーパー課題」を提出したけれども、口頭報告しない受講生は30%減となる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

1. 文化のコンテクスト論、時間と空間に関する概念構造までの範囲で中間テスト(30%)
2. 比較文化の分析に関するペーパー(30%) 締切日以降は受け付けない。
3. 期末試験40%

講義スケジュール

第1回 科目ガイダンス、担当教員の自己紹介、受講生データの記入

第2回 モノクロニック・ポリクロニックの時間概念

第3回 高コンテクスト・低コンテクスト文化の概念

第4回 高コンテクスト・低コンテクスト文化の概念(つづき)

第5回 空間概念の文化的差異

第6回 時間概念の文化的差異

第7回 中間テスト

第8回 ドイツからみた日本文化の七不思議

第9回 日本からみたドイツ文化の七不思議

第10回 韓国と日本の文化比較

第11回 中国と日本の文化比較

第12回 台湾と日本の文化比較

第13回 アメリカと日本の文化比較

「文化比較のペーパー課題」の提出日

第14回 ペーパー課題の口頭発表

第15回 ペーパー課題の口頭発表(つづき)

テキスト

1. エドワード・T・ホール他『かくれた差異』(メディアハウス出版会、1986年).
生協書籍部にて販売
2. 奥川櫻豊彦『文化のコンテクスト』『立命館産業社会論集』1994年(30巻3号).
希望者のみに教室にてプリント配布

参考書

尾関周二他編著『国際化時代に生きる日本人』(青木書店、1992年).

若林正文『台湾の台湾語人・中国語人・日本語人』(朝日選書、1997年).

関川夏央『ソウルの練習問題』(新潮文庫、1989年)

直塚玲子『欧米人が沈黙するとき』(大修館書店、1980年)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 高橋 伸一

講義内容・テーマ

講義の獲得目標は、受講生が地域社会についての確に理解し、地域社会の問題点や課題を解決する素養を習得することにおく。

授業の展開は、地域社会の歴史的展開を概観したうえで、現代の地域社会の特質や問題点について、情報化、グローバル化の視点から整理する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

地域社会を的確に理解するためには、グローバルな視野からローカルな事象に関心を示す必要がある。生活の個別化がすすむなかで、「住みよい地域とは何か」を身近なくらしから問いかけてほしい。

評価方法・基準

* 日常点評価

講義中に行う小テスト(30%)、レポート(20%)、最終試験(50%)で評価します。

講義スケジュール

- 第1回 地域社会とは何か
- 第2回 都市と農村
- 第3回 コミュニティ
- 第4回 地域社会の変化と問題
- 第5回 地域と産業
- 第6回 地域と住民
- 第7回 地域と行政
- 第8回 情報社会と地域 その1
- 第9回 情報社会と地域 その2
- 第10回 グローバル化と地域 その1
- 第11回 グローバル化と地域 その2
- 第12回 地域の再構築の課題 その1
- 第13回 地域の再構築の課題 その2
- 第14回 地域社会研究の動向
- 第15回 最終試験

テキスト

テキストは使用しない。
毎回、レジユメを配布する。

参考書

1. 布施鉄治他編著『現代日本の地域社会』青木書店、1983年
2. 阿部潔著『公共圏とコミュニケーション』ミネルヴァ書房、1998年
3. 庄司興吉編著『共生社会の文化戦略』梓出版社、1999年

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 津止 正敏

講義内容・テーマ

地域福祉とは何か。この一見単純な問いかけに一言で答える事はそれほど容易ではない。老人福祉法や児童福祉法などといった根拠法をもつ分野別福祉とは違ってその領域・対象確定が難しいこと、分野・領域というよりむしろ関連領域とのネットワークやシステム化、組織化といった方法論に特徴をもつこと、ボランティアなど制度を補完し、あるいは先導する市民の自主的活動により深くコミットすること、さらにはその活動を通して市民の福祉に対する価値観や態度、ひいては法制度など社会システムの変容すら課題とすること、などという地域福祉の特質がその理解をことさらに難しくしている要因かもしれない。そして、「地域福祉の推進」を柱にして2000年6月に成立した社会福祉法が新たな地域福祉理解を提起していることもその理解をより複雑にしている。この講義で現実の地域福祉プログラムの臨床研究を通して「地域福祉とは何か」に迫ってみようと思う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は、具体的な地域福祉活動の臨床研究を中心に展開するが、全体を通して「地域福祉とは何か」を問う講義とし、ゲストスピーカーも数回程度予定している。毎回簡単な感想/意見(コミュニケーションペーパー)を求め、可能な限り教員学生の双方向の授業実現に努めたい。毎回の出席が学びの達成に直結するよう進めていく。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
* 日常点評価
平常点(コミュニケーションペーパー、出席等)40%、小レポート30%、試験に替わるレポート30%、によって評価する。コミュニケーションペーパーを毎回の講義で活用していくので、積極的な発言・参加を求めたい。

講義スケジュール

1. イントロダクション - 地域福祉論スケッチ -
2. 地域福祉プログラムの臨床研究 - 在宅介護と地域福祉 -
3. 地域福祉プログラムの臨床研究 - 在宅介護と地域福祉2 -
4. 地域福祉プログラムの臨床研究 - 障害児放課後ケアと地域福祉 -
5. 地域福祉プログラムの臨床研究 - 障害児放課後ケアと地域福祉2 -
6. 地域福祉プログラムの臨床研究 - 子育て支援と地域福祉 -
7. 地域福祉プログラムの臨床研究 - 子育て支援と地域福祉2 -
8. 地域福祉プログラムの臨床研究 - ボランティアとコミュニティ -
9. 地域福祉プログラムの臨床研究 - ボランティアとコミュニティ2 -
10. 地域福祉の方法 - コミュニティワーク -
11. 地域福祉の方法 - コミュニティワーク2 -
12. 地域福祉の機関と担い手 - 社会福祉協議会 -
13. 地域福祉の機関と担い手 - 社会福祉施設 -
14. 地域福祉の機関と担い手 - 民生委員・専門職 -
15. まとめ - 地域福祉とは何か -

テキスト

特に指定はないが、関心ある者は、津止正敏他『子育てサークル共同のチカラ』(文理閣、2003年)、藤本文朗・津止正敏編『働きざかり 男が介護するとき』(文理閣、2003年)の学習を薦める。また、社会福祉士受験を予定しているものは該当テキスト自学自習すること。

参考書

藤本文朗・津止正敏編『働きざかり 男が介護するとき』文理閣、2003年、
津止正敏他編『子育てサークル共同のチカラ』文理閣、2003年

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

健康は誰もが関心のあることであり、人生の重要な資源である。この講義では、地域社会で暮らす人々 子どもも大人も、若者も高齢者も、男性も女性もすべて含んだすべての人々を視野にいれて、その人びとの健康を保持・増進するための理論と実践の基本的事項を受講者に提供したい。

この科目を終了した学生は、次のことができるよう期待されている。

- 1.健康、予防戦略、疾病モデル、優先順位づけ、などをふまえて、住民の健康に関して検討し、対策を議論できること、
- 2.日本の地域保健の組織、医療制度の現状をふまえて、住民の健康への関わり方について検討できること。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- 1) 授業はパワーポイント・プレゼンテーションを基本としてすすめる。原則としてスライドは授業の数日前にオンラインで提供されるので、授業で参照したい学生はそれぞれ印刷すること。原則として教室での配布物は、著作権の都合で印刷媒体で配布する必要があるものに限られる。
- 2) インターネット上の文書などを学習教材として用いるので、WWWの閲覧法を習得していること、またWWW閲覧のための環境を準備していることを前提とする。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
- * 日常点評価

定期試験60%、授業中に課せられるレポート40%、で評価する。レポート課題は授業の最初の方で提示され、学生は授業の進行に合わせて、レポート作成作業をすることが想定されている。

講義スケジュール

以下の内容を中心に学ぶ。

< 総論的事項 >

- ・健康、地域、地域保健の概念
 - ・健康問題を分析する視点
 - ・生態学的健康論、健康の規定要因
 - ・予防の戦略 1次・2次・3次予防、ポピュレーション戦略
 - ・感染症と非感染症、慢性疾患と急性疾患
 - ・地域健康分析 記述疫学と分析疫学
 - ・行動科学入門
 - ・健康づくり(ヘルス・プロモーション)、エンパワーメント、リテラシー、生活技能
 - ・地域の組織づくりと小集団活動
 - ・地域保健の組織 行政、非営利組織、企業など
 - ・ライフステージ別の健康課題の整理と対策
 - ・健康格差
- < 各論 >
- ・糖尿病など
 - ・自殺、うつなど
 - ・健康な生活習慣など
 - ・HIV感染症など

テキスト

授業の内容に応じて、重要文献を紹介する。

参考書

- 松田亮三他『健康づくりと支援環境』法律文化社。
『国民衛生の動向』(最新版)厚生統計協会。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

- 地域保健どっとネット(<http://www.chiiki-hoken.net/>)
厚生労働省(<http://www.nih.go.jp/eiken/index.html>)
国立健康・栄養研究所(<http://www.nih.go.jp/eiken/index.html>)
国立保健医療科学院(<http://www.niph.go.jp/>)

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 木津川 計

講義内容・テーマ

日本人の生活様式がすっかり洋風化されるに及んで、日本の伝統芸能も遠くなりました。食わず嫌いも生み出されました。この国のゆたかな伝統芸能を理解することは、日本人として必須の教養を高めることでもあります。折に触れ、ビデオやテープを用い、実演も交えた興味深い内容です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

私語するために教室へ入る学生は受講しないでください。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
レポートです。(聴講していないと書けません。)

講義スケジュール

1. 明治新派論 - 女の描かれ方と時代
2. 歌舞伎の魅力 - 「勸進帳」と荒事(ビデオ)
3. 歌舞伎の作られ方 - 「おさん茂兵衛」の境涯
4. 歌舞伎の醍醐味 - 「三人吉三廓初買」と「仮名手本忠臣蔵」の鑑賞(ビデオ)
5. 日本人の美意識 - 粹(いき)の構造
6. 文楽の魅力 - 歴史と構造(ビデオ)
7. 文楽の魅力 - 「艶容女舞衣」酒屋の段の鑑賞(ビデオ)
8. 狂言の魅力 - 歴史と特質「棒縛」の鑑賞(ビデオ)
9. 能の魅力 - 歴史と「船弁慶」の鑑賞
10. 日本人の身体表現 - 舞踊と舞踏の違い
11. 日本舞踊 - 西川右蝶・右菜さんの解説と実演
12. 伝統音楽(地歌) - 安田知博さんの解説と本学邦楽部員の演奏
13. 伝統と現代 - なぜ伝統を受け継ぐのか
14. 伝統芸能への接近回路 - 伝統文化は難しくない

テキスト

ありません。毎回プリントを配ります。

参考書

折にふれ紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 齋藤 真緒

講義内容・テーマ

本講義では、「社会的行為」、「社会化」、「アイデンティティ」、「ジェンダー」、「権力」、「階級」といった社会学の主要な概念を取り上げ、その概念の生成と変容の歴史を学びながら、社会学的なものを見方を獲得することを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ドイツ語文法についての基礎知識がある方が望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

平常点。レポートの提出を求める場合がある。

講義スケジュール

講義は輪読形式で進める。適宜、内容に関する解説・議論を行う。

なお講義の進め方としては、まず序章を読み、概念とは何かについて理解を深めた上で、各自の関心に即していくつかの章を取り上げる。

テキスト

Hermann Korte, Bernhard Schafers (Hrsg.), 2000, Einführung in Hauptbegriffe der Soziologie. Opladen: Leske+Budrich.

参考書

適宜講義の中で提示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 斎藤 真緒

講義内容・テーマ

グローバル化は、市場、国家、労働、家庭といったあらゆる社会領域に浸透している。
本講義では、ドイツの社会学者ウルリッヒ・ベックの現代社会論を手がかりとして、現代社会を読み解く分析視角について検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ドイツ語文法についての基礎知識がある方が望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価
平常点。レポートの提出を求める場合がある。

講義スケジュール

講義では、ベックのキーワードのひとつである「個人化Individualisierung」に注目し、その理論的な特徴について理解を深めた上で、ドイツで展開されている「個人化」をめぐる議論を通じて、現代社会の分析枠組みとしての有効性について検討する。
講義は輪読形式で進める。適宜、内容に関する解説・議論を行う。

テキスト

Ulrich Beck, Peter Sopp (Hrsg.), 1997, Individualisierung und Integration: Neue Konfliktlinien und neuer Integrationsmodus?, Opladen: Leske+Budrich

参考書

ウルリッヒ・ベック『世界リスク社会論 テロ、戦争、自然破壊』（平凡社、2003年）
ウルリッヒ・ベック『危険社会 新しい近代への道』（法政大学出版局、1998年）
ベック・ラッシュ・ギデنز『再帰的近代化 近現代における政治、伝統、美的原理』（而立書房、1997年）

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

都市政策論 S
都市政策論 NA
都市政策論 G

12438

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 リム・ボン

講義内容・テーマ

都市政策とは、われわれが日常生活の場で直面する種々の都市問題を解決するための社会工学的取り組みに他ならない。本講義では、主として京都市を事例としつつ、都市のグランドデザインと局所的な地域デザインとの相互関係を分析する。このような作業を通じて、都市政策における基本コンセプトの構築方法とそれを具現化するための技術的アプローチの体系のあり方を考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

フィールドワーク(取材)に基づいたレポート(文章ではなくイラストで)を提出していただきます。

レポートの採点にあたっては、具体性(30点)、緻密性(30点)、表現力(30点)、加算点(10点)という点数配分を行います。

講義スケジュール

- | | |
|------|----------------------------|
| 第1週 | 歴史都市の「超再生」 |
| 第2週 | モザイク模様の都市計画 |
| 第3週 | 歴史的町並みの保全と再生の具体策 |
| 第4週 | 町衆企業とコミュニティ |
| 第5週 | 被差別部落を発信源とした市民事業 |
| 第6週 | 被差別部落を発信源とした市民事業 |
| 第7週 | ニューヨーク最前線 - 都市再生とNPO - |
| 第8週 | リサーチ・1 |
| 第9週 | ニューヨーク最前線 - コモングラウンドの挑戦 - |
| 第10週 | ニューヨーク最前線 - ハーレムは蘇るか - |
| 第11週 | 都市の危機管理 - 9・11テロとグラウンドゼロ - |
| 第12週 | 都市の危機管理 - 阪神大震災と復興都市計画 - |
| 第13週 | 戦争と都市空間 - ベルリンの取り組み - |
| 第14週 | 戦争と都市空間 - バグダッドの教訓 - |
| 第15週 | リサーチ・2 |

テキスト

特に指定しません。授業中にプリント等を配る場合があります。

参考書

授業中に適宜紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 リム・ボン

講義内容・テーマ

古代から未来までの時間軸で都市の歴史の変遷過程を通時的に捉え、同時に、各時代断面ごとにみられる都市の地域間特性を共時的に概観する。誰もが同意できるような「都市の定義」というものは今もって確立してはいないが、本講義では、これまでの都市づくりの実践例とその背景にある諸学説とを学ぶ作業を通じて、われわれの身近にある都市の風俗や空間のコンテキストを解釈する能力を養うことを目的としている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教室で、時空を超えた世界旅行を楽しみましょう。映像をたくさん観ます。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

フィールドワーク(取材)に基づいたレポート(文章ではなくイラストで)を提出していただきます。

レポートの採点にあたっては、 具体性(30点)、 緻密性(30点)、 表現力(30点)、 加算点(10点)という点数配分を行います。

講義スケジュール

- 第1週 京都 - 歴史都市の光と影 - 以下、すべて講義と映像ですが、内容・順序は変更する場合があります。
- 第2週 京都 - 近代都市と伝統文化 -
- 第3週 京都 - 水上都市として京都 -
- 第4週 ニューヨーク - マンハッタンの歴史 -
- 第5週 ニューヨーク - 文化の最前線 -
- 第6週 ベルリンの歴史と地域開発
- 第7週 オスマンのパリ大改造
- 第8週 リサーチ・1
- 第9週 歴史都市・フィレンツェ
- 第10週 水上都市・ベネチア
- 第11週 古代ローマ
- 第12週 インドネシア・ジョグジャカルタ
- 第13週 バグダッド
- 第14週 北京の都市構造と地域開発
- 第15週 リサーチ・2

テキスト

特に指定しません。授業中にプリント等を配る場合があります。

参考書

授業中に適宜紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

日常性の社会学 S
社会病理学 S

14627

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 市井 吉興

講義内容・テーマ

C. W. ミルズが語った「社会学的想像力」という言葉がある。この言葉は、「熟知している自らの型にはまった日常生活を新たな目で見直すために、当たり前のことから離れてものごとを考える」ということである。本講義の目的は、社会学的想像力を駆使し、私たちの「日常」がどのように構成されているのかを「合理化」、「社会化」、「自由」をキーワードにして考察を試みることにある。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義内容は、実態の紹介ではなく、理論的考察をメインとする。それゆえに、可能であれば、事前に社会学史の基本的理解、なかでもマルクス、ヴェーバー、デュルケム、パーソンズに関する基本的知識を整理しておいて欲しい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

筆記試験：定期試験として実施。定期試験を最終的な評価とする。なお、進度に合わせて講義内で簡単なレポートや感想文の提出を求められることがある。当然のことながら、これらのレポートや感想文も評価の対象とする。

講義スケジュール

以下のテーマを15回の講義で考察したい(若干の変更の可能性あり)。
社会学と「日常」：なぜ「日常」が議論対象となるか？
「日常」とはなにか？：現代哲学からのアプローチ
パーソンズの社会学：グランドセオリーは「日常」をどのように議論したのか？
「マクドナルド化」する社会：マニュアル化する社会と「私」
ノルベルト・エリアスの社会学：合理化・社会化・自由の批判的考察
現代オランダ社会と社会学：合理化・社会化・自由の批判的考察
「Informalization(脱形式化)」の社会学：合理化・社会化・自由の批判的考察
「世間」とはなにか？：阿部謹也の「世間論」に対する批判的考察を試みる

テキスト

特定のテキストを使用せず、講義毎にレジュメを配布する。なお、講義においてVTR等の視聴覚教材を用いることもある。

参考書

ひとまず、以下のものを紹介するが、講義毎に改めて紹介する。
・ノルベルト・エリアス 赤井慧爾他訳『文明化の過程(上・下)』法政大学出版社。
・アラン・スウィングウッド 清野正義他訳『社会学思想小史』文理閣、1988年。
・ジョージ・リッツァ 正岡寛司監訳『マクドナルド化する社会』早稲田大学出版部、1999年。
・ジグムント・パウマン 奥井智之訳『社会学の考え方 - 日常生活の成り立ちを探る』HBJ出版局 1993年。
・阿部謹也『「世間」とは何か』講談社現代新書、1995年。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

日本経済論 S
現代経済論 S

12575

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 松葉 正文

講義内容・テーマ

現代日本経済分析をテーマとし、1990年以降のバブル崩壊不況における国民生活の諸相について、文字通りの「現局面」分析を行なう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本科目は、もちろん独立した科目であるが、隔年開講科目「現代経済論」と連結しておりその後半部分にあたる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験(又は、もし実施可能であれば第15週目試験)

講義スケジュール

- 1.はじめに 日本経済の概況
- 2.市民社会と企業社会
- 3.大企業体制の2類型
- 4.国家財政の動向
- 5.勤労者層の賃金構造
- 6.同上.労働諸条件
- 7.外国人労働者問題の現状
- 8.農民層の経済生活条件
- 9.中小企業経営の現状
- 10.国民の所得構成
- 11.同上.資産構成
- 12.社会保障の現状と問題点
- 13.住宅・土地問題
- 14.まとめ
- 15.試験

テキスト

なし、但し統計資料を中心としたレジュメを講義で配布する。

参考書

授業中に適時紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

乳幼児心理学 S
認知発達論 S

12532

授業開講期間 前期単位数 2配当回生 2以上担当教員 清水 民子講義内容・テーマ

テーマ「乳幼児発達への見取り図」

内容:出生から就学まで(0～6歳)とその前後を含む時期の発達について、主として発達心理学的研究方法とその知見にもとづいて概説する。

具体的な時期区分としては胎生期、乳児期、幼児期、児童(学童)期の呼称を用い、それぞれの時期の発達の特徴を述べる。ひきつづき、運動機能、認知機能と操作、感情と社会性、人格発達と生活様式など、領域別の発達について述べる。

さまざまな方法による研究資料にふれ、乳幼児期への関心を喚起したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準* 定期試験として実施
試験による。講義スケジュール

1. 乳幼児期のアウトラインと生涯発達における位置
2. 胎生期の発達
3. 新生児期の発達と生活
4. 乳児期前期の発達と生活
5. 乳児期後期の発達と生活
6. 幼児期前期の発達と生活
7. 幼児期の質的転換期
8. 幼児期後期の発達と生活
9. 運動機能の発達と動きの遊び
10. 手操作の発達と対象関係把握
11. 言語コミュニケーションと表現の発達
12. 感情と社会性の発達
13. 集団関係と遊び
14. 乳幼児期の人格形成と生活様式 まとめ

テキスト参考書モーリス・ドベス(堀尾輝久ほか訳)『教育の段階』岩波書店 1982年
心理科学研究会編『育ちあう乳幼児心理学』有斐閣 2000年授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

人間コミュニケーション論 S コミュニケーション心理学 S	14641
----------------------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 団 士郎

講義内容・テーマ

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果ついつい、「他人とのコミュニケーションは苦手…」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。また一方で、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションについて自覚することは少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか。気にはなるけれども、明らかにすることはありません。

ここにはコミュニケーションの「技術」と「内容」の二つの課題が存在します。当然のことですが、良好な対人コミュニケーションはコンテンツ(伝える内容)とプロセス(伝達的手段技術)の両者がうまく備わってこそです。この課題に実習授業で挑戦します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上

この講義は受講生参加の実習中心におこないます。ですから教室では毎回エクササイズを行いません。遅刻は実習の流れを妨げるので厳禁。毎回ミニレポートの提出も課します。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

試験ではなく自由記述のレポートで評価は行います。ただし、毎週の実習参加とミニレポート提出に重点を置きます。

講義スケジュール

オープニング・トーク30～40分 今日エクササイズ30～40分 ミニレポートまとめ15分
毎回、こんな時間配分で実習をおこないます。

テキスト

使用しません

参考書

団士郎 ヒトクセある心理臨床家の作り方 金剛出版
不登校の解法—家族のシステムとは何か— 文春新書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

10回以上の出席ができそうにない方は登録しないでください。授業の進行上、実習開始後の遅刻者には配慮できません。

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 3以上
担当教員 谷 勇男、芝田 英昭

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価
毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

前期

オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け / 社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術 / 実習施設・機関についての基礎的理解 / 社会福祉現場実習の理解 / 社会福祉実習施設・機関のリーサー報告 / 実習計画の作成(実習課題と計画) / 実習計画のプレゼンテーション / スーパービジョン

後期

オリエンテーション / 実習振り返り(実習体験の共有) / 実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成) / 今後の課題(研究課題・進路) / 実習報告プレゼンテーション / スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3以上

担当教員 野田 正人

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

前期

オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け / 社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術 / 実習施設・機関についての基礎的理解 / 社会福祉現場実習の理解 / 社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告 / 実習計画の作成(実習課題と計画) / 実習計画のプレゼンテーション / スーパービジョン

後期

オリエンテーション / 実習振り返り(実習体験の共有) / 実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成) / 今後の課題(研究課題・進路) / 実習報告プレゼンテーション / スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年 単位数 4 配当回生 3以上
担当教員 津止 正敏、井上 公子

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価
毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

前期

オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け / 社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術 / 実習施設・機関についての基礎的理解 / 社会福祉現場実習の理解 / 社会福祉実習施設・機関のリーサー報告 / 実習計画の作成(実習課題と計画) / 実習計画のプレゼンテーション / スーパービジョン

後期

オリエンテーション / 実習振り返り(実習体験の共有) / 実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成) / 今後の課題(研究課題・進路) / 実習報告プレゼンテーション / スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3以上

担当教員 土屋 健弘

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

前期

オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け / 社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術 / 実習施設・機関についての基礎的理解 / 社会福祉現場実習の理解 / 社会福祉実習施設・機関のリーサー報告 / 実習計画の作成(実習課題と計画) / 実習計画のプレゼンテーション / スーパービジョン

後期

オリエンテーション / 実習振り返り(実習体験の共有) / 実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成) / 今後の課題(研究課題・進路) / 実習報告プレゼンテーション / スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3以上

担当教員 廣末 利弥

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

前期

オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け / 社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術 / 実習施設・機関についての基礎的理解 / 社会福祉現場実習の理解 / 社会福祉実習施設・機関のリーサー報告 / 実習計画の作成(実習課題と計画) / 実習計画のプレゼンテーション / スーパービジョン

後期

オリエンテーション / 実習振り返り(実習体験の共有) / 実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成) / 今後の課題(研究課題・進路) / 実習報告プレゼンテーション / スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

人間福祉演習 SF

11870

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3以上

担当教員 池添 素

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

前期

オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け / 社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術 / 実習施設・機関についての基礎的理解 / 社会福祉現場実習の理解 / 社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告 / 実習計画の作成(実習課題と計画) / 実習計画のプレゼンテーション / スーパービジョン

後期

オリエンテーション / 実習振り返り(実習体験の共有) / 実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成) / 今後の課題(研究課題・進路) / 実習報告プレゼンテーション / スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3以上

担当教員 山田 尋志

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

前期

オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け / 社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術 / 実習施設・機関についての基礎的理解 / 社会福祉現場実習の理解 / 社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告 / 実習計画の作成(実習課題と計画) / 実習計画のプレゼンテーション / スーパービジョン

後期

オリエンテーション / 実習振り返り(実習体験の共有) / 実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成) / 今後の課題(研究課題・進路) / 実習報告プレゼンテーション / スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3以上

担当教員 西村 清忠

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

前期

オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け / 社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術 / 実習施設・機関についての基礎的理解 / 社会福祉現場実習の理解 / 社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告 / 実習計画の作成(実習課題と計画) / 実習計画のプレゼンテーション / スーパービジョン

後期

オリエンテーション / 実習振り返り(実習体験の共有) / 実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成) / 今後の課題(研究課題・進路) / 実習報告プレゼンテーション / スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3以上

担当教員 十河 美子

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

前期

オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け / 社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術 / 実習施設・機関についての基礎的理解 / 社会福祉現場実習の理解 / 社会福祉実習施設・機関のリーサー報告 / 実習計画の作成(実習課題と計画) / 実習計画のプレゼンテーション / スーパービジョン

後期

オリエンテーション / 実習振り返り(実習体験の共有) / 実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成) / 今後の課題(研究課題・進路) / 実習報告プレゼンテーション / スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 4

配当回生 3以上

担当教員 松井 信也

講義内容・テーマ

この演習は「社会福祉援助技術実習」「社会福祉援助技術実習指導」と連動して運営される。前期では実習に向けた事前準備のための学習、後期では実習終了後の振り返り学習を中心にする。演習を通して、社会福祉施設や機関・団体など社会福祉現場についての理解を深めるとともに、社会福祉従事者としての基本的態度や価値・技術・知識の習得を目指していく。特に実習先となる社会福祉の現場理解を重視した演習内容とするが、詳細については演習初日に説明する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この演習は予めクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前事後の演習であるため、毎回の出席を心掛けること。また実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

毎回の出席状況と参加態度、事前学習のレポート、実習計画(特に実習での課題設定)、事後に課す振り返りレポート、等をもとに総合的に評価するが、詳細は演習初日に説明する。

講義スケジュール

前期

オリエンテーション 社会福祉現場実習の位置付け / 社会福祉従事者の基本的態度・価値・技術 / 実習施設・機関についての基礎的理解 / 社会福祉現場実習の理解 / 社会福祉実習施設・機関のリサーチ報告 / 実習計画の作成(実習課題と計画) / 実習計画のプレゼンテーション / スーパービジョン

後期

オリエンテーション / 実習振り返り(実習体験の共有) / 実習レポートの作成と自己評価(実習課題と達成) / 今後の課題(研究課題・進路) / 実習報告プレゼンテーション / スーパービジョン

テキスト

別途指示する

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

人間福祉工学 S
生体機構論 S

12545

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 斎藤 正一

講義内容・テーマ

テーマ～誰もが生活できる人づくり・街づくり・環境づくり
障害を持つ・身体が不自由になる事は如何なるものかを医学的にも精神的にも肉体的にもあらゆる角度から知る。
誰もが障害者になる可能性を秘めています。それが自分自身なのか身近な人なのか…。
出産・高齢は多くの人を経験すること。人よりも身体が不自由になったとき誰もが気づく事があります。
そのとき街は、人々は、環境は、どのような顔をして皆さんの前に現れるのでしょうか。
講師は日々現場で障害者と共に悪戦苦闘している理学療法士です。また講師自身視力障害を持っています。
その日頃感じる現場の生の実態を学習して下さい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

障害者・身体の不自由な方の深層心理、障害者福祉や本当に住みやすい街づくり環境づくりはどうするのか
等 興味をお持ちの方

評価方法・基準

* 定期試験として実施
講義に一度も出席しない方の単位を出す事は不可能です。
しかし講義出席回数が少なくてもその少ない講義回数をきっちり把握して私の講義が十分理解できていれば
単位を出すつもりです。

講義スケジュール

受講者の人数や講義ごとの意見などでも変更していきますが
大まかな概要は

前半 第1講義～第4講義 障害を持つということ 身体・疾患の仕組み・精神的な動き
中盤 第5講義～第9講義 障害体験・出来れば実技・
後半 第10講義～第14講義 福祉用具について。家や街の仕組み・誰もが暮らしやすい環境とは
最終 第15講義 まとめと結論 ビデオ使用

テキスト

講義の際に配布いたします。
私の講義は配布資料の内容よりも沢山お話をしますのできっちり出席してメモして下さい。
またバックナンバーの配布資料は、持てる範囲で講義開催以降の講義時に持参します。

参考書

目で見るリハビリテーションの実際 東京大学出版 上田敏

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://yagi.doshisha.ac.jp/bf/guide/guide-top.htm> 車椅子で回れる京都観光ガイド
<http://www.jaenic.or.jp/hyk/index.htm> ひとにやさしい建築・住宅推進協議会
<http://www.kansaifukushi.net/> 関西福祉ネット
<http://ruazealand.com/html/index.html> ルアジーランド流山
<http://www.normanet.ne.jp/~JSCF/SIRYOU/s-seido/s-mokuji.htm> 福祉制度:障害者制度集
<http://www.hcr.or.jp/> 国際福祉機器展
<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/icf/icf.html> 国際生活機能分類
<http://www.soc.nii.ac.jp/jpta/menu.htm> 日本理学療法士協会
<http://www.jaot.or.jp/> 日本作業療法士協会

その他

人間福祉特論 SA
発達福祉特論 SA

12360

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 2以上
担当教員 鷲見 長久

講義内容・テーマ

従来の医学一般 に相当する医学一般の継続講義である。教科書後半の精神保健以降を講義する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

積極的に学びたい者のみの出席を求む。私語・居眠りをする者は退席していただく。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
 - * 試験に代わるレポートとして実施
- 出席は採らない。レポートと、定期試験(筆記試験)の成績を総合的に評価する

講義スケジュール

1. 精神保健(第1～3週)
 - 1) 精神障害
 - 2) 精神保健
2. 医学的リハビリテーション(第4～5週)
 - 1) 医学的リハビリテーションの概要
 - 2) リハビリテーション担当専門職種とその構造
3. 公衆衛生の現状(第6～7週)
 - 1) 衛生公衆衛生学と衛生行政
 - 2) 人口統計
 - 3) 傷病及び受療の状況
 - 4) 医療供給システム
4. 保健医療対策の現状(第8～11週)
 - 1) 健康づくり対策
 - 2) 地域保険対策
 - 3) 感染症対策
 - 4) 結核対策
 - 5) 精神保健福祉対策
 - 6) 難病対策
 - 7) 臓器移植体制等
 - 8) 痴呆性高齢者対策
5. 医事法制の概要(第12～13週)
 - 1) 医事法規の意義と分類
 - 2) 医療関係者に関する法の基本的構造
 - 3) 医師法、歯科医師法
 - 4) 保健婦助産婦看護婦法
 - 5) 医療法
6. まとめ・補足(第14～15週)

テキスト

新版・社会福祉士養成講座13「医学一般」福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版2001

参考書

「国民衛生の動向」厚生省の指標(臨時増刊) 2001年、財団法人厚生統計協会

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

その他

人間福祉特論 SB
 発達福祉特論 SB

12417

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

本科目は人間福祉学科の理念に基づいて、主に受講者の進路・就職活動や卒業後の将来設計にプラスとなるよう、ゲストスピーカーのリレー講義を中心に展開する。ゲストは企業、行政、NPOなどから様々な分野で活躍するゲストを迎えることとする。

同時に適時、パネルディスカッションやワークショップ形式の講義を行う。これによって、受講者が大学での学びや将来設計について、一層振り返りが可能となる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

試験に代わるレポートと日常点

講義スケジュール

1. 「オリエンテーション 変貌する福祉」 産業社会学部人間福祉学科 秋葉 武 助教授
2. 「国際協力支援の役割とネットワーク」 政府による国際協力支援担当者(東京)
3. 「障害者自立の場としてのレストラン経営とキャリア形成」 レストラン代表取締役 / 福祉NPO理事(東京)
4. 「変わる現代の福祉 福祉をテーマとした取材を通して」 新聞社編集委員(東京)
5. 「高齢者施設の現場から」 特別養護老人ホーム 施設長(京都)
6. 「家裁調査官という仕事」 家庭裁判所調査官(東京)
7. 「バリアフリー社会と新ビジネス」 マーケット調査会社代表取締役(東京)
8. 「社会福祉協議会と地域福祉」 社会福祉協議会主事(京都)
9. 「定着する企業の社会貢献」 経済団体社会貢献部門担当者(東京)
10. 「高齢化と住宅ビジネス」 住宅メーカー担当者(大阪)
11. 「障害者雇用と「特例子会社」」 特例子会社担当者(大阪)
- 12 本学部卒業生によるパネルディスカッション その1 民間企業
- 13本学部卒業生によるパネルディスカッション その2 現場
- 14振り返りのための参加型ワークショップ
- 15まとめ

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

専門特殊講義 SA	12469
人間福祉特論 SA	
応用社会学特論 SA ~ 医療生協協定科目 医療と社会 ~	

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 篠崎 次男

講義内容・テーマ

1. テーマ 医療生活協同組合論

2. 趣旨 医療従事者も患者・住民も納得する医療の実現をめざすところみを、生活協同組合の医療事業とそれを支える組合員の活動をとおして検討する。

3. 授業の方法と構成

方法 講義を軸に必要なに応じて医療生協の医療機関や組合員活動等の見学を実施。

構成

1) 現代日本の医療問題

まず、日本の厚生労働省が、日本の医療と医療制度をどのように把握しているかについての検討をとおして、医療のなにか問題かの整理をする。

その対策としての社会保障構造改革が日本の医療をどこに導こうとしているかについて検討する。

特に、医療制度の「改正」と規制緩和にもとづく営利事業化の現状とその弊害について検討する。

2) 医療とは

医療とはを医療労働の分析をとおして整理する。

あるべき医療とは、について国民の医療要求の社会的特徴の整理をとおして、それにこたえうる在り方、というかたちで整理する。

3) 医療生活協同組合

医療は医療従事者と患者・住民の協同によってなされねばならない。両者の民主的関係の形成、医療への患者・住民参加の保障があって、協同は成りたつ。この視点と実践をはくむ保障として生活協同組合をとりあげ、医療生活協同組合の組織と事業・活動の分析をとおしてあるべき医療を展望する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

テキスト

レジュメ配布

参考書

医療の基礎理論(日野秀逸・旬報社)

患者の権利と良い医療(篠崎編著・自治体研究社)

医療生協の歴史と特徴(篠崎・日生協医療部会)

介護保険と住民運動(篠崎共著・新日本出版社)

構造改革と健康増進法(篠崎・ほう文社・03年5月) その他

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

専門特殊講義 SA	14972
人間福祉特論 SB	
応用社会学特論 SB	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 両角 正子

講義内容・テーマ

「すべての子どもに豊かな育ちを」保障するために、今日様々な分野で子育て支援が行われている。乳幼児期の障害の早期発見に続く早期療育もその一分野である。育てにくい子を育てていかなければならない親への援助と子どもの発達を保障するための具体的な内容と方法についてビデオやスライドを使って理解を深める。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

障害そのものについての基礎知識や障害を持つ子どもが抱える発達上の困難については「障害児保育」で学ぶようにしてください。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
- * 日常点評価
- 出席とテスト

講義スケジュール

- 第1回 障害の発見と対応 障害の告知
- 第2回 療育の「場」の保障－子育てを仲間の中で
- 第3回 障害乳幼児施設の果たす役割
- 第4回 障害児施設と保育所・幼稚園の連携
- 第6回 保育所・幼稚園での統合保育の実践
- 第7回 障害児通園施設の実践 保育内容と方法
- 第8回 生活と発達
- 第9回 遊びと発達
- 第10回 行事の意義
- 第11回 就学にむけて
- 第12回 障害児のきょうだいへのサポート
- 第13回 保育者集団の形成
- 第14回 「発達相談員」の仕事
- 第15回 テスト

テキスト

「すべての子どもに豊かな育ちを」両角正子 かもがわ出版 生協で販売

参考書

テキスト「障害児保育」全国障害者問題研究会

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

人間論 S
人間論 S

12345

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 佐藤 嘉一

講義内容・テーマ

講義内容・テーマ 行為と構造

「人間が社会をつくり、社会によって人間はつくられる」という人間と社会の間の「弁証法」の問題について、「行為」と「構造」および「自己」の三つのキイ概念を用いながら、文芸作品にもふれながら、理論的歴史的に考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ノートおよび筆記用具を必ず用意してください。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

期末試験およびレポート(3回)によって評価する。

講義スケジュール

第一ステップ 導入部分

「社会とパーソナリティ」の人間学について大まかな考え方を学習する

1. ある出来事: 「M」のレポート
2. キー概念の導入: 構造・行為・自己

第二ステップ 展開部分1

伝統社会の「社会とパーソナリティ」問題

3. 民話「赤ずきんちゃん」を読む
4. 「赤ずきんちゃん」のアイデンティティと社会
5. 「構造」優位の民俗社会

第三ステップ 展開部分2

市民社会の「社会とパーソナリティ」問題

6. 「ロビンソン・クルーソーの冒険」を読む
7. 「ロビンソンの人間類型」と社会科学
8. 「ロビンソン・クルーソー」におけるアイデンティティと社会
9. 「行為」優位の市民社会

第四ステップ 展開部分3

非ヨーロッパ社会の「社会変動」とパーソナリティの問題

10. ドストエフスキー『未成年』を読む
11. 『未成年』における「アイデンティティと社会」
12. 非・否・脱「近代」社会の「行為と構造」

終結 人間論と「自己論・行為論・構造論」の位置

テキスト

佐藤嘉一著『物語のなかの社会とアイデンティティ - あかずきんちゃんからドストエフスキーまで』晃洋書房(2004)

入手方法: 大学生協書籍部

参考書

次の参考書の読書を薦めます

リースマン『孤独な群衆』みすず

ペラー『心の習慣』みすず書房

ペラー『善い社会』みすず書房

一層専門的に学びたいと思う諸君には

アルフレッド・シュッツ『社会的世界の意味構成』(木鐸社)に取り組んでほしいと思います。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

ネットワーク論 S

14685

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回数 3以上

担当教員 堀 孝弘

講義内容・テーマ

講師が事務局長を務めるNPO法人環境市民の活動を中心に、NGO間のネットワーク、NGOと自治体、企業のネットワークがいかに活動領域を広げてきたか、最新の姿を紹介し、新しい社会セクターである市民セクターの理解を深める。また、成功するネットワークの条件、パートナーシップとの違いなどをおさえることで、社会運動構築の方法論の基礎も学ぶ。講師の活動としては、グリーン購入ネットワークの立ち上げ参道など、市民活動だけでなく、自治体、企業にはたらきかける活動を展開してきた。詳細はホームページを。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特にないが、市民運動、市民セクターの新しい動きと、環境活動の展望に関心を持つ者。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
- * 日常点評価
- 出席重視、試験による評価

講義スケジュール

- 1、オリエンテーション、授業の方針と受講者の関心
- 2、ネットワークとパートナーシップのちがひ
- 3、成功するネットワークの条件
- 4、ネットワークを組む理由、環境活動の目指すもの
- 5、持続可能な社会の展望(1)自然保護、生きものたちのネットワーク
- 6、 " (2)ごみ問題、海外先進事例の紹介
- 7、 " (3)エネルギー1、効率的利用による省エネ
- 8、 " (4)エネルギー2、脱原発社会への展望
- 9、 " (5)交通 利用される公共交通
- 10、 " (6)経済 環境と経済の両立する社会
- 11、 " (7)ライフスタイル 環境を大切にすることの豊かさ
- 12、環境ネットワーク活動の実際(1)グリーンコンシューマー全国ネットワーク
グリーン購入ネットワーク
- 13、 " (2)環境首都コンテスト全国ネットワーク
- 14、 " (3)ローカルアジェンダ21、自治体と市民の連携
- 15、まとめ 市民活動の今後の展望

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

www.kankyoshimin.org 環境市民のホームページを見ておくこと

その他

農村環境計画論 S 都市・農村計画論 S	12396
-------------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 深井 純一

講義内容・テーマ

本講では農山漁村・農林漁業・農漁民と都市住民にとっての環境・食料・保養との関わりを多面的に考察し、前者が後者のために果たしてきた役割を改めて考えてみたい。そして前者の保全・再生のために後者がなすべきこと、なしうること、すでになしつつあることを明らかにして、日本における「都市と農村」の今日的な関係を展望したい。

一昨年半年間探訪してきたスペイン・イギリスを始めとするヨーロッパ各国の農家民宿と田園観光地に見られるグリーン・ツーリズムの現状も可能な限り紹介したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

教員と受講生との自由で対等な関係をめざしたい。開講当初に期末レポートの出題と成績評価の基準案の提案をする。また下記の「授業の流れ」に示すように、ビデオや特別講義に関する感想・批判のアンケートの提出を求めるので、出席を心がけてほしい。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

講義概要に関連したテーマの中から自由に選択する期末レポートを主要対象、5回ほどの各種アンケートを副次的な対象とし、その基準は上記のように開講当初に提案し、受講生の合議で決めたい。閉講近くなつての合議による決定は以前から実施していたが、受講生の希望を入れて今年度は開講当初に行うことにする。

講義スケジュール

開講に当って - 教員と学生の対等な関係、学生の自由な批判と討論をいかに実現するか

第2講 ビデオ上映『段々畑の歳月 - 太田部耕地の40年』、感想・質問アンケート

第3講 ビデオ・アンケートへの回答 / 過疎問題を考える視角

第4講 過疎対策 = 山村振興策の基本

第5講 森林と木の文化 / 北山林業・磨き丸太生産の歴史と現状

第6講 旧来の農家の半自給的な生活様式と個別複合経営の崩壊がもたらしたもの

第7講 ビデオ上映(番組未定)、感想・質問アンケート

第8講 ビデオ・アンケートへの回答 / 産直のあり方を考える

第9講 現場の農民による特別講義(予定)

第10講 食料農産物と肥料になる廃棄物の交換 - 都市と農村の根源的關係

第11講 コメ文化と水田の多面的機能

第12講 ビデオ上映『襟裳岬に春を呼べ - 砂漠を緑に 北の家族の半世紀』アンケート

第13講 ビデオ・アンケートへの回答 / 各地の漁民と市民・子供たちによる森づくり

第14講 西欧と対比しての日本型グリーン・ツーリズムの方向性と課題

第15講 講義内容・講義方法に関する感想・批判アンケート

成績評価基準案の協議・決定

テキスト

特になし。必要な資料はその都度コピーを配布する。

参考書

参考文献の検索法をガイドする。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業に出ることも有意義だろうが、自分のオリジナルな問題意識を磨く旅を重ねてほしい。それこそが自由選択テーマでの優れたレポートを書くことを可能にするはずだ。

発達障害論 S
身体発達論 S

14730

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 荒木 穂積

講義内容・テーマ

発達障害の概念、発生・成立のメカニズム、診断、予後および療育・指導方法などについて、人間の発達段階と関わらせて論じる。乳児期、幼児期においては早期発見・早期対応・早期療育などの課題と関わらせて、学童期・青年期においては学校教育・集団活動などの課題と関わらせて考えていきたい。

また、人間発達の過程において発達の質的転換期(例えば、「階層-段階」理論など)との関わりで発達障害をとらえることの意味についても論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- (1)講義の性質上、VTRなど視聴覚教材を利用して授業をすすめることが多い。
- (2)授業中に資料を毎回配布する

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
- 成績の評価は、授業の中間レポート(必修)と定期試験による。

講義スケジュール

- 1.人間発達と発達障害
 - (1).人間の発達とは
 - (2).発達の質的転換期 - 「階層-段階」理論など-
 - (3).発達障害とは
- 2.人間の発達過程と発達障害
 - (1).胎生期の発達と発達障害
先天性障害の成立とその予防
 - (2).乳児期前期の発達と発達障害
姿勢・運動発達および運動障害
 - (3).乳児期後半の発達と発達障害
言語の発生および言語障害
 - (4).幼児期の発達と発達障害
遊びの発達および精神発達遅滞
 - (5).学童期の発達と発達障害
学力の形成および学習障害
- 3.広汎性発達障害をめぐって
 - (1).広汎性発達障害の概念
 - (2).広汎性発達障害の単位障害
 - a.自閉症
 - b.アスペルガー症候群
 - c.その他
- 4.発達障害と社会参加

テキスト

第1回目の授業で指示したもの、および授業中の配布資料。

参考書

- (1)田中昌人・田中杉恵『子どもの発達と診断』～、大月書店
- (2)尾崎望・出島直編『子どもの障害と医療』全国障害者問題研究会出版部
- (3)稲沢潤子・オノピン監修『障害を知る本』大月書店

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 荒木 穂積

講義内容・テーマ

発達保障は、社会福祉や保育・教育、医療などの実践や理論と関わる、人権や社会保障を根底から成り立たしめるためにうまれてきた権利保障の思想と科学である。人間が一生をかけて自己実現を成し遂げるためには、生まれてから死をむかえるまでのライフサイクルをとらえて、人生のそれぞれの時期にどのような人間的自由を獲得し、人間発達が保障される中で、人格の拡大・充実・発展を成し遂げるかを考える学問である。

特に、乳幼児や障害者(児)、高齢者、青少年、女性などいわゆる「社会的弱者」とよばれている人たちの発達の可能性とその人間発達上の諸問題を取り上げることによって、発達を成り立たせているものや発達を疎外しているものについての理解をより本質に分け入って考察していくことが本講義の目的である。あわせて、本講義では、全ての人の発達が保障されるための歴史的・社会的条件および「発達の権利」の生成・発展過程についても考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- (1).授業中に資料を毎回配布する
- (2).授業中、スライド・VTR等の視聴覚教材を使用する。
- (3).ゲストスピーカーによる講義をおこなう予定である。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
成績の評価は、授業の中間で提出を求めるレポート(必ず提出のこと)と定期試験による。

講義スケジュール

1. 発達保障とは何か
 - (1).発達保障の理念・歴史的性格・構成要素
 - (2).日本発の思想としての『発達保障』 - 「この子らを世の光に」と「階層 - 段階理論」の誕生 -
2. 人間の安全保障から発達保障へ
 - (1).人権の発展の歴史(1): 平和・発達(発展、開発)・平等 - 国家から人々中心の安全保障概念へ -
 - (2).人権の発展の歴史(2): 第3世代の人権としての『発達への権利』 - 安全・自主・民主・発達 -
3. 子ども・障害者(児)・女性の権利と発達保障
 - (1).現代社会と発達保障(1): 『子どもの世紀』
 - (2).現代社会と発達保障(2): 子ども・障害者の人権とファシズム
 - (3).現代社会と発達保障(3): 戦争と障害者
 - (4).現代社会と発達保障(4): ノーマライゼーションと『発達保障』
 - (5).現代社会と発達保障(5): 子どもの権利宣言から子どもの権利条約へ
 - (6).現代社会と発達保障(6): 障害者の権利宣言から障害者の権利条約へ
 - (7).現代社会と発達保障(7): 人間の安全保障 - 紛争と貧困 -
4. 人間発達と発達保障
 - (1).人間発達の理論(1) - 「階層 - 段階理論」とは -
 - (2).人間発達の理論(2) - 新しい力の誕生(原動力の発生)と飛躍 -
 - (3).人間発達の理論(3) - 人格の拡大・充実・発展 -
 - (2).人間発達の理論(4) - 発達の質的転換期と発達保障の階梯 -

テキスト

特に定めないが、ユニセフ『世界子供白書』、国連開発計画『人間開発報告書』、人間の安全保障委員会『安全保障の今日的課題』(朝日新聞社)2003年、など各年度の白書、報告書を参照のこと。

参考書

- (1).系賀一雄『福祉の思想』日本放送協会出版
- (2).田中昌人・清水寛編『発達保障の探求』全国障害者問題研究会出版部
- (3).ユニセフ編『世界子供白書』各年度版、日本ユニセフ協会
- (4).日本子どもを守る会編『子ども白書』各年版、草土文化
- (5).国連開発計画『人間開発報告書』各年版、古今書院
人間の安全保障委員会『安全保障の今日的課題』、朝日新聞社

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

UNDP: <http://www.undp.org/>
UNICEF: <http://www.unicef.org/>

国連広報センター: <http://www.unic.or.jp/>
日本ユニセフ協会: <http://www.unicef.or.jp/>
全国障害者問題研究会: <http://www.nginet.or.jp/>
文部科学省: <http://www.mext.go.jp/>
厚生労働省: <http://www.mhlw.go.jp/>

その他

パブリックアクセス論 S
マス・コミュニケーション論 S

12398

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

デジタル化の到来によって、多メディア・多チャンネル化は現実となり、インタ-ネットなどによる市民の発信機会は増えている。しかし日本ではマス・メディアへのアクセス権は保障されていない。市民社会での相互理解、自己決定、合意形成などの基本的システムとして、どのようにメディアへのアクセス権、言論の公共圏を形成してゆけるのか、アクセス権の生成、世界の現状から今後の課題を考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は主にマス・メディアへのアクセス、自ら表現する思想や実践を学ぶものであることから、日頃からメディアに積極的に関心を持ち、働きかける習慣を持つと実践的な理解が深まる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
時に応じて実施する小テストおよび期末テストによる。積極的なアクセス実践や、具体的な事例の研究・調査、受講生自身の研究・調査の自主的発表なども高く評価する。

講義スケジュール

- 1、民主主義とメディア
 - (1)なぜパブリック・アクセスか
 - (2)パブリック・フォーラムの成立と変質
- 2、メディアの変質とアクセス要求
 - (3)誤報・不公平への反論・名誉回復
 - (4)人権侵害と名誉回復
 - (5)メディア規制のルールと現状
 - (6)アクセス権の拡大
- 3、欧米のパブリック・アクセス
 - (7)アメリカ/カナダのパブリック・アクセス制度
 - (8)アメリカのパブリック・アクセス 背景と課題
 - (9)ヨーロッパのオープン・チャンネル1
 - (10)ヨーロッパのオープン・チャンネル2
- 4、日本のPAC成立と課題
 - (11)日本のパブリック・アクセスの成立
 - (12)パブリック・アクセスの現場から
 - (13)さまざまなパブリック・アクセス番組
 - (14)パブリック・アクセスの課題と政策

テキスト

津田正夫・平塚千尋編『パブリック・アクセスを学ぶ人のために』世界思想社 生協扱い

参考書

津田正夫・平塚千尋編『パブリック・アクセス』リベルタ出版、津田正夫『メディア・アクセスとNPO』リベルタ出版、堀部政男『アクセス権とは何か』岩波書店、原寿雄『ジャーナリズムの思想』岩波書店、竹内郁郎・田村紀雄『新版・地域メディア』日本評論社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://access.tcp.jp/>
<http://www.tunagu.gr.jp/c-media-net/>
<http://www.medekiku.jp/gwvtv/kanagawa.shtml>

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 中川 順子

講義内容・テーマ

なじみの無いテーマだが、平たく言えば、日本の場合、法制度の変化にもかかわらず、女性と男性の家庭や企業・地域でのありようは、あまり変化していない。他方、北欧等では、この20 - 30年の間に、女性と男性の関係は劇的に変化している。すなわち日本と北欧とでは、ジェンダーによる社会の編成という点では共通するとしても、その編成はどれほど個人にとって拘束的であるか緩やかであるかは、大いに違いがあるといっている。女性と男性とが、どのように経済・社会・文化のなかに配置されているか、女性と男性との関係性が、どう国家秩序化しているのか、それぞれの国による違いがあるのではないか。この点を、比較ジェンダー論として考えてみたい。

グローバルなジェンダー編成

各国固有のジェンダー編成の相違がある。ジェンダー概念の確認をした上で、ジェンダー編成のあり方の差異としてとして国家システムの差異をとらえていきたい

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

必須要件ではないが、ジェンダー論、家族論関連講義を受講していることが望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

最終講義日試験を中心とするが、小レポートを課すことがある。

講義スケジュール

授業計画

以下の4テーマをとりあげる。

ジェンダー概念の意義

ジェンダーとは

ジェンダー編成あるいはジェンダー秩序

ジェンダー編成と福祉国家比較

エスピン・アンデルセンの比較福祉国家論とジェンダー

フェミニストからの批判と反批判(セインスベリーなど)

グローバリゼーションとジェンダー

マリア・ミースの所論を中心に

AALA諸国におけるジェンダー編成

近年のアジア、ラテンアメリカを対象としたジェンダー研究の動向

テキスト

テキストは使用しない。レジュメを毎回配布する。

参考書

宮本太郎・岡沢恵英編『比較福祉国家論』法律文化社

マリア・ミース他著、古田睦他訳『世界システムと女性』藤原書店

ヴェロニカ・ビーチ著、高島・安川訳『現代フェミニズムと労働—女性労働と差別—』中央大学出版会

柴山・藤井・渡辺編著『各国企業の働く女性たち』ミネルヴァ書房

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

<http://www.gender.go.jp>

その他

比較宗教論 S
比較宗教論 S

12350

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 本林 靖久

講義内容・テーマ

誕生・成人・死などの人生儀礼、祭、年中行事などの民俗宗教は、我々の心の奥底にひそむ「見えない宗教」となっている。そこで、あまり宗教を意識しない生活慣習なかで具体的に「見えない宗教」を探り、さらに宗教の原点ともいえる死生観を他の民族との比較を通して、日本の民俗宗教の根底にひそむ世界観を解明することを目的としながら日本の宗教について考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義形式で行う。但し、講義中に学生に意見をもとめることもある。
講義中の私語は堅く禁止する。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
論述式の期末試験の成績と出席点で評価する。

講義スケジュール

1. 日本人の死生観
2. 普遍宗教と民俗宗教
3. 宗教的シンクレティズム
4. 中絶と宗教
5. 中絶と水子供養
6. 女性と宗教
7. 女人禁制と民俗
8. 日本の通過儀礼の諸相
9. チベット・ブータンの葬送
10. インド・ネパールの葬送
11. タイの葬送
12. バリの葬送
13. 葬送儀礼の比較研究
14. 生命倫理と宗教
15. 民俗宗教のコスモロジー

テキスト

テキストは特に定めない。必要な資料はこちらで用意する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

比較スポーツ論 S	12372
比較スポーツ論 S	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 金井 淳二

講義内容・テーマ

様々な国で様々な展開されるスポーツは、それぞれかつてに生み出されてきたのではない。自国から生みだしたにせよ、また他国から受け入れてきたにせよ、それぞれの時代的背景がある。そのことが、スポーツに独特な思想と制度を付与させていくことになる。英・米・日のスポーツについて、その競技形態・ルールや規範・組織機構などを、そのスポーツを生み出した社会・経済的基礎とあわせて比較し、今後のスポーツ受け入れ・交流のあり方を考えていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

スポーツ文化論・スポーツ社会学・スポーツ文化史・身体表現論等産社開講科目で得られた知識と関連づけて考えていって欲しい。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価は、基本的に期末に課すレポートによっておこなう。また、出席状況も評価に反映できるようにする。

講義スケジュール

1. 序

今日のスポーツ問題と比較スポーツの視点

2. スポーツ母国イギリスのスポーツ

民衆スポーツの生成と展開

騎士道的行為と近代スポーツ

アマチュアリズムの桎梏

3. スポーツ王国アメリカのスポーツ

母国スポーツの継承と展開

経済発展と独自スポーツの創生

スポーツの王国化への背景

4. 日本的スポーツの展開

武術の発生と武道への転換

武道国際化への課題

西欧近代スポーツの日本的受容

時宜の問題を題材にして講義形式で比較検討して行く。流れは若干異なることがある。

比較の基準となる論理を把握できるように、様々な視点・角度からの比較を試みたい。

テキスト

とくにテキストは使用しない。教室でレジメを配布する。

参考書

参考文献は授業の中で紹介して行く。とりあえず、創文企画から出版されている"スポーツ文化論シリーズ"のいくつかを読んで欲しい。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

比較政治論 S
現代政治論 S

14666

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 國廣 敏文

講義内容・テーマ

人類はこれまで様々な政治制度や体制を経験してきた。だがこれまでに試みられてきたどの政治制度も、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など、人々の生活を十全な形で、平和で公平で安定したものとするには成功していない。

本講義は、こうした状況を踏まえ、主要先進国の政治システムの構造・機能・動態を相互に比較・考察することによって各国政治の特質と問題点を抽出し、21世紀に相応しい政治の在り方 = "新しい政治"の在り方を模索することを目的とする。

その際、何よりも事実に基づく分析によって、各国政治に関する正確で具体的な知識の取得とそれらを昇華させた形で日本政治改革への視点を得ることも視野に入れたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

普段から新聞やニュース、各国のHPに目配りしておくこと。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

成績評価 = 単位認定は、セメスター終了時の論述試験を中心としつつ、出席点(総点のうち10点)も加味して総合的に判定する。

講義スケジュール

以下の概要で講義を行なう予定である。

・ 比較政治学の方法

第1回： 歴史 アリストテレス、モンテスキュー、アロン

第2回： 比較政治学の現代的アプローチ 歴史と構造

第3回： 比較の指標

・ 各国政治の制度的特質と現状 憲法、中央・地方自治、改革の現状

第4回： アメリカ合衆国建国の歴史

第5回： アメリカ合衆国の政治 大統領制

第6回： カナダ政治の歴史と特質

第7回： イギリスの建国と歴史

第8回： イギリスの政治 議院内閣制

第9回： フランス建国の歴史

第10回： フランスの政治 半大統領制

第11回： ドイツ建国の歴史

第12回： ドイツ政治の歴史と特質

第13回： イタリア政治の歴史と特質

・ まとめ

第14回： 新しい政治の在り方を求めて 日本の課題

テキスト

田口富久治・中谷義和編『新版 比較政治制度論』法律文化社、1999年。

参考書

授業に際してレジュメを配布するとともに、参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

授業の際に紹介する。

その他

「私語」は、自の学習権の放棄であると同時に、他人のそのの侵害であるので、厳禁する。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回数 3以上

担当教員 小林 康正

講義内容・テーマ

「文化」とは、ひとつの概念、つまりモノの見方に過ぎない。その効用は、我々の日常の自明性を剥奪することにある。それは「異文化」を自らの可能性として引き受けることでもある。比較文化という手法に意味が生じるのは、日常の自明性と不知の異形性を一挙に観照しようとする態度においてしかありえない。本講義では、こうした観点から、人間に対する認識のなどを取り上げる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

遅刻厳禁。授業開始15分後の入室と途中退室の禁止。私語・メール厳禁。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

講義には実験的方法を用いるので、その経験が重要である。したがって、授業への出席は重視する。また、講義時に提出してもらった批評感想を評価の対象にする。

講義スケジュール

(日本の近世から近代に至る人相・観相・骨相・家相・易・九星術、とくに「姓名判断」や「手相」を中心にした占いの諸実践やそれらに対する社会の取り扱いをみることで、日本社会における「人間」、あるいは、「人格」「運命」「性格」などの概念の系譜を辿ること) これが本講義の目的である。

第1回 講義への招待 比較文化の可能性と意義

第2回 問題系としての人間 そこに「人間」はいたのか

第3回 人的属性指標という概念について

第4回 日本近世における占いの概観

第5回 日本近代における占いの概観

第6回 日本近世における名前の吉凶 - 「韻鏡」と「反切」 -

第7回 日本近世における名前の吉凶 - 「名乗」の庶民化 -

第8回 名前の御一新 - 「国民改姓」と市民社会の誕生 -

第9回 国家と名前 - 「家名」としての姓

第10回 「姓名学」の誕生 - 立身出世の社会史

第11回 「姓名学」の誕生 - 政治テクノロジーとしての姓名

第12回 「姓名学」の誕生 - 「家庭」とメディア社会の登場

第13回 「姓名学」の誕生 - 「活字」の呪力

第14回 現代の名前 - 「個性」という信仰

講義の進行予定は、上記のようであるが、ビデオ教材等を利用することも考えているので、変更がありえる。了承をお願いしたい。

テキスト

講義時に適宜指示する。

参考書

講義時に適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義時に紹介する。

その他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 4

担当教員 小川 栄二

講義内容・テーマ

本実習は、社会福祉援助技術現場実習のアドバンス科目であり、社会福祉実践あるいは研究のためのより高度な知識と技法の習得をめざす。本実習は資格取得の対象科目ではなく、純粋に専門性向上のためのものである。したがって、実習対象施設は、社会福祉実践が行われている施設・機関全般であり、社会福祉実習指定施設に限定しない。(昨年度の実習先として、「医療機関」「老人保健施設」や特色ある実践に取り組んでいる「NPO」等がある) また、実習期間、時期、内容などは、受講生、担当教員、実習施設・機関の三者で協議しながら決める。実習施設・機関の開拓・調整にあたっては、受講生の積極的な参加を条件とする。授業では、受講生の主体的な取り組みを重視しつつ、実習前の準備と実習後のフォローアップを行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術現場実習を履修済みの4回生であること。明確な実習目的をもち、実習先の選定・確保についても主体的に取り組む姿勢と意欲を持っていること。

評価方法・基準

* 日常点評価

平常点、報告、レポート、実習施設・機関からの評価を総合して評価する。

講義スケジュール

通年で下記のように実施する。

1. オリエンテーション
2. 実習の目的・意義の再確認
3. 実習の事前学習
4. 実習計画作成
5. 現場実習
6. 個別およびグループスーパービジョン
7. 実習の報告
8. 実習の事後学習
9. 評価

* 上記の各項目にかける時間は、受講生により異なる。

テキスト

授業において指示する。

参考書

必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 通年

単位数 2

配当回生 4

担当教員 木村 泰子

講義内容・テーマ

本実習は、社会福祉援助技術現場実習のアドバンスト科目であり、社会福祉実践あるいは研究のためのより高度な知識と技法の習得をめざす。本実習は資格取得の対象科目ではなく、純粋に専門性向上のためのものである。したがって、実習対象施設は、社会福祉実践が行われている施設・機関全般であり、社会福祉実習指定施設に限定しない。(昨年度の実習先として、「医療機関」「老人保健施設」や特色ある実践に取り組んでいる「NPO」等がある) また、実習期間、時期、内容などは、受講生、担当教員、実習施設・機関の三者で協議しながら決める。実習施設・機関の開拓・調整にあたっては、受講生の積極的な参加を条件とする。授業では、受講生の主体的な取り組みを重視しつつ、実習前の準備と実習後のフォローアップを行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉援助技術現場実習を履修済みの4回生であること。明確な実習目的をもち、実習先の選定・確保についても主体的に取り組む姿勢と意欲を持っていること。

評価方法・基準

* 日常点評価

平常点、報告、レポート、実習施設・機関からの評価を総合して評価する。

講義スケジュール

通年で下記のように実施する。

1. オリエンテーション
2. 実習の目的・意義の再確認
3. 実習の事前学習
4. 実習計画作成
5. 現場実習
6. 個別およびグループスーパービジョン
7. 実習の報告
8. 実習の事後学習
9. 評価

* 上記の各項目にかかる時間は、受講生により異なる。

テキスト

授業において指示する。

参考書

必要に応じて紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

- 1) 対人サービスに関わる調査・研究の手法について、その基礎概念、課題に応じた方法の選択法などの概要について学ぶ。
- 2) 方法としては、量的な調査法、質的な調査法の両方を学ぶ。
- 3) 漠然とした問題意識から調査・研究としての的確な課題を設定し、それに応じた調査のデザインを立案することができることを学習の目標とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
- * 試験に代わるレポートとして実施
- ・試験で基礎的事項の理解を問う。
- ・レポートでは、学習した理論が身についているかどうかを評価する。

講義スケジュール

以下の事項を予定している。

- ・調査研究の具体的例は、なるべく対人サービスで、福祉サービスに近い分野から導入する。
- ・基礎的なことを重点にし、受講者の学習の進み具合により、最終的にカバーする範囲を修正する。

研究の進め方：概念、仮説、理論的枠組み

(量的調査法)

- ・事象の発生(incidence)と現存、量的変数と質的変数、測定信頼性と妥当性
- ・標本調査、集団の比較
- ・介入の評価、RCT
- ・確立分布とモデル分析、多変量解析

(質的調査法)

- ・グランデット理論、参与観察、フォーカス・グループ・インタビュー、アクション・リサーチ

(応用)

- ・参加型研究、コンジョイント分析

テキスト

参考書

原野 悟 (2002)健康サービス研究入門 保健・医療の調査と評価。新興医学出版社。
東京大学医学部保健社会学教室(1992)保健・医療・看護調査ハンドブック。東京大学出版会。
その他、授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 鉄川 重利

講義内容・テーマ

時代の大きな転換点のただなかで、複雑・多様化する児童福祉問題のニーズを家族・社会的視点との関わりでとらえ、次代を担う児童の健全育成をめざす児童家庭福祉の在り方や支援技術等の課題や実践についての基礎的な理解と学習をめざす。

同時にそれらを現場で実践し、生かすための豊かな感性と人格、人間性などが重要な要件となる。そのための体験学習的取り組みやケース検討・グループ討議なども実施したい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

将来、児童福祉現場での実践的な援助方法や技術に携わる専門家志望の学生を対象とする演習入門科目なので、本格的なゼミや福祉実習等に運動すべく、目的意識をもって受講することが望まれる。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

体験学習的な取り組みなど、授業に積極的に参加し、今後、福祉現場での実践への動機づけにつながるような主体的な努力等も評価したい。成績の評価は試験に代わるレポートを実施するが、授業への出席状況も評価対象に加味される。

講義スケジュール

- (1) 児童相談所の窓口から見た子どもの問題?児童・家庭福祉の現状と課題
- (2) 子育て支援システムと家庭・地域・社会の問題
- (3) 子どもの問題行動の理解と援助・指導技術(ケースワーク的アプローチ)
- (4) 子どもの問題行動の理解と援助・指導技術(心理学的アプローチ)
- (5) 養護ケースからみた家庭養育上の問題
- (6) 思春期危機の問題?不登校・ひきこもり・家庭内暴力・非行問題など
- (7) 児童虐待の問題の理解と対応について
- (8) ~ (14) 体験学習(ブラインドウォーク・応答構成トレーニング・ケース研究など)
- (15) 最終授業としてのまとめの討議

* 以上はあくまでも授業の概括的計画であり、各授業は場合によっては次回に延長されたり、逆に短縮される場合もある。また、必要によりケース検討やグループ討議・体験学習的なものやビデオ学習等も取り入れたい。なお、課外授業として希望者があれば自由参加の施設見学の実施も可能。

テキスト

テキストとしては特定せず担当者の作成するレジユメを使用する。

参考書

特定しないが授業の過程で必要に応じて紹介したい。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 高橋 正人

講義内容・テーマ

研究の一般的な目的は「発見」である。

「発見」を求める(社会)科学的な方法について考える。

研究活動をする際の基本的なことをとりあげる。

「問い」をもつことの意味など、基本的であるが、実は重要なことについて考える。

課題のつくり方から、課題へのアプローチの仕方、データのつくり方、データ分析の仕方などが学べるようにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

演習形式をとる。

受講生が個人・グループでの、データ収集作業、ディスカッション、発表などに積極的に参加することがないと進まない。

受講生各自が具体的な研究課題をもっていることが望ましい。講義回数早い段階で受講生各自の研究課題を定めるようにする。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

講義のなかでの小テストと最終レポートによる評価に日常点を総合して評価する。

講義スケジュール

- 1 導入
- 2 研究論文を読む(1)
- 3 研究論文を読む(2)
- 4 研究論文の解体(1)
- 5 研究論文の解体(2)
- 6 文献探索
- 7 課題の設定(1)
- 8 課題の設定(2)
- 9 データのつくり方
- 10 データ作成演習
- 11 データ分析演習
- 12 発表会(1)
- 13 発表会(2)
- 14 発表会(3)
- 15 発表会(4)

テキスト

とくに定めなし。講義の中で資料を配付する。

参考書

「創造の方法学」 高根正昭 現代新書 講談社、 「リアリティの捉え方」 今田高俊編 有斐閣アルマ 有斐閣

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 秋葉 武

講義内容・テーマ

本講義は2つのテーマを目的とする

2回生後期以降、専門演習を選択して学ぶ際のレポート・論文の記述方式について学ぶ

キャリア形成について学ぶことで受講者の専門演習選択および将来の進路選択のサポート

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

下記の行為をする受講生は「D」評価としている。他の受講生の受講権の侵害 授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)、レポートの記述の不適切な表現(タメ口など) なお、開始時間20分後に教室に鍵を掛けるので、遅刻者は入室できない。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

評価基準... 熱心な受講者にはA、A+の評価をしている。A以上が全体の6割程度。

評価方法 出席および授業の理解力、表現力 40% 講義中の質問、議論における発言の積極性 30% レポート 30%

教員はガイダンスで詳細な説明をする。受講者には納得してもらった上で受講登録してもらっている。そのため、ガイダンスには必ず出席すること。

講義スケジュール

(受講者との話し合いの中で変更の可能性あり)

- 1, ガイダンス
- 2, テキストの輪読 インターネット検索の習得
- 3, "
- 4, "
- 5, "
- 6, "
- 7, ゲストスピーカーの講演
- 8, テキストの輪読 グループ発表の準備
- 9, "
- 10, "
- 11, "
- 12, 学生による発表
- 13, "
- 14, "
- 15 まとめ

テキスト

小笠原喜康(2002)『大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書1603)、講談社。

大久保幸夫編(2002)『新卒無業』東洋経済新報社。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 前田 信彦

講義内容・テーマ

この講義は、社会科学の視点から福祉を理解することを第一の目的とし、文献講読を中心に以下の手順を進める。

基本的文献を輪読する
各自の関心から文献サーベイする
グループ発表(もしくは個人発表)
とする予定(人数によって変更する場合もある)。

テーマは、生涯における人間発達(ライフコース)。
青年期、中年期、高齢期といった個人のライフコースを射程に置きながら、
生活ニーズに対応する福祉社会の諸課題について考えてみたい。
基本文献は、人間発達論・社会学の古典もしくは、最近のトピックス
(若者のフリーター問題、子育て期のライフコース)などから選ぶ予定。詳細は開講時に指示する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ゼミ形式の予定なので、積極的な参加の姿勢(グループ作業でのイニシアティブ・講義中での積極的発言など)も重要な評価基準となる。遅刻・早退は厳禁。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
最終的な評価は、出席点・個人発表・最終レポートによる総合評価とする。
出席点を重視するので、出席しないで単位だけ取る学生にはすすめない。

講義スケジュール

- 1 福祉を社会科学の視点で捉えるということ
- 2 基本的文献を読む
- 3 各自の文献サーベイ
- 4 個人発表

テキスト

講義中に指定する。

参考書

講義中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2

担当教員 峰島 厚

講義内容・テーマ

社会福祉を学ぶ意欲・課題意識形成の源泉になるものは、当事者や家族、現場職員等が現実と格闘している姿やそこに込められている思いへの共感にあらう。この授業では、社会福祉現場で現実と格闘している職員の姿や思いにふれて学習をすすめる。この授業をこれから学ぶ社会福祉の専門的学習の出発点と位置づけ、各自の課題意識形成の場としてもらいたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

少人数のグループを編成し、自主的な集団学習の形態をとる。施設職員の観察を主とし、参加実習はしない。

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価
- レポート試験 レポートに出席回数を加味して評価する。

講義スケジュール

- 1回 はじめに 授業の進め方 グループ編成
- 2回 職員の動きをビデオで見る
- 3 - 4回 施設の事前学習(歴史、制度、実態)
- 5回 施設の見学依頼文の作成
- 6 - 7回 1回目の施設の見学、聴取
- 8回 報告会
- 9回 施設職員の聴取、観察内容の検討
- 10 - 11回 2回目の聴取、観察
- 12 - 15回 報告書作成、発表

テキスト

とくになし

参考書

とくになし

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

とくになし

その他

なし

表現の自由論 S	14697
言語表現論 S	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 嘉納 新

講義内容・テーマ

新聞・電波を中心としたマスメディアで論議されている「表現の自由」に関わる諸問題を手掛かりに、広く市民社会の状況を点検し、あるべき表現方法を考える。自由を体現する勇気・熱情・誠実と、「異見」への思いやりとを併せ持った発信者側が、取材・表現・伝達に関わる様々なマナーを厳密に尊重して実践することが、高度情報化社会に置ける「表現の自由」を守り育てていく道であることを、具体的に話していきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

数回おきに講義をやや早めに終えてミニレポートを課し、回収します。その中で出された疑問などは出来るだけ次週冒頭に答えます。

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
 - * 日常点評価
- ミニレポートも4割ぐらいのウエートを置きます。

講義スケジュール

1. 「表現の自由」の歴史と現在の状況概説 = 初回
2. 国家や公権力と「表現の自由」の対立の歴史
3. 現代経済社会の中の「表現の自由」
4. 現代日本社会の中の「表現の自由」 = 数回
5. 「表現の自由」と市民のプライバシー = 数回
6. 「表現の自由」と国家・社会の公益 = 数回
7. 高度情報化社会の中の「表現の自由」
8. 「表現の自由」と法規制のあり方
9. その他

テキスト

毎回、講師がレジユメを用意

参考書

「表現の自由」を求めて アメリカにおける権利獲得の軌跡、奥平康弘著、1999年、岩波書店 「現代メディアと法」田島泰彦ほか編、1998年、三省堂 「言論の不自由」朝日新聞社会部編、1998年、径書房

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 松田 弘

講義内容・テーマ

フィランソロピー論とは「企業等の慈善活動やボランティア活動」から今は「企業等の社会貢献責任論」のことで、会社人間OBで現在「淡海フィランソロピーネット」の代表発起人が語る「異説・企業等の社会貢献責任論」。学説や論文的「フィランソロピー論」は語りません。これからの就活をはじめめる諸君やフィランソロピー論を研究する諸君に格好な講義です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初回講義(ガイダンス)に必ず出席のこと。受講上の注意・講義の進め方・成績評価などを説明する。欠席すると不利になる。遅刻や私語や居眠りには厳しく対処します。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価は出席点、講義参加点(宿題提出・講義での発表)、最終レポート点の総合評価となるが、それぞれの評価点の配分は受講学生の人数と、ガイダンス時に受講学生の入札結果を参考にして決定する。ただし、講義に三分の二以上出席しない学生は単位認定をしません。

講義スケジュール

- 1 講義概要とガイダンス
- 2 フィランソロピーの実例を学ぶ
- 3 企業・行政・住民等の実態調査から
- 4 町なかのフィランソロピーの実例を探る(プレゼン)
- 5 社会福祉とフィランソロピー
- 6 フィランソロピーの歴史と先達に学ぶ
- 7 人権の視点から見るフィランソロピーの事例
- 8 フィランソロピーとNPO
- 9 外国企業の実例を探る
- 10 地域貢献実例探索プレゼン(レベルアップ版)
- 11 企業等の社会貢献実例から課題を探る
- 12 資本市場からフィランソロピーを考察
- 13 フィランソロピーと大学
- 14 企業評価諸説と企業統治
- 15 講義の総括

テキスト

参考書

この発想が会社を変えるー新しい企業価値の創造ー(编者 経団連社会貢献担当者懇談会)株リム出版新社
フィランソロピー基礎講座2002講演録 社団法人日本フィランソロピー協会

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

福祉行財政論 S

14651

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 山本 隆

講義内容・テーマ

Course description

現在、社会福祉は主に市町村の事務となっている。国と地方の関係としては、国は全国的な視点から市町村に社会福祉の取り組みを奨励し、市町村はこれを受けて住民のニーズに直接的に対応している。ただし、市町村の自主性は不可欠ではあるものの、ナショナルミニマム(国の最低基準)という観点からは地域格差の拡大は望ましくない。このような国と地方の関係を基点にして、福祉国家、地方自治体、民間福祉、現場のソーシャルワーカーの役割と社会資源の内容を述べる。また、社会福祉士試験に対応するように留意する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

Introduction

ローカルガバナンスという言葉に注目して欲しい。その意義は、地域住民全体が公共のあり方に取り組み、現代の政治行政の改善を図ろうということにある。地方自治体の責任が問われる中で、中央—地方関係の再定義、地方政府の再定義、住民やNPOなどの活動の円滑化(シティズンエンパワメント)、それらとの連携(公私のパートナーシップ)などがローカルガバナンスの実現に重要なこととして注目されている。新たな公共性の構築という課題に関心を寄せて欲しい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

福祉行財政への思想的アプローチ、福祉国家のあゆみ、わが国の福祉改革のあゆみ、諸外国の社会福祉における国と地方の関係、わが国の社会福祉における国と地方の関係、社会福祉と市町村行財政、分野別研究 介護保険制度とケアマネジメント、分野別研究 障害者福祉制度とケアマネジメント、分野別研究 保育所保育制度、分野別研究 社会福祉協議会、住民自治型の福祉行財政の構築 -ローカルガバナンスの検討-

テキスト

山本隆『福祉行財政論 - 国と地方からみた福祉の制度・政策 -』中央法規

参考書

山本隆『イギリスの福祉行財政 政府間関係の視点』法律文化社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 廣末 利弥

講義内容・テーマ

- 1・福祉事業とは何か。福祉施設・福祉事業は誰のため、何のために存在するか
- 2・社会福祉基礎構造改革のもとで、真に国民の期待に応える福祉施設、事業の運営と経営および21世紀の社会福祉のあり方を考える

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
 - * 日常点評価
- 出席・日常評価及びレポート提出
概ね、出席及び日常評価50%、レポート内容50%で評価

講義スケジュール

- 1・社会福祉とは、社会福祉事業、社会福祉法人とは
社会福祉法、社会福祉法人定款と準則、法人の運営等
- 2・社会福祉施設、事業の運営と経営 = その実状と課題
会計準則、財務諸票と財務状況、事業毎の特徴と課題等
- 3・介護保険制度による福祉事業運営と経営の変化
介護保険制度の概要
福祉事業運営、経営の変化と実状
- 4・構造改革のもとでの民間営利企業参入と社会福祉
非営利法人と営利企業の参入
- 5・社会福祉に従事する職員の専門性と労働実態、身分保障について
- 6・社会福祉法人の役割とアイデンティティ
- 7・これからの社会福祉事業と運営、経営を考える
- 8・その他

テキスト

毎回、レジュメ・資料を用意する

参考書

授業の中で連絡する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 上林 茂暢

講義内容・テーマ

今日、医療、福祉、保健のあらゆる局面で転換期をむかえているが、これと期を一にして福祉産業、福祉ビジネスが台頭し、注目をあつめている。その実態はどのようなものか。何故そうなるのか。一般産業とくらべて、福祉産業はどのような技術的特性、社会的特性をそなえているのか。日本の医療、福祉、保健の将来にとっていかなる意味を持っているのか考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞、雑誌など取り上げられる機会が多い。常にアンテナをはりめぐらし、その意味を考えていくことがきわめて実践的な学習になる。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
暗記するような性格のテーマではない。試験に代わるものとしてレポートを提出

講義スケジュール

今、なぜ福祉産業論か
医療、福祉、保健の技術的特性、社会的特性
医療産業としてみた病院
介護保険と福祉機器産業
介護保険と介護サービス
医療・福祉・保健複合体(二木立)の意味
保険者機能とマネージド・ケア(アメリカの場合)
NHS改革と疑似市場(イギリスの場合)
薬価改定と製薬企業
予防・健康増進サービスと企業化
「IT革命」と福祉産業その1
「IT革命」と福祉産業その2
福祉産業と地域の再生
福祉産業の将来
予備に

テキスト

新しい分野なので成書はほとんどない。関係した論文をその都度紹介する。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 生田 正幸

講義内容・テーマ

介護保険制度の導入は、介護・福祉分野におけるコンピュータ活用のあり方を大きく変えた。社会福祉施設や在宅サービス機関においても、パソコンや情報システム、情報ネットワークがごく当たり前の存在となり、サービスの利用と提供を支える重要な役割を担っている。さらに、社会福祉法の施行によって、情報の開示・提供、苦情解決、サービス評価など情報に関わる事柄が、利用者のサービス選択を保障しサービスの質を高めていく重要なファクターとして位置づけられるようになった。また、情報の入手や利用、発信の障壁(バリア)に直面する「情報弱者」の問題が顕在化し、先端的なIT(情報技術)を駆使した情報バリアフリー、情報のユニバーサルデザインへの取り組みが展開されている。さらには、福祉情報機器を用いた様々な自立支援システムなど支援技術(Assistive Technology)の発達と普及も著しい。社会全体が、ITと情報への依存を強めようとしている中で、介護・福祉分野も例外ではなく、今や、介護・福祉の立場からの主体的な取り組みが強く求められている。この講義では、福祉情報化とは何か、何をすることなのかについて、福祉の立場からあきらかにするとともに、福祉における情報化とコンピュータ利用のあり方について、コンピュータ実習をはさみながら考えていくことにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「情報リテラシー」を履修し、メール、Web閲覧、ワープロ操作など、基礎的なパソコン操作が行えることが望ましい。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
- * 日常点評価

講義スケジュール

- 01 イントロダクション
- 02 現代社会における情報とコンピュータ(1)
- 03 現代社会における情報とコンピュータ(2)
- 04 社会福祉と情報(1)
- 05 社会福祉と情報(2)
- 06 社会福祉におけるコンピュータの活用と情報システム(1)
- 07 社会福祉におけるコンピュータの活用と情報システム(2)
- 08 社会福祉におけるコンピュータの活用と情報システム(3)
- 09 社会福祉におけるコンピュータの活用と情報システム(4)
- 10 社会福祉における情報活動(1)
- 11 社会福祉における情報活動(2)
- 12 社会福祉における情報活動(3)
- 13 社会福祉政策と福祉情報化(1)
- 14 社会福祉政策と福祉情報化(2)
- 15 テスト

テキスト

『社会福祉情報論へのアプローチ』(ミネルヴァ書房)及び必要に応じて資料を配付する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

WAM NET(<http://www.wam.go.jp/>)
厚生労働省(<http://www.mhlw.go.jp/>)
その他、必要に応じて授業中に紹介する。

その他

授業は、パソコン実習室において行う。各自、ID、パスワードを確認しておくこと。

福祉政策論 S
福祉政策論 SG

10887

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 西村 清忠

講義内容・テーマ

「社会福祉の対象と政策を学ぶ」

戦後の国民生活の変化と歴史は、今日の、社会福祉の政策動向を学習するうえで基本的認識課題である。戦後の社会福祉政策の生成

・変遷は、現代社会の福祉動向と政策動向を知るうえで最も重要な課題であり、戦後の混乱期から、高度経済成長期の社会福祉政策、低成長期における社会福祉政策、特に、臨調・行革から始まる社会福祉抑制策から「社会福祉基礎構造改革」(1994～現在)への道筋が、国

民生活に及ぼした影響は多大なものがある。さらにこのことが、国民の生存権保障と、社会福祉現場実態の変化へと展開されてきている。これからの社会福祉政策の知識、福祉政策のあり方を学んでいただきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会福祉の歴史的な展開について講義するので、日常点評価として出席を重視する。今日の社会福祉動向が目まぐるしく変わるの
で適時新しい政策動向や、社会問題を取り入れていくが、常に社会問題について積極的に把握に努めていただきたい。

評価方法・基準

* 日常点評価

講義スケジュール

- 1 オリエンテーション 社会福祉の対象と政策
- 2 戦後日本社会の変化と国民生活
- 3 "
- 4 戦後社会福祉制度の整備・展開
- 5 生活保護制度(生存権保障からの考察)
- 6 "
- 7 児童福祉の問題(児童虐待、保育について考察)
- 8 "
- 9 障害者福祉の問題(ノーマライゼーションからの考察)
- 10 "
- 11 高齢者福祉の問題(超高齢化社会のこれからを考察)
- 12 "
- 13 家族、女性と社会福祉の問題(配偶者暴力・ジェンダーからの考察)
- 14 医療制度の問題(制度改革をととしての考察)
- 15 地域福祉について(まとめ)

テキスト

特に定めない

参考書

- * 『講座 21世紀の社会福祉1』 真田 是 監修 かもがわ出版
- * 『福祉国家崩壊から再生への道』 芝田 英昭 編著 あけび書房

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

<http://www.mhlw.go.jp/singi> 厚生労働省審議会・各種専門委員会議事録

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 太谷 亜由美

講義内容・テーマ

本講義ではヨーロッパの福祉(特にイギリスの福祉)の発達を中心に、福祉の発達を考察する。そこで、いかにして一般の人々の貧困の救済が国の責任となっていったかを辿るが、その過程は、どれほど厳しいものであったかに気が付かれるだろう。時代の変化と共に変貌する福祉は現在ではなくてはならないものではあるが、一方では日本をはじめとする先進各国では経済の停滞と共に後退を余儀なくされている。国から民間へと福祉を行う主体をシフトしよう、あるいは自己責任・自助努力をスローガンに国の社会保障の範囲を縮小しようというのが近年の日本の傾向であるが、社会の福祉とはどうあるべきか、福祉の発達と国・経済のかかわりに注目しながら講義を進めていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特に要求するものはないが、ヨーロッパの歴史の知識は多いに役に立つ事と思います。(世界史の知識がなくても解説しますので大丈夫です)

評価方法・基準

* 定期試験として実施
筆記試験によって評価を行う。

講義スケジュール

- 第1回 ヨーロッパにおける中世紀までの貧困の救済
- 第2回 イギリス救貧法の生成過程 1
- 第3回 イギリス救貧法の生成過程 2
- 第4回 イギリス救貧法の成立 1
- 第5回 イギリス救貧法の成立 2
- 第6回 市民革命期・産業革命期の福祉 1
- 第7回 市民革命期・産業革命期の福祉 2
- 第8回 新救貧法の成立 1
- 第9回 新救貧法の成立 2
- 第10回 19世紀後半の福祉の形成
- 第11回 19世紀末から20世紀初頭の福祉の展開 1
- 第12回 19世紀末から20世紀初頭の福祉の展開 2
- 第13回 大恐慌期から1940年代の「福祉国家」の生成 1
- 第14回 大恐慌期から1940年代の「福祉国家」の生成 2
- 第15回 第二次世界大戦直後の社会福祉の発達

テキスト

使用しない。

参考書

高島進氏著、「社会福祉の歴史」、ミネルヴァ書房

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

特になし

その他

時々、出欠調査をします。また、ほぼ毎回レジュメを配布します。それらを確実に受け取るようにして下さい。

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 大山 博史

講義内容・テーマ

福祉ニーズを抱える者に対する直接援助の実践過程や技術について、臨床事例をもとに理解を深める。

本講では老人福祉と児童福祉の両領域に限定し、直接援助活動のうち、心理的危機を抱える者に対する心理的支援技法について論じる。それぞれの領域でしばしば遭遇する臨床事例に即して、心理的支援技法の適応、援助の実施方法、援助効果の発現機序、実施後の事例の経過などに関する説明を行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

- * 日常点評価
- 筆記試験による評価

講義スケジュール

1. 老人福祉における相談援助活動の実際
 - 第1 - 3回 1) 相談援助活動の概要
 - 第4 - 6回 2) 老年期の心理学的特性
老年期の心理社会的発達
老年期にみられる心の病
 - 第7 - 9回 3) 老人の心の危機と心理的支援
ストレスと適応障害
幻覚妄想状態とそのケア
うつ状態とそのケア
痴呆のケアの原則
高齢者の自殺予防
2. 児童福祉における相談援助活動の実際
 - 思春期事例の心理的支援を中心に -
 - 第10 - 11回 1) 思春期の心理学的特性
思春期の心理社会的発達
思春期に見られる心の病とその治療
 - 第12回 2) 思春期の子どもと家族関係
家庭内の人間関係と家族の機能
相談援助における家族関係の調整
 - 第13 - 14回 3) 思春期の子どもに対する心理的支援
思春期家庭内暴力とその援助
その他の事例
 - 第15回 閉講(休講があった場合は補講)

テキスト参考書

日本老年行動科学会監修・高齢者の「こころ」事典・中央法規出版・2000.

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

Name 大山 博史
Office location 修学館4F 410

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 加藤 園子

講義内容・テーマ

「福祉労働と専門性」

今日の「社会福祉基礎構造改革」をめぐる動きは、改めて社会福祉の労働・実践の意義とその専門性を明らかにする理論研究の重要性を示すものとなっている。

福祉労働とは何かについては、戦後一連の社会福祉論争における争点として今日に引き継がれている理論課題であるが、本講義では、人権・生存権保障としての福祉労働論の構築が急務である現実を踏まえて、福祉労働の専門性と取り組みの課題について検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

クラス規模が条件となるが、グループ討議・報告形式などの試みも取り入れる計画である、受講生の主体的な授業参加が求められる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

定期試験および日常的に実施する小テスト・レポート提出などにより、総合的な評価を行う。

講義スケジュール

はじめに

福祉労働論研究の今日的意義について

1、社会福祉の政策動向と福祉労働

(1)社会福祉構造改革の本質と福祉労働

(2)社会福祉構造改革と変貌する福祉労働

2、福祉労働(論)研究の視点と意義

(1)社会福祉と福祉労働の視点

(2)社会福祉の政策 - 労働・技術 - 運動の総合的把握の意義

3、福祉労働とは何か ~ 福祉労働の特性・専門性 ~

(1)福祉労働の社会的性格と二面性

(2)福祉労働の本格的目的 - 人権・生存権保障労働としての性格

(3)福祉労働の対象 - 生活問題の担い手とその現代的特徴

(4)福祉労働の内容・労働過程と福祉労働の専門性

4、福祉労働の実践と現実

(1)社会福祉の分野と福祉労働の現実

生活保護・児童福祉・高齢者福祉・障害者福祉・医療福祉

5、福祉労働者の状態と改善課題

6、福祉労働の専門性と資格・養成制度の確立

テキスト

テキストは使用しない。授業中に適宜レジュメ、参考資料などを配布する。

参考書

- 『社会福祉労働の専門性と現実』 植田・垣内・加藤編 かもがわ出版
- 『図説日本の社会福祉』 真田・宮田・加藤・河合編 法律文化社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 藤田 博文

講義内容・テーマ

本講義では、さまざまな学問領域に受容・援用され、それらに多大な影響を与えつづけているミシェル・フーコー（今年2004年は没後20年）の権力論のテキストを読むことを通じて、社会学的な思考やそれがかかえる主要な諸問題、さらには近現代社会の特質について考えていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

フランス語初級文法の知識を持っている学生が望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

予習と出席を含む平常点評価。レポートを求める場合がある。

講義スケジュール

初回：イントロダクション（講義の進め方、テキストについての説明）。

第2回以降：基本的に輪読形式で進めていく。適宜、重要な概念についての解説や議論を行う。

テキスト

Michel Foucault *Il faut d'écarter la société*, Cours au Collège de France (1975-1976), édition & table

sous la direction de François Ewald et Alessandro Fontana par Mauro Bertani et Alessandro Fontana, Paris,

Gallimard / Seuil, 1997を使用する予定であるが、他のテキストに変更する場合がある。なお、テキストはコピーして講義で配布する。

参考書

フーコーに関するテキストは数え切れないほど存在するが、入門書として以下に記すテキストを読んでおくことをすすめる。

・中山元『フーコー入門』ちくま新書、1996年。

・フレデリック・グロ（露崎俊和訳）『ミシェル・フーコー』白水社（文庫クセジュ）、1998年。

・桜井哲夫『フーコー 知と権力』講談社、1996年。

授業の方法（大学院科目のみ）参考になるWWWページ

特になし。

その他

特になし。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 藤田 博文

講義内容・テーマ

本講義では、現代の知に多大な影響を与えているミシェル・フーコーのテキストを読むことを通じて、近現代社会における「権力」と人間「主体」との関係について考えていく。さらにこの考察から、社会学における「権力」概念の理論的位置づけ、「主体」概念の把握、そして近現代社会の特質について議論していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

フランス語初級文法の知識を持っている学生が望ましい。

評価方法・基準

* 日常点評価

予習と出席を含む平常点評価。レポートを求める場合がある。

講義スケジュール

初回: イントロダクション(講義の進め方、テキストについての説明)。

第2回以降: 基本的に輪読形式で進めていく。適宜、重要な概念についての解説や議論を行う。

テキスト

以下に記すテキストのどちらか、あるいは両方を使用する予定である。初回講義でテキスト(コピー)を配布する。

・Michel Foucault, Le sujet et le pouvoir, DITS ET ECRITS, Tome 1, Paris, Gallimard, 1994.

・Michel Foucault, L'éthique du souci de soi comme pratique de la liberté, DITS ET ECRITS, Tome 2, Paris, Gallimard, 1994.

参考書

フーコーに関するテキストは数え切れないほど存在するが、入門書として以下に記すテキストを読んでおくことをすすめる。

・中山元『フーコー入門』ちくま新書、1996年。

・フレデリック・グロ(露崎俊和訳)『ミシェル・フーコー』白水社(文庫クセジュ)、1998年。

・桜井哲夫『フーコー 知と権力』講談社、1996年。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

特になし。

その他

特になし。

文化経済論 S
経済学 S

12481

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 金武 創

講義内容・テーマ

文化経済学の基礎的理解

これまで相反するものと思われがちであった、「文化」と「経済」の関係を捉えなおし、これからの企業やNPO、政府・地方自治体のあり方を考える。

授業では、可能な限り、理論／実証研究の解説と関連話題（VTRや新聞）の提供という組み合わせで進めていきたい。以下のテーマを順番にすべてやるわけではないが、できるだけふれていきたいと思う。

(規範的考察)

- ・文化の経済理論
- ・需要・供給と価格メカニズム
- ・消費の「文化」化
- ・文化の創造と供給
- ・文化の市場
- ・資産としての文化 文化資本論
- ・文化の振興
- ・文化の評価

(具体的事例の検討)

- ・音楽ビジネス デジタル情報としてのJ-POP
- ・地域文化産業としての温泉観光
- ・文化財と文化遺産 誰が何を保全・活用するのか
- ・地域公共財としてのパブリックアート
- ・自発する経済システム totoと地域通貨
- ・スポーツ文化の継承と発展

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

レポート・授業で出した課題(100%)

レポート評価は、論文としての体裁が整っていることを前提とし、執筆者の個性(自分だけの体験、独自の考え、現在打ち込んでいることから得た着想等)がどれだけ表現されているかを重視します。新聞で見かけるような「常識的な論旨」はそれほど評価しませんので注意してください。

友人と相談して、ほぼ同じ内容のレポートを作成することやHPのコピーなどは厳禁です。

講義スケジュールテキスト

とくになし

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

文化人類学 S
人間文化特論 SA

14929

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 橋 健一

講義内容・テーマ

講義テーマ

文化が対立するとき、開かれるとき

授業内容

今日、文化という言葉は、様々な対立の場面で見受けられる。民族紛争ではもちろんのこと、文明の衝突論も文化衝突を文明に読み替えたものだと思えるし、伝統文化対近代的自由という対立図式も一般的になっている。講義の前半では、このような対立の根源としての文化を見つめ、その構造について考える。後半では、どのようにしたら文化のあいだに横たわる差異を許容しつつ、それを開いていくことができるのか考察していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

異文化の紹介というよりも、文化の見方についての話題が中心なので、その点を理解の上受講して欲しい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

- 1, 伝統と自由の対立
- 2, 伝統と自由の対立を開く 構造主義
- 3, 伝統と近代科学(神話、儀礼、身体加工)
- 4, 閉じる構造と開く構造
- 5, 権力の構造 資本、身体、メディア、国民国家
- 6, 国民国家を開く(文化相対主義)
- 7, 閉じる文化相対主義ー再び伝統と自由の対立へ
- 8, 閉じる文化と開く文化
- 9, ことば、文化の生まれるところ

テキスト

なし

参考書

講義中で適宜紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

文化理論 S
文化論 S
文化論 S

14805

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 佐藤 嘉一

講義内容・テーマ

「文化」という言葉の用い方はさまざまである。文化「理論」も同じよう、社会学・文化人類学・社会心理学・精神分析等によって、その内容も方法も多様である。本講義では「人間は二度誕生する」という一つの命題を調べながら、文化の「人格」に及ぼす影響についていろいろの角度から検証する。「血縁地縁本位」の帰属主義的社会、「非血縁・非地縁」の業績主義的社会、「異なるタイプ」の輻輳するアノミー的社会を念頭において、それぞれの社会のなかの「文化」のちがいに注目する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特別の準備をしなくても講義がたのしめるように講義の担当者は色々工夫します。しかし受講者は「筆記用具やノート」を必ず持参して受講してください。出来れば小さな世界地図の携帯をすすめます。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

授業の流れ

部 導入部分

講義の基本命題「人間二度誕生」説をめくって三つのキー概念「人間」(人格・パーソナリティ)、「社会」と「文化」の概念に触れながら、講義全体の流れを紹介する。

部 展開部分

社会と文化とパーソナリティの三つの相互の絡み合いを優れた先行研究の紹介を通して具体的に論考する。

三つの社会類型を中心において、「文化がパーソナリティに及ぼす」影響について考える。

- 1) 血縁・地縁本位の帰属主義的社会の文化について：クリフォード・ギアツの「闘鶏」文化論 「恩」の構造と日本文化
- 2) 非血縁・非地縁本位の業績主義的社会の文化について：リースマン「内部指向型」の文化とパーソナリティ
- 3) 社会変動とアノミー文化：「権威主義的パーソナリティ」とドイツ的「文化パターン」 アメリカの「大衆社会」と「他者指向的パーソナリティ」

部 応用部分

夏目漱石を文化論的に読む - 作品「道草」の前後 -

ドストエフスキーを文化論的に読む - 作品「カラマーゾフの兄弟」

テキスト

テキストは特別に指定しません。講義の中で指示します。参考書の欄および「その他」をお読みください。

参考書

以下の文献のうち必ず一つ選んで読んでください。土居健郎『「甘え」の構造』、ルース・ベネデクト『菊と刀』、フロム『自由からの逃走』、ベラー『心の習慣』、フランクフル『夜と桐』。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

「文化」理解には、映画や絵画や音楽などに親しむことも大事ですし、とりわけ文学作品に親しむことも大事です。本講義では、たとえば夏目漱石の『道草』とかドストエフスキーの『カラマーゾフの兄弟』を読むことを薦めます。

放送メディア論 S
電波メディア論 S
電波メディア論 G

12411

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 柄子 澄雄

講義内容・テーマ

放送界は多チャンネル化を経て本格的なデジタル放送に入った。放送の社会的影響力が強くなるとともに、放送のあり方に対する社会の目もまた厳しくなっている。この講座は放送の現況を正視し、視聴者と制作者側の両面からアプローチして考察するとともに、将来の放送についても展望しようとする実学的な講座である。講座の時間数からみて中心となるのは地上波テレビとなるが、社会的に大きな関心を持たれている「放送倫理」と「視聴率」の両者には多くの時間を割いて深い考察を期している。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

放送業界をはじめとしたマスコミや関連業界を志望する学生、および放送界について深い関心を持つ学生の受講を期待する。自己の視聴するテレビを考察し、新聞などの放送関連記事によく目を通している学生が望ましい。期間中に提示する6本程度の課題レポート(前年度は8本、A4版1枚1200字標準)の提出やレジュメ、配布資料の読破はかなりの負担になることを予め承知して取り組んでほしい。授業の大きな妨げになる遅刻、早退をなくしたい。

評価方法・基準

* 日常点評価

定期試験、レポート試験は行わない。毎回出席をとる方針。

評価は上記課題レポートの採点を中核として、それに出席、授業態度の日常点を加味する。

課題レポートの採点基準は「正解」よりも「深く考えたか、多角的に考えたか」というように「思考」の過程を重視する。

絶対評価なので評価点ごとの分野率は考慮しないが、これまでの実績をみると評価Aの学生が少なくない

一方で、評価Fの学生も少なくないという結果になっている。

講義スケジュール

- 第一回 放送メディアの多様性 放送と周波数について
- 第二回 放送メディアの変遷と現行テレビ・ラジオのネットワーク体制
- 第三回 放送の基本知識 (1) 各国の憲法に見る「言論・報道の自由」
- 第四回 " (2) 放送法・電波法などの放送法規
- 第五回 " (3) 番組基準・放送基準・自主規制
- 第六回 視聴率 (1) 視聴率の基本知識と視聴質
- 第七回 視聴質 (2) 世帯視聴率と個人視聴率 測定から誤差まで
- 第八回 視聴率 (3) 視聴率の社会的利用と営業的利用
- 第九回 放送倫理と自主規制機関 BROと青少年委員会の活動
- 第十回 地上波放送と衛星放送 「地上波ローカル局炭焼き小屋論」とは
- 第十一回 "企画書を書こう" 企画はどこから生れるのか
- 第十二回 "CMを考えよう~テーマは立命館大学~"(課題レポートの発表)
- 第十三回 私の研究「テレビ界不祥事事例」から事例研究
- 第十四回 放送界が抱える諸問題と今後の展開
- 第十五回 まとめ、質疑、就職指針など

テキスト

「放送メディア論・電波メディア論レジュメ資料集」をテキストとして使用する他、適時配布資料を使う。

編者 柄子澄雄 立命館生協の発行・発売で販売価格400円程度の予定。

これまでは配布資料を使用した。時間のロスが大きく今回からテキストに切り替えた。

参考書

「テレビ放送への提言」津金沢聡広・田宮武編著 ミネルヴァ書房 1999

「メディアリテラシーの現在と未来」鈴木みどり 世界思想社 2001

「テレビを審査する」松田士朗 現代人文社 2003

「チャレンジ テレビ番組づくり」読売テレビ 2003

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

日本民間放送連盟 <http://www.nab.or.jp>(民放全局にリンク可能)

NHK <http://www.nhk.co.jp>

放送倫理・番組向上機構 <http://www.bpo.gr.jp>

その他

前年度は25人で「漢字学習」の課外授業を実施したが、今期も希望があれば人数限定で実施する。
また放送界への就職志望者に対する情報は授業内で適時するほか相談にも応ずる。

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回数 2以上
担当教員 宮下 晋吉

講義内容・テーマ

「IT革命」「モバイル革命」が云々され、携帯電話やデジタルハイビジョン放送など技術進歩は日進月歩である。本講は、マクルーハンなどのメディア論をふまえ、検討しつつ、中世のグーテンベルクの活版印刷術から今日のインターネットやモバイル、ユビキタスまで、メディア技術がどのように発展してきたのか、を具体的に明らかにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回講義レジュメ、および講義資料(図版、および文献資料)を配布する。ときには、ビデオ教材も用いる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
成績評価には日常点を加味することがある。

講義スケジュール

- 第1回 メディア・技術・社会 メディア技術史とは？ ジョブズとパソコンの将来性
- 第2回 グーテンベルクの銀河系 マクルーハンのメディア論、「42行聖書」を見ながら考える
- 第3回 グーテンベルクの銀河系 グーテンベルクと活版印刷術の発明
- 第4回 テレコミュニケーションの誕生 腕木式通信機から電信、海底ケーブル、電話の発明まで
- 第5回 電磁波とは 19世紀における電磁気学の成立と電磁波の発見、マルコーニまで
- 第6回 発明王エジソンとメディア技術 フォノグラフからグラモフォンへ
- 第7回 フィルムとカメラの世界史、ダゲレオタイプからシネマトグラフまで
- 第8回 真空管の入った箱 ラジオ、電子技術の発達
- 第9回 走査する管 アイコノスコープ、電子式テレビ技術の発達
- 第10回 コンピュータの誕生 コンピュータの起源、MARKIからIBM360へ
- 第11回 シリコンパレーの一粒の麦 電子部品の発達、トランジスタからIC、マイクロプロセッサへ
- 第12回 パソコンの誕生とインターネットヒストリー
- 第13回 ケータイのテクノロジー ナノテクノロジーとしてのシステムLSI
- 第14回 マクルーハン、メディア技術と文明、社会 メディア技術史をふりかえって
- 第15回 定期試験

テキスト

テキストに準じて、山崎俊雄・木本忠昭『新版電気の技術史』(オーム社、1992年)

参考書

M.マクルーハン『メディア論 人間の拡張の諸相』(みすず書房、1987年)
相田洋著『電子立国日本の自叙伝1 - 7』(NHK出版、1995年)
キドウェル、セルージュ著『目で見えるデジタル計算の道具史 そろばんからパソコンまで』(ジャストシステム、1995年)
名和小太郎著『起業家エジソン 知的財産・システム・市場開発』(朝日選書、2001年)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

とくにフォノグラフやキネマトグラフの発明者である発明王エジソンに関して、350万のエジソン文書がハイパーテキストとして、誰でも利用できる：<http://edison.rutgers.edu/papers.htm>

その他

連絡などは、教室で受け付けます。質問など歓迎。授業後どしどし私のところまで来てください。

メディア社会論 S
 情報社会論 S
 情報産業論 S
 情報産業論 NB

12324

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

テーマ:「メディアと民主シー」。現代は、地球上のどのような地域間でもただちに双方向通信が可能な時代である。高速通信技術と多様なメディアの発達により、人びとの自由で平等なコミュニケーションを実現させる物質的条件は整ったといえる。しかし、巨大に成長したメディア産業と市民社会との間には、公正・正義をめぐる多くの問題点が指摘されている。この講義では、こうした社会の情報化とそこに内在する諸問題を解説し、その解決の方向を検討する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科・現代社会学系・社会形成プログラムのみ3回生配当。1回生配当・学部共通入門科目「現代とメディア」の受講を希望する。過去2回の講義では、内容が少々抽象的すぎるという批評をいただいている。より具体的な事例を挙げて議論を進めるよう工夫しますが、メディア論を語るには、世界秩序、あるいは公正とか正義という社会的価値についても深く思索する必要がある、そうした問題にも言及したいと思う。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
- ・講義期間中に小レポート・質問紙の提出を求める。
- ・評価は、定期試験(70%)、諸提出物(30%)の比重でおこなう。

講義スケジュール

- 第1部 マスメディアの発達(4回ほど)
 - ・出版、言語、教育と国民統合
 - ・ラジオ・テレビと市民社会
 - ・ネットワーク社会、マルチメディアを考える
 - 第2部 メディア企業複合体とその社会的影響(4回ほど)
 - ・巨大メディア企業複合体
 - ・利益を追求するメディア企業
 - ・広告、その機能
 - 第3部 グローバル化時代のメディア(6回ほど)
 - ・メディアの効果研究
 - ・メディアとオーディエンス
 - ・メディアと公共圏の形成
- まとめと今後の課題

テキスト

- ・テキストは指定しない。毎回、レジユメを配布する。

参考書

- ・各講義ごとに適宜、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

- ・各講義ごとに適宜、紹介する。

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

メディア制作研究 は、受講者自らがドキュメンタリー作品などのメディアを制作したり、それを電波で放送する場合を想定し、映像文化や映像ジャーナリズムの特質、さらに実際の制作のポイントや具体的な課題を考えてゆく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義は主として映像作品を制作する際の、さまざまな実際の課題を考えてゆくものなので、日頃から写真やドキュメンタリー作品に積極的に接し、できれば企画・制作も経験していると関心・理解が深まる。

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価

講義スケジュール

- 1、ドキュメンタリー入門
 - (1) 今、なぜ、誰に伝えるのか ~ 阪神淡路大震災報道から ~
 - (2) 写真と映像の時代がやってきた
 - (3) モンターージュとドキュメンタリー
 - (4) 社会的映像とフォトジャーナリズム ~ ロバート・キャパ伝説 ~
 - (5) 放送ジャーナリズムの成立 ~ 開拓者エド・マロー ~
- 2、制作のポイント
 - (6) 企画とリサーチ・提案 ~ 『ピョンヤンの再会』から
 - (7) テーマをどう切るか ~ 『中学校保健室』から ~
 - (8) カメラマンの仕事
 - (9) インタビューの醍醐味 ~ 『徹子の部屋』 ~
 - (10) 制作の現場から
- 3、制作・製作の実際
 - (11) 隠し撮り、再現の倫理
 - (12) 人権と知る権利 ~ 『はげわしと少女』など ~
 - (13) 製作と配給の楽しみ
 - (14) 私的ドキュメンタリーの可能性

テキスト

特に定めないが、自分で興味ももてる関連書、また各種の映画、テレビのドキュメンタリーや映像ライブラリーなどと接することが望ましい。

参考書

港千尋「映像論」NHK出版
 津田正夫編著「テレビジャーナリズムの現在」現代書館
 桜井均「テレビの自画像」筑摩書房
 林英夫「安心報道」集英社
 神保哲夫「ビデオ・ジャーナリストの挑戦」ほんの木

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 黄 盛彬

講義内容・テーマ

この授業では、映像ソフトなど様々なメディア・コンテンツの制作をめぐる諸環境の理解を深めることや、デジタル技術がメディア・コンテンツの制作過程にもたらした影響などについて検討することを目標とする。そして、その目標に到達するひとつの手段として、受講生自らがビデオ・カメラやパソコンの映像編集技術、双方向メディアの表現技術を駆使して、自主作品の制作実習に取り組んでみることを提案する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点評価

講義スケジュール

1. イントロダクション
2. 企画の説明、班分け、ブレイン・ストーミング
3. ビデオカメラ操作の実習 (1)
4. ビデオカメラ操作の実習 (2)
5. 撮影実習(1)基礎
6. 撮影実習(2)野外撮影
7. 撮影実習(3)自由撮影
8. 撮影実習(4)スタジオ撮影
9. 効果的な画面構成法-映像言語の理解
10. ノンリニア編集の基礎実習 - 取り込み&カット編集
11. ノンリニア編集実習(1) - 効果
12. ノンリニア編集実習(2) - 画面転換
13. ノンリニア編集実習(3) - 効果音、字幕
14. 作品の仕上げ
15. 作品上映会および評価

テキスト

指定しない。

参考書

その都度、案内する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その都度、案内する。

その他

メディア調査法 S
メディア認知論 S

12340

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 稲葉 哲郎

講義内容・テーマ

「マスコミやメディアは大きな影響力を持つ」といわれるが、ではその影響力とはいったいどのようなものなのだろうか。講義では、「メディアは思われているほど効果はないのでは？」という疑問を出発点に、これまでのマスコミ効果研究を振りかえりつつ、マスコミの効果について考えていく。

われわれが入手する情報の多くをマスコミに依存している現状において、マスコミが受け手に影響をもたらさないと考えられない。現在のマスコミ研究がどのような側面に注目をしているのか理解を深めていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

「現代とメディア」の単位を取得していることが望ましい。

また、他学部受講の場合は、受講を希望する理由を400～800字程度書いて、第2回目の講義までに電子メールで mrm@inabalab.net に提出すること。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

レポート(70～80%)、出席点(20～30%)

講義スケジュール

1. イントロダクション
2. 人々は簡単に踊らされるか?: 大衆説得と政治宣伝
3. 心のボタンはどう押されるか?: コミュニケーションと説得
4. 対人コミュニケーションとマス・コミュニケーション
5. ニュースと世論: 議題設定機能
6. 「こころ」とメディア: 認知心理学的アプローチの導入
7. 動く世論: 沈黙の螺旋
8. 歪む現実認識: 培養効果
9. 政治キャンペーンをめぐる
10. まとめ

テキスト

プリントを配布

参考書

授業の内容に関しては、田崎篤郎・児島和人(編)『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版が最も参考になる。その他、レポートの書き方に関する文献を各自参照しておくこと。例えば、小笠原喜康『大学生のための論文・レポート作成術』講談社現代新書は手頃な1冊である。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

メディア認知論 S
メディア認知論 S

14966

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 坂田 謙司

講義内容・テーマ

日常生活に組み込まれたメディアは「マス・メディア」という単層ではなく、さまざまなメディアが重なり合った重層性をもっている。加えて、われわれは、日常生活におけるメディアの存在を自明なものと認知している。なぜそのメディアが存在するかという理由を考える機会は少ない。そこで、メディアの存在という自明性を問い直すことで、われわれがメディアを認知する際のダイナミクスを考察する。そのために、この講義では「マス・メディア」ではなく「ローカル・メディア」を扱う。普段意識されない「ローカル・メディア」を扱うことで、メディアの自明性を考察し、ひいては「マス・メディア」の存在も問い直すことができるからである。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 定期試験として実施
授業中に、適宜コミュニケーションペーパーによるミニレポートを実施

講義スケジュール

- 第1回 インTRODクシヨン メディアの自明性を疑う
- 第2回 9.11と台風 コミュニティFM
- 第3回 地元の視点 ローカル新聞
- 第4回 地域密着とは何か ローカル放送局
- 第5回 もうひとつの電話 有線放送電話
- 第6回 百貨店メディア ケーブルテレビ
- 第7回 個人通信からミニ新聞まで ミニコミとメルマガ
- 第8回 最も小さな情報伝達 回覧板と掲示板
- 第9回 ローカルな個人放送局 親子ラジオ
- 第10回 ビデオカメラで世界を取材 ビデオ表現者
- 第11回 声の語りの魅力 ミニFM
- 第12回 ローカルを問い直す インターネット放送
- 第13回 NPOとローカル・メディア
- 第14回 まとめ ローカル・メディアから見たメディアの存在
- 第15回 試験

テキスト

なし レジユメを使用

参考書

田村紀雄編『地域メディアを学ぶ人のために』世界思想社
井上俊編『地域文化の社会学』世界思想社
その他、授業中に随時提示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

メディア表現論 S ルポルタージュ論 S	14958
-------------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 増田 幸子

講義内容・テーマ

本講義では、映像メディアの一つである映画をとりあげ、その発展の歴史に沿いながら、映画の表現様式と映画の表現が生成する社会的意味について学ぶ。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

基本的には講義形式で行うが、随時テーマに関わる具体的な映画テキストを示しながら、授業を進める。映画が見られるという安易な考えで受講しても、楽しいばかりの作品ではないので、登録の際、よく検討してほしい。30分を超えた遅刻の場合、入室を認めない。私語など、受講態度のよくない者については学生番号と名前の提示を求め、評価に反映させる。悪質な場合は退室してもらい、今後の受講を認めない。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

授業中に課す数回の受講エッセイと期末レポート(6000字)で評価する。

受講エッセイが半分以上提出されていない者は、期末レポートの提出の資格がないものとする。

受講者の人数によって、以上のことに変更が生じることがある。

講義スケジュール

- 第1回 ガイダンス、映画の歴史とは？
- 第2回 シネマトグラフからサイレントへ
- 第3～4回 映像の文法 ex.『サイコ』『戦艦ホチョムキン』『アンダルシアの犬』
- 第5回 ドイツ表現派 ex.『カリガリ博士』『メトロポリス』
- 第6～8回 プロバガンダと映画 ex.『民族の祭典』『汝の敵を知れ』『戦ふ兵隊』
- 第9回 イタリアのネオリアリズム ex.ロッセリーニ
- 第10回 1950年代の日本映画 ex.小津、黒澤、溝口
- 第11回 フランスのヌーヴェル・ヴァーグとその周辺
- 第12回 アメリカン・ニューシネマ ex.『俺たちに明日はない』
- 第13～14回 1980年代以降のアジア映画 ex.香港、台湾、中国、イラン、インド
- 第15回 まとめ

テキスト

特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

参考書

ジェームズ・モナコ(1983)『映画の教科書』フィルムアート社。
ジェレミー・ヴィンヤード(2002)『映画技法完全レファレンス』フィルムアート社。
長谷正人/中村秀之編(2003)『映画の政治学』青弓社。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

メディア文化論 S
情報文化論 S

14892

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 3以上
担当教員 功刀(くぬぎ) 良吉

講義内容・テーマ

テレビ・新聞・ラジオ・出版のマスコミ四媒体を初め、映画・音楽・広告からインターネット・携帯電話・家庭用テレビゲームに至るまで、メディアは今まさに大きな曲がり角に立っている。本講義では、「up-to-date」(最近の出来事を)、「skeptical」(本当にそうかという視点に立って)、「based on statistics」(数字に裏付けられた)をkey wordsに問題を提起する。実業現場での経験を交えて講義を進めたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

好奇心を持ち合わせて、日毎に伝わるメディア情報に関心を持ち、それを鵜呑みせず自分自身のしっかりした判断力を養うという気持を是非持って受講されたい。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
* 日常点評価
試験に代るレポート 50%
Brief Report × 3回 30%
Skepticalな受講姿勢 20%

講義スケジュール

1. 開講 講義方針の説明
2. 主要メディア産業と広告の関係
3. 新しいメディアの今後
4. アテネオリンピックとメディア
5. 文化は誰のものか・・・著作権 BriefReport
6. テレビの壁・・・視聴率のその後
7. 新聞はどこへ行くのか
8. 出版業界の近況
9. 映画が栄えてこそ文化大国
10. 音楽文化の現場から BriefReport
11. アニメと家庭用テレビゲームと
12. M & A (メディア企業の買収合併)
13. ソフトコンテンツで日本再生
14. 米国大統領選とメディア
15. 閉講 BriefReport

テキスト

なし

参考書

「誰が本を殺すのか」 佐野真一 著 講談社刊/
「TVメディアの興亡」 幸坊治郎 著 集英社新書/
「新聞が消えた日」 新聞労連 編 現代人文社刊/
「ニュースの職人」 鳥越俊太郎 著 PHP新書/
「テレビ局が潰れた日」 石光 勝 著 アートデイズ刊/

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

なし

その他

なし

メディアリテラシー論 S
 メディア・リテラシー論 S
 メディア・リテラシー論 G

12405

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 鈴木 みどり

講義内容・テーマ

今日のメディア社会を主体的に生きるうえで不可欠な能力といえるメディア・リテラシーについて、その理論と実践の展開を学び、自ら行うメディア分析をとおして基本的な概念を理解する。とくに本科目では、「メディア社会を生きる私たち」を全体的なテーマに据え、メディアのなかのテレビを中心に、メディアが記号化し構成する「現実」、映像言語の特性、価値観やイデオロギー、そのような内容をつくりだしているメディアの産業や制度としての側面、アクティブ・オーディアンス、などの<基本概念>を社会的文脈で読み解く方法を実践的に学び、理解することに力点を置く。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

グループ学習活動としてのメディア分析と討論、個人によるメディア・ログ(メディア分析レポート)の提出、クラス全体での発表と対話、という運営方式を基本に、文献を使いながら行う講義を織り交ぜ、全体として参加型の授業を行う。したがって、授業への能動的参加が受講条件といえる。

評価方法・基準

* 日常点評価

評価は授業への出席・グループ活動への参加の度合い(40%)と授業中に課すメディア・ログ(30%)と最終授業試験(30%)、による。なお個人で提出するメディア・ログ(メディア分析レポート)は、授業の進行に沿って随時だす課題のなかから選んで執筆し、原則として翌週に提出する。

講義スケジュール

- 第1週 Introduction / メディア・リテラシーの学び
ビデオパッケージ「スキニング・テレビジョン日本版」(STJ)について
ショートエッセイ
- 第2週 メディア・リテラシーとは何か / メディア社会の現出 / ML研究の歴史的背景
目標と定義・基本概念・メディア研究モデル / 学びのスタイル
- 第3週 記号化され構成された「現実」representation(1)
メディアはすべて構成されている
メディア分析1:メディアはどう構成されているか
- 第4週 記号化され構成された「現実」(2)
メディア分析1(つづき) / グループ活動と発表
メディア分析2:メディアが構成する「現実」とは
- 第5週 記号化され構成された「現実」(3)
メディア分析2(つづき) / グループ活動と発表
representationの概念、他の基本概念を再確認
- 第6週 メディアの広告機能とメディア言語
広告からみるメディア産業現況
メディア言語・映像言語
メディア分析3:テレビCMを使って映像言語を学ぶ
- 第7週 広告がつくりだす文化(1)
メディア分析3(つづき)
メディア分析4:イメージと価値観の販売
VTRテキスト:STJから「コカコーラ化された世界」
- 第8週 広告がつくりだす文化(2)
メディア分析4(つづき)
グループ活動発表
VTRテキスト:STJから「POP!商品コネクション」
- 第9週 メディアの表現と価値観・イデオロギー(1)
「ジェンダーとメディア」をめぐる国連を中心とする世界の動き
メディア分析5:ジェンダーをどう読み解くか
VTRテキスト:STJから「スーパーモデルがやきもちを妬くと...」
- 第10週 メディアの表現と価値観・イデオロギー(2)
メディア分析5(つづき)
グループ活動と発表
- 第11週 メディアの表現と価値観・イデオロギー(3)
制度としてのメディア:メディアをめぐる社会的規律、オーディアンスの申し立て、自主的規律
メディアの産業構造とジェンダー
マイノリティ市民とメディア

- メディア分析6: 価値観・イデオロギーを読み解く
VTRテキスト:STJから
- 第12週 オーディアンスを考える(1)
環境化するメディアとアクティブ・オーディエンス
「メディアと子ども」をめぐる議論と研究のグローバルな展開
- 第13週 オーディアンスを考える(2)
メディア分析7: 私のメディア史、私たちのメディア史
グループ活動と発表
- 第14週 オーディアンスを考える(3)
メディア分析8: 子どもたちへの提言(グループ発表)
まとめ
- 15週1/14 最終授業試験

テキスト

- 『Study Guideメディア・リテラシー[ジェンダー編]』(鈴木みどり編、リベルタ出版、2003)
『メディア・リテラシーを学び人のために』(鈴木みどり編、世界思想社、1997)

参考書

- 『メディア・リテラシーの現在と未来』(鈴木みどり編、世界思想社、2001)
他は授業の流れのなかで随時、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

- メディア・リテラシーの世界(Media Literacy Project in Japan) <http://www.mlpj.org/>
Media Awareness Network (Mnet) <http://screen.com/mnet/eng/>

その他

メディア理論 S コミュニケーション論 S	14629
--------------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 坂田 謙司

講義内容・テーマ

この講義では、今現在のわれわれを取り巻くメディア状況をより深く考察するために、歴史社会的な視点を使って、今一度メディア展開の流れを辿って行く作業を行う。そして、その過程において、関連する重要なメディア理論を紹介し、メディアと社会、あるいはメディアと人間との関係を考察する重要性を学んで行く。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 定期試験として実施
授業中に、適宜コミュニケーションペーパーによるミニレポートを実施

講義スケジュール

後期

- 第1回 イントロダクション 歴史社会的な視点でメディアを捉える重要性
- 第2回 文字と活字
- 第3回 新聞とジャーナリズム
- 第4回 鉄道と電信網
- 第5回 電話と声・音
- 第6回 写真と映画
- 第7回 無線とラジオ
- 第8回 テレビ
- 第9回 マス・メディア
- 第10回 広告というメディア
- 第11回 身体とメディア
- 第12回 コンピュータとマルチ・メディア
- 第13回 インターネットと空間
- 第14回 まとめ 現在のメディア状況を考察する
- 第15回 試験

テキスト

なし レジユメを使用

参考書

デイヴィッド・クローリー、ポール・ヘイヤー編『歴史のなかのコミュニケーション』新曜社
吉見俊哉・水越伸『メディア論』放送大学教育振興会
吉見俊哉編『メディア・スタディーズ』せりか書房
キャロリン・マーヴィン『古いメディアが新しかった時』新曜社
他

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

余暇・スポーツ史 S
スポーツ文化史 S

14688

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回数 3以上

担当教員 有賀 郁敏

講義内容・テーマ

講義のテーマ: 民衆の「余暇」活動と権力との関係

不幸にして「余暇」と訳されてしまった狭義の非労働時間は、この言葉から派生するやや消極的な意味とは裏腹に、われわれの生活に固有の意味を付与する非常に大きな価値をもっているよう思われる。なぜなら「余暇」を欠落させた生活を考えることは、現状ではもはやリアリティを欠いているからである。日本とヨーロッパの生活史をひもとくなら、「余暇」が娯楽性のみならず、民衆にとって多様で重要な意味をもっていたことに気づく。実は、この民衆の「余暇」活動をいかにして管理してゆくのかは国家をはじめとした諸権力にとっても非常に重要な課題であったのである。本講義では広範囲にわたる「余暇」活動のなかから、幾つかのサブテーマを選び取り、「余暇」の実相と権力との関連に迫りたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業は講義形式が基本となる。しかし、受講生が内容をよりよく理解するためにの講義に関するレジュメはもとより、ビデオ、デジタル写真、CD - Romなどを多く活用する。また講義の内容に関する意見交換の場を設け、受講生の貴重な見解については、それを共有するように努めたい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

評価は基本的に定期試験の結果による。基準は講義についての知識ならびに内容に関する自己の理論展開である。また、それぞれの講義のセクションごとにミニレポートを書いてもらい、それを評価の対象としたい。このミニレポートの評価基準はレポートの提出回数を基本とする。

講義スケジュール

1. オリエンテーション: 講義の進め方、受講に際しての確認事項
2. 近代イギリスの「合理的娯楽」運動 : 民衆娯楽の世界ー賭け、闘鶏、ボクシング
3. 近代イギリスの「合理的娯楽」運動 : 福音主義と娯楽の合理化、動物愛護協会の活動
4. 近代イギリスの「合理的娯楽」運動 : カウンターアトラクションとしての合理的娯楽運動
5. フットボールの社会史 : マスフットボールから近代サッカー
6. フットボールの社会史 : アスレティズムとアマチュアリズム
7. ファシズムと娯楽: 「ドーボラボーロ」と「歓喜力行団」
8. ドイツにおけるアソシエーション : 都市の生活とアソシエーションへの期待
9. ドイツにおけるアソシエーション : 男性合唱協会、体操協会、自主消防団の活動
10. 日本における「公と私」関係の推移と余暇・スポーツとの関係
11. 世紀末資本主義、帝国主義、植民地主義の展開とスポーツ: フランス近代とオリンピック、スポーツの伝播と普及
12. 近代日本における近代化政策と民衆娯楽 : 運動会の社会史
13. 近代日本における近代化政策と民衆娯楽 : 運動会の社会史
14. 近代日本における近代化政策と民衆娯楽 : スポーツの政策化と娯楽の管理と統制そして逸脱
15. 講義のまとめ

テキスト

特に使用しない。その都度、参考文献などの情報を受講生に提供する。

参考書

- ・R. マーカムソン『英国社会の民衆娯楽』平凡社
 - ・有賀郁敏他『近代ヨーロッパの探究8 スポーツ』ミネルヴァ書房
 - ・O. グルーベ、M. クリュエーガー『スポーツと教育ードイツスポーツ教育学への誘い』ベースボールマガジン社
 - ・高津勝『近代日本スポーツ史の底流』創文企画
- 以上の文献はすべて大学図書館にある。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義の場で必要に応じて紹介する。

その他

余暇論 S
現代余暇論 S

14639

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 棚山 研

講義内容・テーマ

本講義では、近年の余暇活動の全体的状況を概観し、さらにグリーンツーリズムやボランティアなどの「新しい余暇活動」に注目していく。そして、そのような余暇活動がいかなる社会的背景を持った人々によって支えられているのか、また、そこから照らし出される「労働」の現代的なあり様について論じたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業では簡単に触れるに留めるが、何よりも日本の余暇問題は労働時間問題である。労働時間についての基本的知識(国際比較など)を持っておくことが望ましい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

基本は定期試験(試験期間中)のみで行う。その他、学生参加の授業形態を予定している。授業中、「余暇に関する適当なテーマ」で個人発表をした人には、原則として単位認定する予定。第1回目の授業で希望者を募り、授業日程の後半で各自報告日程を決めていく。詳しくは授業中に説明する。

講義スケジュール

余暇論の概略・コンセプト 余暇を論じることの人的・文化的・未来社会論的意義について
現代日本の余暇活動(1) その全体的な状況(労働時間・余暇政策・レジャー産業の動向など簡潔に)
現代日本の余暇活動(2) 「新しい余暇活動」のトレンド
「社会性余暇」について(1) データから読み取れるもの
「社会性余暇」について(2) 具体的事例を交えて(まちづくり、スポーツなど)
「農村ツーリズム」について(1) その概略
「農村ツーリズム」について(2) 課題と発展可能性
「余暇社会」の可能性について考える(1) 現代日本の労働との関係で
「余暇社会」の可能性について考える(2) 環境問題、情報化との関わりで
まとめ
以上の項目を14回にわたって授業していく。
これ以外にも学生参加の授業形態(希望者の個人発表)を予定している。「評価方法・基準」を参照。

テキスト

使用しない。

参考書

自由時間デザイン協会編『レジャー白書』2001、2003年度版。生協および大型書店の「政府刊行書コーナー」で入手可。図書館「白書・統計コーナー」で閲覧可。その他の参考書は適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

適宜紹介する。

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 櫻谷 真理子

講義内容・テーマ

人間が社会の中で生まれ、育ち、老いていく過程をライフサイクルの各ステージに沿って概説し、心理・社会的存在としての人間理解を深め、人間の一生について総合的に考察する。とくに、各段階の心理的危機とその克服過程について論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テーマを設定して、レポートを書いてもらうことが多い。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

数回のレポートと出席状況(40%)、定期試験にて(60%)評価する。

講義スケジュール

1. ライフサイクルとは何か
2. 乳幼児期の子どもの発達と親のライフサイクル
乳幼児の発達と子育てーその1
乳幼児の発達と子育てーその2
乳幼児の発達と子育てーその3
3. 学童期、思春期の発達課題と心理的危機
学童期の子どもの発達と心理的危機
思春期の子どもの発達と心理的危機
子どもの思春期危機と親の思春期危機
3. 青年期から成人期ー社会人として、家庭人としてー
青年期、成人期の発達課題
結婚、家庭生活の悩み
4. 中年期の光と闇ーアイデンティティの問い直し
中年期の心身の変化
中年期の諸相ーその1
中年期の諸相ーその2
5. 老年期を生きる
ライフサイクルの中の老い
自我機能の発達と人格の統合
まとめ

テキスト

とくに定めない。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

ライフデザイン論 S 人間発達論 S	14680
-----------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 中村 正

講義内容・テーマ

自己決定の尊重、生活の質(QOL)の確保、市民社会の自律性、NPO・NGOへの期待、公共圏の再構築、持続可能な社会創造など、生活の仕方や価値にかかわる新しい問題群が、新社会システム形成と関わって議論された。一言でいえば、多様なレベルの協働の創造である。新しいライフデザインを模索する問題群を扱いながら、人間の生き方や他者との関わり方が変容する時代の「A Way of Life」の諸相を明確にする。特に、ケアリングをめぐる問題群を主題として具体的な課題を扱う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義の流れに即して解説を行う。ライフデザイン論は新しい分野なので、定型的な知識や体系化された知識が出来上がっているわけではない。ノートを取ることを基本にして講義を進める。資料など必要なデータは適時配布する。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

テーマと主題

- 1) ライフデザイン研究とは何か - 生き方を考えるための社会学的想像力 -
- 2) ライフサイクルの変容1 - 脱青年期の生成と社会制度 -
- 3) ライフサイクルの変容2 - 少子社会の意味すること -
- 4) ライフサイクルの変容3 - 高齢社会・長寿社会への社会再編成 -
- 5) ライフデザインとジェンダー1 - ジェンダーと家族 -
- 6) ライフデザインとジェンダー2 - ジェンダーと政策 -
- 7) ライフデザインとジェンダー3 - ジェンダーと社会 -
- 8) 中間まとめレポート
- 9) ライフデザイン変容と社会再編成の課題 - 争点としてのケアリング -
- 10) ケアのカタチ1 子育て共同
- 11) ケアのカタチ2 - 介護の社会化
- 12) ケアのカタチ3 - 自立生活と障害者
- 13) ケアのカタチ4 - 地域共助の仕組み
- 14) ケアのカタチ5 - 共生のスタイル
- 15) ライフデザイン研究の課題

テキスト

なし

参考書

担当者の書いたものとして、『家族のゆくえ』(人文書院)、『「男らしさ」からの自由』(かもがわ出版)、『ドメスティック・バイオレンスと家族の病理』(作品社)、『なぜ夫は、愛する妻を殴るのか』(ダットン著中村正訳、作品社)、『京都発NPO最前線』(京都新聞社)、『家族の暴力をのりこえる』(かもがわ出版)などがある。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義のなかで紹介する。

その他

リハビリテーション論 S
リハビリテーション論 S

14924

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 門 祐輔

講義内容・テーマ

リハビリテーションは、理想的には「全人間的復権」を目的とし、従来の「疾患を対象とし、治癒を目的とした」医学とは異なり、障害を対象とするという特徴を持つ。医療の現場ではこの従来の医学とリハビリテーション医学の両方が求められている。また高齢化がすすみ、介護保険が施行された時代にあつて、リハビリテーションは医療と福祉をつなぐ重要な役割を持っている。

本講義は、医療を中心としたリハビリテーションの現場の諸問題をとりあげ、リハビリテーションの理念とともに、現場で役立つ知識をえることを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

社会福祉士などの取得をめざし将来医療・福祉の現場で働くことを希望する学生が、現場をイメージできるように、ビデオ、スライドなどを利用し行う。

以下の内容で行うが、詳細なスケジュールは最初の講義の時に提示する。

リハビリテーションと障害(総論)

障害の概念と変遷

障害者の心理

リハビリテーションの基本的考え方

リハビリテーションを理解するための基礎医学

リハビリテーションを支えるスタッフ

リハビリテーションと障害(各論)

脳卒中のリハビリテーション

脊髄損傷および脊髄疾患のリハビリテーション

リウマチおよび骨関節疾患のリハビリテーション

脳性麻痺および小児のリハビリテーション

神経筋疾患のリハビリテーション

切断のリハビリテーション

内部障害のリハビリテーション

精神障害者のリハビリテーション

高齢者のリハビリテーション

廃用症候群のリハビリテーション

職業的リハビリテーション

社会的リハビリテーション

教育的リハビリテーション

介護保険とリハビリテーション

トピックス

障害者の外出

障害者の居住など

テキスト

なし。必要なプリントをつくります。

参考書

『リハビリテーション医療入門』(医学書院)

『目で見るリハビリテーション医学 第2版』(東京大学出版会)

『脳卒中のリハビリテーション』(医歯薬出版株式会社)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

臨床社会学 S
現代人権論 S

14934

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 中村 正

講義内容・テーマ

臨床の現場がたくさんある。心理相談、福祉援助、医療・看護、臨床教育、障害者援助などだ。こうした人々の営為に社会学はどのように貢献できるのか。社会行動や相互作用の諸過程を分析する社会学の方法は臨床実践に「関係性」という射程をもって接近できるだろう。だからその射程は社会それ自体の病理性をも扱うこととなる。こうした広がりの中で臨床実践を把握する。可能な限り多くの主題を扱いながら、臨床社会学の基本的考え方について講義していきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義の流れに即して解説を行う。臨床社会学は新しい分野なので、定型的な知識や体系化された知識が出来上がっているわけではない。ノートを取ることを基本にして講義を進める。資料や視聴覚教材などを用いて分かりやすくすすめる。講義に必要なデータは適時配布する。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

- 1) 社会病理現象と臨床社会学 - ころ化する社会のなかで -
- 2) 臨床社会的なものの方 - 烙印理論 -
- 3) 臨床社会学と構築主義的アプローチ
- 4) 外見についての臨床社会学
- 5) パッシングとスティグマ(烙印) - トランスセクシャルの体験 -
- 6) 少年非行問題 - 修復的少年司法について -
- 7) トラウマと暴力の再生産 - 被害と加害のあいだ -
- 8) アディクション - 薬物とアルコール依存 -
- 9) 社会問題としての自殺
- 10) 不登校問題・ひきこもり現象
- 11) カルト問題 - 共同性への埋没 -
- 12) いじめと共同性の病理 - 傍観者の存在 -
- 13) 家庭内暴力(DVと虐待)
- 14) 関係性の病理と臨床社会的な実践
- 15) 臨床社会学研究の課題 - ころの時代をこえる -

テキスト

なし

参考書

担当者の書いたものとして、『家族のゆくえ』(人文書院)、『「男らしさ」からの自由』(かもがわ出版)、『ドメスティック・バイオレンスと家族の病理』(作品社)、『なぜ夫は、愛する妻を殴るのか』(ダットン著中村正訳、作品社)、『家族の暴力をのりこえる』(かもがわ出版)、『京都発NPO最前線』(京都新聞社)などがある。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

授業のなかで随時紹介する。

その他

社会病理現象に関しては新聞などをよく読むことを薦める。しかし、メディアの社会病理の扱い方に関しては批判的に位置づけることが必要だ。

老人福祉論 S
老人福祉論 S
老人福祉論 SG

10602

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 高橋 正人

講義内容・テーマ

わが国の高齢者福祉制度、サービスに関する基礎知識とそこにおける問題点について講じる。また高齢者の介護問題を中心にして、在宅福祉の展開過程をたどりながら、わが国の高齢者福祉のあり方を福祉先進国といわれる諸外国の高齢者福祉事情と比較しながら検討する。とくに公的介護保険制度の導入にかかわる諸動向について述べ、そこにおける問題点や課題を明らかにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞・雑誌等に掲載される高齢者福祉関連の記事に関心をもつこと。
自分の住んでいる地域の高齢者福祉について調べたりすること。
「若い」を想像し、自分の問題としてほしい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験及び講義の中で課す小レポート、出席点などによる総合評価

講義スケジュール

- 1 高齢者福祉の考え方
- 2 人口高齢化と高齢者問題の予見
- 3 家族変化と高齢者問題の現出
- 4 高齢者福祉制度の成立
- 5 高齢者福祉制度と福祉見直し論
- 6 高齢者福祉と在宅福祉の考え方
- 7 高齢者福祉と在宅福祉の展開
- 8 高齢者福祉と施設
- 9 高齢者福祉と地域
- 10 高齢者保健福祉推進10ヶ年戦略
- 11 高齢者福祉と介護保険の成立
- 12 高齢者福祉と介護保険の問題点
- 13 高齢者福祉と介護保険の課題・展望
- 14 高齢者福祉の未来
- 15 閉講

テキスト

とくに定めない

参考書

- ・社会福祉士養成講座(第2巻)「老人福祉論」中法法規出版
- ・最新介護福祉全書(8巻)「老人の心理と援助」メジカルフレンド社
- ・体験ルポ世界の高齢者福祉 岩波新書
- ・高齢者医療と福祉 岩波新書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

労働社会学 S
労働社会学 S

12505

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 3以上

担当教員 辻 勝次

講義内容・テーマ

21世紀になったのに日本の経済と社会は長い低迷の中にあり、失業、リストラ、就職難、フリーターの急増など、人々の仕事や働き方には大きな変化と問題が生じている。講義の内容は大きく2つの部分に分かれる。前半は最近の変化の理由や原因とそこから生じている新しい現象について考える。後半は君たちが仕事に就いたときに会う「サラリーマン生活」の仕組みについて考える。

講義を通じて働くことの意味、自分自身のキャリア形成、仕事に取り組む基本的志向(キャリア・アンカー)について考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

労働、勤労、職業、仕事などさまざまな言葉があるが、個性を生かし、収入を確保し、社会に参加するには誰もが働かなければならない。現実を直視してそれを乗り越える知恵を学んでほしい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

- 1講 仕事と職業の社会学 講義の狙いと構成、目標など
- 2講 いま何が起きているのか 年功制と終身雇用への反省と改革
- 3講 「多様な就労形態」フリーター 派遣 裁量労働など
- 4講 賃金制度の変化 年功給から成果主義
- 5講 人事管理の変化 職位と職業能力(職能)
- 6講 中間まとめ 企業社会と職業社会
- 7講 専門職の仕事() 専門職の歴史と現状
- 8講 専門職の仕事() 組織内専門職
- 9講 ホワイトカラーの仕事() 事務職
- 10講 ホワイトカラーの仕事() 技術職
- 11講 ブルーカラーの仕事() 熟練技能型労働
- 12講 ブルーカラーの仕事() 量産型技能労働
- 13講 仕事とジェンダー() 職場の性別分業
- 14講 仕事とジェンダー() 労働と家庭
- 15講 全体まとめ 労働から仕事へ

テキスト

テキストを使わないが毎回レジメを配布する。またレジメのなかに参考書などを示す。

参考書

- 稲上毅・川喜多喬編『講座社会学 6 労働』東京大学出版会 1999
 前田信彦『仕事と家庭生活の調和』日本労働研究機構 2000
 木本喜美子『女性労働とマネジメント』頸草書房 2003
 佐藤 厚『ホワイトカラーの世界』日本労働研究機構 2001

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

老年社会学 S
老人福祉論 S
老年社会学 SG

10652

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回数 2以上
担当教員 高橋 正人

講義内容・テーマ

高齢化にともなう社会変化は多様である。高齢化社会の問題に対するアプローチも人口、雇用・就業、家族、医療保健、社会福祉、社会活動・生涯学習、生きがい等と多様である。本講義では高齢化社会の問題を諸データを通じて多角的にとらえつつも、そこに通底する意味を探る。その際、高齢期の問題が世代をこえた課題として実感される接点を提示する。また現代の「古い」の意味を探ることをめざし、社会学的幸福論を主テーマとしたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

新聞・雑誌等の高齢者に関する記事を読む。
「古い」を想像し、自分の問題としてほしい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験及び講義中に課す小レポート、出席点による総合評価

講義スケジュール

- 1 「古い」を想像する
- 2 高齢期のこころと身体
- 3 高齢期の世代的特性
- 4 高齢期の健康生活と痴呆症
- 5 高齢期の経済生活と年金
- 6 高齢期の家族生活と老親扶養慣行
- 7 高齢ねたきりと介護問題
- 8 高齢期の無為と生きがい・社会活動
- 9 高齢期の孤独・孤立と疎外
- 10 高齢期の自殺と虐待
- 11 高齢期の性愛とジェンダー
- 12 エイジズム
- 13 高齢期と「世代性」
- 14 「古い」の意味
- 15 閉講

テキスト

とくに定めない

参考書

- ・「エイジングの社会学」日本評論社
- ・「図説高齢者白書」全国社会福祉協議会

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

アカデミックP & D S
 アカデミックP & D S
 応用社会学講義 SZ

30781

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 IAN T. HOSACK

講義内容・テーマ

Focusing on the format of formal debate, this course will develop students' ability to present their ideas to an English-speaking audience both clearly and persuasively. Preparation for in-class debates will require careful research and close collaboration between students.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上

評価方法・基準

* 日常点評価

Grades will be based on

(i) attendance & class work

(ii) participation in at least 2 formal debates

(iii) a final written test

講義スケジュール

The first half of the course will introduce students to the format of debate. Students will learn how to present ideas either for or against a given resolution, develop their knowledge of vocabulary and expressions appropriate for academic presentation and debate, learn strategies for countering other speakers' arguments and have extensive practice in critical listening. The second half of the course will be spent on full debates of issues of current national and international importance.

Tentative schedule, subject to negotiation & amendment

Week 1: Introduction ? What is Debate? How to clarify the resolution

Week 2: How to make a convincing point. How to flow the arguments

Week 3: The First Affirmative Constructive speech (1AC)

Week 4: The First Negative Constructive speech (1NC). How to refute a point.

Week 5: Challenging supporting ideas

Week 6: Review & application: short debates.

Week 7: How to use holistic reasoning.

Week 8: Members' Speeches ? the 2AC & 2NC; Rebuttal Speeches

Week 9: Full Debate #1

Week 10: Full Debate #2

Week 11: Full Debate #3

Week 12: Full Debate #4

Week 13: Full Debate #5

Week 14: Full Debate #6

Week 15: Final written examination

テキスト

Discover Debate

Michael Lubetsky, Charles LeBeau & David Harrington

(Language Solutions Inc, 2000)

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

Preparation for full debates will require careful research and close collaboration between students. Regular attendance is absolutely essential.

It is hoped that some students will be interested in participating in the Ritsumeikan debate tournament. This class will help students prepare for that contest.

アカデミックライティング S
 アカデミックライティング S
 アカデミック・ライティング S

30130

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 IAN T. HOSACK

講義内容・テーマ

This course will help students develop their academic writing and research skills. It will introduce students to the process of writing an academic paper: how to make a start with pre-writing exercises; how to paraphrase and summarize information from secondary sources; how to outline, draft and revise a paper.

Students will develop their formal writing skills through 3 projects: a Summary Report, a Cause-Effect Essay and an Academic Argument essay. The culmination of the course will be a mini-conference in which students will have the chance to present and discuss their papers.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上

This is a demanding course with homework assignments every week. Students are expected to be highly motivated. Regular attendance is essential.

評価方法・基準

* 日常点評価

Grades are based on attendance, participation and written assignments.

Students must submit all required work in order to pass.

There are 3 major written assignments:

- 1) A Summary Report
- 2) A Cause-Effect paper
- 3) An Academic Argument Paper

講義スケジュール

Provisional course outline - subject to amendment:

1. Orientation : The Academic Writing Process
2. Expressing main ideas: basic paragraph structure
3. The summarizing process; Note-taking and organising ideas
4. The Summary Report
5. Creating a list of references
6. The Cause-Effect Research Paper
7. Writing the introduction / thesis statement
8. Using information from printed sources; Academic Honesty
9. Making an outline; Writing with transitions
10. Writing the conclusion
11. Preparing for an Academic Argument Paper
12. Using modal auxiliaries
13. Writing accurate generalizations
14. Writing definitions
15. Mini-conference - student presentations & discussion

テキスト

Foundations of Writing: Developing Research & Academic Writing Skills
Carolyn Spencer & Beverly Arbon (National Textbook Company, 1996)

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

Presentation of main points by instructor; class discussion; group work; pair work

参考になるWWWページ

その他

社会学基礎理論 S 応用社会学特論 S	30136
------------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 出口 剛司

講義内容・テーマ

そもそも、社会学とは何か？ 社会学的な物の見方とは、どのようなものか？ 「社会学的」という表現をしばしば耳にするが、実際その答えは定かではない。また近年の学問的状况を見ると社会学の研究対象が多様化すると同時に、ポスト・モダニズムの影響で、人文科学の社会学化と社会学の脱中心化が進展している。このような現状を踏まえ、本講義は「社会学とは何か？」という基本的な問いに、理論社会学の立場から取り組んでいくことをめざす。理論社会学を専門とする学生・院生だけでなく、社会学の基本的な発想法や思考法を学びたい、幅広い専門分野をもつ学生・院生の受講を期待する。15回の講義のなかで「社会を社会学的に見る方法」を身につけたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上

基礎社会学、社会学理論、社会学史、社会学入門等の社会学関連科目を受講しておくことが望ましい。これらの科目を受講していない場合は『社会学のあゆみ』、『社会学』の通読を希望。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

講義スケジュール

社会学史を踏まえて、主に以下のテーマで講義を進める。

1. 「社会的なるもの」の出現と社会学
2. 社会学における行為論的視座
3. 行為の意味論的分析
4. 社会学における制度論的視座
5. 制度の構造論的分析
6. 自然科学的まなざしとシステム論的視座
7. 社会の体系的 = システム論的分析
8. 人類学的まなざしと社会過程論
9. リアルティのミクロ社会学

テキスト

テキストの指定は行わない。毎回レジュメを配布する。

参考書

講義のなかで適宜紹介するが、さしあたり以下を参考書として指定する。

- 『現代社会学の理論と方法』(岩波講座・現代社会学別巻)
- 『講座社会学1 理論と方法』(東京大学出版会)
- 『社会学理論の可能性を読む』(情況出版)
- 拙著『エーリッヒ・フロム：希望なき時代の希望』(新曜社)

授業の方法(大学院科目のみ)

レジュメに基づく講義形式をとる。講義終了後に簡単なコミュニケーション・ペーパーを作成してもらう。

参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

テーマ:現代社会の秩序意識をめぐって

私は、ここで「モダン」な世界とは何か、という問題を問い直す議論を丁寧に行いたいと思う。

日本のように「伝統」と「モダン」と「ポスト・モダン」が奇妙に重なり合う現実には、検討してみると実に興味深い。論理的に整理される「モダン」と私たちの日常意識にある、その重なり合いを切り分ける議論を皆さんとしてみたい。

そのあとに、「現代的なるもの」について、さらに現代の秩序形成の在り様について検討してゆきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上

講義ではあるが、毎回ごとに受講生の意見を求める。活発に、率直に意見交換できる雰囲気を期待する。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

・レポートの提出が評価の不可欠な要件。

ただし、評価はレポート(75%)、出席・質問紙の提出など(25%)の配分で行う。

講義スケジュール

第1部 システムとしての社会(7回ほど)

・近代化 - 「産業化」「組織化」

・パーソンズ

・ルーマン

・ギデンズ など

第2部 戦後日本社会を考える(7回ほど)

・「大衆化」と「中間層」

・大規模な人の国内移動と都市化

・安保闘争を今どのように考えるか

・自民党長期政権が実現した秘密

・政治・経済システムにおける協調と調整

・モダンとポストモダン、など

まとめと今後の課題(最終回)

テキスト

・テキストは検討中。しかし、すくなくとも次の二冊は議論のなかで取り上げたい。

新 睦人著『現代社会の理論構造』、恒星社厚生閣、1995年。

友枝敏雄著『モダンの終焉と秩序形成』、有斐閣、1998年。

参考書

・クリジャン・クマー著、杉村芳美他訳『予言と進歩』、文真堂、1996年

・このほかは講義のなかで、適宜、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

・日常的な世界を照らす映像、絵画などを用いて、皆さんの記憶や意識を刺激するようにします。

・各講義ごとに20分ほどの質問と討論の時間を設けるようにします。

参考になるWWWページ

・講義のなかで適宜、紹介する。

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 松田 博

講義内容・テーマ

本講義の主目的は、現代社会(科)学における文化研究の動向と現状を検討しつつ、とくにマクロな視点からその可能性・展望について考察したい。また受講生の研究テーマとの接点の深化にもつながるようなプレゼンテーションや討論も重視したい。とくに重視したい個別テーマは以下の通りである。

1. ハバーマスの問題提起 「近代-未完のプロジェクト」論をめぐって
2. コッカの問題提起 「約束としての市民社会」論をめぐって
3. サイド「オリエンタリズム」論
4. サイド他「ポストコロニアル」論
5. スビヴァク、グハ他「サバルタン」論
6. グラムシ「サバルタン・ノート」論

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

双方向的なレクチャーをしたいので自己の問題意識や研究テーマと関連づけて、関連文献の事前学習などによって積極的に議論に参加してほしい。

評価方法・基準

* 日常点評価
日常点(出席、レポート、プレゼンテーションなど)によって評価する。

講義スケジュール

大学院科目兼アドヴァンスト科目であるので機械的なスケジュールにはしない。

一方通行ではなくディベートや院生発表を重視したい。

アカデミック・ライティング(論文・レポート)も重視する。

ガイダンス(科目の特徴、課題、方向など)

現代文化研究・文化社会学の動向と課題

ハバーマスの問題提起

コッカの市民社会論

「ポストコロニアル」問題

「サバルタン研究」の意義

「オリエンタリズム」論

受講生各自の研究テーマの内在的発展との結合を重視したいので、各自の「文化」概念、方法論などについての一定の論点整理を事前しておくことを期待する。

テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料レジュメや文献リストを配布する。

参考書

ハバーマス「近代 未完のプロジェクト」岩波現代文庫

サイド「オリエンタリズム」平凡社ライブラリー

姜尚中編「ポストコロニアル」作品社

グハ他「サバルタンの歴史」岩波書店

スビヴァク「サヴァルタンは語りうるか」みすず書房 以上図書館にて閲覧可能。

サバルタン論にかんしては松田「産業社会論集」39巻1, 2, 3号を参照。

授業の方法(大学院科目のみ)

講義、討論、院生発表など双方向的授業にしたいので、事前の準備や討論への参加、自発的発表を期待する。

参考になるWWWページ

多数あるので関心あるテーマに即して検索されたい。文献リストや資料レジュメは講義テーマにおうじて配布する。

その他

アカデミック・ライティングに関する文献は必読である。

人間福祉研究 S
応用社会学特論 S

30141

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 岡田 まり

講義内容・テーマ

社会福祉の援助や研究は、対象や領域、アプローチの違いを越えて共通する基盤のうえにたって行われることが望ましい。本科目では、そのような共通基盤を築くことを目指して、毎回、異なる社会福祉のキーワードを取り上げて議論する。テキストのほか、キーワードに関連する事象、事例、実践、論文等について受講生がもつ情報を共有し、幅広い領域に触れることで、各自の関心領域や研究テーマに広がりや深みを加える可能性を追求する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回の講義・議論は、事前に指定するテキストの必読箇所を熟読したことを前提として行うので、必ず予習が必要。その他にも課題があるので、授業の時間内外において積極的な取り組みを期待する。

評価方法・基準

* 日常点評価
日常点(50%)およびレポート(50%)によって評価する。

講義スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 福祉権利
- 第3回 福祉権利
- 第4回 生活構造
- 第5回 生活構造
- 第6回 福祉経営
- 第7回 福祉経営
- 第8回 対人援助
- 第9回 対人援助
- 第10回 地域福祉
- 第11回 地域福祉
- 第12回 実践研究
- 第13回 実践研究
- 第14回 総括
- 第15回 総括

テキスト

社団法人日本社会福祉士会生涯研修センターテキスト編集委員会編集・中村優一監修『社会福祉援助の共通基盤』 上下巻
2001年 社団法人日本社会福祉士会発行

参考書

随時、紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)

講義と議論

参考になるWWWページ

その他

社会福祉学研究 S
応用社会学特論 S
社会福祉学特論 H

30784

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 高橋 正人

講義内容・テーマ

社会福祉理解の基礎的視点の獲得と歴史社会的に規定された現代的課題の分析的把握を目的とする。とくに介護保険、社会福祉基礎構造改革後をも射程にいられた考察を行いたい。社会福祉の動向の中から浮かび上がる現代的課題を原論的枠組において整理しながら講じる。「社会福祉とは何か?」といった「問い」から社会福祉を考える基礎的視点を獲得し、社会福祉の現代的課題にみることのできるいくつかの新しい論点について考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上。
「考える」ための「問い」を意識的につくること。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
レポートと出席点による総合評価

講義スケジュール

- 1 社会問題の生成と対象化
- 2 社会福祉理論の成立と福祉ニーズ論
- 3 福祉国家論の系譜と福祉社会論
- 4 日本型福祉社会論
- 5 社会福祉と財源問題
- 6 社会福祉と資源還元問題
- 7 社会福祉と供給の多元化
- 8 社会福祉基礎構造改革(1)
- 9 社会福祉基礎構造改革(2)
- 10 介護保険制度(1)
- 11 介護保険制度(2)
- 12 社会福祉とコミュニティ
- 13 社会福祉と家族
- 14 社会福祉と社会サービス
- 15 まとめ

テキスト

とくに定めない

参考書

とくに定めない
講義の中で資料等を配布する

授業の方法(大学院科目のみ)

基礎講義を行うが、受講者のレポートを題材にした討論を取り入れる

参考になるWWWページ

その他

特殊講義 SA
 応用社会学特論 SA

30160

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 功刀(くぬぎ) 良吉

講義内容・テーマ

講座名 : 「ひとものかね情報論」

テーマ : 「人・もの・カネ・情報」と「企業・社会・国・世界」の関係を解き明かす。

講義内容: 我が国の過去50年間の経済成長は政治の保護のもとに進められた。これからの50年はなにかを頼りにせず、自己の力で切り開いて行く時代と言われる。そしてこれまでの供給側の論理に代って需要の論理の時代となるとも言われる。毎日に流れるメディアからの情報をたたき台にして、これからの企業・社会・国・世界が進む道を経済的・文化的に検討し予測する。

到達目標: 本講義を通して、学窓から見た実社会をより近く手許に引き寄せ観察できる洞察力を身につけることをめざす。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

実社会と学舎との間隔を短縮するための講義であり、実業現場からの情報や現業体験話題中心の講義となる。受講生に臨むKeywords: なにごともup-to-date・情報に対するcriticism・情緒に抛らずbased on statistics.

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

試験に代るレポート 40%

Brief Report × 3回 30%

講義での意見・質問発表 30%

講義スケジュール

1. 開 講
2. 澄んだ目に何を残せるか。
3. 失われた十年と大進歩の十年と。
4. 百家争鳴、がんばれ/がんばるな。
5. 海外が見る日本。 BriefReport 1.
6. 企業経営はどう変わるか。
7. メディア産業の興亡。
8. 流通業界激変。
9. 国も恒産なければ恒心なし。
10. こころの社会へ。 BriefReport 2
11. 文化は澱む時代に育つ。
12. 江戸の文化に学ぶ。
13. メディア・リテラシー。
14. いかに幸せに生きるか。 BriefReport 3.
15. 閉 講

テキスト

なし

参考書

- 「日本の志」 船橋洋一著 新潮社刊/
 「会社はこれからどうなるのか」 岩井克人著 平凡社刊/
 「顧客革命」 パトリシア・シーボルト著 翔泳社刊/
 「SONYの旋律」 大賀典雄著 日本経済新聞社刊/
 「成熟する江戸」 吉田伸之著(日本の歴史17.) 講談社刊/
 梅原猛の授業「道徳」 朝日新聞社刊/

授業の方法(大学院科目のみ)

毎回、基調講義45分。討論・意見発表45分。

参考になるWWWページ

なし

その他

なし

特殊講義 SB
応用社会学特論 SB

30138

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 嘉納 新

講義内容・テーマ

日本の新聞をより多角的に分析・理解し、受け手(読者)の立場から必要な改善・改革を提起していくための手がかりとして、形態だけでなく文化的背景の異なる英字紙と比較しながら紙面企画、記事内容、体裁、レイアウト、写真・イラストなどビジュアル・インフォメーション、コラム、社説・評論、広告、販売方法などを点検していく。また講義当日の朝刊日本の全国紙と、日本で発行の英字紙)から随時タイムリーな課題テーマを選び出し、意見発表やディスカッションも重視する。講義の流れの中で、複眼的な思考に役立つ英字紙に少しでもなじんでもらいたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上
英字紙嫌いとか、硬い英文記事が苦手という人をむしろ歓迎します。

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
 - * 日常点評価
- 課題レポートと、平生の受講態度や発表内容を半々で評価します。

講義スケジュール

4、5月は紙面企画、記事内容、体裁、レイアウト、写真・イラストなどビジュアルインフォメーション、コラム、社説・評論、広告、販売方法などの違いについて概要を講義します。6月に入ってから授業当日の朝刊から課題テーマを選び出し、4・5月に説明した様々なテーマについてできるだけ具体的な肉付けをしていきます。最終回は「日本の新聞のあるべき姿」について全員で意見交換をしたい。

テキスト

当日の「ヘラルド朝日」(1部150円)をなるべく入手して授業にのぞむこと。主要駅のキオスクで販売していますが、入手難の人のために必要箇所のコピーは用意します。

参考書

参考紙面としてニューヨーク・タイムズ紙とワシントン・ポスト紙を活用。やや古いバックナンバー多数を講師が用意し、希望者全員に1～2部ずつ参考資料として提供。

授業の方法(大学院科目のみ)

4月と5月までは講師の話が中心。毎回、当日のヘラルド朝日から注目記事なども紹介する。6月以降は、主に当日の「ヘラルド朝日」紙面から提起された紙面企画や記事内容、広告などを課題に、割り振られた受講者が検討結果を次週ないし次々週に発表した後に、全員で意見交換をする。そして終了後に、次週向けの新たな課題提示をする形で進める。

参考になるWWWページ

<http://slate.msn.com/>

その他

特殊講義 SC
 応用社会学特論 SC

30155

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 有賀 郁敏

講義内容・テーマ

講義のテーマ:「公と私」について考える-ある歴史的考察

公と私あるいは公と私の関係については様々な解釈があり、それゆえ確固たる理解をうることは難しい。しかし、現代日本において公と私に関する問題の所在をつきとめ、またその理解を深めていくことは社会学においても重要課題の一つであるように思われる。日本では、いまだに「滅私奉公」的な考え方が、権力のみならず民衆をも巻き込んで幅をきかせているのなぜだろうか。しかし、それはかの時代のそれと同じ意識なのだろうか。

本特殊講義では、公と私との関係を歴史学の視点から照射する。その場合、公と私に関して論じた幾つかの文献・論文を手がかりに院生・学生諸君を議論を展開してゆきたい。なお、文献・論文は和文とは限らない。英あるいは独論文も扱うことを予め断っておく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本特殊講義は、教員が指定した論文・文献を院生・学生が必ず精読してくることを条件とする。単なるゲストであってはならない。また、上記のように、文献・論文は和文に限定されない。英あるいは独語論文を読む場合もある。無断欠席、途中退席は基本的に認めない。なお、特殊講義であるのでシラバスどおりに進行しないことがあるが、その場合は受講生と了解をとる。

評価方法・基準

* 日常点評価

講義スケジュール

予定

1. オリエンテーション-講義の目的、進め方
2. 丸山眞男『日本の思想』
3. 4. 日本における公と私観念の変遷について
・水林論文を読む
5. ディスカッション
6. 7. 8. 日本における公と私観念の変遷について
・明治行政国家と民衆の通読道徳
9. ディスカッション
- 10.11.12.
欧米の公と私との関係
・喜安、ハバーマス、ランゲヴィーシェ、コッカ
13. ディスカッション
14. 高度情報消費社会における公と私
15. まとめ

テキスト

・講義時に次回までに精読してくるべき文献・論文を指定する

参考書

・講義の折に、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

講義ならびに受講生とのディスカッション

参考になるWWWページその他

国際事情研究 S	30134
国際事情研究 S	

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 坂本 利子

講義内容・テーマ

Kokusai Jijo Kenkyu I S (International Affairs I S)

This course explores the newness of contemporary social and international experiences, addressing the issues of identity, globalization and culture. It refers to different features of contemporary social experience, but it also examines aspects of a more or less general development involving, in diverse degrees, all or nearly all societies of our world. There are five foci of discussion: multiple modernities, globalization, multiculturalism and transnational diasporas, the declining accountability of the state, and postmodernity.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

- 1) 産業社会学科3回生以上 / 人間福祉学科2回生以上 This course is conducted entirely in English. The course is open to international, graduate, DUDP, UBC program students, returnee, advanced junior and senior undergraduate level students.
- 2) Students are required to read the text in advance to understand well enough for discussion.
- 3) Students are assigned to give group and individual presentations, to write papers and to contribute to discussions all in English.
- 4) Students must attend more than two thirds of lessons to pass this course.
- 5) Students' active participation in the work of the course and contribution to discussions are essential to make this course successful.

評価方法・基準

* 日常点評価

Attendance 10%, Active Participation 10%, Presentation 20%, Paper 20%, Final Exam 40%, Contribution to Course 10% (bonus).

講義スケジュール

- 1) Introduction to the Course
- 2)-4) Multiple Modernities
- 5)-6) Globalization
- 7)-8) Multiculturalism and Transnational Diasporas
- 9) The Declining Accountability of the State
- 10)-12) Postmodernity
- 13)-14) Individual Presentations
- 15) Final Exam and Paper Due

テキスト

Identity, Culture and Globalization, edited by Eliezer Ben-Rafael and Yitzhak Sternberg. Leiden; Boston; Kön; Brill, 2001.

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

Lecture, Group and Individual Presentations, Discussion, Use of Video and Internet

参考になるWWWページ

その他

国際事情研究	S	30766
国際事情研究	S	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 吉田 信介

講義内容・テーマ

The course explores our world from the view point of People, Places, and Change. Typical class activities are: Learn about the different holidays celebrated by cultures in the United States; Tour the land and rivers of Europe and make a travel brochure; Learn about the Indian leader Mohandas Gandhi; Visit the Web site for information about Australia and the Aborigines; Research and analyze the impact of immigrant and Native American groups on the components of American culture. Then create a chart or database that contains information on changes to the majority culture resulting from adaptations to these various cultures; Analyze the impact of global communication technology and technological innovations on human culture. Then create an illustrated pamphlet to display your research. Include information on how cultural universals and variations among societies are affected by changes in communication and technology. and so on.

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 日常点評価
 Attendance 40 percent
 Participation 20 percent
 Project 20 percent
 Final Exam 20 percent

講義スケジュール

- 1) Introduction to course
- 2) Planet Earth, Wind, Climate, and Natural Resources
- 3) Earth's Resources, The World's People
- 4) The United States
- 5) Canada, Mexico
- 6) South-, Central-America and the Caribbean Islands
- 7) Europe
- 8) Russia, Ukraine, Belarus, and the Caucasus, Central Asia
- 9) The Arabian Peninsula, The Eastern Mediterranean
- 10) Africa
- 11) China, Mongolia, Taiwan, the Koreans
- 12) Japan
- 13) Southeast Asia, India
- 14) Australia and New Zealand, The Pacific Islands and Antarctica
- 15) Final Examination

テキスト参考書授業の方法(大学院科目のみ)

Presentation of main points by instructor; class discussion; group work; pair work

参考になるWWWページ

CIA - The World Factbook
<http://www.odci.gov/cia/publications/factbook/>
 Description: This site provides detailed information about countries and non-self-governing territories around the world.

その他

社会学入門 N
 (教)社会学 NB
 社会学概論 NA

10821

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 尾場瀬 一郎

講義内容・テーマ

テーマ:社会学的想像力を育む

獲得目標:学說的知識や雑多な知識の寄せ集めよりも、社会学的な考え方、ものの見方を身につけること。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

原則的に講義形式をとるが、学生の主体性を重視したい。

積極的に何かのテーマについて、みなさん自身が発表する機会を設けたい。

また、できるだけ書くことに慣れるよう、感想文やレポートを何度か課し、添削をしてお返ししたいと考えている。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

200字の中間レポートと、2000字の期末レポートによって評価を行う。

両者の評価の割合は、200字中間レポートが三割、2000字期末レポートが七割である。

講義スケジュール

以下のような内容を扱いたいと予定している。しかし、時間的な制約のため、すべてに触れることはできないかもしれない。

・マルクス、ウェーバー、デュルケームら、今日の社会学の基本に影響を与えている社会学者の考え方

- ・メディアの社会的機能
- ・企業文化と日本的経営のその後
- ・合理化と現代人のアイデンティティ
- ・グローバリゼーションとエスニシティ
- ・戦後日本の大衆社会化

講義では、社会学の存在意義を問いながら、それが私たちの生活とどのように関わりうるのか、またその可能性がどこにあるのか、できるだけ分かりやすく話していきたいと考えている。また、社会学の基本的な考え方を理解するために、マルクス、ウェーバー、デュルケームの考え方を紹介したい。

テキスト

使用しない。

毎回、とりあげる社会学者や扱う事柄についてのレジュメを配布する。

参考書

多いので、授業のなかで毎回、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

特にない。

各自、検索されたし。

その他

特にない。

経済学入門 N
 経済学 N
 経済学 N

10833

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1以上
 担当教員 櫻井 純理

講義内容・テーマ

テーマ「日本経済の諸問題」
 バブル経済の発生と崩壊、バブル後の日本経済が抱える諸問題について勉強しながら、必要になる経済学に関連した最低限の知識を学ぶことを主な目的とする（経済理論の領域には深入りしない）。
 扱う具体的なトピックとしては、バブル前後の日本の金融政策、日本企業の雇用システムの変化、長時間労働問題などを予定している。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講に必要な知識・スキルは特にない。授業への積極的な参加が望ましい。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
 レポート(A4ワープロ打ち・参考文献リスト付き、3枚=5000字程度)の評価(100点満点)をベースに評価する。
 日常点評価は、授業内容に関連した感想文などの提出機会を設け(2回程度)、20点程度を上限として加味する。

講義スケジュール

基本は講義形式とするが、感想を書いてもらう機会などを通じて、双方向のコミュニケーションをなるべく取り入れていきたい。受講者の興味関心に応じて、授業内容はフレキシブルに変化する。予定の授業内容は以下。

日本経済の諸問題(テキストを参照する)

- (1)日本の金融システムとバブル経済
- (2)日本の雇用システムの特徴
- (3)日本の雇用システムの変容
- (4)企業再編と人員削減
- (5)長時間労働と過労死、過労自殺
- (6)日本経済の針路

(以上の講義内容に関連させて)経済学の基礎知識(レジュメを使用)

テキスト

森岡孝二『日本経済の選択』(桜井書店、2000年)。大学生協で購入できるように手配する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

株主オンブズマン、派遣労働ネットワーク、大阪過労死問題連絡会、労働基準オンブズマンなど。
 その他の情報や詳細は授業中に紹介する。

その他

私自身の研究テーマは日本企業における「労働」の諸問題です。現代日本の雇用や労働について、授業時間中に議論することができればと思います。

現代社会入門 N
(教)社会学 NA
現代社会 N

10806

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 森重 拓三

講義内容・テーマ

本講義では「社会と個人は互いにつくりながらつくれる関係にある」という視点から人間の諸活動をみる社会学の基本的な考え方を学び、それに基づいた現代社会の諸相の理解を目指す。
この過程を通じて受講者各自が、これまで自明視してきた様々な現象を「考える対象」として捉える視点を身につけ、また、現代社会における関心領域を明確にしていくことを目指す。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
授業中のレポートor小テスト(40%)、及び、期末のレポート(60%)で評価。

講義スケジュール

授業の流れは2つに分かれる予定。前半(第1～10回)は現代社会の諸相を捉える一つの枠組みとして、社会学の基本的な視点(領域、方法、理論など)について確認し、後半(第11～14回)は私達の生活において比較的身近で現実感覚を持ちやすいと思われる社会現象と私達自身との関係を中心に現代社会の諸相をみていく。レジュメ、資料等を配布し、講義形式ですすめる。

第1回 オリエンテーション
第2～3回 社会学の領域・方法
第4～7回 社会实在論
第8～10回 社会名目論
第11～14回 实在論と名目論の社会現象への応用
第15回 まとめ

テキスト

特に定めない。

参考書

E.デュルケム著 宮島喬訳『自殺論』中公文庫、1985年
M.ウェーバー著 大塚久雄訳『プロテスタント主義の倫理と資本主義の精神』岩波文庫、1989年

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

社会文化論入門 N
文化論 N

10853

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 池田 知加

講義内容・テーマ

文化とはあまりにも「あたりまえ」すぎて、ふだんは意識しないために、かえって目にみえにくくなるものです。この講義では、自己、家族など日常的な事柄を出発点に社会学的な分析を加えることによって、今まで「あたりまえ」と思っていたことの背後にある文化のあり方を再発見していくことを目標とします。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日常的な事例をあげながら授業をすすめていく予定です。自分の経験をふりかえりながら、受講してほしいと思います。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
レポート試験で評価します。
日常点として授業内で小レポートを提出してもらう場合があります。

講義スケジュール

第1回 イン트로ダクション

自己と対人関係

第2回 「私」という存在

第3回 メディアの発達と対人関係

第4回 都市の中の人間関係

第5回 まとめ

家庭と仕事

第6回 近代家族とは？

第7回 男が働く仕組み

第8回 家族のこれから

第9回 まとめ

セラピー文化

第10回 「こころの時代」とは？

第11回 宗教の役割

第12回 セラピー文化

第13回 まとめ

第14回 脱伝統社会での生き方

第15回 まとめ

テキスト

レジュメを使用。参考文献については授業内で紹介します。

参考書

授業内で紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

経済と社会 N
現代経済論 N

11641

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 伊藤 武夫

講義内容・テーマ

テーマ:「国際産業体制のもとでの勤労」。国境を越えたグローバルな生産と消費の連鎖、それを支える国際金融システムの基本構造を解説し、そのもとで働く勤労市民の在り様を具体的に検討する。それは、勤労者からみた世界経済論であり、また、経済と社会の在り様を探る産業社会論でもある。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

この講義のねらいは、社会の各階層が抱えている「仕事をめぐる喜びと悲しみ」の現実を深く見つけ直す機会とすることである。皆さんは、できれば『日本経済新聞』を閲読されることを希望する。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
- ・講義期間中に小レポート・質問紙の提出を求める。
- ・評価は定期試験(70%)、諸提出物など(30%)の比重で行う。

講義スケジュール

- 第1部 国際産業体制(6回ほど)
 - ・いわゆる経済のグローバル・シフト
 - ・繊維・衣服産業
 - ・自動車産業
 - ・エレクトロニクス産業
 - ・メディア企業複合体と消費の演出者たち、など
- 第2部 経済のグローバル化の構図と勤労者(8回ほど)
 - ・国際労働移動と国際労働問題
 - ・日本社会の社会階層と階層間移動
 - ・若者世代の就業と意識
 - ・女性の就業と意識
 - ・高齢者の就業と意識
 - ・経済のグローバル化を生き抜く、など
 - ・まとめと今後の課題

テキスト

テキストは指定しない。レジュメを配布する。

参考書

・講義のなかで適宜、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

・講義のなかで適宜、紹介する。

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 高橋 裕子

講義内容・テーマ

諸個人が暗黙裡に規定する「女」のイメージが、実は社会的・文化的に構築されていることを社会学及び文化人類学の知見から明らかにし、現代社会における女のリアリティを考察する。「自立した女」や「家庭的な女」といったイメージもまた諸個人の自由な選択を超えて社会・文化に規定されたものであるが、社会・文化に規定されつつも、諸個人はまたそのイメージを相互行為上の戦略の資源として用いているのである。そして、その結果、女はどのようなリアリティを生活しているのだろうか。「社会」と「個人」の関係性を具体的な事例から掘り取り、自由と束縛のなかで揺れる女のリアリティへの洞察を深めていただきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講者数を見て可能ならば、ディベート方式を採用する。そうでない場合も何らかの形で受講者に講義に積極的に参加してもらえよう方法を考えたい。ということで、受講生には講義への継続的な出席を求める。

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
 - * 日常点評価
- 小テスト、レポート20%、定期試験80%

講義スケジュール

1. イントロダクション
2. 生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー
3. 社会・文化とジェンダー
4. 社会・文化とジェンダー
5. 部族社会における女
6. 部族社会における女
7. 近代社会は「女」をいかなる者と捉えたか
8. 近代社会は「女」をいかなる者と捉えたか
9. 現代社会は「女」をどこに誘うのか
10. 現代社会は「女」をどこに誘うのか
11. 現代社会における女のリアリティ 「社会」と「個人」のはざままで
12. エゴイズムとアノミーの果てにユートピアはあるのか？
13. エゴイズムとアノミーの果てにユートピアはあるのか？
14. それでも、なお・・・、「私らしさ」の模索
15. 最終講義日試験

テキスト

高橋裕子『「女らしさ」の社会学』学文社

参考書

- B. マリノフスキー『未開人の性生活』新泉社、M. ミード『男性と女性 上・下』現代社会学叢書、
- B. フリーダン『新しい女性の創造』大和書房、小山静子『良妻賢母という規範』勁草社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

社会のひずみ N
社会病理学 N

10491

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1以上
担当教員 中嶋 陽子

講義内容・テーマ

最近、急速に表面化してきた社会病理現象や社会問題を取り上げる。主には、日本のホームレス問題を中心に、その周辺の病理現象を整理する。まず、貧困問題として歴史的な考察から始め、近年のいわゆるホームレス支援法の検討、さらに、NPO・支援団体などの活動実態を捉え、具体的な解決方法を探りたい。できる限り、ゲストスピーカーの招聘や現場訪問を取り入れる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

せまく現象面だけでとらえるのではなく、その交錯した背景を推察し、問題の根幹を整理して考える。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

試験に代わるレポート一本に教室での姿勢が加味される。C - 授業概要が理解できているが、基本的な点での誤解が散見され、コメントが感想文レベルのもの。B 基本的な点での誤解が少なく、コメント部分が感想以上の説得力を持って書けているもの。その上で、授業への積極的参加、報告などを加点対象とし、総合的に優れたものをA、秀逸なものをA+とする。

講義スケジュール

- 第1講 社会病理とは 社会問題とは
- 第2講 社会病理や社会問題を増大させる客観的な条件
- 第3講 大競争とアイデンティティ
- 第4講 社会病理の事例－個人またはグループの自主報告
- 第5講 ホームレス問題の分析－前史としての貧困問題と周辺問題
- 第6講 ホームレス問題の分析－いわゆるホームレス支援法をめぐって
- 第7講 ホームレス問題の分析－関係性の喪失
- 第8講 ホームレス問題の分析－支援者と「当事者問題」
- 第9講 支援団体への訪問 聞き取り調査
- 第10講 分析から抽出されること 公的セクター・市民セクターの協働－政策的な社会的統合
- 第11講 分析から抽出されること 各種の支援プログラムと当事者能力
- 第12講 分析から抽出されること コミュニティづくりと生活圏－草の根からの「社会的包含」
- 第13講 ゲストスピーカー招聘
- 第14講 なぜ、NPOか
- 第15講 予備・調整(補足説明、Q&Aなど)

*注－授業の様子によって、内容の圧縮や拡充はありうる。

テキスト

なし。適宜プリント教材を渡します。

参考書

青木秀男「現代日本の都市下層 寄せ場と野宿者と外国人労働者」明石書店、2000年。
R.B.ライシュ「勝者の代償」東洋経済新報社、2002年。
寺久保光良他「大失業時代の生活保護法」かもがわ出版、2002年。
駒井洋「多文化社会への道」明石書店、2003年。その他、適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

人権情報センターふらっと <http://www.jinken.ne.jp/>
 キョウト ポヴァティ <http://www.kyoto-poverty.org/> とこれに連動するドキュメンタリー動画「古都に生きる～あるホームレスの人の場合～」
<http://www.kamagasaki-forum.com/>

その他

特になし

歴史と人間 N
社会史 N

11599

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1以上

担当教員 有賀 郁敏

講義内容・テーマ

講義のテーマ: 歴史における民衆と身体文化

本講義では数ある歴史事象のなかから、身体文化をめぐる問題を題材に数名の歴史上の人物を選びだし、かれらが時代のなかでなした営為について、その歴史的な意味を考察していく。また同時に、通常、歴史叙述には固有名詞としてはほとんど登場しない社会の下層、女性など、総じて民衆のと言われている人々の活動にも光をあて、こうした人々の歴史における意義も併せて考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業は講義形式が基本となる。しかし、受講生が内容をよりよく理解するために講義に関するレジュメはもとより、ビデオ、デジタル写真、CD - Romなどを多く活用する。また講義の内容に関する意見交換の場を設け、受講生の貴重な見解については、それを共有するように努めたい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

定期試験を評価の基本とする。講義にかかわる知識ならびに内容に関する自己の理論展開が評価の基準となる。また、数回に1度の割合でミニレポートを書くことになるが、これも評価に入れる。この場合、レポート提出回数が評価の基準となる。

講義スケジュール

1. オリエンテーション: 講義の進め方、受講生との確認事項
2. プラトンと身体文化 : 古代オリンピックの歴史と展開
3. プラトンと身体文化 : 「身体と知と徳徳」
4. ヨーロッパ啓蒙主義における身体文化 : ルネサンス、宗教改革、市民革命と身体
5. ヨーロッパ啓蒙主義における身体文化 : ドイツの哲学者、教育論者の身体観
6. ヨーロッパにおけるアソシエーションの成立と公共圏の変遷
7. ヨーロッパにおけるアソシエーションの成立と公共圏の変遷
8. 近代日本の国家と身体 : 「産育」から「教育」へー近代学校の誕生
9. 近代日本における公私観念の変遷
10. 近代日本の国家と身体 : 森有礼の権力のテクノロジー
10. 近代日本の国家と身体 : 森有礼の権力のテクノロジー
12. 近代日本の国家と民衆文化 : 通俗道徳
13. 近代日本の国家と民衆文化 : 村の遊び、女性と身体文化
14. 戦間期から現代における身体観: 総力戦と体力、身体ブーム
15. まとめ

テキスト

特に使用しない。参考文献などを講義の場で紹介する。

参考書

- ・O. グルーベ、M. クリュウガー『スポーツと教育ードイツスポーツ教育学への誘いー』ベースボールマガジン社
 - ・安丸良夫『日本の近代化と民衆思想』平凡社
 - ・鹿野政直『健康観にみる近代』朝日選書
- 以上はすべて大学図書館にある。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

アイデンティティ論 N
人間論 N

11600

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 森田 浩平

講義内容・テーマ

個人のレベルにせよ、集団のレベルにせよ、人びとの社会的行動を理解するうえで、アイデンティティは鍵概念の1つであり、その重要性は今日では一層増大しているように思われる。当科目ではこのアイデンティティの概念、その形成と発達過程、そしてアイデンティティが要因として関与していると考えられる人びとの社会的行動を取り上げ、アイデンティティの機能的意味について考察することにした。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初歩的な、しかし科学的な心理学の知識をもっていることが望ましいが、とくに受講条件や受講上の留意事項はない。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験を実施する。評価は、試験の成績によってのみおこなう。

講義スケジュール

授業は以下のスケジュールに沿って進めていく予定である。

- 第1回 序－講義の目標と内容－
- 第2回～第3回 アイデンティティの概念と指標
- 第4回～第5回 アイデンティティの形成と発達
- 第6回～第7回 アイデンティティと自尊感情
- 第8回～第14回 アイデンティティと社会的行動
- 第15回 閉講

テキスト

テキストは使用しない。レジュメを配布する予定である。

参考書

参考書および参考文献は授業の途次、適宜、提示することにした。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

異文化コミュニケーション N 比較文化論 N	11228
---------------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 長崎 孝

講義内容・テーマ

幕末から明治維新を経て、明治、大正へと日本の近代化は進展していったが、この近代化の途上で、我々の先人たちが、欧米の近代文明をいかに苦闘しながら受容していったかをたどることにする。
講義であるが、ビデオも利用する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義期間中に随時出席をとる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
評価は定期試験によって行う。

講義スケジュール

- 第1、2回 シーボルト
- 第3、4回 黒船来航と日本開国
- 第5回 小栗上野介
- 第6回 津田梅子
- 第7回 森有礼
- 第8回 野口英世
- 第9回 渋沢栄一
- 第10、11回 森鷗外
- 第12回 夏目漱石
- 第13回 岡倉天心
- 第14回 大黒屋光太夫。ウォーナー・リスト
- 第15回 閉講

テキスト

授業中レジュメを配布する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 小山 帥人

講義内容・テーマ

今日の社会で映像メディアの持つ力はますます増大している。映像を操作することで社会の動きが変わることもありうるほどだ。講義では映像と社会の関係を歴史的に考察し、映像がどのように社会に影響を与えたか、その相互関係を追跡する。そして市民が映像を読み解く力をつけ、映像発信の主体になる新しいメディアの形態を追求する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

日頃から社会を反映する映画、テレビのニュース映像やドキュメンタリーなどを分析的に見て、制作者の意図を把握する力を養うことが望まれる。

評価方法・基準

* 日常点評価

授業における態度、発表の内容を重視する。そして適宜、小レポートを課し、評価の対象とする。

講義スケジュール

- 第1回 映像と文化のオリエンテーション
- 第2回 映像の進化
- 第3回 映画の発明
- 第4回 日本のメディア史
- 第5回 放送の誕生
- 第6回 テレビ・ドキュメンタリー
- 第7回 「日本の素顔」の時代
- 第8回 パブリック・アクセス
- 第9回 メディア・リテラシー
- 第10回 エスニック放送局
- 第11回 災害と映像
- 第12回 戦争と映像
- 第13回 映像の倫理
- 第14回 映像と人権
- 第15回 試験

テキスト

なし。

参考書

「パブリック・アクセスを学ぶ人のために」津田正夫・平塚千尋編、世界思想社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

外書講読 N

11985

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 千守 隆夫

講義内容・テーマ

本講義では、大衆文化、現代家族、パーソナリティーを主要なテーマとする文献を使用する。
正確な訳出はもちろん重要であるが、本講義は、特に論文全体の論理構造の理解に力点をおきつつ進める。
また、今後の社会学的研究に必要な基礎的知識の獲得も本講義の目的のひとつであり、論文中の各トピックや重要な概念、そして関連する議論などについて適宜解説を加えていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

個々の授業は輪読形式で行っていく。しかし、受講者数によって授業形態が変わることがある。

評価方法・基準

* 日常点評価
平常点と数回の小レポート

講義スケジュール

第1回 オリエンテーション
第2～14回 輪読形式での授業
第15回 まとめ

テキスト

現代アメリカ大衆社会をめぐる論文を予定。最初の授業で配布する。

参考書

授業内で紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

外書講読 N

11994

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 吉田 幸治

講義内容・テーマ

本講義で使用するテキストは、近代社会における合理性の問題や、社会の秩序形成と宗教との深い繋がりといった、社会学を学ぶ上での基本的なトピックについて入門書的に書かれたものである。本講義ではその第1章と第2章を講読し、その内容の正確な訳出を目指しながら、社会学を学んでいく上での基礎的な知識や発想について理解していく事を目的としている。なおテキスト内で言及されている、ウェーバーやデュルケム等の社会学に関する重要な概念については、講義中で適宜解説を行う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業は輪読形式で行う。自分の翻訳担当箇所だけでなく、他の担当者分の箇所も必ず読んでくること。

評価方法・基準

* 日常点評価
平常点(出席状況や担当箇所の翻訳)で評価を行う。

講義スケジュール

第1回

オリエンテーション:テキストの配布、及び輪読の進め方について。

第2回～第15回

事前に各自の翻訳担当箇所を決めておき、テキストの読み合わせを行いながら、その内容について理解を進めていく。

その際、テキストで触れられている社会学者や専門用語について、適宜解説を行っていく。

テキスト

Randall Collins, Sociological Insight, Oxford University Press, 1982.

Chapter1.The Nonrational Foundations of Rationality

Chapter2.The Sociology of God

ただし、使用する部分は最初の講義で配布するので、購入する必要はない。

参考書

講義時に随時紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

家族論 N 現代家族論 N	10834
------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 鈴木 未来

講義内容・テーマ

テーマ:現代日本の家族生活をトータルに捉える

現代日本の家族生活におけるさまざまな問題状況を、「全体としての家族」という観点で捉える力を養うことを目的とする。具体的には、戦後の家族生活の変化動向を踏まえたうえで、さまざまな家族論が変化動向の諸特徴をどのように説明しているのかを考察する。そして今日提起されている家族論が、現代の家族生活における具体的現実をどのように反映させるかたちで論じられているかを「全体としての家族」の把握を通じて検討し、家族生活の将来を展望する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義はテキストに沿って進めるので、テキストを購入の上講義スケジュールを参照して事前に該当箇所を読んでおくこと。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

- 第1回 インTRODクシヨン(1)本講義の概要
- 第2回 インTRODクシヨン(2)家族をめぐるさまざまな見方
- 第3回 現代日本の家族生活の変化(1)
- 第4回 現代日本の家族生活の変化(2)
- 第5回 現代日本の家族生活の変化(3)
- 第6回 家族論の流れ(1)
- 第7回 家族論の流れ(2)
- 第8回 家族論の流れ(3)
- 第9回 現代日本における家族論1 - 家族社会学の視点から(1)
- 第10回 現代日本における家族論1 - 家族社会学の視点から(2)
- 第11回 現代日本における家族論2 - 新たな視点の取り入れ(1)
- 第12回 現代日本における家族論2 - 新たな視点の取り入れ(2)
- 第13回 家族生活の将来を展望する(1) - 「全体としての家族」とは
- 第14回 家族生活の将来を展望する(2) - 理論の必要
- 第15回 まとめ

テキスト

飯田哲也『第二版現代日本家族論』学文社 2001 生協で販売

参考書

飯田哲也『家族と家庭-望ましい家庭を求めて-』学文社 1994
山中美由紀編『アジアの家族に何が起きているのか』昭和堂 2004

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

環境社会論 N リサイクル論 N	10807
---------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 和田 武

講義内容・テーマ

環境社会論/リサイクル論「持続可能な環境保全型社会の構築」
20世紀後半以降、展開されてきた物とエネルギーの使い捨て型大量生産・消費を軸とする社会は、地球環境破壊や資源枯渇を引き起こす持続不可能な社会であることが判明してきた。本講では、「物」と「エネルギー」の生産体系の現状と問題点を国際的、国内的事例に基づいて、21世紀に持続可能な環境保全型社会への転換を実現するための条件とプロセスについて論じる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

高度な予備知識はとくに必要ないが、講義はまじめに出席、受講すること。ときどき、授業中に小レポート(感想、意見、質問など)を書き、提出を求める。また、環境保全に関して自主的に調査、実践、学習した成果を「自主レポート」として提出することを歓迎する(テーマや作成方法は自由。提出期限は6月の最後の講義)。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

期末試験に日常点(小レポート)を加味して評価。評価の比重は、試験80%、日常点20%。

なお、優れた「自主レポート」については、成績評価にプラスする。「自主レポート」は内容により+5～+20。

講義スケジュール

1. 自然の物質、エネルギー、生態系の循環平衡と人間活動
2. 大量生産消費システムがもたらす問題・資源枯渇、廃棄物問題と有害物質汚染
3. 大量生産消費システムがもたらす問題・地球環境破壊
4. 持続可能な環境保全型生産消費システムのあり方
5. 日本の資源循環利用の現状と問題点(1)資源循環利用の方法
6. 日本の資源循環利用の現状と問題点(2)廃棄物・リサイクルに関する制度
7. 諸外国の資源循環利用対策(1)ドイツの包装廃棄物リサイクル
8. 諸外国の資源循環利用対策(2)EU諸国の包装廃棄物リサイクル
9. 諸外国の資源循環利用対策(3)製品リサイクル
10. エネルギー資源利用のあり方(1)日本のエネルギー利用
11. エネルギー資源利用のあり方(2)デンマークとドイツのエネルギー対策
12. エネルギー資源利用のあり方(3)持続可能なエネルギーシナリオと市民参加による再生可能エネルギー普及
13. 環境保全と技術、産業、経済発展
14. 環境保全型生産消費システムの構築
15. まとめ

テキスト

テキストは使用しない。配布資料を中心に講義を行う。理解を深めるためにビデオ教材等も活用する。

参考書

和田武『新・地球環境論』創元社、和田武『環境問題を学ぶひとのために』世界思想社、日本科学者会議『環境展望1999-2000』¹⁾

環境展望 Vol.2²⁾、環境展望 Vol.3³⁾、実教出版、循環型社会法制研究会『循環型社会形成推進基本法の解説』ぎょうせい、
ジェトロ・ワールドナウ『21世紀世界のリサイクル』JETRO、

林智ら『地球温暖化を防止するエネルギー戦略』実教出版、日本科学者会議『地球温暖化防止とエネルギーの課題』水曜社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

環境省; <http://www.env.go.jp/>、厚生労働省; <http://www.mhlw.go.jp/>、日本容器リサイクル協会;
<http://www.jcpra.or.jp/>、環境goo;<http://eco.goo.ne.jp/>、資源エネルギー
庁; <http://www.enecho.meti.go.jp/>、NEDO(新エネルギー産業技術開発機構); <http://www.nedo.go.jp/>、気候ネットワーク
; <http://www.jca.apc.org/kikonet/>、 など。

その他

「環境保全論」との重複受講は不可。

自主的、積極的に学んでほしい。質問は大いに歓迎する。

芸術と社会 N 芸術社会論 N	10808
--------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 田中 不二夫

講義内容・テーマ

1950年代に入り日本映画は第二の全盛時代を迎える。戦後の復興と占領体制の終焉とともに映画界は戦前の活気を取り戻し、溝口健二、小津安二郎、黒澤明などの世界的に評価される作家を輩出する。講義では、彼らの作品の魅力を当時の社会状況と照らし合わせながら考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験で評価する。

講義スケジュール

第1回 ガイダンス

第2回・第3回 占領体制化の日本映画

第4回～第6回 黒澤明の台頭

第7回・第8回 占領体制の終焉と日本映画の変容

第9回～第11回 時代劇の復活と溝口健二

第12回～第14回 小津安二郎

テキスト参考書

四方田犬彦『日本映画史100年』集英社新書、四方田犬彦編『映画監督溝口健二』新曜社、貴田庄『小津安二郎と映画術』平凡社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

言語コミュニケーション論 N
言語コミュニケーション論 N

10824

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 雑賀 恵子

講義内容・テーマ

人間は言語を通して思考するのだが、その言語とは一体なにか。言語論を通して、現代思想の巨星たちは何と闘ってきたのかをまず、考える。このとき、私たちは、国家や民族と個人の関係性、暴力とはなにか、といった問題にも向き合っていることに気が付くだろう。次に、「わたし」の思考やその表現は他者と関わらざるを得ないが、その「わたし」とはなにか、「他者」とはなにか、理解するということはどういうことなのか、共に在ることとはなにか、について、探っていきたい。いま、ここに、生きて在るものとして、学生諸君と一緒に考えていきたいと願っている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 試験に代わるレポートとして実施
- * 日常点評価

講義スケジュール

(講義は生きているものですから変更の可能性は大いにあります)

- 第1回 : この講義は何を対象としているか
- 第2～4回 : 日本語とはなにか・・・国家と言語
- 第5～6回 : 記号？言語？
- 第7～8回 : 時間と言語・・・法則という閉域
- 第9～10回 : 交通について
- 第11回 : いま、ここに、あるもの
- 第12～13回 : わたしと他者
- 第14回 : 理解することの可能性/不可能性
- 第15回 : 暴力に抗する言語

テキスト

特に指定しない。参考文献は講義中に紹介する。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 鈴木 隆

講義内容・テーマ

「情報」というと、とかく、現代の情報化社会のことと思いがちなのであるが、無論、情報とは、人がコミュニケーションを始めた時から存在していたのであって、この講義では、そのあり方の変遷を辿りながら、情報化社会といわれるものの正体、その秩序の原理とは工場の原理なのだという事を、システムの論理、時計の役割を通して考えたいと思う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義資料を可能な限り、前以って配布し、これに沿って講義を進める予定なので、これを必ず受け取り、よく読んでほしい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

テストの一発勝負。ただし、講義内容の理解ポイントになるようなキーワードもしくは、キー概念を提示するように心がけるつもりであり、その意味がどの程度、理解できているかを重視する。

講義スケジュール

1. コミュニケーション、メディア、についての基礎知識
 - a. 人は何故、言語を発達させ、社会を組織せねばならなかったのか？
 - b. シンボルと宗教と古代国家 想像力の役割と情報の保存ということ
2. 近代社会の論理 コミュニケーションの省略ということ
 - a. 社会的連帯の不透明化と富の存在様式の変化
 - b. 市場経済と交通・通信革命の不可避性
3. 近代社会におけるシステムの概念と「情報」
 - a. 工場の原理とシンクロナイゼーション
 - b. 通信革命
 - c. 情報処理のシステムの出現とコミュニケーションの省略
4. ピラミッド型組織の巨大化
 - a. 官僚制の論理と巨大化コンピューターの機能
 - b. 時間の概念の変質と権力媒体としての時計/存心館の見える風景
 - c. 巨大ピラミッドの解体とインターネット

テキスト

使用しない

参考書

講義資料の中で紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義中にいくつか紹介する。

その他

現代産業社会論 N
 産業社会学 N
 現代産業社会論 GA

10835

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 牧野 泰典

講義内容・テーマ

生産システムの発展経緯について、大量生産体制としてのフォード型生産システム、日本型生産システム、ボルボ社のカルマール工場、ウッデバラ工場、ドイツのダイムラー・クライスラー社のラシュタット工場などの特色を紹介しつつ、近年では雇用や作業環境を向上させつつ、日本型生産システムを海外では導入していること、それに対応して小集団活動も導入していることについて述べる。そのうえで海外で導入された日本型生産システムにおける新しい労使関係・労務管理は、日本国内にも有効な概念として提起していきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

キーワード 現代の生産システムにおける作業工程、労務管理、労使関係

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
 - * 日常点評価
- 定期テストと出席調査を兼ねたミニテスト(2回)

講義スケジュール

1. 授業の概要
2. 生産システムの変遷と大量生産体制(フォード型生産システム)の出現
3. フォード型生産システムの課題と「労働の人間化」(QWL:Quality of Working Life)について
4. QWLを具体化した工場について(ボルボ社のカルマール工場、ウッデバラ工場、ダイムラー・クライスラー社のラシュタット工場など)
5. 日本型生産システムの特色と課題
6. 第1回ミニテスト
7. 日本型生産システムの合理化と品質を向上させる小集団活動(QCサークル)
8. 海外企業・日系企業の小集団活動(その1)
9. 海外企業・日系企業の小集団活動(その2)
10. 日本型生産システムにおける新しい工場(トヨタの田原第4組立工場、九州工場)
11. 日本型生産システムを導入した海外企業の動向(自動車工場を中心に)
12. 非製造業における小集団活動
13. 日本と欧米における労務管理と労使関係の課題(人事考課査定、企業別組合、産業別組合など)
14. 第2回ミニテスト
15. まとめ

テキスト

牧野泰典『小集団活動の機能と役割』八千代出版, 2001年

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

定期テストはテキストの範囲から設定するので、テキストを購入すること

現代都市論 N
都市論 N

10822

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 久保 和洋

講義内容・テーマ

この講義では、都市とはなにか、を理論的につかんだうえで、西洋と日本の都市を例にとりながら都市の歴史を検討し、今日の都市再生の課題を私たちの生活に密着した「町内会」に視点をおいて考えたいと思います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業に積極的に参加すること

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
レポートの提出
講義内容を参考にして、独自の見解を論理的に展開したものを重視する

講義スケジュール

- はじめに 都市問題にみる都市
1. 都市とはなにか
 2. 「都」と王朝 権力の集積・階級支配の象徴としての都市
「ウルビス」としてのアテネ
「律令都市」としての「京」
 3. 民衆の自治としての都市とその崩壊
「シピタス」としてのアテネ、バグとしての中世西欧都市
京都;「ミヤコ」と町衆、その自治の側面(祇園祭と町衆)
 4. 現代の日本の「都市」構造と民衆自治
町内会の歴史と町づくり町運動
中央 周辺(東京 京都)問題としての都市再開発(都市計画)
生活空間としての都市再開発(ヨーロッパの経験)

テキスト

特になし。授業中にレジメを配布します。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 鈴木 隆

講義内容・テーマ

概略、前近代・近代・脱近代という順に、文化史的にその定義を追いながら、人は、その生活の意味を、文化の中でいかにして見だして来たのかを簡単に見た上で、近代社会では、この「意味を見出す」という営みが、どのように変貌していったのかを、「ハバースの言う「生活世界の植民地化」という考え方を手がかりとして考えて行きたいと思う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義資料を可能な限り、前以って配布し、これに沿って講義を進める予定なので、これを必ず受け取り、よく読んでほしい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

テストの一発勝負。ただし、講義内容の理解ポイントになるようなキーワードもしくは、キー概念を提示するように心がけるつもりであり、その意味がどの程度、理解できているかを重視する。

講義スケジュール

1. 血縁集団と意志疎通?それは「社会」どう違うのか?
「ダンス・ウイズ・ウルプス」と「未知との遭遇」
2. コミュニケーション・イマジネーション・そして文化
3. 汎神論(Panthism)の世界と人間:何故、「神」は唯一でなければならなかったのか?
4. 人が、自分が不可侵の尊厳を持つ自立した個人であると考えることができたのは何故?。
5. 「魔術かの解放」:合理性の三つの領域について:
宇宙船「エンタープライズ」のブリッジの風景とカント/遠近法の意味
6. 古典哲学は何故、「終焉」を迎えたの?
a. 「神は死んだ」:スタンリー・キューブリック「2001年・宇宙の旅」
b. ウェーバー「神々の闘争」について:「私」は地上の神である。
7. 「意味」の問題としての近代批判:
a. 疎外論と商品論
b. G.ルカーチ「物象化論」
8. 植民地化とコミュニケーションの省略ということ

テキスト

使用しない。

参考書

講義資料の中で紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義中にいくつか紹介する。

その他

現代メディア論 N
マス・コミュニケーション論 N

11579

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回数 2以上

担当教員 鈴木 隆

講義内容・テーマ

マス・メディアの歴史を概観しながら、民主主義とメディア / 消費社会とメディアという2つの視角から、現代日本の社会について論じたいと思う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

様々なエピソードとか資料映像を多用したいと思う。リラックスして聞いてほしい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

テストの一発勝負！: テストは正確な記憶よりも、ユニークな連想、論評を期待したい。

講義スケジュール

1. メディアとコミュニケーションについての基礎知識
 - ・メディアの三類型とシンボル
 - ・宗教と政治 / 文字と国家 - 「社会統合」ということについて
2. マス・メディア誕生の社会的条件
 - ・市場経済と都市 / 議会制度と政治的市民
 - ・複製技術と文化の大衆化
3. 電波メディアの機能
 - ・ラジオの時代: 映画「駅馬車」の考察
 - ・「ラジオ寄席」事件(桂春団次) / 「火星人襲撃事件」(O. ウェルズ)
4. 言論統制・大衆操作とメディア
 - ・「白虹事件」と言論 / 「大本営発表」
 - ・ゲッペルスのプロパガンダ理論と「映像」
5. マス・メディアと現代社会
 - ・「核家族」とテレビ
 - ・消費社会の神話と「あいまいな日本の私」
 - ・「異文化間コミュニケーション」 / 「過ぎ去ろうとしない過去」

テキスト

使用せず、資料を配布し、これに基づいて講義を進める。

参考書

講義中、適宜、指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義中、適宜、指示する。

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 福地 潮人

講義内容・テーマ

経済のグローバル化が進み、高度情報化社会が到来しつつある現在、国際政治の舞台でも大きな変化が生まれつつあります。これまで、国際政治は国家や国際機関が担うもの、と当たり前のように考えられてきました。

しかし、近年、アフガン復興会議や国連環境サミット、WTO閣僚会議などの例に見られるように、国際的な政治・経済の問題が検討される重要な舞台で、NGO(非政府組織)を中心とする国際的な市民のネットワークが活発な活動を展開しています。

これらの市民ネットワークは、時には諸々の国家や企業、国際機関などと協力しながら、そしてまた、時には反目しあいながら、国際政治や国際経済の展開に重要なインパクトを与えています。

本講義では、このような国際的な市民ネットワークの諸活動の現状と問題点を踏まえ、市民が地域社会から現行の国際政治や経済のあり方をどのように変えていくのか考えていきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講生の皆さんと協力しながら、「ともに作り上げる講義」を目指したいと思います。可能な限り討論を中心とした講義を展開したいと考えますので、積極的な発言、質問をこころがけてください。

具体的な講義の進め方については第1回目のオリエンテーションで受講生の皆さんと協議して決めたいと思います。受講を希望される方は必ず第1回目に出席してください。

なお、受講生数、受講生の希望によってはゼミ形式をとる場合がありますので、予めご了承ください。

質問・討論以外の私語や、講義中の飲食は厳禁です。目に余る行為があった場合、以降の受講を認めない場合もありますのでご注意ください。

評価方法・基準

* 日常点評価

小テスト×2(40%) + 最終講義日試験結果(40%) + 平常点(出席、受講態度など:20%)。

なお、ゼミ形式の場合、試験はしません:出席(3分の2以上:50%) + グループないしは個人発表(1回以上:50%)

なお、それぞれの比重(%)は仮のものです。

講義スケジュール

以下の内容については、あくまでも仮のものです。

今後変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

1. オリエンテーション
2. 経済のグローバル化と「国家の空洞化」
3. WTOと反グローバリズム運動 - ニュー・フリンジ -
4. グローバル・ガバナンスと市民社会
5. 小テスト
6. NGOとは何か
7. 先進国のNGO
8. NGOと国際組織
9. 途上国のNGO
10. 小テスト
11. 国際市民運動の現状 : エコロジー運動
12. 国際市民運動の現状 : 反戦・平和運動
13. 国際市民運動の現状 : 人権・市民権擁護運動
14. まとめ - 市民のための「再グローバル化」は可能か -
15. 期末考査

テキスト

とくに使用しません。

参考書

講義中に指定します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

心のケア N
カウンセリング論 N

11204

授業開講期間 後期単位数 2配当回数 2以上担当教員 松島 京講義内容・テーマ

近年、私たちは「心のケア」という言葉をよく耳にする。そもそも「心」とは何か、そしてその心をケアするとはどういうことなのだろうか。

本講義では「心のケア」とは何かということを、いろいろな角度から考えていく。その際には、臨床心理的な視点だけではなく、相互作用や関係性の病理といった社会的な視点も組み込んでいく。

「心のケア」というテーマは、臨床の専門的な現場の実践だけに関わることではない。私たちの日常生活にも関わるものである。このことを、本講義を通して受講生が考える場となれば、と考えている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回の講義を重ねることによって、テーマへの関心が深まる構成となっている。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

講義中の小レポートおよび期末のレポート試験によって、総合的に評価する。

講義スケジュール

1. 「心のケア」とは
2. 心のケアに関わる歴史的背景(1)
3. 心のケアに関わる歴史的背景(2)
4. 事故や震災とPTSD
5. 家庭内暴力や虐待と複雑性PTSD
6. 「心」と「ケア」
7. 「語る」ということ
8. 「聴く」ということ
9. 回復するということ～実践事例(1)
10. 回復するということ～実践事例(2)
11. 回復するということ～実践事例(3)
12. 臨床現場における課題(1)
13. 臨床現場における課題(2)
14. 私たちと心のケア
15. まとめ

スケジュールはあくまでも目安である。

受講生からの意見を尊重し、柔軟に講義をつくりたいと考えている。

テキスト

必要な資料は講義中に適宜配布する。

参考書

『心的外傷と回復』J.L.ハーマン、中井久夫訳、みすず書房。

『「聴く」ことの力 - 臨床哲学試論』鷲田清一、TBSブリタニカ。

その他必要な文献については講義中に適宜紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 大橋 喜美子

講義内容・テーマ

【講義目的】

子どもの発達と環境要因の関わりについて、地域社会、子育ての歴史、異文化からの学びなど、さまざまな角度から論じ、子どもの心に響く子育て文化について検討する。

【講義内容】

前半は日本の子育ての歴史と子どものあそびの変遷、現在の日本が抱える子育ての諸問題や課題を論じる。後半は、日本で暮らす諸外国の父母より子育てについて行なった調査から、異文化に学ぶ日本の子育てについて比較研究を行なう。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

各自がテーマに関心を持ち子育ての課題を明らかにしておく。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
レポート点等

講義スケジュール

【現代の子育てについて】

・子育て文化環境と課題

【歴史に見る子育てとあそびから何を学ぶか】

・江戸時代の子育てと子どものあそび
・明治時代の子育てと子どものあそび
・大正から昭和の子育てと子どものあそび

【異文化に学ぶ子育て】

・日本に在住する専業主婦と働く母親の育児不安
・日本での滞在年数としつけ
・国籍の違いによる子育ての受け止め方

【地域で育つ子ども】

・保育園・幼稚園で育つ子ども
・子どもの遊び場と空間
・子育て情報ネットワーク

【まとめ】

・子育て文化と共感する心

テキスト

プリント配布 (参考図書:「事例でわかる保育と心理」朱鷺書房)

参考書**授業の方法(大学院科目のみ)****参考になるWWWページ****その他**

自治と参加 N
住民自治論 N

10855

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 千守 隆夫

講義内容・テーマ

今日、地方分権の世界的な流れのなかで、分権型社会における市民自治のあり方が様々に模索されている。われわれ市民ひとりひとりが、自治について、そしてそこへの参加について積極的に考えていくことが何よりも重要である。

本講義は、参加とデモクラシーをめぐってこれまでなされてきた議論、そして自治・分権・参加をめぐる歴史的展開などについて取り上げ、それらをもとに市民自治や市民参加のあり方について考えていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義は、基本的には講義型式をとる。しかし、受講者各自の考えを知り、それらを授業に生かすために、数回の小レポートを予定している。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
他に数回の小レポートを予定している。

講義スケジュール

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回 主に以下の諸点について取り上げ、講義を進めていく予定である。

- ・「参加」と「デモクラシー」をめぐる議論について
- ・地域主義とその批判について
- ・アメリカにおける自治・分権・参加の発展について
- ・日本における自治・分権・参加の発展について

第15回 まとめ

テキスト

特に指定はしない。

参考書

授業のなかで紹介していく。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

市民社会と企業 N
企業社会論 N

10854

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 2以上
担当教員 櫻井 純理

講義内容・テーマ

テーマ「日本企業における労働とコーポレート・ガバナンス」
企業と社会の関係は様々な側面で変化しつつある。たとえば、企業に働く労働者と会社との関係、株主と企業との関係、消費者や地域住民と企業との関係、いくつかの観点から、現在の日本に焦点を当てて、企業と社会の関係がどのように変化しつつあるのかを考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特にありません。授業への積極的な参加を望みます。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
期末レポート(A4ワープロ打ち・3枚=5000字程度)の評価(100点満点)を基本とする。
授業中に意見・感想を書いてもらう機会(2~3回程度)を設け、10~20点程度加味する。

講義スケジュール

講義を基本とし、ビデオ教材やレジュメも使用する。主な内容は以下。

1. イントロダクション(授業の概要と進め方)
2. 企業と労働者の関係
 - (1) 日本型雇用(3種の神器)の変容
 - (2) 正社員のリストラと非正社員の増大
 - (3) 正社員の長時間労働
 - (4) 若年労働者の就業と失業、フリーターの増加
 - (5) ペイ・エクイティと間接差別問題
3. 企業と社会の関係
 - (1) コーポレート・ガバナンス論
 - (2) 日本企業と株主
 - (3) 企業の社会的責任 途上国労働、障害者雇用
 - (4) 企業の社会的責任 社会的責任投資、企業の評価基準

テキスト

櫻井純理『何がサラリーマンを駆りたてるのか』(学文社)。
大学生協で購入できるように手配する。

参考書

森岡孝二『日本経済の選択』(桜井書店)、ジル・フレイザー(森岡孝二訳)『窒息するオフィス』(筑摩書店)、熊沢誠『リストラとワークシェアリング』(岩波新書)、島本慈子『ルポ解雇』(岩波新書)など。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

株主オンブズマン、職場の人権、労働基準オンブズマン、大阪過労死問題連絡会など。
詳細は授業中に適宜紹介する。

その他

社会思想論 N
社会思想 N

11622

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回数 2以上
担当教員 尾場瀬 一郎

講義内容・テーマ

テーマ:近代化と思想

獲得目標:思想の可能性を近代化のなかでとらえる

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

基本的に講義形式であるが、学生の主体性を重視したい。
できれば、学生自らテーマを設定して、発表する場を設けたい。
また、できるだけ書く機会をつくり、それに添削を施して返却したいと考えている。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
2000字の中間レポートと、2000字の期末レポートによって評価する。
配点割合は、2000字中間レポートを三割、2000字期末レポートを七割とする。

講義スケジュール

限られた回数のなかですべて扱うことはできないが、以下のようなテーマを考えている。

- ・疎外と物象化(マルクス、ルカーチ)
- ・合理化と資本主義(ウェーバー)
- ・現代人の不安、孤独と自由(サルトル、フロム)
- ・啓蒙の弁証法(アドルノとホルクハイマー)
- ・常識論(グラムシ)
- ・知識人とは何か?(サイード)
- ・日本の近代思想家(森有正、丸山真男)
- ・沖縄と本土日本(岡本太郎、島尾敏男)
- ・今日の反近代主義者(西部萬、西谷啓思)

* 沖縄問題等、実践的な問題についても扱いたい。

以上の他に、学生が自由に問題を設定して、発表する機会をつくりたい。
また、近・現代社会、あるいは社会思想の理解を助けるために、ビデオ等の使用を計画している。

テキスト

使用しない。
毎回、とりあげる思想家や社会学者の一節をコピーして配布する。

参考書

多いので、授業のなかで毎回紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

特になし。
各自それぞれで検索されたし。

その他

ない。

社会と福祉 N
社会福祉論 N

11621

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 2以上
担当教員 松田 亮三

講義内容・テーマ

この科目を終えた学生は、次のことができることが期待されている。

- 1) 福祉国家、ニーズ、効率、公平、質など、さまざまな「福祉」をめぐる考え方(概念)を用いて、現代の社会問題を分析し、議論することができる。
 - 2) 社会が「福祉」とどのように関わっているか、そして、どのようにかわるべきかについて、政府、市場、非営利組織、家庭に注目しながら、現代の社会のあり方を検討し、議論することができる。
- なお、学習の素材としては、広い意味での社会の「福祉」に関わって、医療を中心におくが、その他の分野についても必要な範囲で扱う。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本授業は、広い意味での福祉についての理論を検討し、個々の福祉のサービス・活動分野について系統的に紹介することはない。各人、対人福祉サービス、医療、年金、住居など、広い意味での福祉のどれかの分野について、現状と課題について、問題意識を持ちながら受講することを期待している。しかしながら、詳細で具体的な知識を予備知識としてはしない。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

成績の60%を定期試験で評価する。残りの40%をレポートなどの課題により評価する。

講義スケジュール

以下の項目を中心に学ぶ予定である(それぞれ1 - 2回程度)。

- 1) 現代社会における「福祉」
 - ・福祉国家の発達
 - ・社会福祉サービスの発達
 - ・公平と福祉政策
- 2) 比較福祉政策の視点
 - ・ティトマスの分類
 - ・福祉レジーム論
- 3) 福祉と国家 新保守主義改革の考え方
- 4) 福祉と市場 民間セクター、擬似市場
- 5) 福祉と非営利組織
- 6) 福祉とインフォーマル・セクター

これらは国際的な動向と文脈の中で議論するが、日本の動向について適時紹介する。具体的な例は、担当者の専門から医療ないし介護(長期ケア)に関する内容が多くなるが、年金、保育、障害者福祉などの分野も例示することがある。しかし、これらの施策を体系的に学ぶことが目標ではないので、あくまで理論展開の例示として示すものである。

テキスト

主な文献としてノーマン・ジョンソン『グローバル化と福祉国家の変容：国際比較の視点』(法律文化社、2002年)。また、社会福祉の概要と最近の動向を知るために、『図説 日本社会福祉』(法律文化社、2004年春発行予定)、を随時参照する予定。

参考書

「福祉」の各分野に応じて文献をあたるのが求められるが、最近の総論的な文献として、次のものがある。
 社会福祉基礎構造改革の視座：改革推進者たちの記録/炭谷茂編著 -- ぎょうせい、2003。
 戦後社会保障の形成：社会福祉基礎構造の成立をめぐる/北場勉著 -- 中央法規出版、2000。
 新しい社会福祉と理念：社会福祉の基礎構造改革とは何か/阿部志郎、土肥隆一、河幹夫共著 -- 中央法規出版、2001。
 新自由主義と非福祉国家への道：社会福祉基礎構造改革のねらいとゆくえ/浅井春夫著 -- あけび書房、2000。
 社会福祉基礎構造改革でどうなる日本の福祉/浅井春夫著 -- 日本評論社、1999。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

・内閣の構造改革関連の文書(ウェブ上で閲覧可能)。

- ・厚生労働省審議会情報。
- ・WAM ネット <http://www.wam.go.jp/>

その他

学習をより豊かにするには、新聞や雑誌を読んで現代の「福祉」(広い意味での)について、問題意識を持ちながら、学ぶことが重要でしょう。

宗教と人間 N 比較宗教論 N	11995
--------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 森本 一彦

講義内容・テーマ

テーマ:日本の民俗宗教

講義内容:日本における民俗宗教を対象として、人間にとって宗教とは何かを考えていく。民俗宗教は人間の生活と密接に関わって形成されており、民衆の思想を知る手がかりとなると考えられる。本講義では、年中行事、通過儀礼、先祖祭祀、生業などを通して民俗宗教のあり方を検討する。その折に、社会学・民俗学などの視点から民俗宗教が形成される背景の社会に注目するとともに、歴史的視点からも民俗宗教の変遷にも言及していきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義形式で行う。講義中に5回程度、関連する小レポートの提出を求める。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

定期試験(80%)と日常点(20%)。定期試験は客観と論述の両形式で出題する。日常点は出席と小レポートによって評価する。

講義スケジュール

- 第1回 はじめに:民俗宗教とは何か
- 第2回 神仏習合と神仏分離
- 第3回 神社と信仰集団
- 第4回 寺院と檀家
- 第5回 正月と盆 - 年中行事
- 第6回 通過儀礼
- 第7回 先祖祭祀
- 第8回 屋敷の信仰
- 第9回 生業と信仰
- 第10回 旅と信仰
- 第11回 村の境界と中心
- 第12回 異界へのまなざし
- 第13回 流行神
- 第14回 生き神・まとめ
- 第15回 定期試験

テキスト

テキストは特に決めず、授業ごとにプリントを配布する。

参考書

森隆男編『民俗儀礼の世界』清文堂出版

上記以外の参考文献は講義ごとに紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 2以上
担当教員 真鍋 能章

講義内容・テーマ

(住民はどのように負担すべきか) わが国では、公共サービスの多くは地方公共団体によって提供されるが、税金はその多くが国(中央政府)に納められている。巨額の財政赤字は、人々が負担する以上に受け取ることから生じたものだが、日本では、住民と地方公共団体との間に国が入るので、住民には受益と負担の関係は見えにくい。国と地方公共団体における負担のあり方が検討されねばならない。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義では、テキストを批判的に取り扱い(text critique)、決してテキストを真理の固まりとは見なさない。毎回の講義では、まず章の主張点を明らかにし、次にこれに検討を加え、最後に定期試験の問題を提起するので、受講者は予習・復習を行わねばならない。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

科目としての評価は定期試験によってのみ決定されるが、事前に3回にわたってレポートのかたちで答案の提出を求める。定期試験では、1章から1問、計10問を選択し、各問に対する肯定あるいは否定の立場とその根拠(原因や理由)をあげるものとする。評価は、あなたの答えが説得的か否かによってのみ決まり、あなたが設問を肯定したか・否定したかは問わないものとする。

講義スケジュール

* 講義はテキストを使用して以下の順序で行い、第8回と第15回の講義では提出されたレポートを返却し解説を行う。なお、第1回の講義は、全講義の基礎となるものについての解説である。

第1回 : ミクロ経済学の工具箱

第2回 : 1章 地方財政の実態 第1回レポートの範囲
第3回 : 2章 国と地方の機能分担 (1章～4章)

第4回 : 3章 制度としての地方財政
第5回 : 4章 地方公共支出の経済学

第6回 : 5章 地方団体の行財政改革
6章 広域行政と狭域行政
第7回 : 7章 地方税の体系と原則 第2回レポートの範囲
8章 地方税の改革 (5章～11章)

第8回 : 演習(第1回レポートの返却と解説)

第9回 : 9章 国庫支出金と地方財政
第10回 : 10章 地方交付税と財政調査
第11回 : 11章 地方債の発行と国の関与

第12回 : 12章 地域づくりと地方団体の役割
第13回 : 13章 少子高齢社会と地方財政 第3回レポートの範囲
第14回 : 14章 地方公営企業と第3セクター (12章～14章)
第15回 : 演習(第2・3回レポートの返却と解説)

テキスト

テキストは、林宜嗣(はやしよしつぐ)『地方財政』有斐閣、1999年である。

参考書

都留重人編『岩波小辞典 経済学』岩波書店、2002年。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

その他

消費とマーケティング N 現代消費論 N	10461
-------------------------	-------

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 野村 比加留

講義内容・テーマ

私たちは毎日のようにマーケティング活動に接しています。また、マーケティングは私たちの消費活動に影響することもあります。本講義の目的は、マーケティングの基礎知識を学んだ後、私たちの消費活動とマーケティングがどのように関係しているのかについて理解を深めることにあります。具体的には消費者行動や購買意志決定とマーケティングの関係などが中心となります。また、時間があれば消費者問題とマーケティングについても言及します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

マーケティングに興味があること。

評価方法・基準

* 日常点評価
最終講義日試験によって評価します。

講義スケジュール

第1週 ガイダンス / マーケティングとは何か
第2～7週 マーケティングの基礎
第8～11週 消費者行動 / 購買意志決定プロセス
第12～14週 マーケティングと消費行動
第15週 講義内試験

テキスト

初回講義時に指定します。それまでに生協で購買できるように手配しておきます。

参考書

講義時に、適宜、紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

講義時に、適宜、紹介します。

その他

情報化社会論 N
情報文化論 N

11250

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 2以上
担当教員 池田 知加

講義内容・テーマ

情報化社会とは、上から政策的に導入されたり、ビジネスチャンスの到来といった経済的な効果が期待されたりするだけでなく、人々の社会文化的な営みによってもまた展開されるものです。この講義ではテレビ、パソコン、ケータイなど日常的なメディア使用に焦点を当てながら、情報メディアを使用する人間の経験的な側面を中心に情報化社会について考察していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

自らのメディア経験をふりかえりながら、情報化社会を解釈したり、検証したりする視点(=分析視覚)を学んでほしいと思います。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
レポート試験で評価します。
日常点として授業内で小レポートを提出してもらう場合があります。

講義スケジュール

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 マス・コミュニケーション論-1:メディアと研究パラダイムの歴史
- 第3回 マス・コミュニケーション論-2:マス・コミュニケーション論の展開
- 第4回 マス・コミュニケーション論-3:今日のマス・コミュニケーション
- 第5回 まとめ-1:擬似現実論
- 第6回 CMCネットワークの展開-1:日本社会の情報化
- 第7回 CMCネットワークの展開-2:メディアのパーソナル化とメディア利用のパーソナル化
- 第8回 CMCネットワークの展開-3:コミュニケーションの変容
- 第9回 まとめ-2:時空間と身体の変容
- 第10回 情報化の中の「私」の問題-1:情報の意味づけ問題
- 第11回 情報化の中の「私」の問題-2:情報化社会の中での生き方
- 第12回 情報化の中の「私」の問題-3:情報化社会のパラドックス
- 第13回 監視と近代社会・ポストモダン社会
- 第14回 情報化と「公共圏」
- 第15回 講義全体の総まとめ

テキスト

レジュメを使用。参考文献は授業内で紹介します。

参考書

フランク・ウェプスター『「情報社会」を読む』田畑暁生訳、青土社、2001年、
加藤春明『メディア文化の社会学』福村出版、2001年、
守弘仁志、岩佐淳一他『情報化の中の「私」』福村出版、1996年など。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

身体コミュニケーション論 N	10493
身体表現論 N	

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 本山 益子

講義内容・テーマ

我々は、人とのかかわりの中で生活している。そして、主に言語を通してコミュニケーションしているが、その際、我々の“からだ”は表情やしぐさなどによって言語以上に雄弁にものを伝えている。すなわち、人の“からだ”は常に何かの情報を発信するとともに、人は“からだ”によって情報を受信しているのである。この講義では、まず、このような日常生活における“からだ”によるコミュニケーションについてさまざまな観点から検討し、自分の“からだ”について再確認してもらいたい。さらに、世界の国々に存在している舞踊(身体表現)に見られる、“からだ”によるコミュニケーションについても比較検討したいと考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義は、適宜プリントを配布し、視聴覚教材も使用して行う。
さらに、自分や他者とのコミュニケーションを実際に試みる機会も提供したい。

評価方法・基準

* 日常点評価
評価の割合は、最終のテスト(60%)。
ほぼ毎回の授業感想文、及び、小レポート(40%)の予定である。

講義スケジュール

1. “からだ”について
 - “からだ”のとらえ方
 - “からだ”と言葉
 - 自分の“からだ”を感じてみよう(リラクゼーションの実践)
 - “からだ”は語る
2. 日常生活における“からだ”でのコミュニケーション
 - 身体表現(感性とイメージ)
 - 身体表現(コミュニケーション)
 - 身体コミュニケーションの実践
 - 子どもの発達とコミュニケーション
3. 舞踊に見られるコミュニケーション
 - ダンスにおけるコミュニケーション
 - バレエに見られるコミュニケーション
 - 舞踊に見られるコミュニケーション 日本
 - 舞踊に見られるコミュニケーション アジア
 - 舞踊に見られるコミュニケーション アフリカ
4. 現代社会における“からだ”でのコミュニケーション
5. 講義のまとめ

テキスト参考書

「原初的コミュニケーションの諸相」・鯨岡峻・ミネルヴァ書房

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

スポーツと文化 N
スポーツ文化論 N

11984

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 川口 晋一

講義内容・テーマ

スポーツおよび文化一般における身体、イベント、組織などの在り方を客観的に見ることで、私たちは生活の成り立ちや社会システムの問題等を透かしてみることができる。さらに、表象作用を通じて社会を支配する道具として利用されたり、また逆に支配に抵抗する連帯を生み出すものとして大きな社会的意味を持っていることを知ることができる。ここではそのようなスポーツと表象文化を通じて、人間、社会、コミュニケーションの問題について考えていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義は単にスポーツ文化を扱うものではない。その他の文化と対置させるのではなく、その中に位置づけること、文化を取り巻く社会状況を捉えることが重要である。

受講者数が少ない場合、授業をの進め方を「対話方式」「ディスカッション形式」に変える場合がある。

評価方法・基準

* 日常点評価

出席率、授業内レポート、試験に代わる期末レポートなどの比重を受講者の数の多少により柔軟に変える予定である。受講者の数が少なければ出席や授業内レポートなどの比重を高くし、受講者が多ければ期末レポートの比重を大きくする。

講義スケジュール

1. スポーツと文化: イントロダクション
2. 近代スポーツに見る合理性
3. 階級とスポーツ文化
4. 文化の普及と社会システム
5. 身体と文化の規格化
6. マスカルチャーの生産
7. カウンターカルチャーの生起
8. 中間まとめ
9. 資本主義的生産と身体・文化
10. ポピュラーカルチャーとヘゲモニー
11. 消費文化とテレビジョン・カルチャー
12. サブカルチャーと市場
13. 文化とグローバリゼーション
14. 表象のコミュニケーション
15. まとめ

テキスト

特に使用しない。レジュメなどの資料を配付する予定である。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

生活と経済 N
生活経済論 N

11179

授業開講期間 前期 単位数 2 配当回生 2以上
担当教員 竹濱 朝美

講義内容・テーマ

テーマ: 食の安全と環境保全をめぐる消費経済の分析

主な内容:

消費者の権利と利益を確保する観点から、消費生活における食の安全と環境保全について、その現状と消費者保護政策の基礎的知識を獲得する。

今年は、次の点を中心に取り上げる。

食の安全と農産物トレーサビリティ・システム。食品安全性をめぐるリスクコミュニケーション。

消費生活における環境負荷の現状。環境マーケティングの役割と課題。グリーンコンシューマーの役割。

インターネット・コミュニケーションにおける個人情報保護。インターネット・マーケティングにおける個人情報の活用と消費者保護。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業中に配布する資料は、理解を助けるための補助資料である。

統計データおよび事例について、資料を配布するので、毎回持参すること。

評価方法・基準

* 日常点評価

最終講義日試験により、成績評価を行う。授業中に配布する資料より出題する。

講義内容の要約ができていないこと、テキストおよび参考書を参照して、自分なりの意見がまとめられるよう準備すること。

事例分析のための事例を自分で集めること。

講義スケジュール

1. 授業の目的と方法。自分の消費生活を見つめる。消費者の権利とは。
2. 食の安全性確保とトレ - サビリティの役割: フード・チェーンにおけるトレーサビリティの方法。
3. トレーサビリティと食品安全をめぐるフード・マーケティングの事例分析:
農業生産者、食品メーカー、小売業におけるトレーサビリティ構築の動向。
情報開示・リスク・コミュニケーションへの対応。農産物プライベートブランド戦略。
4. 中間まとめ:
輸入農産物への依存とフード・システムの課題。感想、質疑応答。
5. バイオテクノロジーと食生活:
遺伝子組換え食品、クローン牛とバイオテクノロジー、遺伝子組換え食品の表示制度、その問題点
6. 栄養食品・健康食品と消費者:
「特定保健用食品」表示制度。健康食品をめぐるマーケティング戦略、広告表示の問題点。
7. 有機農産物と消費者:
JAS有機農産物表示、「特別栽培農作物」表示、海外の有機農産物認証。IFOAM。
環境保全型農業としての有機農産物の意味
8. 中間まとめ:
食品表示と消費者の「選択する権利」。感想、質疑応答
9. 大量消費生活様式と環境負荷:
消費生活における環境負荷の実態。地球温暖化の実態と消費生活。
大量生産・マス・マーケティング・大量消費・大量廃棄の見直し。グリーン・コンシューマー。
10. 環境経営と環境マーケティングの意義と限界:
環境ラベルの種類と役割。海外の環境ラベルとの比較。環境配慮製品の事例分析。
11. 生分解性プラスチックと表示制度: 生分解性プラスチックの事例、業界による表示制度。
12. 中間まとめ: 環境マーケティングの意義と限界。感想、質疑応答。
13. 個人情報保護とインターネット:
インターネット・マーケティングにおける個人情報の収集と活用。プライバシー・ポリシーの役割。
トラステ、プライバシー・マーク。個人情報保護法。インターネット・ユーザーのための消費者教育。
- 14) 全体まとめ: 復習、質疑応答。
- 15) 最終講義日試験

テキスト

山本譲治、『実践・農産物トレーサビリティ。流通システムの安心の作り方』、誠文堂新光社、2003年。
この他は、授業中に指示する。

参考書

さしあたり、次の文献を指定しておく。

E. シュローサー、『ファストフードが世界を食いつくす』、草思社、2001年。

日本農業市場学会編、『食品の安全性と品質表示』、筑波書房、2001年

竹濱朝美、『タイプ 環境ラベルによる自己適合宣言の課題』、『立命館産業社会論集』、39巻1号、2003年。

その他は、適宜、授業中に指定する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回数 2以上

担当教員 文 楚雄

講義内容・テーマ

この授業は、激動する世界国々の現代社会や文化などについて学習する。今年も引き続いて中国のこをり上げる。
長い不況に苦しんでいる日本と対照的に、隣の中国はすさまじい経済成長を成し遂げている。2002年度の対中貿易を見ても、中国は戦後初めてアメリカを抜いて、日本の第一輸入相手国となった。ますます日本と関係してくる。授業では、中国の経済成長ぶりやそれに伴う新しい社会変化・新しい文化現象などについて、ビデオを使いながら紹介していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義しながらビデオを見ていく。ディスカッションも交えたいので、大いに質問なり興味関心領域なりの発言をしていただきたい。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。

講義スケジュール

次のような内容で授業を進めていく。(一部変更する場合もある)

第1回(9/29)	中秋節・国慶節
第2回(10/6)	北京オリンピック
第3回(10/13)	北京のまちづくり
第4回(10/20)	西部大開発
第5回(10/27)	中国のIT社会
第6回(11/10)	新婚姻法
第7回(11/17)	第16回党大会
第8回(11/24)	中国の映画
第9回(12/1)	中国の宗教と政治 法輪功
第10回(12/8)	悪質な風俗産業の取り締まり
第11回(12/15)	中国と台湾の関係
第12回(12/22)	「春運」と鉄道
第13回(1/5)	南水北調
第14回(1/12)	中国の音楽
第15回(1/21)	予備

テキスト

授業時プリントを配布する。

参考書

「変貌する中国を読み解く新語辞典」(莫邦富、草思社)
「中国の社会構造」(中野謙二、大修館書店)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

世界の福祉 N
比較福祉論 N

11251

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 2以上
担当教員 前田 信彦

講義内容・テーマ

「国際福祉」という学問分野は未開拓の分野であるため、「比較福祉」という視点から講義する。この講義では、国際比較の視点から、特に「労働」と「福祉」について考え、これからの日本の福祉社会のあり方を探る。講義は主に次の手順で行われる。まず第一に、国際福祉の方法について講義する。特に福祉社会を国際比較の視点から捉えるための枠組みを提示する。第二に、主にオランダ、日本を対象として比較福祉論を講義する。具体的には、失業問題、女性の労働、家庭生活と仕事、高齢者の就業といった個別の領域について国際比較の視点から講義する。第三に、国際比較から各国の福祉の実態を相対化し、日本のこれからの福祉について考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会学の基礎的な知識があること。

評価方法・基準

* 日常点評価
出席点・小課題レポート・定期試験による総合評価。
講義期間に何度か小課題レポートを実施する。
出席しないで単位だけを取る学生にはすすめない。

講義スケジュール

1回 講義の進め方について
2 - 3回 福祉国家の形成と危機
4 - 5回 中高年の失業と福祉
6 - 10回 女性の就業と社会的支援
11 - 13回 高齢者の就業と社会参加
14 - 15回 まとめ・試験

テキスト

テキストは特に指定しない。
講義中に参考文献を随時紹介する。

参考書

富永健一 2001 『社会変動の中の福祉国家 - 家族の失敗と国家の新しい機能』中公新書
前田信彦 2000 『仕事と家庭生活の調和 - 日本・オランダ・アメリカの国際比較』日本労働研究機構
アラン・ウォーカー1997 『ヨーロッパの高齢化と福祉改革 - その現状とゆくえ』ミネルヴァ書房
(ほか、講義中に紹介する)

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

大衆文化論 N
大衆芸能論 N

10442

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 木津川 計

講義内容・テーマ

知識的教養人のハイグレードな文化とは別に、大衆文化は広く大衆に受け入れられる通俗文化を指すのです。その大衆文化が持っている健康な民衆精神、ヒューマンで在野的な精神の健在を評価しつつ、猥雑と退廃に陥りやすい傾向を見据え、あるべき大衆文化像を具体的に探るのが本講の目的です。とくに本年度は大衆文化の諸相と時代との関連をさぐります。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施
レポートを開講中2回提出していただきます。
その2点を評価します。
1回目課題「男と女はどう歌われているか」
2回目課題「優しさをいまどこに発見しますか」
提出日は教室で知らせます。

講義スケジュール

- 1、なぜ「大衆文化と時代」なのか 大衆文化論概説
- 2、笑い時代 笑いのうねりの起るとき
- 3、川柳時代 サラリーマン川柳の照準
- 4、歌と時代 歌はどう変わってきたか
- 5、歌と時代 男女の歌われ方
- 6、歌とことば ご当地ソングと地方文化
- 7、語りと文化 日本語ブームと語り
- 8、優しさは国民的人気たり得るか アニメ、漫画、演芸の場合
- 9、優しさは国民的人気たり得るか 映画、喜劇の場合
- 10、優しさは国民的人気たり得るか 歌と詩の場合
- 11、趣味と時代 「趣味力」の発見
- 12、道楽と時代 人間らしさを求めて
- 13、若者文化と時代 文化の潮をみちびくもの
- 14、文化の都市へ 夫婦同伴文化のすすめ

テキスト

ありません。毎回プリントを配ります。

参考書

折にふれ紹介します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 鈴木 未来

講義内容・テーマ

今日の社会調査では大量のデータを収集する。社会調査で得られるデータはどれ一つとっても人間生活における社会的現実であり、ひとつひとつのデータがどのような社会的な意味をもつのかを検証することが、今日の社会問題の特徴を明らかにする上で重要な作業となる。この実習では、統計解析ソフトSPSSの利用方法を学ぶことで、大量のデータを集計する技術だけでなく、得られたデータひとつひとつの散らばりや関連性などの社会的な意味を探究する力を身につけることを目的としている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

ウィンドウズの基本操作を身につけていることが、受講のための条件となる。
受講生の統計学の知識の度合いに応じて進め方を変更することがある。

評価方法・基準

* 日常点評価

講義スケジュール

- 第1回 インTRODクシヨン:社会調査と統計解析
- 第2回 SPSSの入力方法
- 第3回 度数分布図とグラフの作成
- 第4回 基礎統計量を求める(記述統計)
- 第5回 探索的分析とは
- 第6回 2群の平均値の差を検定する(t検定)
- 第7回 質的な変数の関連を調べる1(クロス集計表)
- 第8回 質的な変数の関連を調べる2(2乗検定)
- 第9回 全体的な「差」を検定する(分散分析)
- 第10回 量的な変数の関連を調べる1(散布図を描く)
- 第11回 量的な変数の関連を調べる2(相関係数)
- 第12回 多変量解析(1)重回帰分析1
- 第13回 多変量解析(2)重回帰分析2
- 第14回 多変量解析(3)因子分析1
- 第15回 多変量解析(4)因子分析2

テキスト

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書

室淳子・石村貞夫『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』東京図書、1999
岩淵千明編『あなたにもできるデータの処理と解析』福村出版、1997
谷岡一郎『「社会調査」のウソ リサーチ・リテラシーのすすめ』文春新書110、2000

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

SPSSを使った作業が多いので、出来る限り連続して出席のこと。やむをえない事情で欠席する場合は、各自自習したうえで、次回の授業に臨むこと。
社会調査論や社会統計学の授業を同時に受講していると理解が深まるが必須ではない。

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 今村 雅夫

講義内容・テーマ

「公的扶助・社会福祉の政策展開と福祉事務所における福祉労働を考える」近年、介護保険制度、障害者福祉における支援費制度の導入など、社会福祉の制度「改革」がすすめられる中で、福祉事務所の現場は大きな矛盾と混迷に直面している。さらには、生活保護(=公的扶助)の分野でも、抜本的な制度改革にむけた検討作業がすすめられている。このような政策動向を歴史的な流れの中でとらえ、国民・利用者の権利擁護・人権保障の視点から、本来、福祉事務所が果たすべき役割、福祉事務所における福祉労働の再生と発展にむけた展望を考えます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

全講義終了後、試験に代わるレポートを実施します。最終評価については、このレポートに重点をおきますが、出席状況及び授業の中で提出を求める感想文の内容等についても日常点として加味します。その場合の比重としては、おおむね試験に代わるレポートを70%、日常点を30%程度とする予定です。

講義スケジュール

最初の授業で、講師の自己紹介と授業全体のオリエンテーションをおこない、その後は、おおむね以下の各項目に沿って講義をすすめます。

- 1 自己紹介とオリエンテーション
- 2 社会福祉・社会保障の制度体系と福祉事務所の位置・役割
- 3 社会福祉・公的扶助政策の歴史的経過と福祉事務所
⑴ 公的扶助(生活保護)をめぐって
⑵ いわゆる「福祉五法」をめぐって
⑶ 自主的研究運動、労働運動とのかかわり
- 4 介護保険制度の導入と福祉事務所
- 5 支援費制度と福祉事務所
- 6 生活保護をめぐる近年の政策展開と制度改正論議をめぐって
- 7 あらためて社会福祉の公的責任と福祉労働の再生を考える
- 8 まとめ

テキスト

特に定めず、レジュメと資料を配布する予定です。

参考書

- 「公的扶助の展開」旬報社(大友信勝著)
「自治体は高齢者福祉にどう責任を持つのか」萌文社(石川満ほか著)
「生活保護50年の奇跡」みずのわ出版(刊行委員会編)
「これが生活保護だ 福祉最前線からの報告」高宮出版(尾藤廣喜ほか編著)
(、については、講師(今村)も分担執筆者の1人です。)

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 中嶋 陽子

講義内容・テーマ

最近、市民が社会的活動に関わる度合いが伸張している。その主な活躍の場が、いわば、広義の非営利組織であろう。内外の事例を参考に、非営利組織の未来、市民のあり方を考察し、自分自身の経験も照合してみよう。その際、次の3点に留意したい。1) ボランティアやその活動は、NPOの重要な構成部分であるが、そのものではない。専門スタッフの役割や組織の客観的な全体像に留意する。2) 経済活動に深く関与するNPOでは、その特徴は何か。3) 市民運動的なルーツにこだわるNPOやNGOの場合、どんな社会的価値が重んじられ、その歴史的な背景は何か。

なお、ゲストスピーカーや現場訪問も取り入れる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

社会問題全般への関心を深める。情報収集を重視するよりも、むしろ、自分のこだわりたい点を見つける。とくにNPOの多様性と日本の社会システムの行方とを重ねて考察してみる。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

試験に代わるレポート一本に教室での姿勢が加味される。C - 授業概要が理解できているが、基本的な点での誤解が散見され、コメントが感想文レベルのもの。B 基本的な点での誤解が少なく、コメント部分が感想以上の説得力を持って書けているもの。その上で、授業への積極的参加、報告などを加点対象とし、総合的に優れたものをA、秀逸なものをA+とする。

講義スケジュール

- 第1講 非営利組織を促進する客観的要因
 - 第2講 「テクニカルターム」の数々、非営利組織の種類・規模・分野別構成
 - 第3講 非営利組織(NPO) 経済学のツールを使ってわかること
 - 第4講 ボランティア・寄付・財団
 - 第5講 NPOと財団・NPOと営利組織の組み合わせ 競争主義との関係
 - 第6講 非営利組織の事例分析 (A)個人またはグループの自主報告
 - 第7講 非営利組織の事例分析 (B)協同組合の経験と実績
 - 第8講 非営利組織の事例分析 (C)社会的マイノリティの支援: 日・米ホームレス問題の場合
 - 第9講 市民活動団体への訪問調査(調整の結果次第)
 - 第10講 分析から抽出されること 公的セクター・市民セクターの協働
 - 第11講 分析から抽出されること 社会的企業
 - 第12講 分析から抽出されること コミュニティビジネスと生活者
 - 第13講 ゲストスピーカー招聘
 - 第14講 なぜ、NPOか
 - 第15講 予備・調整(補足説明、Q&Aなど)
- *注-授業の様子によって、内容の圧縮や拡充はありうる。

テキスト

なし。自分なりの授業ノートをつくる。

参考書

河口弘雄「NPOの実践経営学」同友館、2001年。
 佐藤慶幸「NPOと市民社会」有斐閣、2002年。
 野口道彦他「共生社会の創造とNPO」明石書店、2003年。その他、随時紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページ

市民活動情報センター <http://www1m.mesh.ne.jp>
<http://www.kyoto-poverty.org/>に連動するパソコンムービー。その他、随時紹介する。

その他

特になし

特殊講義 N

11628

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 森重 拓三

講義内容・テーマ

社会現象学(現象学的社会学)の視点に立つと、私達は、日常生活のなかで認識される様々な対象を常に判断し意味づけて(意味構成して)生きていることになる。本講義では、この視点から、人が「進学」という対象をどのように意味構成しているのか、その社会的背景を含めて考察し、それを通じて社会現象学の基本的な考え方を学んでいく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

レポート:試験に代わるレポートとして実施授業中のレポートor小テスト(40%)、期末のレポート(60%)

講義スケジュール

- 第1回はオリエンテーションをおこない、第2回以降は各項目について、それぞれ3～4回にわけて講義形式ですすめる予定。

第1回 オリエンテーション

第2回 社会学における「意味概念」

第3～6回 私からみた私の行為(進学の意味構成)

第7～10回 私からみた他者の行為(進学の意味構成の過程)

第11～14回 私からみた社会的世界(進学の意味構成の社会的背景)

第15回 まとめ

テキスト

特に定めない

参考書

A.シュッツ著、佐藤嘉一訳『社会的世界の意味構成』木鐸社、1982年

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 夏集中

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 津田 正夫

講義内容・テーマ

「現代テレビジャーナリズム論～新しい公共性を求めて～」

メディア環境の急激なグローバル化・デジタル化の中で、大きな影響力をもつテレビジャーナリズムも急速に変質してきた。ジャーナリズムへの信頼や特権性やテレビ電波の独占的な免許は、その公正な情報伝達、環境監視機能や合意形成機能などの公共性に根

拠をもつものであったが、近年こうした公共性は急速に崩れつつある。現場に徹底してこだわりながら、現代のテレビジャーナリズムにおける新しい公共性とは何かを模索する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テレビニュース、テレビジャーナリズムに日常的に関心に向けておくこと。自分のニュース観を養っておくこと。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

講義スケジュール

授業の流れ

- 1、はじめに
 - (1) テレビジャーナリズムの変質と公共性
- 2、市場競争とジャーナリズムの変質
 - (2) 80年代の競争 ～GM事件以降～
 - (3) ダイアナ事件とは何か
 - (4) 松本サリン事件はなぜ起こったか
- 3、国家の関与
 - (5) 長良川河口堰報道をめぐる
 - (6) メディア規制法
- 4、戦争報道とテレビ
 - (7) 湾岸戦争報道で何が変わったか
 - (8) イラク戦争報道の提起したもの
- 5、市民ジャーナリズムの現場から
 - (9) 事例A
 - (10) 事例B
- 6、放送における新しい公共性
 - (11) 各国の公共性
 - (12) パブリック・ジャーナリズムの可能性
 - (13) 多文化主義と多様性保障

テキスト参考書

- 下山進『アメリカ・ジャーナリズム』丸善ライブラリー 1995
 田村紀雄/林利隆編『新版・ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社 1999
 鶴見俊輔『ジャーナリズムの思想』筑摩書房1965
 原寿雄『ジャーナリズムの思想』岩波新書
 津田正夫編『テレビジャーナリズムの現在』リベルタ出版

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

特殊講義 N

11639

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 藤田 博文

講義内容・テーマ

本講義では、社会科学の諸議論において非常に重要な役割を果たしている「規律discipline」概念の分析を通して、社会学理論における諸議論を踏まえつつ、現代社会の特質と、それを形成し、秩序づけている「人間主体」の形成についての問題について考えていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義全体がひとつの一貫した論理によって構成されているので、継続的な出席を必要とする。

評価方法・基準

* 日常点評価

平常点と最終講義日試験で評価する。またレポートの提出を求める場合があるが、その場合はレポート提出も評価の対象になる。

講義スケジュール

本講義では、以下のサブテーマを取り扱う(なお変更の場合もある)。

1. M・ヴェーバー社会理論における「規律」
2. E・デュルケム社会理論における「規律」
3. M・フーコー社会理論における「規律」
4. これまでのまとめと、「規律」に関する新たな論点
5. 新たな主体形成、社会形成に向けての「自己規律」～ 欲求・欲望・快樂との関わりのなかで～
6. 「自由」についての一考察

初回講義は「オリエンテーション」と「イントロダクション」を行う。

テキスト

講義レジュメを配布する。

参考書

たくさんあるので、適宜講義のなかで提示するが、以下に主な文献を記しておく。

- ・M・ヴェーバー(大塚久雄訳)『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、1989年。
- ・M・ヴェーバー(世良晃志郎訳)『支配の社会学』創文社、1960年。
- ・E・デュルケム(麻生誠・山村健訳)『道徳教育論1』明治図書出版、1964年。
- ・M・フーコー(田村俣訳)『監獄の誕生 監視と処罰』新潮社、1977年。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

特になし。

その他

特になし。

特殊講義 N

10464

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 笹田 恭史

講義内容・テーマ

現在の社会情勢、国際情勢をネグリ+ハートの『帝国』の講読を軸としながら、社会的、政治学的、思想的に考察する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

*試験に代わるレポートとして実施
レポート評価とするが、適宜小テスト、小レポートを課するので注意すること。

講義スケジュール

- 第1回 はじめに
- 第2回 (帝国)の構成
- 第3回 管理社会における生政治
- 第4回 主権の移行
- 第5回 ネットワーク的権力
- 第6回 (帝国)の主権
- 第7回 帝国主義の諸限界
- 第8回 規律的統治性
- 第9回 生産の情報化
- 第10回 混合政体
- 第11回 対抗 (帝国)
- 第12回 抵抗、危機、変革
- 第13回 潜在性
- 第14回 (帝国)に抗する群衆
- 第15回 おわりに

テキスト

講義中に配布する

参考書

講義中に指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 乾 亨

講義内容・テーマ

路上観察学入門<京都まちかど探検隊>

京都のまちを歩き回って、目に見える都市像(例えば古い町家や民家、あるいは神社仏閣、道端の祠、店舗や人々の暮らし、など)の観察や聞き取りを手がかりにしながら、その場所の特性(歴史的・空間的・社会的・文化的)を発見し、マップ化する。まず「まちかど探検」の視点や手法について学習した上で、実際にまちに出て探検しマップ作成を行うことで、都市とアメニティ(住みやすさ・居心地のよさ)について実感をもとに理解することを目的としています。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義は「研究」です。各自受講時間以外に(一般的には昼間)「まちかど探検」を行ってもらい、そこでの発見をマップ化します(講義では、探検の成果を発表してもらい、それを素材にディスカッションを行います)。主体的な取り組みが必要ですから、そのつもりで登録してください…とはいえ、堅苦しい調査研究ではなく、「まちを10倍楽しむ」をモットーに遊び心をもって取り組みます。なお、マップ作りに使用する用紙や文具(マジックなど)写真などは各自で用意してもらいます。

評価方法・基準

*試験に代わるレポートとして実施

*日常点評価

出席回数30%・講義での参加性20%・成果物の出来具合50%の比率で評価します(各比率は修正の可能性あり…但しその場合は講義最終段階で出席者と相談して再設定します)

講義スケジュール

第1回 : 講義の概要説明

第2回～第4回 : <入門編> まちかど探検の手法と事例紹介

第5回～第8回 : <実践編> まちかど探検の実施と中間報告

第9回～第12回 : <応用編> 対象地域の歴史や資料を調べてマップを完成させる

第13回～第15回 : プレゼンテーション

*: 入門編・実践編・応用編の時間配分や具体的な進め方は受講者の人数等によって適宜調整します

テキスト

なし(資料は適宜配布)

参考書

講義中に紹介

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

人間文化論 N 人間と文化 N	11177
--------------------	-------

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 藤田 博文

講義内容・テーマ

本講義では、近現代社会における人間主体の形成・産出と、このことと密接に関わっている新たなる文化創造の可能性を考えていく。その際に、社会学理論における諸議論を踏まえながら、現代の知に多大な影響を及ぼしているミシェル・フーコーが提示した「権力 知」や「力」という概念、言い換えれば「社会」の隅々にまではりめぐらされた「権力の網目」という概念を解説格子としてこのテーマにアプローチしていく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

本講義全体がひとつの一貫した論理によって構成されているので、継続的な出席を必要とする。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

平常点と期末試験で評価する。またレポートの提出を求める場合があるが、その場合はレポート提出も評価の対象になる。

講義スケジュール

本講義では以下のサブテーマを取り扱う(ただし変更の場合もある)。

1. 近現代社会におけるマイクロ権力の対象と機能～個別化を行う権力～
2. 近現代社会におけるマクロ権力の対象と機能～全体化を行う権力～
3. キリスト教社会における教会権力の対象と機能～近現代権力の原理・由来～
4. 17・18世紀における「ポリス」(「ポリツァイ」)の役割と機能～国家統治としてのポリス～
5. これまでのまとめと、権力技術に関する新たな論点
6. 新たな文化創造の可能性の条件～「倫理 政治」的な観点から～

初回講義は「オリエンテーション」と「イントロダクション」を行う。

テキスト

講義レジュメを配布する。

参考書

たくさんあるので、適宜講義のなかで提示するが、本講義のテーマに関する入門書として次の文献を読んでおくことをすすめる。
・中山元『フーコー入門』ちくま新書、1996年。
・フレデリック・グロ(露崎俊和訳)『ミシェル・フーコー』白水社(文庫クセジュ)、1998年。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

特になし。

その他

特になし。

パーソナリティ論 N
人間発達論 N

11602

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 山田 重樹

講義内容・テーマ

テーマ 行為と自我

G.H.Meadの理論を中心に自我論を検討する。S.Freudとの対比を通して、日常的な人間関係に基点を置いたパーソナリティ形成のあり方を考察してゆく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

心理学だけでなく、社会学や哲学にも言及してゆすが、幅広く柔軟に対応してゆく学習態度を望んでいる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

1回～5回 心理学の流れ及びFreud理論の概略を示す。

6回～10回 プラグマティズムおよびMead理論を紹介

11回～15回 いくつかのテーマを通してパーソナリティ論の現状を考察する。

テキスト

適当なテキストがないので、重要度の高い参考文献を適宜授業で紹介する。

参考書

フロイト、『精神分析入門』、角川文庫・岩波文庫等

ミード、『精神・自我・社会』、青木書店、1973年

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

福祉と経済 N
福祉政策論 N

11229

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 福地 潮人

講義内容・テーマ

経済のグローバル化が進むなかで、今日、福祉国家は大きく変わろうとしています。特に福祉サービス供給の面では、70年代末以降、「福祉の混合経済」論(福祉ミックス論)という形で、国家だけではなく、市場やボランティア・セクター、家族なども含めた複数の主体による新たなサービス供給システムの可能性が論じられています。また、このような議論を受けて、実際にほとんどの先進各国では、福祉の市場化がすすめられてもいます。

本講義では、このような「福祉の混合経済」論の基礎を学ぶことを通して、社会福祉の領域における国家の役割、市場の役割、ボランティア・セクターの役割について考察し、ありべき福祉国家、福祉社会の姿について議論していきたいと思います。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

具体的な講義の進め方については、第1回目のオリエンテーションで受講生の皆さんと協議して決めたいと思います。受講を希望される方は必ず第1回目に出席してください。

なお、受講生数、受講生の希望によってはゼミ形式をとる場合がありますので、ご了承ください。

質問・討論以外の私語や、講義中の飲食は厳禁です。目に余る行為があった場合、以降の受講を認めない場合もありますのでご注意ください。

評価方法・基準

* 日常点評価

小テスト×2(40%) + 最終講義日試験(40%) + 平常点(出席、受講態度等:20%)。

ゼミ形式の場合、試験はしません:出席(3分の2以上:50%) + グループもしくは個人発表(1回以上:50%)。

なお、それぞれの比重(%)は仮のものです。

講義スケジュール

以下の内容については、今後変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

- 1.オリエンテーション
- 2.福祉の混合経済
- 3.社会福祉と国家の役割1
- 4.社会福祉と国家の役割2
- 5.小テスト
- 6.社会福祉と市場の役割1
- 7.社会福祉と市場の役割2
- 8.社会福祉とボランティア・セクター1
- 9.社会福祉とボランティア・セクター2
- 10.社会福祉と家族の役割
- 11.小テスト
- 12.事例研究1:イギリス
- 13.事例研究2:オランダ
- 14.事例研究3:スウェーデン
- 15.最終講義日試験

テキスト

ノーマン・ジョンソン『グローバリゼーションと福祉国家の変容:国際比較の視点』
(青木郁夫・山本隆監訳、法律文化社、2002年)

生協に発注しますので、そちらでお求めください。

参考書

山本隆(2002)『福祉行政財政論:国と地方からみた福祉の制度・政策』、中央法規出版。

埋橋孝文編著(2003)『比較のなかの福祉国家』(講座・福祉国家のゆくえ2)、ミネルヴァ書房。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2以上

担当教員 黒川 章子

講義内容・テーマ

日本においてボランティア活動が大きく注目される契機となったのは、阪神・淡路大震災であった。活動の規模の大きさや、参加層と活動内容の多様性は、「ボランティア元年」とも称されるものであった。それ以降、ボランティアの意義や行政との関係など新たな実践と研究が蓄積されてきている。ボランティア活動は、福祉・人権・環境・・・と生活すべての面で展開され、国境を越えて世界全体を視野に入れた営みである。この授業では、ボランティア活動の歴史を学ぶとともに、様々な分野のボランティア活動の実態を知る。そして、現代社会におけるボランティア活動の意義とその可能性を問う。このことはまた、ボランティア活動実践への動機づけ、方向づけ、契機づくりなど、活動に向けての情報交換や準備のための場としても機能すると考える。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回、プリントを配布する。グループ討議や発表を求めるので、授業に積極的に参加してほしい。また、ビデオやゲストスピーカーの招聘によって、学習を深めることをめざす。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

* 日常点評価

評価は、レポートと平常点(授業への参加の積極性と毎回の講義についての意見・感想)によって判断する。

講義スケジュール

1. ボランティア活動とは何か
 - (1) ボランティアとは何か
 - (2) 現代社会と「特定非営利活動促進法」
 - (3) 高齢者とボランティア
 - (4) 障害者・子どもとボランティア
 - (5) ボランティア活動のイメージづくり
2. ボランティア活動の起源と歴史
 - (1) ボランティア活動の歴史 イギリス中心に
 - (2) NGO・NPO・ボランティア
 - (3) 環境保護団体
 - (4) 人道援助組織

テキスト

レジュメ・資料を配布する。

参考書

授業中、紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

労働と余暇 N
労働社会学 N

11642

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 2以上
担当教員 牧野 泰典

講義内容・テーマ

日本の労働者は若年層を中心として余暇志向を高めているが、日本企業では企業社会の価値観を前提とした諸制度として労使関係や労務管理が制度化しており、労働者の意識や行政の政策と比較して、「企業制度」の改革が十分ではない。本講義では余暇の理論的定義や、余暇に対する意識を述べつつ、仕事優先の企業内諸制度の課題について述べていきたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

キーワード 「企業社会」としての日本企業、「所得保障なき労働時間」の課題、残業を是認する労働基準法第36条(サブロク協定)

評価方法・基準

* 定期試験として実施
* 日常点評価
レポートと出席調査を兼ねたミニテスト(2回)

講義スケジュール

1. 授業の概要
2. 余暇の理論的定義(J.デュマズディエ、M.キャプテン、S.パーカーの理論を中心に)
3. 余暇に関する日本の労働者の活動状況(資料を配布)
4. 企業社会における日本の労働者の意識と雇用形態のギャップ(正規従業員とフリーターの職業意識と雇用形態格差)
5. 日本と欧米各国の労働時間比較(所定内労働時間、残業、その他の「企業の時間」)
6. 第1回ミニテスト実施
7. 日本企業の教育訓練制度:トヨタを事例に(「企業社会」としての「企業の時間」)
8. 日本企業の人間関係諸活動:レクリエーション活動、寮自治会、社内団体など(「企業社会」としての「企業の時間」)
9. 日本企業の小集団活動:QCサークルについて(「企業社会」としての「企業の時間」)
10. 海外企業・日系企業の小集団活動(労働時間や雇用・作業環境に考慮した小集団活動の実施)
11. 日本企業の人事考課査定(日本の企業制度や賃金制度を支える労務管理)
12. 日本企業と欧米企業の労使関係
13. 日本企業と欧米企業の経済的な逆転現象
14. 第2回ミニテスト実施
15. 授業のまとめ

テキスト

牧野泰典『小集団活動の機能と役割』八千代出版, 2001年

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

課題レポートはテキストの範囲から設定するのでテキストを購入すること

カウンセリング論 N
(教)カウンセリング論 N

10815

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 安田 一之

講義内容・テーマ

本講義では、カウンセリングにおける基本的態度を学習する。また実際のカウンセリング場面で生じる様々な問題を検討することにより、カウンセリングを行なう者に問われる専門性に対する理解を深めたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

評価方法・基準

- * 定期試験として実施
 - * 日常点評価
- 心理テストの自己解釈レポートと講義終了後の試験を中心に、講義時間中に実施する小レポート等を加え、総合的に評価する。

講義スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 心理臨床及びカウンセリング概論
- 第3回 カウンセリング場面における基本的姿勢と実際のカウンセリングの流れ

- 第4 - 7回 カウンセリングの諸理論
 - ・精神分析
 - ・分析心理学
 - ・クライエント中心療法
 - ・ゲシュタルト療法

- 第8 - 10回 カウンセリング場面における諸問題
 - ・共感 転移 - 逆転移
 - ・治療的距離
 - ・カウンセラーの倫理

- 第11回 自分を知る 心理テストを実施し、自己解釈を試みる<レポート>

- 第12 - 13回 カウンセリングの事例紹介

- 第14回 対象喪失・死について考える
- 第15回 予備日

テキスト

山本昌輝編 こころの教育とカウンセリング 八千代出版(大学生協)

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

(教)カウンセリング論 N

10830

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 6以上

担当教員 安田 一之

講義内容・テーマ

本講義ではカウンセリングについての基本的理解は既に得られているものとして、より深く学習する。カウンセリング諸理論の根底にある人間観や、こころの成長・発達について検討する。また、カウンセリングのロールプレイも実施する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

講義中に実施する事例学習とロールプレイに関するレポートと講義終了後のレポートを中心にして総合的に評価する。

講義スケジュール

第1回 ガイダンス

第2 - 6回 カウンセリング論における人間観・発達論

・精神分析的自我論

・ユングの自己論

・ロジャーズの人間論

第7 - 9回 カウンセリングのロールプレイ

第10 - 11回 事例研究

第12回 教育とカウンセリング

第13回 死生観(死を考える)

第14回 超越的なもの

第15回 予備日

テキスト

山本昌輝編 こころの教育とカウンセリング 八千代出版 (大学生協)

参考書

適宜紹介する

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 本山 敦

講義内容・テーマ

法の視座から家族を考える。そのためには、家族に関わる法制度の基礎知識を確実に習得することが必要である。そこで、まず、「民法第4編 親族」に規定されている様々な制度、関連する重要判例、代表的学説等について学ぶ。さらに、現在、家族が抱えている様々な問題のうち、法が家族にできること／できないことは何か、あるいは家族は法に何を求めているのか、できるだけ時事的な話題を用いて検討したいと考えている。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

予習:「授業の流れ」に示したテキストの予習範囲を一読してから出席すること。読んでいるときは理解できなくても、一度目を通した上で講義を聞けば、教室でかなり理解できるはずである。事前に配布される資料についても同様である。講義中:必死にノートを取る。担当者は早口だが、大切な事項は繰り返し述べる。頭に浮かんだ疑問なども一緒にメモしておく。復習:できるだけその日のうちに、テキストや配布資料によって書き／聞き取れなかったノートの穴を埋めるとなるとよい。後に、「相続法」も履修すれば、家族の財産的側面を知ることができ、「家族法」の理解も深まるはずである。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

定期試験。制度や用語の説明など、基礎知識の習得を見る選択式・短文記述式・穴埋め式などの問題が半分(50点)、価値判断の分かれる問題について論述し、思考力や表現力を見る論文式問題が半分(50点)。

講義スケジュール

- 第1回:序論:家族・家族制度・家族法(テキスト予習範囲)3-14頁、279-282頁
- 第2回:夫婦関係法1婚姻(1)婚姻の効果(テキスト予習範囲)17-54頁
- 第3回:夫婦関係法2婚姻(2)婚約/婚姻の成立(テキスト予習範囲)54-90頁
- 第4回:夫婦関係法3離婚(1)離婚の方法(テキスト予習範囲)91-123頁
- 第5回:夫婦関係法4離婚(2)離婚の効果(テキスト予習範囲)123-140頁
- 第6回:夫婦関係法5内縁(テキスト予習範囲)141-162頁
- 第7回:親子関係法1実親子関係(1)嫡出子(テキスト予習範囲)163-185頁
- 第8回:親子関係法2実親子関係(2)非嫡出子(テキスト予習範囲)185-208頁
- 第9回:親子関係法3親権法(テキスト予習範囲)209-246頁
- 第10回:親子関係法4養親子関係(1)普通養子(テキスト予習範囲)247-271頁
- 第11回:親子関係法5養親子関係(2)特別養子(テキスト予習範囲)271-278頁
- 第12回:後見法(テキスト予習範囲)283-290頁
- 第13回:扶養法(テキスト予習範囲)291-302頁
- 第14回:手続法(テキスト予習範囲)303-318頁
- 第15回:予備日(質疑応答、補足説明などに充てる)

テキスト

内田貴『民法!V親族・相続』東京大学出版会。
最新版の小型六法必携。

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2～8回生

担当教員 木村 一信

講義内容・テーマ

日本の近代文学における旅・観光の形象を探ることを目的としたい。近代作家たちの旅や取材旅行、観光などの体験のさまを見、それが文学的表象としてどのような言説となっているか、さらにそれらの言説が現代の私たちにとってどのような意味があるのかについて考えてみたい。講義をおこなうが、時に、受講生の意見や議論もまじえたいと思う。取りあげる作家の、指示する作品はぜひ読んでほしい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

明治・大正・昭和期の作家と作品 旅・観光に関わる作品 をとりあげるのので、こうした視点に多少なりとも興味をもってほしい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

試験は、定期試験実施時におこなう。論述式。別に、小レポートを1回、課したい。また、平常点評価も加える。試験が60%、小レポート20%、平常点20%といった割合で最終的な評価を出す。

評価の基準は、講義で扱った内容について、どれほど自分の意見をうち出す(構築)ことができるかを問うところにおく。

講義スケジュール

講義の第1回目に、詳細なスケジュールを配布する。

テキスト

なし。毎時、プリントによる資料を配布の予定。

参考書

その都度、指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1～8回生

担当教員 徳安 浩明

講義内容・テーマ

地理学について概観したのち、人文地理学(とくに文化地理学、村落・都市地理学、社会地理学)の内容と研究の動向などについて概説する。その際、自然と人間の関係、文化景観(村落・都市景観)の見方・考え方を中心にとりあげる。そのうえで、人文地理学の今後の課題について検討していく。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講：文学部学生は「人文地理学概論」としてのみ受講可。「(教)」は他学部学生用。

講義の理解、あるいは教職志望者の受講に対応するため、写真や地図を数多く提示し、地形図への図作業を多く行う。地形図の読図に対する基礎的能力の獲得が求められる。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

出席状況を重視しつつ(ほぼ毎日課題を提出していただく)、考査によって評価を行う。地形図の作業については、作業の成果を提出していただくことがある。色エンピツを準備しておくこと(12色で十分、課題の提出に必要、ペンは不可)。

講義スケジュール

- 第1回 地理学の概要。
- 第2回 人文地理学の概要。人文地理学における「自然 - 人間関係」の研究意義。
- 第3回 気候と文明の関係。
- 第4回 日本の基層文化(照葉樹林文化・ブナ林文化)・青潮文化。
- 第5回 村落地理学の基礎。村落社会の構造・機能・再編成。
- 第6回 地形と集落立地・土地利用の関係。地形の基礎的知識について説明したうえで、地形図の読図を行う。
- 第7回 (1)沖積平野の地形と集落立地 - 琵琶湖岸の事例
- 第8～9回 (2)低湿地の地形と集落立地
- 第10回 (3)洪積台地の地形と集落立地 - 相模野台地の事例 (4)山地・海岸の地形と集落立地
- 第11回 成立起源による村落の分類とその問題点
- 第12回 都市地理学の基礎。都市の形態と機能。
- 第13～14回 成立起源による都市の分類。京都盆地を事例として、歴史的な都市(平安京、寺内町、中・近世の京都、伏見城下町)について検討する。

テキスト

なし

参考書

高橋信夫ほか『文化地理学入門』原書房 1995年。坂本英夫ほか『基礎地理学』大明堂 1994年。中野尊正ほか『新版・地形の教室』古今書院 1986年。藤岡謙二郎ほか『新訂・歴史地理』大明堂 1990年。植村善博ほか『京都地図物語』古今書院 1999年。その他講義中に多数紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期 単位数 2 配当回生 1～8回生
 担当教員 徳安 浩明

講義内容・テーマ

前期の人文地理学概論N・(教)人文地理学 の内容をふまえ、日本の現在・過去の農山村地域における地理学研究の動向と課題などについて検討する。とくに、研究の遅れている、山地資源に依拠した生業とそれらの生業が営まれてきた集落について、扱っていくことになる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講：文学部学生は「人文地理学概論」としてのみ受講可。「(教)」は他学部学生用。
 講義の理解、あるいは教職志望者の受講に対応するため、写真や地図を多数提示し、地形図への図作業を多く行う。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
 評価は、出席状況を重視(ほぼ毎日課題を提出していただく)しつつ考查で行う。地形図の作業については、作業の成果を提出していただくことがある。色エンピツを準備しておくこと(12色で十分、課題の提出に必要、ペンは不可)。

講義スケジュール

- 第1回 村落の歴史地理学の基礎。成立起源による村落分類。京都盆地を事例として、歴史的村落(条里プラン、中世村落、近世村、新田集落など)について検討する。
- 第2回 山地集落の歴史地理学的アプローチの課題と意義。日本史学における村落景観の研究。
- 第3回 近世村落像・百姓像に関する近世史・民俗学・歴史人口学の再考(水田中心史観の見直し)の動向について概観する。
- 第4～5回 タタラ製鉄による鉄生産の概要
- 第6回 鉄穴流し(砂鉄採取法)と濁水紛争(鉱害問題)
- 第7回 鉄山労働者の性格と見直し
- 第8回 鉄山の集落構成と農林業集落への再編成 上斎原村遠藤の事例
- 第9回 タタラ製鉄と稼業地域との関係
- 第10回 タタラ製鉄による中国山地の開発 大山南麓の事例
- 第11回 木地屋による木器の生産
- 第12回 焼畑農業と焼畑村
- 第13回 マタギによる狩猟と採取
- 第14回 現代山村の現状と課題。まとめ

テキスト

なし

参考書

藤田佳久『日本の山村』地人書房 1981年。市川健夫『森と木のある生活』白水社 1992年。河瀬正利『たたら吹製鉄の技術と構造の考古学的研究』溪水社 1995年。橋本鉄男『ろくろ』法政大学出版 1979年。田口洋美『越後三面山人記』農山漁村文化協会 1992年。など
 その他講義中に紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 山本 隆司

講義内容・テーマ

「欠陥商品」「薬剤被害」「診療過誤」から「ヤミ金融」、「不当取引勧誘」、「先物取引商法」に至るまで、現代の消費者を取り巻く問題状況は益々混迷の度を加えている。民事上の一般法である民法のみでは充分に対応できない問題が消費者の関わる取引領域においてたくさん生じている。1960年以降にこの点が強く認識されるようになってきたが、立法的な対応は勿論、判例・学説における対応もなお甚だ不十分の観は否めない。この講義では、「消費者」といわれるものが従来の民法上の諸制度において如何なる特質的意義を有するかを明らかにしながら、そのことを踏まえた担当者なりの理論的検討の成果を語り、受講生諸君と今後の消費者問題について法的な側面から考えたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

基本的には、民法をはじめ、商法、刑法、民事訴訟法などの基本的諸科目を履修乃至受講した経験があって、わざわざそれらの基本的諸事項についての説明をこの講義では要しない、という水準にあることが望ましい。民法などについての受講生の見識を前提として話を進めたいと考えているからである。しかし、それは中々難しいことであるかもしれない。少なくとも、民法などの六法科目について疑問を持ち始めた受講生を歓迎したい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

語句説明乃至事例問題の形で、いずれにせよ、論述方式での答案作成を要求する。出席点評価や日常点評価は行わないが、単位取得

に成功するためには結局、日常的に出席して勤勉に受講していなければならない講義内容であるように考えている。

講義スケジュール

1. 消費者問題の概観(事例の視点から)
2. 民法における取引主体と消費者問題との比較的検討
3. 消費者取引の特質 その1(企業信用と消費者信用)
4. 消費者取引の特質 その2(商品信用と貨幣信用及び担保)
5. 消費者取引の特質 その3(金銭消費貸借における金利規制)
6. 消費者取引の特質 その4(取引上のシステムの複雑さ)
7. 消費者被害の特質 その1(企業の損害と生命身体損傷・生活破壊)
8. 消費者被害の特質 その2(生活時間乃至業務従事時間と交渉機会)
9. 消費者問題への理論的対応の展開(学説)
10. 消費者問題への司法的対応の展開(判例)
11. 消費者問題への立法的対応の展開(製造物責任法・消費者契約法など)
12. 消費者問題への法的対応の必要性並びに不十分さと限界並びに可能性

以上、12ほどのテーマにつき、時に2～3回の時間をかけて説明する。

テキスト

新年度の開講時期までに良いテキストが出版されればそれを採用するが、現時点では適切なもの(価格も含めて)が見当たらないので、講義の中で適宜指示ないし提示してゆくものとする。

参考書

講義の中で適宜指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

講義の中で、あれば、適宜指示する。

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2～8回生

担当教員 中尾 瑞樹

講義内容・テーマ

【妖精・精霊・妖怪の神話と祭儀】

西洋の妖精やネイティブ・アメリカンの精霊、日本や中国の妖怪。こうした存在はキリスト教などの世界宗教の成立や国家による王権神話の成立によって周辺的かつ脇役的な立場に追われてしまった存在である。ところが民間などの神話や祭儀をよくよく観察してみると、彼らは非常に重要な中心的役割を果たしていることが分かる。講義ではそうした彼らの神話や祭儀における「本当の」機能と存在意義を個別の事例に即して考えてみたい。具体的には日本の水神(河童、竜神)や天狗、中国道教や日本における鬼、陰陽道の式神、沖縄の仮面草装神、ケルトのフェアリー、ギリシャ神話のニンフ、アメリカ先住民の動植物の精霊などを取り上げる。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

受講生は受講にあたって特に特別なスキルも知識も必要としないが、講義に主体的に取り組むための読書や積極的な質疑は大いに推奨したい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

評価は定期試験(100点)と自主レポート(50点)の総計によって算出する。60点未満=F、60点～69点=C、70点～79点=B、80点～89点=A、90点以上=A+である。したがって定期試験のみでもA+評価が可能であるが、講義への主体的な取り組みを評価する観点からも、講義内容にヒントを得た自発的な自主レポート提出を勧めたい。(但しあくまでも自主レポートであるので未提出であっても、もちろん減点要因にはならない。)

講義スケジュール

- 第1回・ガイダンス・神話学における妖精・精霊・妖怪
- 第2回・日本の精霊・妖怪と神話・祭儀(1)
- 第3回・日本の精霊・妖怪と神話・祭儀(2)
- 第4回・沖縄の仮面草装神の神話と祭儀(1)
- 第5回・沖縄の仮面草装神の神話と祭儀(2)
- 第6回・中国の精霊・妖怪と神話・祭儀(1)
- 第7回・中国の精霊・妖怪と神話・祭儀(2)
- 第8回・ケルト神話の妖精と祭儀
- 第9回・ギリシャ神話の妖精と祭儀
- 第10回・ネイティブ・アメリカンの精霊と神話・祭儀(1)
- 第11回・ネイティブ・アメリカンの精霊と神話・祭儀(2)
- 第12回・陰陽道の精霊と祭儀(1)
- 第13回・陰陽道の精霊と祭儀(2)
- 第14回・日本の精霊・妖怪と神話・祭儀(3)
- 第15回・日本の精霊・妖怪と神話・祭儀(4)

テキスト

テキストは特に指定しない。毎回配布する講義レジュメに目を通していただければ十分である。また講義の内容上、VTRその他の視聴覚教材を随時使用する。

参考書

真下厚氏著『声の神話』(瑞木書房)

上記以外の参考書については講義中に適宜説明・指示する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

自主レポート提出については、随時受け付ける。

政治過程論 U
(教)政治学 N
(教)政治学 NA

12080

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 小堀 眞裕

講義内容・テーマ

現代民主主義の様々な側面 投票の動機、政治家と官僚、市民個人と国家の関係など様々な側面から、民主主義の諸側面を検討していきます。その題材として、昨年の総選挙結果や現在の景気問題、地方分権問題など様々な具体的事例を挙げながら説明していきます。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

講義。

評価方法・基準

* 定期試験として実施
定期試験。

講義スケジュール

- 、はじめに
- 、政治過程論とは何か。
- 、投票行動論
- 1.候補者志向
- 2.政党志向
- 3.政策争点志向
- 、政党とは何か。
- 、政党制
- 1.政党制の種類
- 2.レイブハルトの多極共存型民主制
- 3.政党制と選挙制度
- 、圧力団体政治
- 1.圧力団体とは
- 2.多元主義
- 3.コーポラティズム
- 、合理主義的政治理論
- 1.合理主義的政治理論
- 2.アローと投票のパラドクス
- 3.アンソニー・ダウズの理論

テキスト

レジメを配付します。試験問題はすべてここから出します。

参考書

その都度、指示します。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

レジメは、同時にアトソンの法学部インフォメーションにおいてダウンロードできるようにしておきます。

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2～8回生

担当教員 河島 一仁

講義内容・テーマ

鍛冶と鋳物師の地域論的考察

主として鉄を用いる鍛冶と鋳物師は、日本の代表的な職人である。それらをもとに、地域を捉えることをこの講義の目的とする。現在から近世に遡ることになる。アイルランドでの調査成果についても言及する。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

可能な限り定刻に始めます。教材の配布は当日のみ。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

おおよそ、以下の順序で進めます。変更がありえます。それぞれ、ほぼ2回をあてることになります。

1. 甲賀郡における前挽鋸
2. 北三郡鍛冶仲間
3. 辻の鋳物師
4. 三河における辻鋳物師
5. 若狭の金屋
6. 津島の鍛冶
7. 三河における鍛冶
8. アイルランドの鍛冶

テキスト

なし。レジュメと資料で講義します。

参考書

なし。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 2～8回生

担当教員 森西 真弓

講義内容・テーマ

中世から近世にかけて、能、狂言、歌舞伎、文楽など現在「伝統芸能」と呼ばれる固有の演劇文化を生み出した我が国は、明治維新後の近代化に伴い、さらに新たな演劇芸術を派生させていきました。具体的には新派、近代劇、喜劇、宝塚歌劇、新国劇、現代劇、ミュージカルなどです。本講義では、それら近代生まれの演劇が前近代の芸能から何を吸収し、また否定することによって形成されていったのかを講義します。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

芸能や演劇に対する知識の有無は問いませんが、日本演劇とそれに関わる事象や人物に興味や関心を抱き、学修意欲のある学生の積極的な受講に期待します。

評価方法・基準

* 日常点評価

持ち込み不可の筆記試験と受講態度で評価します。その際、筆記試験を70%、受講態度(出席、遅刻、私語など)を30%とします。

講義スケジュール

- 第1回 ガイダンス 授業の目的と流れ
- 第2回 近世演劇概説
- 第3回 壮士芝居から新派へ
- 第4回 新派と旧派
- 第5回 大正・昭和の新派
- 第6回 川上音二郎と近代劇
- 第7回 女優誕生と女性芸能者
- 第8回 女形と女優 映像資料を交えて
- 第9回 俄から喜劇へ
- 第10回 小林一三と宝塚歌劇
- 第11回 沢田正二郎と新国劇
- 第12回 現代劇の変遷
- 第13回 ミュージカルの誕生
- 第14回 企業と文化 映像資料を交えて
- 第15回 筆記試験

テキスト

特定のテキストはありません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 福井 純子

講義内容・テーマ

この講義では明治期を中心に近代日本の政治史を扱うが、その際、つぎの3点に重点を置く。

- 1 国内の政局の流れをおさえる
- 2 欧米列強や東アジアとの関係を視野に入れる
- 3 権力と対抗したさまざまな国内外の民衆の動きに留意する

受講生は、今日の政治との関連や比較など、各人の視点から主体的にとらえてほしい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

毎回レジュメと資料を配布する。そのほか諸種の図版や音源を用いる予定。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

講義スケジュール

以下のような流れで進める予定。

王政復古から廃藩置県へ
岩倉使節団と明治6年政変
士族反乱と西南戦争
自由民権運動とその転換
憲法制定と帝国議会の開設
御真影と君が代
日清戦争と台湾統治
日清戦後の大国意識など

テキスト

使用しない。

参考書

講義の中で随時紹介する。

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 2～8回生

担当教員 黄地 百合子

講義内容・テーマ

我が国の文芸の流れには、古代より現代に至るまで、文字による記載の文芸と並行して、昔話や伝説・語り物などの多様な民間文芸の水脈があります。それらは長い年月、民間の様々な民俗文化と深く関わり合いながら、口承によって伝えられ育まれ、人々の精神生活を豊かにしてきました。一方、記載文芸とも常に密接な交渉を持ち、我が国の文芸を培う一翼を担ってきたと言えます。また、昔話・伝説・世間話などは現代人にとっても心を惹きつけられる多くの魅力に満ちています。

このような民間文芸(口承文芸)の諸相に迫り、民衆の間で伝承され育てられてきた文化の一面を探ります。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

特に必要な知識や条件はありませんが、民俗学や、昔話・伝説などの口伝えの話、童話等に興味を持っていることが望ましいです。

評価方法・基準

* 試験に代わるレポートとして実施

2～3回の講義に1度の割合で、講義についての感想や質問・予備知識等をアンケート形式で記入してもらいます。その用紙の提出状況や記入内容を評価の際に考慮します。比重はレポートが8割、アンケートが2割程度。

講義スケジュール

- 第1回・民間文芸とはどのようなものか(民間文芸の特質と種類)
- 第2回・昔話その1(昔話の概要・分類、本格昔話とは)
- 第3回・昔話その2(異界体験が幸福を呼ぶ本格昔話、その他)
- 第4回・昔話その3(異界のものとの結婚を語る本格昔話、その他)
- 第5回・昔話その4(笑話について)
- 第6回・昔話その5(動物昔話について)
- 第7回・昔話その6(口承の文芸としての昔話の特徴)
- 第8回・昔話その7(昔話が語られ続けてきた理由)
- 第9回・世間話その1(世間話の概要、近代までの世間話)
- 第10回・世間話その2(現代の世間話)
- 第11回・伝説その1(伝説の概要・分類、口承の文芸としての伝説の特徴)
- 第12回・伝説その2(民間信仰と伝説)
- 第13回・語り物など(昔話・世間話・伝説以外の民間文芸)
- 第14回・記載文芸を支えてきた存在としての民間文芸
- 第15回・まとめ

テキスト

特に使用しません。

参考書

日本の民話を学ぶ人のために 福田晃他編・世界思想社・昔話とは何か 小澤俊夫著・福武文庫
昔話伝説必携 別冊國文學NO.41・學燈社・岩波講座日本文学史第17巻 口承文芸2 岩波書店
民間説話 日本の伝承世界 福田晃編・世界思想社

授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

民俗学 N

10819

授業開講期間 前期単位数 2配当回生 2～8回生担当教員 福田 晃講義内容・テーマ

<テーマ>民俗学とは何か

<内容>民族学は、民間伝承(民俗)を通して、日本人の精神構造を究明しようとする学問である。本講では、その民俗学の考え方を具体的に紹介して、民俗学の意義を明らかにする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

テキストは、民俗学の基礎的知識を叙したものである。受講者は、テキストを味読した上で出席して欲しい。また民俗学は、机上の学問ではなく、フィールドワークを基礎とするものである。したがって、フィールドワークの体験を試みることを望まれる。

評価方法・基準* 定期試験として実施
出席を参考とする講義スケジュールテキスト

赤田 光男ほか『日本民族学』(弘文堂、昭59)

参考書授業の方法(大学院科目のみ)参考になるWWWページその他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生 1～8回生

担当教員 土屋 敬二

講義内容・テーマ

正義の問題

正義とはしばしば自国の利益の正当化のために使われ、そのため何かうさんく臭さを伴った言葉である。だがまた、現在グローバルな正義が求められていることも確かであろう。人間はなぜ正義を求めてきたのか。そして現在それはどのような形のものであるべきなのか。この講義では、西洋の正義観の展開をたどりつつそうした問題を考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業を受けるだけでなくテーマに関連した書物も読んで下さい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

主として定期試験によりますが、出席やレポートの提出も評価の対象にします。

講義スケジュール

以下のような順序で講義を進めます。

1. 概観：現在正義はどのように捉えられているか
2. ソフィスト：ノモスとピュシスの対立について
3. プラトン：調和としての正義について
4. アリストテレス：配分的正義、矯正的正義、交換的正義について
5. ストア派：自然法としての正義について
6. キリスト教：「逆らうな」と正義について（参）ニーチェのキリスト教批判
7. ホブズ：個人主義的社会契約説と正義について 『リヴァイヤサン』を読む
8. ルソー：全員一致と正義について 『社会契約論』を読む
9. マルクス：共産主義と正義について 『ユダヤ人問題によせて』を読む
10. ミル：功利主義と正義について
11. ローレンスとノージック：リベラリズムと正義について
12. アーペル：理想的なコミュニケーション共同体と正義について
13. 総括

テキスト

配布するプリントをもってテキストにかえます。

参考書

山脇直司著『ヨーロッパ社会思想史』（東京大学出版会）、藤原保信著『自由主義の再検討』（岩波新書）いずれも図書館にあります。

授業の方法（大学院科目のみ）

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生 1～8回生

担当教員 土屋 敬二

講義内容・テーマ

他者の問題

私たちは他者なしには生きていけないが、深く干渉しまたされるのは避けたいと考えている。他者を理解することは真に可能なのか。いつもそこに存在しながらブラック・ボックスであり続ける他者とは何か。この講義では、西洋の他者観の展開をたどりつつそうした問題を考えてみたい。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

授業を受けるだけでなくテーマに関連した書物も読んで下さい。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

主として定期試験によりますが、出席やレポートの提出も評価の対象にします。

講義スケジュール

以下のような順序で講義を進めます。

1. 概観：他者を理解することのむずかしさについて
2. キリスト教における人間関係：『新約聖書』を読む
3. 近代的自我と独我論：デカルト、フィヒテにおける近代的自我の問題について
4. 欲望存在と戦争状態：a. ホッブズの社会契約説について b. ロックの思想との関連で自己決定権、所有権の問題について
5. 自由と共同性の統一：ヘーゲルの近代批判と近代的人倫論について
6. 「力への意志」としての生と人間関係：ニーチェにおける強者と弱者について 『道徳の系譜』を読む
7. 実存と他者：ハイデガーとサルトルの他者論について
8. 言語ゲームと他者：a. 後期ウイットゲンシュタインの言語論について (参)ソシュールの言語論について
9. システムと生活世界：a. ルーマンのシステム論について b. ハーバーマスの生活世界とコミュニケーション的理性について
10. 総括

テキスト

配布するプリントをもってテキストにかえます。

参考書

山脇直司著『ヨーロッパ社会思想史』(東京大学出版会)、藤原保信著『自由主義の再検討』(岩波新書)いずれも図書館にあります。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

その他

授業開講期間 前期

単位数 2

配当回生

担当教員 佐藤 敬二

講義内容・テーマ

雇用上の女性差別や使用者の一方的な人事考課の是正、リストラ対策、労働時間短縮、賃金水準の向上、職場における安全衛生の確保など、働く際の諸条件は労働組合の活動により確保されます。労働法は、労働条件の最低基準については法律で定めていますが（「労働保護法」）、それ以外ならびにそれ以上の条件は使用者と労働組合との交渉によって設定することを期待しています。この労働組合の活動について規律しているのが、「労働団体法」です。労働組合の結成から始まり、組合活動、団体交渉、労働協約、そして労働争議という労働組合の各活動領域毎に、法はどのように対処しており、また対処すべきなのかを議論するのが本講義の目的です。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

初回の講義を欠席する悪弊が蔓延しています。しかし受講上の注意や試験の説明は講義の初回に行いますから必ず出席してください。受講しないことによる不利益は受講生自身が負い、後で説明することはありません。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

基本的には定期試験、自己点検、中間試験で評価します。

定期試験は、二題の事例問題に対して、1. 法的問題、2. 法的説明、3. 諸説、4. 自説を問うものです。各項目毎に10点満点を配点とし、追加点10点と合わせて50点満点、二題で100点満点です。

真剣に講義を受講すると、毎年合格率は9割を越えています。講義欠席者が単位取得することは困難です。

* なお、この合格率とは、講義受講者でかつ試験受験者に占める合格者の比率をあらわしています。受講登録者に占める合格者の比率や試験受験者に占める合格者の比率には何の意味もありませんので、私はそのような無意味な数字は使っていません。

講義スケジュール

第01回: 受講上のガイダンス

第02回: 総論A....: 日本の労使関係

第03回: 総論B....: 日本国憲法と労働法... * 公務員に対するスト禁止は合憲だろうか？

第04回: 労働組合A: 労働組合組織..... * 管理職の組合は労働組合なのか？

第05回: 労働組合B: 組合と組合員..... * 組合員に言論の自由は認められるのか？

第06回: 組合活動A: 使用者の便宜供与..... * 組合は組合事務所を自由に使えるのだろうか？

第07回: 組合活動B: 行為としての組合活動.. * 仕事にあるいは職場で組合活動はできるのか？

第08回: 中間試験

第09回: 団体交渉...: 団交権保障の要件..... * 組合は何についても使用者に交渉要求できるか？

第10回: 労働協約A: 協約の制度..... * 団体協約と労働協約の相違はどこにあるのか？

第11回: 労働協約B: 協約の効力..... * 労働者は不利な協約条件にも拘束されるのか？

第12回: 労働争議...: 争議の正当性..... * 「病欠スト」は正当な争議行為と扱われるか？

第13回: 不当労働行為A: 制度..... * 使用者が組合つぶしをしたらどうなるのか？

第14回: 不当労働行為B: 要件..... * 使用者に組合活動について言論の自由があるか？

各回講義のイメージをつかんでもらうために下に設問をあげておきました。これらに対して回答できますか。いずれもYESともNOとも簡単に答えることはできません。受講生には、説得的な理由付けをした上でYESないしNOと答えてもらいます。

各回の講義も試験もすべて、具体的事例から始まり、論点の提示、それについての基本的法制度の解説、諸見解の紹介、という構成をとっています。毎回の講義の最後には、自らの理解状況を確認するために、自己点検を行い提出してもらいます。みなさんの見解は試験の場で述べてください。

講義は各回に配布するレジュメに沿って進め1回に1テーマの講義を行います。レジュメとは資料ではなく講義を聞くための道具ですから、講義中以外で配布することはありません。講義の理解度を毎回、自己点検してもらいます。講義への質問・意見表明を歓迎します。その一環として、毎回の講義で質問を提出してもらい、次回講義で回答しています。e-mailも活用してください。

テキスト

萬井隆令・西谷敏編『労働法1 - 集团的労働関係法 - (第2版)』(法律文化社、2003年)

参考書

全体に関しては、西谷敏『労働組合法』(1998年、有斐閣)

各回の講義内容に関する参考文献は、各回の講義レジュメの中で提示します。興味ある人はそれらを読んで考えてみてください。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

昨年の講義レジュメは私のウェブ・ページ(<http://www.ritsumeai.ac.jp/~satokei>) においてありますので参考にして下さい。

その他

授業開講期間 後期

単位数 2

配当回生

担当教員 吉田 美喜夫

講義内容・テーマ

労働法は、前期科目である労働団体の領域と、労働契約の締結、配転、出向、労働時間、休憩、休日、年休、賃金、女性・年少者の保護、解雇保護、職場の安全・衛生、労災補償などについて扱う労働保護法の領域から構成される。後者が本科目の対象領域である。わが国では、過労死が問題になるなど、安心して働ける労働条件が実現しているとはいえない状況にある。したがって、この講義では、学生諸君が、将来、就職して労働者となった場合、あるいは使用者になった場合に会うことになるであろう職場の労働条件保護の問題について、主として労働基準法上の規定に即して検討することを目的とする。

受講生に関わる情報・履修しておくことが望まれる科目

前期科目である労働団体の法を受講していることが望ましい。また、言うまでもないことですが、法令集は必ず講義に持参すること。

評価方法・基準

* 定期試験として実施

* 日常点評価

定期試験だけでなく、随時、出席調査も兼ねて質問表の記入を求めます。これも評価に反映させます。

講義スケジュール

全体で14回の講義を予定している。その内容は以下のとおりである。

第1回 労働条件の法的保護と労働基準法 / 労働条件の意義、法的保護の必要性、労働法の体系、労働基準の法定と労働基準法、労働基準法の仕組みと特徴などについて学ぶ。

第2回 労働契約 / 労働契約の機能、労働者・使用者の義務などについて学ぶ。

第3回 就業規則 / 就業規則の意義と機能、内容、作成手続、法的性質と法的効力を学ぶ。

第4回 労働憲章 / 労働関係を規律する理念について学ぶ。

第5回 採用と人事 / 募集から採用内定、配転、出向など人事全般の法的問題を扱う。

第6回 解雇保護 / 労働者にとって最も深刻な問題となる解雇について、それから労働者がどのように保護されているかを学ぶ。

第7回 賃金 / 労基法上の賃金保護の内容、賞与・退職金の法的問題、休業手当、最低賃金法などについて学ぶ。

第8回 労働時間の法規制 / 労働時間の概念、変形労働時間制、フレックスタイム制、みなし労働時間制などについて学ぶ。

第9回 時短の促進と自由時間の開発 / 時短の重要性、時間外労働の規制、休憩、休日、年休保障について学ぶ。

第10回 男女雇用機会均等法 / 均等法の内容とセクシュアル・ハラスメント問題を検討する。

第11回 雇用形態の多様化と労働法上の問題 / パート、アルバイト、派遣労働の問題について検討する。

第12回 健康の確保と労災補償 / 職場の安全衛生の確保と、不幸にして労働災害・職業病が発生した場合の補償について学ぶ。

第13回 国際化と労働法 / 国際化に伴って発生している国際労働基準の確保の課題や外国人労働者の保護の問題を扱う。

第14回 総括と展望 / 労働保護法の今後の課題について。まとめの講義とする場合もある。

テキスト

西谷敏・萬井隆令編『労働法2(第4版)』(法律文化社・2002年)を指定する。生協で販売されます。なお、労働法は頻りに改正されているので、最新の文献を使用してください。

参考書

菅野和夫『労働法』(弘文堂)を指定する。

授業の方法(大学院科目のみ)

参考になるWWWページ

厚生労働省や日本労働研究機構、アジア経済研究所などのホームページにアクセスし、最新の労働統計や法令を参照して下さい。たとえば、<http://www.jil.go.jp/>が有益です。

その他

労働法は社会・経済の動きと密接に関係しています。国内だけでなく、国際的な情勢にも日頃から関心を向けてください。とくに新聞は毎日、丹念に読むようにして下さい。